

International College of Technology, Kanazawa

学生便覧

2019

平成29年度以前入学生適用



国際高等専門学校

KIT IDEALS

「学園共同体が共有する価値」に基づく信条（行動規範）

私たちは、学園共同体として共有すべき価値を“KIT-IDEALS”として定め、これらに基づく信条を次の通りまとめました。
これを学生・理事・教職員が常に意識し、尊重することにより学園共同体の向上発展を目指します。

K	Kindness of Heart	思いやりの心 私たちは[素直、感謝、謙虚]の心を持つことに努め、 明るく公正な学びの場を実現します。
I	Intellectual Curiosity	知的好奇心 私たちは[情熱、自信、信念]を持つことに努め、 精気に満ちた学びの場を実現します。
T	Team Spirit	共同と共創の精神 私たちは[主体性、独創性、柔軟性]を持つことに努め、 共同と共創による絶えざる改革を進め、前進します。
I	Integrity	誠実 私たちは、誠実であることを大切にし、 共に学ぶ喜びを実現します。
D	Diligence	勤勉 私たちは、勤勉であることを大切にし、 自らの向上に努力する人を応援します。
E	Energy	活力 私たちは、活動的であることを大切にし、 達成や発見の喜びを実現します。
A	Autonomy	自律 私たちは、自律することを大切にし、 一人ひとりを信頼し、尊敬します。
L	Leadership	リーダーシップ 私たちは、チームワークを大切にし、 自分の役割における自覚と責任を持ちます。
S	Self-Realization	自己実現 私たちは、自らが目標を持つことを大切にし、 失敗に臆することなくさらに高い目標に挑戦することに努めます。

●学生便覧・目次

2019 年度学年暦	P. 2
校章・校歌	P. 4
沿革	P. 5
建学綱領	理事長 泉屋 吉郎 P. 6
教育目標	校長 ルイス・バークスデール P. 10
～グローバルイノベーターの育成～	
国際高等専門学校の教育	P. 13
カリキュラムの特色／学科の特色／本校の教育運営／自己点検評価の仕組み	
規則集	P. 39
国際高等専門学校学則／教育課程表／諸規則	
科目概要	P. 71
一般科目／電気電子工学科専門科目／機械工学科専門科目／グローバル情報学科専門科目	
修学について	P. 93
学年・学期・休業日について／授業について／試験について／	
成績について／課題学修の単位認定について／プロジェクトの単位認定について／	
進級・卒業について／オタゴポリテクニク留学について／自然学苑教育／	
表彰・褒賞について／主な学校行事／部活動について／	
こころの相談（カウンセリングセンター）／キャンパス・ハラスメントについて／	
個人情報の保護について	
資格試験について	P. 123
2019 年度資格試験スケジュール／本校が取得を奨励する資格／	
認定校：第 2 種電気主任技術者／	
科目認定校：第 2 級陸上無線技術士／工事担任者／第二種電気工事士／	
第 3 級機械設計技術者／基本情報技術者／IT パスポート（i パス）	
事務局案内	P. 139
事務局案内／各種証明書・届出書／奨学制度について／	
学生の災害（ケガ）等について	
施設案内	P. 145
地域連携教育センター／創造技術教育研究所／ライブラリーセンター／	
情報処理サービスセンター／自己開発センター／夢考房／スポーツ考房／	
自然学苑・セミナーハウス／えふえむ・エヌ・ワン／	
扇が丘診療所／金沢工業大学内簡易郵便局／サービス施設	
キャンパスマップ	P. 163
校舎配置図／校内案内図	
ティーチングスタッフ 2019	P. 167

2019年度学年暦(金沢キャンパス)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
1 月 入学式 1週	1 水 祝日(天皇の即位の日)	1 土 創立記念日	1 月	1 木 ● 前学期末試験	1 日
2 火 対面式・始業式 健康診断	2 木 国民の休日	2 日 ● 高校総体 9週	2 火	2 金	2 月 補習期間(白山麓C)(9/19まで)
3 水 ● オリエンテーション	3 金 憲法記念日	3 月	3 水	3 土 ●	3 火
4 木	4 土 みどりの日	4 火	4 木	4 日 18週	4 水
5 金 ●	5 日 こどもの日 5週	5 水	5 金	5 月 前学期末試験(金沢C) 試験返却(白山麓C)	5 木
6 土 前学期授業開始	6 月 振替休日	6 木	6 土 ● 北陸地区高専体育大会	6 火 ● 特別時間割(試験返却)	6 金
7 日 2週	7 火	7 金	7 日 14週	7 水 サマースクール準備	7 土 個別面談(金沢C)
8 月	8 水	8 土 授業予備日(金沢C) 学校見学会準備	8 月	8 木 ● サマースクール(白山麓C) 夏期休業開始	8 日
9 火	9 木	9 日 学校見学会 10週	9 火	9 金	9 月 前学期授業再開(白山麓C) 課外活動期間(白山麓C)(9/24まで)
10 水	10 金	10 月	10 水	10 土 ●	10 火 個別面談(金沢C)
11 木	11 土 校内体育大会	11 火	11 木	11 日 山の日	11 水 ● 4年人間と自然Ⅲ(M科)
12 金	12 日 6週	12 水	12 金 振替休日(7/7分)	12 月 振替休日	12 木
13 土	13 月	13 木	13 土	13 火	13 金 ●
14 日 3週	14 火	14 金	14 日 15週	14 水	14 土 個別面談(金沢C)
15 月	15 水	15 土 育友会学校見学会	15 月 海の日	15 木	15 日
16 火	16 木	16 日 11週	16 火 金曜日授業	16 金	16 月 敬老の日
17 水	17 金 育友会総会	17 月	17 水 月曜日授業	17 土	17 火 ● 2年穴水研修Ⅱ ● 3年人間と自然Ⅱ ● 4年人間と自然Ⅲ(J科)
18 木	18 土	18 火	18 木	18 日	18 水
19 金	19 日 7週	19 水	19 金	19 月	19 木 ● 4年人間と自然Ⅲ(T科) ● 1年穴水研修Ⅰ
20 土 留学生帰国報告会	20 月 ● 授業公開	20 木	20 土	20 火	20 金 ●
21 日 4週	21 火	21 金	21 日 16週	21 水	21 土 学校見学会準備
22 月	22 水	22 土 1・2年自然教室	22 月	22 木	22 日 学校見学会 19週
23 火	23 木	23 日 12週	23 火	23 金	23 月 秋分の日
24 水	24 金	24 月	24 水	24 土 2年海外英語研修(9/14まで) 学校見学会準備	24 火 1～4年企業見学
25 木	25 土 ●	25 火	25 木	25 日 学校見学会	25 水 後学期授業開始
26 金	26 日 8週	26 水	26 金	26 月	26 木
27 土	27 月	27 木	27 土 授業予備日(金沢C) 学校見学会準備	27 火	27 金
28 日	28 火	28 金	28 日 学校見学会 17週	28 水	28 土 4年インターンシップ報告会
29 月 昭和の日	29 水	29 土	29 月	29 木	29 日 20週
30 火 国民の休日	30 木 ● 高校総体	30 日 13週	30 火	30 金	30 月
	31 金		31 水	31 土	
※は予定行事					

10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 火	1 金	1 日 2 9 週	1 水 元旦	1 土 後学期末試験(金沢C) 試験返却(白山麓C)	1 日
2 水	2 土 学校見学会準備	2 月	2 木	2 日 3 7 週	2 月 終業式
3 木	3 日 文化の日 学校見学会 2 5 週	3 火	3 金	3 月 ●特別時間割(試験返却)	3 火 卒業式
4 金 4年進路説明会	4 月 振替休日	4 水	4 土	4 火	4 水 学年末休業開始(3/31まで)
5 土	5 火	5 木	5 日 3 3 週	5 水 ●	5 木
6 日 2 1 週	6 水	6 金 入試準備	6 月	6 木 ●補習期間 課題活動期間(白山麓C)	6 金
7 月	7 木 ●高校新人戦	7 土 グローバル入試B 帰国生入試	7 火 後学期授業再開	7 金	7 土
8 火	8 金	8 日 3 0 週	8 水 月曜日授業	8 土	8 日
9 水	9 土	9 月	9 木	9 日	9 月
10 木	10 日 ● 2 6 週	10 火	10 金	10 月	10 火
11 金	11 月	11 水	11 土	11 火 建国記念の日	11 水
12 土	12 火	12 木	12 日 3 4 週	12 水	12 木
13 日 2 2 週	13 水	13 金 校内意見発表会	13 月 成人の日	13 木 ●●	13 金
14 月 体育の日	14 木	14 土	14 火	14 金 入試準備	14 土
15 火	15 金	15 日 3 1 週	15 水	15 土 一般入試B 自己推薦入試	15 日
16 水	16 土 校内球技大会	16 月	16 木	16 日	16 月
17 木 月曜日授業	17 日 2 7 週	17 火	17 金	17 月 ●●補習期間 課題活動期間(白山麓C)	17 火
18 金 高専祭準備	18 月	18 水	18 土 授業予備日(金沢C)	18 火	18 水
19 土 ●高専祭	19 火	19 木	19 日 3 5 週	19 水	19 木
20 日 ●高専ロボコン 東海北陸地区大会 2 3 週	20 水	20 金	20 月 卒業研究発表会	20 木 ●	20 金 春分の日
21 月 振替休日(10/20分)	21 木	21 土 4年合同企業研究会	21 火 金曜日授業	21 金	21 土
22 火 祝日(即位礼正殿の儀)	22 金	22 日 3 2 週	22 水	22 土 ●4年シンガポール修学旅行	22 日
23 水 月曜日授業	23 土 勤労感謝の日	23 月	23 木	23 日 天皇誕生日	23 月
24 木	24 日 2 8 週	24 火	24 金 入試準備 授業予備日(金沢C)	24 月 振替休日	24 火
25 金 入試準備	25 月	25 水	25 土 一般入試A	25 火 ●課外活動期間(白山麓C)	25 水
26 土 グローバル入試A	26 火	26 木 冬期休業開始(1/6まで)	26 日 3 6 週	26 水	26 木 教育成果発表会
27 日 2 4 週	27 水	27 金	27 月	27 木	27 金
28 月	28 木	28 土	28 火	28 金	28 土
29 火	29 金	29 日	29 水 ●後学期末試験	29 土 ●●	29 日 ●新入生受け入れ
30 水	30 土 授業予備日(金沢C)	30 月	30 木 ●		30 月 ●
31 木		31 火	31 金 ●		31 火 入寮式(白山麓C) 新入生オリエンテーション



校章

この校章は、本学園の三大建学旗標

●人間形成 ●技術革新 ●産学協同

三位一体の学園共同体、

●学生 ●理事 ●教職員

科学技術を学ぶ者への指針を示す、3つの“T”

●Truth ●Theory ●Technology

を、本学園のシンボルであるゴールデンイーグル(いぬ鷲)の翼をモチーフにデザインしたものです。

白山に棲息する天然記念物ゴールデンイーグルは、光に向かって進むとき頭部が金色に輝く特徴を持っており、鳥類の中では最も高空を飛翔する勇敢な鳥と言われます。そのゴールデンイーグルの力強いイメージの中に、勇気と信念を象徴しています。

校歌

作詞 青山兵吉
作曲 山下成太郎

力強く

1. お お ギ が お か に そ び え た ー つ
2. か え つ が や ま に ひ い で た ー る
3. わ れ の め る く に の は ー え

い よ う か が や く ま な び や に
し ら ね の せ い を う げ も ち て
き け ん を こ ゆ る わ げ す ち べ て

mf f

せ い き の か ね は な り わ た り う ち ゆ う の し ん り き
が く の り ろ ん を お く ふ か く さ く り す す ー ま ん ま
み が き き す か ん せ い し ゅ ん の つ き め ち か ら は ひ

わ め ん と わ か き が く と の ー ち は ー お ど る
ど の べ に き ぼ う の ひ か り ー さ や ー か な り
と の よ に さい わ い き ょ う を ー ひ ら ー く な り

- 1 扇が丘に聳えたつ
偉容輝く学び舎に
世紀の鐘は鳴りわたり
宇宙の真理究めんと
若き学徒の血はおどる
- 2 加越の山に秀でたる
白嶺の精を享けもちて
学の理論を奥深く
探り進まん窓の辺に
希望の光りさやかなり
- 3 われらがめぐる国の榮
気圏をこゆる技すべて
磨き築かん青春の
尽きぬ力は人の世に
幸 境を拓くなり

沿革

- 昭和 32 年 6 月 1 日 ●北陸電波学校開校
- 昭和 33 年 4 月 1 日 ●北陸電波専門学校開校
- 昭和 34 年 4 月 1 日 ●北陸電波高等学校開校
- 昭和 37 年 4 月 1 日 ●金沢工業高等専門学校開校電気工学科設置（定員135名3学級）
初代校長に青山兵吉就任
- 昭和 38 年 4 月 1 日 ●機械工学科増設（定員90名2学級）
- 昭和 39 年 9 月 28 日 ●体育館完成
- 昭和 40 年 4 月 1 日 ●金沢工業大学開学
- 昭和 40 年 12 月 4 日 ●金沢工業高等専門学校第二代校長に竹村重武就任
- 昭和 42 年 10 月 18 日 ●第2種電気主任技術者免状交付申請校に認定
- 昭和 43 年 3 月 1 日 ●第2級無線技術士予備試験の免除校に認定
- 昭和 43 年 11 月 5 日 ●能登半島国定公園に穴水湾自然学苑開苑
- 昭和 44 年 1 月 16 日 ●情報処理センター（現 情報処理サービスセンター）開設
- 昭和 44 年 4 月 1 日 ●教育工学研究所（現 情報処理サービスセンター）開設
- 昭和 48 年 9 月 21 日 ●扇が丘診療所開設
- 昭和 52 年 5 月 19 日 ●天池自然学苑開苑
- 昭和 53 年 6 月 1 日 ●金沢工業高等専門学校第三代校長に新名健吉就任
- 昭和 57 年 6 月 1 日 ●ライブラリーセンター開館
- 昭和 61 年 4 月 1 日 ●金沢工業高等専門学校第四代校長に佐久間亘就任
- 昭和 62 年 8 月 13 日 ●工事担任者試験（電気通信事業法による）の一部免除校に認定
- 昭和 63 年 4 月 1 日 ●電気工学科1学級増
- 平成 2 年 4 月 26 日 ●第2体育館完成
- 平成 3 年 4 月 1 日 ●金沢市久安2丁目270番地にて新校舎完成
- 平成 5 年 7 月 8 日 ●夢考房開設
- 平成 7 年 4 月 1 日 ●金沢工業高等専門学校第五代校長に堀岡雅清就任
- 平成 7 年 5 月 23 日 ●シンガポール理工学院と協力協定調印
- 平成 7 年 7 月 12 日 ●米国セントマイケルズ大学と協力協定覚書調印
- 平成 8 年 4 月 1 日 ●マルチメディア考房開設
- 平成 9 年 4 月 1 日 ●創造技術教育研究所開設
- 平成 10 年 12 月 14 日 ●池の平セミナーハウス開設
- 平成 14 年 12 月 17 日 ●ニュージーランドオタゴ・ポリテクニクと協力協定覚書調印
- 平成 15 年 4 月 1 日 ●電気工学科を電気情報工学科に名称変更（定員45名1学級）
- 平成 15 年 4 月 1 日 ●国際コミュニケーション情報工学科増設（定員45名1学級）
- 平成 16 年 2 月 7 日 ●ニュージーランドオタゴ・ポリテクニクと協力協定調印
- 平成 18 年 4 月 1 日 ●金沢工業高等専門学校第六代校長に山田弘文就任
- 平成 19 年 4 月 1 日 ●地域連携教育センター開設
- 平成 21 年 4 月 1 日 ●電気情報工学科を電気電子工学科に名称変更（定員40名1学級）
- 平成 21 年 4 月 1 日 ●国際コミュニケーション情報工学科をグローバル情報工学科に名称変更（定員40名1学級）
- 平成 22 年 12 月 9 日 ●世界的工学教育組織「CDIOイニシアチブ」に加盟
- 平成 26 年 4 月 1 日 ●金沢工業高等専門学校第七代校長にルイス・パークスデール就任
- 平成 27 年 4 月 1 日 ●グローバル情報学科増設（定員40名1学級）
グローバル情報工学科学生募集停止
- 平成 27 年 11 月 18 日 ●マレーシアマラ工科大学と協力協定覚書調印
- 平成 28 年 4 月 13 日 ●シンガポール工科大学と協力協定覚書調印
- 平成 29 年 3 月 6 日 ●ムハマディア大学ジョグジャカルタ校と協力協定覚書調印
- 平成 30 年 4 月 1 日 ●校名を国際高等専門学校に名称変更
国際理工学科増設（定員90名2学級）
電気電子工学科・機械工学科・グローバル情報工学科学生募集停止



建学綱領

学校法人金沢工業大学理事長

泉屋吉郎

本学園の使命

日本の学校教育法は「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。」「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」と述べています。

また、アメリカの故ケネディ大統領は、1963年6月10日アメリカン大学の卒業式において『平和の戦略』と題する演説を行いました。この演説はあの有名なリンカーン大統領の『ゲチスバーク演説』に比すべき歴史的な演説といわれています。彼はその中で「この地上にあるもので大学ほど美しいものはないであろう。大学は無知を憎む人々が知ることの努め、真理を知っている人々が、他の人々の眼を開かせようと努める場であるからである。」と、彼らしい格調の高い言葉を引用して大学の使命を語っています。

これら二つの表現において、学校教育法は学理的に、ケネディ大統領は高踏的に、それぞれ大学の使命を定義づけています。たしかに、大学は学術の中心であって、常に高度の教育実践と斬新な研究活動を行い、日本及び世界学術の進歩と国際文化の向上に寄与することを使命とし、高等専門学校は、産業日本の発展を担う優秀な技術者を育成することを使命としているのであります。

教育原理の焦点

さらに、一般的教育とは、哲学者フィヒテの唱えるように、人間自身を形成することであり、人間を彼自身たらしめることであります。また、教育学者ナトルプのいうように人格を陶冶することでもあります。陶冶とは個人の完全なる形成を意味します。

それゆえ、学園の使命を具体的に挙げれば、人間形成、学術探究及び職業教育の三つの項目を数えることができます。この三つの項目は、いずれも重要な意義を持っていますが、窮極においては、人間形成に重点を置いているのであります。要するに、学術探究、職業教育によっても人間形成は可能ではありますが、人間形成を除外して、学術探究も職業教育もありえないのであります。したがって、使命の本質は、最高の知能と深奥な教養のある指導的人間の育成の場であると断言してよいのであります。

このように、学園を人間形成の場として重視すれば、学生生活はただ単に教室、実験室及び図書館にのみあるのではなくて、その文化活動、体育奨励、寮生活の指導、厚生施設、衛生管理、生活相談及び就職斡旋などあらゆる部門、すなわち常任常勤そのものが重要な意義を持つことになります。

学園共同体の倫理

以上の観点に立てば、人間形成ということは、官学たると私学たるとを問わず、およそ共通の最大の使命であります。特に私学においては、教育の担当者は、ひとり教授のみならず、広く理事者及び職員をも含むべきことを理解せねばなりません。したがって、本学園においては理事、教職員及び学生の三位一体の学園共同体を築き上げることによって、真に人間形成の場となし、民主主義日本の期待する人間像の生まれ出る温床とすべきであります。

しかも、私学は官学に比較して、私立学校法によって一定の基準を守り、監督を受けねばならないとしても、複雑な法的規制や煩瑣な官僚統制を免れて、はるかに自由な立場にあります。戦前においては、私学に対する当局の監督統制は、今日よりは、はるかに厳格を極めていましたが、それにもかかわらず、私学は、それぞれ独自の伝統と堅実な学風を育て上げたのであります。

いずれの私学においても、その経営の企画と財政の確立のために多大の苦慮を払いながら、なおかつ

香り高き矜持を失わないのは、実にこの自由の立場が存在するからであります。それゆえにこそ、本学園においては、技術時代に先駆する革新的な産学協同方策を高く旗標として掲げて、経営管理の最高責任者である理事会は、教育研究の直接担当者である教職員及び研学当事者である学生の全面的な協調を得て、その抱負経綸を実現するため、私学の特長を遺憾なく發揮して縦横自在な活動を行い、高邁な学風を築かんとするものであります。

見られよ。古き校史に彩られた私学の中には、その創設者の人格と識見によって建立され、長き歳月と烈しい風雪に耐えて鍛え上げられ、独自の伝統と質実な学風を誇っているものが数多く存在しているのであります。例えば早稲田大学における大隈精神、慶応義塾大学における福沢精神、また、同志社大学における新島精神のごときであります。本学園においても、ここに述べる建学綱領を基盤として日本の学界に垂範する崇敬に値する風格を樹立せねばなりません。

われらの行く栄光の道

戦後におけるわが日本の経済的發展は、敗戦というおなじ運命を辿り、ともに復興の道を進んだ西ドイツの奇蹟的發展を、はるかに凌駕する神秘的發展を遂げたのであります。この偉大な成果は日本人の知能と技術と勤勉の総合的所産であります。

いまや、本学園はこの偉大な民族的栄光をバックボーンとして、郷土石川県、北陸三県、中部圏及び日本海沿岸地区の地域開発のための学術的母体と技術的基地の主役を演ずるとともに、さらに世界市場に挑戦する産業日本の要求する最優秀な技術者と最上級の経営者を養成すべき重責を双肩に担っている所以であります。

進んで将来は、現代アメリカの科学技術の聖地ともいふべきマサチューセッツ工科大学の運営方針に学んで、日本の宇宙開発より産業社会学に至るまで、最高水準を誇る第一流の学園たらしめんとする大志を実現して、民主主義日本の学界に偉大な栄光を捧げんとするものであります。われわれは、この国家的至上使命を遂行するために本学園のあらゆる機能を結集して、その共同的総力を挙げて精進する決意を持たなければなりません。

昭和 40 (1965) 年 2 月

三大建学旗標

高邁な人間形成：我が国の文化を探究し、高い道徳心と広い国際感覚を有する創造的で個性豊かな技術者・研究者を育成します。

深遠な技術革新：我が国の技術革新に寄与するとともに、将来の科学技術振興に柔軟に対応する技術者・研究者を育成します。

雄大な産学協同：我が国の産業界が求めるテーマを積極的に追究し、広く開かれた学園として地域社会に貢献します。

学園の学章



「三大建学旗標」

人間形成 技術革新 産学協同

三位一体の「学園共同体」

学生 理事 教職員

科学技術を学ぶ者への指針を示す「3つの“T”」

Truth Theory Technology

真理 理論 技術

以上の3つの要素を、学園のシンボルであるゴールデンイーグル（いぬ鷲）の翼をモチーフにデザインしたものです。

白山に棲息する天然記念物ゴールデンイーグルは、光に向かって進むとき頭部が金色に輝く特徴を持っており、鳥類の中では最も高空を飛翔する勇敢な鳥と言われます。そのゴールデンイーグルの力強いイメージは、勇気と信念を象徴しています。

学園共同体の信条

この学園に集う私たちは、学園共同体として共有すべき価値を“KIT-IDEALS”として定め、これらに基づく信条を次の通りまとめました。これを学生、理事、教職員が常に意識し、尊重することにより、学園共同体の向上、発展を目指します。

※“KIT-IDEALS”は表紙裏面に記載

学園共同体の理想

学園創設者の泉屋利吉翁は、学生・理事・教職員の三位一体で構成する学園共同体の理想を掲げ「工学アカデミア」の建設に全力を傾けました。学園創設期においては、学生を“**Young gentlemen**”と呼び、彼らの自律と自主的な活動を支援し、自由と活気ある学園の樹立に心がけました。特に、直接、その設立を企画した穴水湾自然学苑は、豊かな自然の中で教職員と学生が寝食を共にし、規律ある共同生活を送ることにより、お互いの信頼関係の構築と学園共同体の理想を実現せんとするものでありました。傍ら、教職員の資質向上を図るため、教職員の学内外への留学制度を構築し、全ての教職員に教育者としての自覚を強く求めました。

初代校長・学長の青山兵吉先生は“**Truth**（真理）”“**Theory**（理論）”“**Technology**（技術）”を当時の学園の記事に三つの“**T**”として込められ、学園を「知を求める場」「知を生産する場」とされ、本学園卒業生が我が国産業界において指導的役割を担う技術者・研究者として活躍することを強く念じ、また信じておられました。学術に生きる青山兵吉先生の純粋で崇高な願いと言動は、当時の教職員には忘れ難いものがあります。

第2代大学学長の京藤睦重先生は、学生の学力や資質を直視され、多年にわたる教育者としての信念に基づき、学園共同体の理想を「親切な学園である」との言葉に込められ、学生との信頼関係を構築する軸として、基礎学力の向上を目的とする徹底した教育訓練を展開されました。特に、「努力すれば、必ず報われる」と学生に熱く語りかけておられた姿や「誠意をもって学生に対応すれば、学生は必ず応えてくれる」と自ら率先して学生と向き合う活力ある行動は、教職員を励ますのみならず、学外の多くの方々から支持されました。

私は“**KIT-IDEALS**”を標榜するにあたり、学園が組織として重視すべき価値と位置づけた“**Kindness of Heart**”（思いやりの心）は、京藤睦重先生の教育者としての学生を思う心を“**Intellectual Curiosity**”（知的好奇心）は、青山兵吉先生の学者としての純粋な崇高さを“**Team Spirit**”（共同と共創の精神）は、泉屋利吉翁の学園共同体の理想を追究する闘志に満ちた活動をそれぞれ想起し定めたものであります。

また、学園を構成する（学生、理事、教職員）個々人が重視すべき価値として位置付けた **Integrity**（誠実）、**Diligence**（勤勉）、**Energy**（活力）、**Autonomy**（自律）、**Leadership**（リーダーシップ）、**Self-Realization**（自己実現）は、創設者を始めとして、歴代の学長・校長が話されたり、学生を諭された言葉の数々から、その思いを要約させていただいたものであります。

学園を構成する人々（学生、理事、教職員）が生涯にわたる「行動」を通して自己実現を目指され、学園共同体の理想実現に寄与されますことを念願するものであります。

平成 14 年 1 月

理事長 泉屋 利郎



教育目標

～グローバルイノベーターの育成～

国際高等専門学校校長

ルイス・パークスデール

1. 沿革

日本は終戦からわずか十数年で、世界が驚くほどの経済発展を実現させました。その中心的役割を果たしたのは、日本が世界に誇る「ものづくり」の根幹を成す「技術」であったことはいまでもありません。

その驚異的な日本の発展のはじまりを背景として、高専教育制度が誕生しました。技術立国としての地位を確立することを願い、社会はできるだけ多くの実践的な能力を備えた技術者の養成を求め、その願いは当時生まれたばかりの日本各地の高専に託されたのです。

そのような社会状況の下、昭和 37 年、本校は全国で最も早く創設されました。それから 57 年、今日まで 15 才からの徹底した先進的実学教育を実践し、地域に密着した私立高専として歩んできました。「人間形成」、「技術革新」、「産学協同」を建学綱領として、現在までに 5,800 名を超える卒業生を社会に送り出してきました。

2. イノベーション時代に生きる教育

この 50 数年の間に私たちを取り巻く社会情勢も大きく変化しました。社会、産業、職場においては変化のスピードが増し続け、この世界の解明を目指す「科学」(サイエンス)と、世界を変える能力ともいえるべき「技術」(テクノロジー)が急速に発展し、社会における機会とニーズも目まぐるしく変化していきます。そのような中で、今日の若者たちが将来、世界を舞台に活躍するために、どのような技術や心構え、知識が必要になるかを、私たちが前もって正確に予測することは不可能です。一定の知識とスキルさえ習得させれば、学生たちの一生のキャリアは保証され、彼らは変容する社会に対応していけるのでしょうか。答えは否です。すでにそのようなことを期待できる世の中ではありません。今日の世界においては、学生たちは学び適応し、機会を追求し、挑戦し打ち勝ち、自分たちの住む社会を大きな像でとらえ、そこでの自らの役割を見出す、といったさまざまな能力を得て卒業することが必要です。それゆえに、若者たちは一生続いていく自分自身の学びと成長の舵取りを担う能力を身につけなければならないのです。

社会では総じて言えることですが、職場においても新しいことや予期せぬことに対応するべく革新的な手段が必要となり、またチャレンジすべきことも増えるでしょう。社会で上手く機能した貢献していくために、課題やニーズを適切に分析し、革新的な独自の解決方法を見つけ出せるようになることが、本校の卒業生に求められるようになるでしょう。絶え間なく変化している世界では、イノベーション(革新)を求める声が常に存在しています。イノベーションというのは心構えとスキルの両方から成り立つものです。イノベーションには寛容さと探究心が必要であり、何事にも疑問を持ち批判する態度と失敗から学ぶ精神的強さが求められます。また、問題を認識し分析する能力、研究し学ぶ能力、共有し協働する能力、そして創造する能力も要求されます。本校における私たちの目的は、積極的な変化を起こす機会を最大限に利用しながら、常に変化から学び、またそれに応えられる革新者を卒業生として輩出することなのです。

本校は教育におけるイノベーター（革新者）として、1）創造性：Creativity、2）グローバル化：Globalization、3）やる気：Motivation、3つのキーとなる分野に焦点を絞っていきます。

1）創造性：Creativity

私たちの生活の根本を支えている「技術」とは、「創造性」なのです。それは私たちの環境と相互に作用して社会を築き、生活していくための、重要な方法なのです。それは私たち人間を人間とし得る一部でもあります。エンジニアリング（工学）の基本的な過程への洞察と、エンジニアリングの社会におけるさまざまな側面との関わり合いを注視することは、すべての人々にとって不可欠です。創造性は、技術者として社会に貢献し、また技術者自身が活動的で充実した人生を送るために、ますます重要な要素となってきました。

本校では、創造性と「ものづくり」を通した価値観を養うため、デザイン手法、世界規模で進む革新的工学教育「CDIO」と連動した体験重視の工学教育、目標達成型プロジェクト、学生中心の研究活動、ロボットコンテストやプログラミングコンテスト、デザインコンペティションなどのコンテスト参加、そして豊かな心を育む一般教養教育を実施しています。

2）グローバル化：Globalization

現在の世界経済は、世界中のほとんどすべての職場が他の職場と結ばれているといっても過言ではありません。今やその結びつきは特定の地域だけにとどまらず、ものの見方や考え方を一国のみの基準ではかることは難しくなっています。他の国々の産業との交流や協働からもたらされる機会を見過ごすことはできません。そして、世界での共通言語として日本語を使用することは現実的ではなく、私たちは世界の経済、文化が動く場で最も使用されている英語の習得を避けることはできません。

本校では、コミュニケーションの手段としての英語を身につける少人数英語教育、外国人教員と英語で専門科目を学習する工学・英語協同学習、アメリカへの海外英語研修、ニュージーランドへの1年間留学、シンガポール修学旅行、シンガポール理工学院生を迎えてのマイルプログラム、海外インターシップ、東南アジアで現地の人々と生活をともにし、ものづくりやデザインに取り組むラーニングエクスプレッスなど、グローバル化を体感できるさまざまな活動の機会を提供しています。

3）やる気：Motivation

価値あることを学ぶには何事も時間と労力を要します。学習する者にとっては、学習に対する個人的な強い関心が欠かせません。そのような関心は、学ぶ予定の知識やスキルの実用性を理解すること、価値のある目標に向かって進んでいる感覚、そして継続することで得られる達成感から生まれます。本校では、学習する者のやる気を育て、維持するようなさまざまな機会を設けています。豊かな自然の中での集団生活を通し、人間性を育む研修活動、夢や目標を叶えるためのキャリアデザイン、資格取得支援、地域社会に貢献するボランティア活動、インターンシップ、そして部活動など、教室や教科書、黒板などを越えた豊かで興味深い学習・活動が用意されています。

最後に：Innovation again

革新（Innovation）は今日の世界を、若者たちが知識やスキルで絶え間なく成長し発展する革新者（Innovator）として競い合える未来へと力強く導いていきます。私たち国際高専も、絶え間ない革新を通じて、急速に近づきつつあるさまざまな課題に立ち向かう準備ができています。

国際高専の教育目標

グローバルイノベーターの育成

国際高専の求める人（平成 29 年度以前入学生適用）

- ①エンジニアとして社会に役立ちたい人
- ②基礎力を持ち、科学技術やものづくりに興味がある人
- ③英語でのコミュニケーション能力を高めたい人
- ④何事にも積極的に挑戦する意欲のある人
- ⑤誠実で、他人を思いやることのできる人

学習・教育目標

電気電子工学科は、電気・電子に関する知識を修得し、回路設計、計測制御、さらにコンピュータ工学や通信ネットワーク技術を身につけ、電気・電子・情報の分野を融合できるエンジニアの育成を目指します。

機械工学科は、ものづくりに必要な機械工学の基礎知識を修得し、機械を制御するために必要な電気やコンピュータに関する技術を身につけ、メカトロニクスに強いエンジニアの育成を目指します。

グローバル情報学科は、コンピュータとソフトウェア開発に関する専門能力と経営の知識を有し、イノベーションの創出に貢献できるグローバル人材の養成を目指します。

卒業時に身につけるべき学力や資質・能力（P16 参照）

- ①人間性
- ②創造性
- ③国際性
- ④基礎力
- ⑤専門力

国際高等専門学校 の教育

カリキュラムの特色P.14

学科の特色P.22

本校の教育運営P.34

自己点検評価の仕組みP.36

カリキュラムの特色

（１）カリキュラムの基本構成（カリキュラム・ポリシー）

本校は、「グローバルイノベーターの育成」を教育目標として、金沢工大学園の施設や組織、また関係教職員との有機的な連携のもとに、教育研究活動の充実発展を期しています。

本校の教育体系は、図１の通り、縦軸（学年を含む）と横軸（教育目標の区分や学園との連携を含む）を考慮し、スパイラル構造（反復しながらレベルアップ）で構成されています。縦軸の教育とは、「創造実験・創造設計」を主柱としたものづくり教育で、一般教育と専門教育の連結を強化し「創造性」を醸成する牽引力となるものです。横軸の教育とは人材育成の教育であり、「コミュニケーション能力」や「自己実現力」を学年ごとに高める『人間力』を醸成する人間教育と技術者としての人間性を養成する専門教育です。これらの教育を実施する学年暦があります。

具体的なカリキュラムの全体像は、図２の「国際高専のカリキュラム全体像」の通りです。創造実験・創造設計をものづくり教育の主柱として、これを支える一般教育と専門教育を「楔形」に組み合わせることで、本校の教育実践目標を達成するものです。

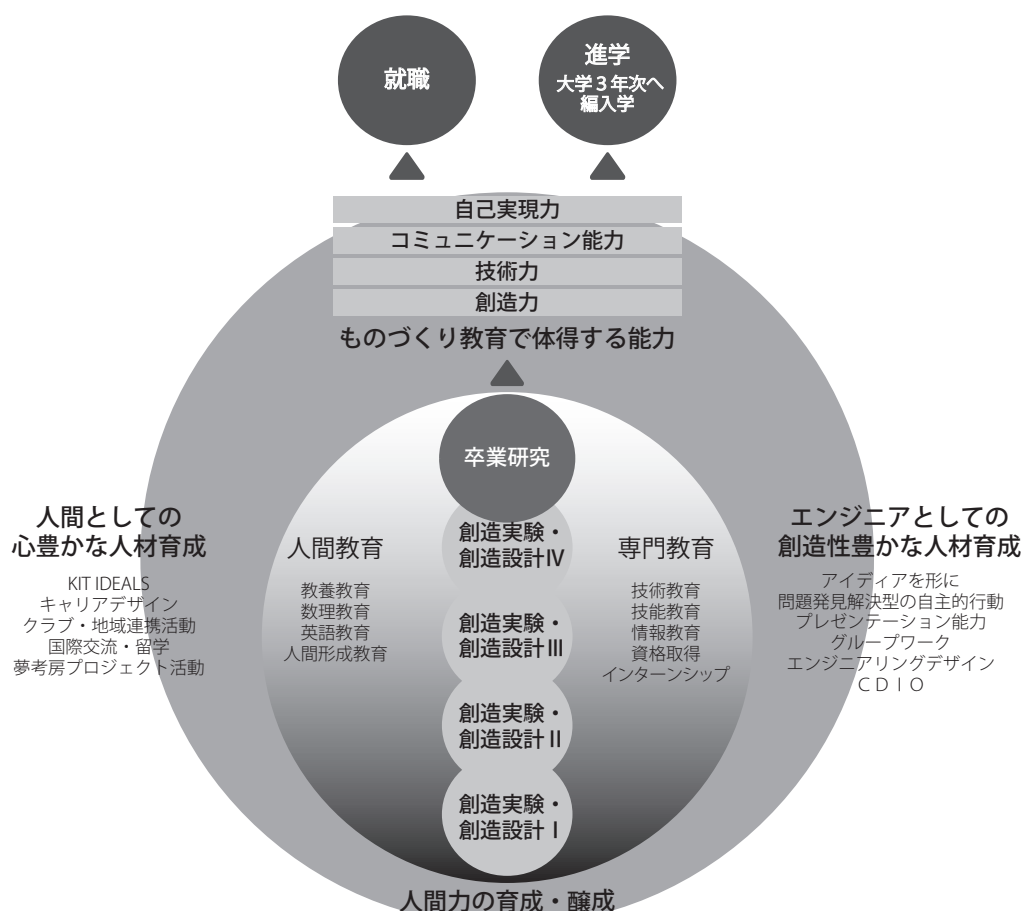


図1.国際高専がものづくり教育で目指す「人間形成教育」と「創造的技術者育成教育」

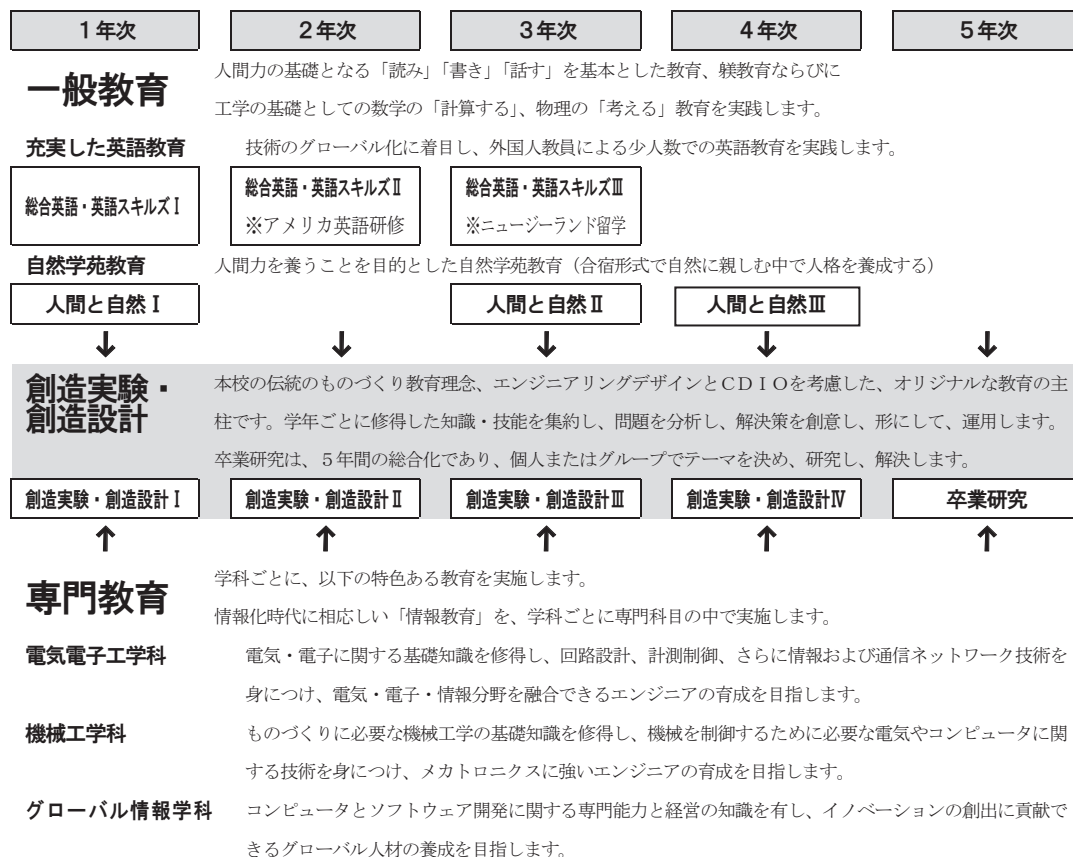


図2. 国際高専のカリキュラム全体像

人間教育は、教養教育、数理教育、英語教育並びに人間形成教育で構成しており、学年とともに高度化される内容になっています。専門教育は、技術教育、技能教育、情報教育、資格取得及びインターシップから構成されています。

一般教育では、人間力の基礎である「計算する」「読み」「書き」「話す」の4つを基本とする教育に視点を置いています。特に、エンジニアの基盤を堅固にするため、工学の基礎である「数学」と「物理」の基礎力の充実を目指しています。「話す」についてはグローバル化に対応して外国人数員による英語の少人数教育を実施し、「英語によるコミュニケーション能力の向上」に力を注いでいます。

「人間形成」を教育の根本理念とする本校は、「自然学苑教育」を人間教育の主要科目として必須化し、仲間と寝食を共にする合宿教育を行い「人間力の涵養」に努めています。

専門教育では、積み上げ式の創造実験・創造設計を教育の中心とした、教育体系を構築しています。ものづくりと専門教育を組み合わせることによって、学生の知識の深化に応じた問題発見・解決能力の発揚を図ります。各創造実験・創造設計では、エンジニアリングデザイン手法とデザインシンキング手法を独自の観点で取り込むと共に、CDIOの教育理念：①「発想する」②「設計する」③「実行する」④「運営する」の要素を修得できるよう基準を再編成し、図3に示す実践的な技術者に必要な資質の養成を目指します。

CDIO シラバス

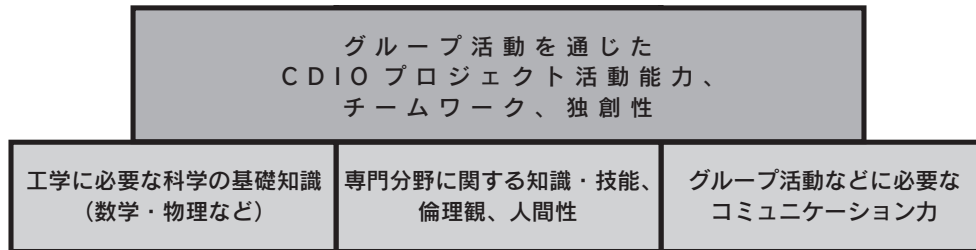


図3. CDIOシラバスの構成

カリキュラムは「建学綱領」を根源とし、これを具現する行動規範「KIT-IDEALS」とものづくり教育を先導する「CDIOの基本理念」を融合して、卒業生が備えるべき5項目の資質・能力を明らかにし、さらに達成するための細目を示しています。

(2) 卒業時に身につけるべき学力や資質・能力（ディプロマ・ポリシー）

理念・目標	規範	卒業時に身につけるべき学力や資質・能力	
建学の綱領 人間形成 技術革新 産学協同 教育目標 グローバルイノベーターの育成	行動規範 KIT-IDEALS K : Kindness of Heart 思いやりの心 I : Intellectual Curiosity 知的好奇心 T : Team Spirit 共同と共創の精神 I : Integrity 誠実 D : Diligence 勤勉 E : Energy 活力 A : Autonomy 自律 L : Leadership リーダーシップ S : Self-Realization 自己実現 学習規範 CDIO C : Conceive 発想する D : Design 設計する I : Implement 実行する O : Operate 運営する	人間性	①自分で考え、主体的に行動することができる。 ②技術者としての倫理や責任に基づいた意志決定ができる。 資質A
		創造性	③専門知識・技能を組み合わせ、ものづくりができる。 ④メンバーとしての自覚と責任を持ち、リーダーシップを発揮できる。 資質B
		国際性	⑤英語でコミュニケーションができる。 ⑥国際感覚や異文化を理解し受け入れることができる。 資質C
		基礎力	⑦自然科学（数理科目）および工学の基礎を理解できる。 ⑧論理的な考え方ができる。 資質D
		専門力	⑨専門知識と技能を用い工学的な問題を解決できる。 ⑩科目間の相互関連性を理解し、専門全体を俯瞰できる。 ⑪各学科で推奨する資格を取得できる。 資質E

図4. 卒業時に身につけるべき学力や資質・能力

これらの認識の下、本校の教育理念と教育目的に沿って設定された授業科目や教育プログラムを履修し、基準となる単位数を取得することが卒業の要件である。

（３）教育の特色

本校は、グローバル化社会に対応できる「個を輝かせ、他と協働し、新たな価値を創出するグローバルイノベーターの育成」を推進するため、次の教育を行っています。

①人間形成教育および自然学苑研修（穴水自然学苑および池の平セミナーハウス研修）

自然学苑などにおいて開講される「人間と自然Ⅱ～Ⅲ」は、本校の教育で最も重要となる「人間形成」を目指す科目です。豊かな自然環境の下、学生と教員が寝食を共にし、ア）思いやる心を育み倫理観を養うこと、イ）チームワークの大切さを知りリーダーシップを発揮できること、ウ）日本人としての自覚を深めることを目的としています。この教育では海洋活動、グループ討議、校長講話、科長講話、クラスミーティング、自然学苑での共同生活などの活動を２泊３日のスケジュールの中で行います。

②インターンシップ

本校では、４年次の夏期休業中に約２週間の日程でインターンシップを実施しており、開学以来、全学生が参加しています。インターンシップでは就業体験を通じ実社会を認識すると共に、学生が自らの既習成果を自己点検することができます。同時に、この経験を生かして、キャリアデザインの見直しを図ることを目的としています。終了後に行われる研修先企業と保護者を対象にした「インターンシップ報告会」は、学生のさらなる「自己啓発」の動機付けとなると共に、参加される企業担当者と学校の意見交換の場ともなっています。

平成 21 年度からは、新たにシンガポールおよびニュージーランドなどにおける、海外インターンシップを開始しました。いずれのケースも海外提携校経由によるインターンシップであり、研修中の安全には十分な配慮をすると同時に、派遣中には本校教員が巡回指導に赴いています。

③ラーニングエクスプレス

平成 24 年度よりシンガポール理工学院と提携し、ラーニングエクスプレスを開始しました。本校学生がシンガポール理工学院の学生とチームを組み、東南アジアの国に滞在して現地が抱える課題を一緒に解決するものです。

④英語教育

本校の英語教育は、外国人に気後れせず使える英語力と態度の修得を目標にして、コミュニケーション中心の「英語スキルズⅠ～Ⅲ（１年～３年次開講）」と、日本人教員による英文法「総合英語（G）Ⅰ～Ⅲ」および読解「総合英語（R）Ⅰ～Ⅲ」とを並行して学びます。これにより、学生は英語を実際に対話の中で実用し実感することができます。一方、海外研修として、希望者による２年次の約１カ月間のセントマイケルズ大学での研修（アメリカ）、３年次の１年間のオタゴポリテクニク留学（ニュージーランド）および４年次の海外インターンシップがあります。１年間の留学は、留学先において本校の専門授業を受講するため、休学せずに留学することができる本校独自のものです。

⑤工学・英語協同学習（CLE²）

平成 21 年度の文部科学省の大学教育・学生支援推進事業で研究してきた成果を拡張して、各専門工学科に配置した外国人の専門科目教員が担当する教育範囲を充実し、全学生が工学に関するグローバル感覚および仕事に必要なコミュニケーション手段としての英語を身につけることを促進しています。

⑥国際交流

本校は、国際交流と英語教育の実践研修を目的として、４年次にシンガポール修学旅行（研修）を行っています。本研修では、現地研修のほか、現地の高専に相当するシンガポールポリテクニクを訪問し、学生間の交流を行います。

また、この対応行事として、シンガポールポリテクニクの学生が本校を訪問します。本校学生の家庭に約 10 日間ホームステイし、本校の授業体験、歴史探訪や教育機関見学などを行い、国際交流を深めます。この交流はマイルプログラムと呼ばれ、30 年継続しているプログラムです。

さらに、本校と外国提携校との間で、国際長期インターンシップも実施されるようになり、学校、企業、提携校の連携教育活動が軌道に乗りつつあります。本校学生は、このような外国の学生達との交流を活用し、相互の文化を確認、理解、尊重する態度を養い、国際性を身につけられる環境にあります。

⑦ものづくり教育

本校が伝統的に推進してきた「ものづくり教育」は、創造実験・創造設計が中核となっています。本取り組みは、ものづくりの実体験を通して、学生自身が持つ創造本能に気づくと共に、その成果に接し「喜び」、「感動」さらには「生きがい」を感じることによって、エンジニアとしての人間形成を目指す教育です。従来の教育実績に、新たに国際的なC D I O教育理念を加味し教育基準（自己点検評価）の一助とすることで、教育の近代化と次代を担うエンジニアを育成します。

創造実験・創造設計では、ものづくりに必要な基礎となる知識・技術を修得すると共に、学生自らが疑問や課題を分析し、解決方法を発想して形にし、その実用性を運用によって確認します。すなわち、実践的のものづくり体験を重ねることで、リーダーシップや実践力の他、問題発見・解決型のエンジニアの育成を目指しています。1年次は基礎と動機づけで、2年次から3年次には徐々に学科の専門教育と関連させながら、4年次には、それまでに修得した各種の知識を融合させ、グループで問題解決型のものづくりを実践します。5年次は、高専教育の集大成を図る卒業研究として、「能力の総合化」を目指しています。具体的な例としては、ものづくりにおける「ユーザー指向」を促進させる教育として日本の伝統的発想法と最新のデザインシンキング技法とを融合させて開発した本校独自の教育を平成 25 年度から開始しています。

⑧工学の基礎となる一般教育・数理教育

一般教育は人間形成のために必須のものであり、心の成長の糧となる学問です。特にリーダーシップや創造性は、国語、歴史、社会学、芸術などの文系学問の修学によって涵養されます。本校では、主として低学年の間にこれらを修学し、技術者として必要な内面的資質の形成を目指します。

数理教育は、工学の基礎となる数学と物理への理解を深め工学との連繫を円滑にすることを目標に、「論理的に考え、解に導く能力を養う」教育を実践しています。高専教育における数理科目の学習では、定理や公式の暗記の修得に陥る傾向にあります。本校ではこの轍を避け、数理教育と専門工学教育との連携性を高めるために、ア) 復習の徹底、イ) 不理解事項の質問の奨励、ウ) 特別補習の実施、エ) 資格取得（実用数学技能検定）への挑戦を積極的に奨めています。これらの取組により、各専門分野における種々の理論に裏付けられた「洞察力」と「論理的思考力」、および設計に必要な「計算力」の向上を図ります。

⑨専門教育

技術革新が目覚ましい今日では、価値創造型の技術者養成が嘱望されています。創造実験・創造設計が主としてエンジニアのセンスと人間性を涵養する不可欠な教育である一方、専門教育は、エンジニアが立脚する基盤の深さと広がりを与えるものです。本校の専門教育は、常に最先端の工学的情報を包含するように、設備なども最新化できるよう心がけると共に、学年が進むにつれて積み上げられるように構成されていて、創造実験・創造設計と卒業研究の遂行に必要な理論的根拠を与える役割を果たしています。また、各学科では、一般情報教育に加え専門分野に必要な情報教育を実施し、工学とIT技術の融合を図っています。さらに、技術のグローバル化に対応できる素養（仕事で使える英語）を身につけるため、外国人教員による英語で専門を学ぶ教育も行っています。

⑩卒業研究

卒業研究は、ものづくり教育の最終段階に位置づけられると同時に、一般および専門教育で得た能力の総合化を図り課題を解決するための学習の場であります。卒業研究では、第5学年の段階で、それまで修得した一般および専門的知識に加え、創造実験・創造設計で体得した識能を総合して、時代に相応しいレベルの課題を解決する研究を実施することとしています。その範囲は、ものづくり、システム開発、新理論や定理の導出、理論の実証、改善、コンテスト参加など、広範に及んでいます。

卒業研究の成果は卒業論文としてまとめられるとともに、公聴会において校内外の方々にプレゼンテーションを行っています。また、これらの研究の中には、専門の学会において学生自らが発表するものも多くあります。完成した論文は、ライブラリーセンターに永久保存されます。

⑪キャリアデザイン教育

本校学生の現実的な目的は、学生本人に適する進路の選択であるといっても過言ではありません。良い進路を選ぶためには、平生の努力を積み上げることが第一ですが、人生の節目節目で、十分な状況分析と意思決定を行って方向を見出すことも同様に大切です。本校では、自分を最も生かすことができる道を見出すため、全ての学生が特別活動などの時間を利用してキャリアデザインノートを作成し、これを進路決定の一助とすることになっています。図5に示す本校のキャリアデザイン教育は、自立／自律型の人材を育成するプログラムです。

キャリアデザイン教育体系				
基礎づくり			総合化	応用
1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
●オリエンテーション 校長講話（高専の意義） ●1年の目標を設定 ・自己分析 ・企業講話 ●自己点検中間評価 ・自己再発見 ・企業見学 ・言葉遣いの学習 ・SPI模擬講習※ ●自己点検評価	●オリエンテーション 校長講話（勉強とは） ●2年の目標を設定 ・職業テーブル ・企業講話 ●自己点検中間評価 ・企業見学 ・恩師への手紙作成 ・心理テスト・性格検査 ・SPI模擬講習※ ●自己点検評価	●オリエンテーション 校長講話（方向性） ●3年の目標を設定 ・企業見学 ・進路を考える ●自己点検中間評価 ・ジョブカフェによる講話 ・履歴書の書き方を学ぶ ・SPI模擬講習※ ●自己点検評価	●オリエンテーション 校長講話（進路） ●4年の目標を設定 ・企業見学 インターシップ ●自己点検中間評価 ・模擬面接 ・履歴書の書き方を学ぶ ・企業合同説明会※ ・SPI模擬講習※ ●自己点検評価 キャリアデザイン	●オリエンテーション 校長講話（社会人とは） ●5年の目標を設定（進路） ・進路指導主事による講話 ●自己点検中間評価 ・グループ討議 ・卒業式招待状の作成 ・SPI模擬講習※ ●自己点検評価 工大編入者ガイダンス※
人間と自然Ⅰ		人間と自然Ⅱ	人間と自然Ⅲ	

キャリアデザインの教育体系は、基本的に特別時間割として行われていますが、「インターシップ」と「キャリアデザイン」は単位認定科目です。また、※印の項目は、特別時間割外に実施されています。

図5. キャリアデザイン教育体系

⑫課外活動（地域連携活動、部活動、夢考房プロジェクト活動）

学生の自主積極性と社会性を涵養する教育として、課外活動を奨励しています。課外活動は人間形成に大いに役立っており、進路決定には、その努力が大きく影響します。

地域連携活動は、学生と教員が協力して地域の中学、施設および行事などに協力、支援する活動です。行動規範KIT-IDEALSの実践活動として奨励しています。

3学年以下は努めて部活動に加入し、人間性と社会性の育成を図るよう指導しています。21の部、プロジェクト、講座などを設置し、顧問教員や専門コーチが指導にあたっています。

夢考房には、ロボットプロジェクトをはじめとし多くの学生プロジェクトがあります。外国の学校も注目するこれらのプロジェクトでは、ものづくり活動を通じ実力を養成すると共に、各種コンテストに出場して成果をあげています。ロボットコンテスト、デザインコンペティション、プログラミングコンテストの全国大会等にも出場しています。

学科の特色

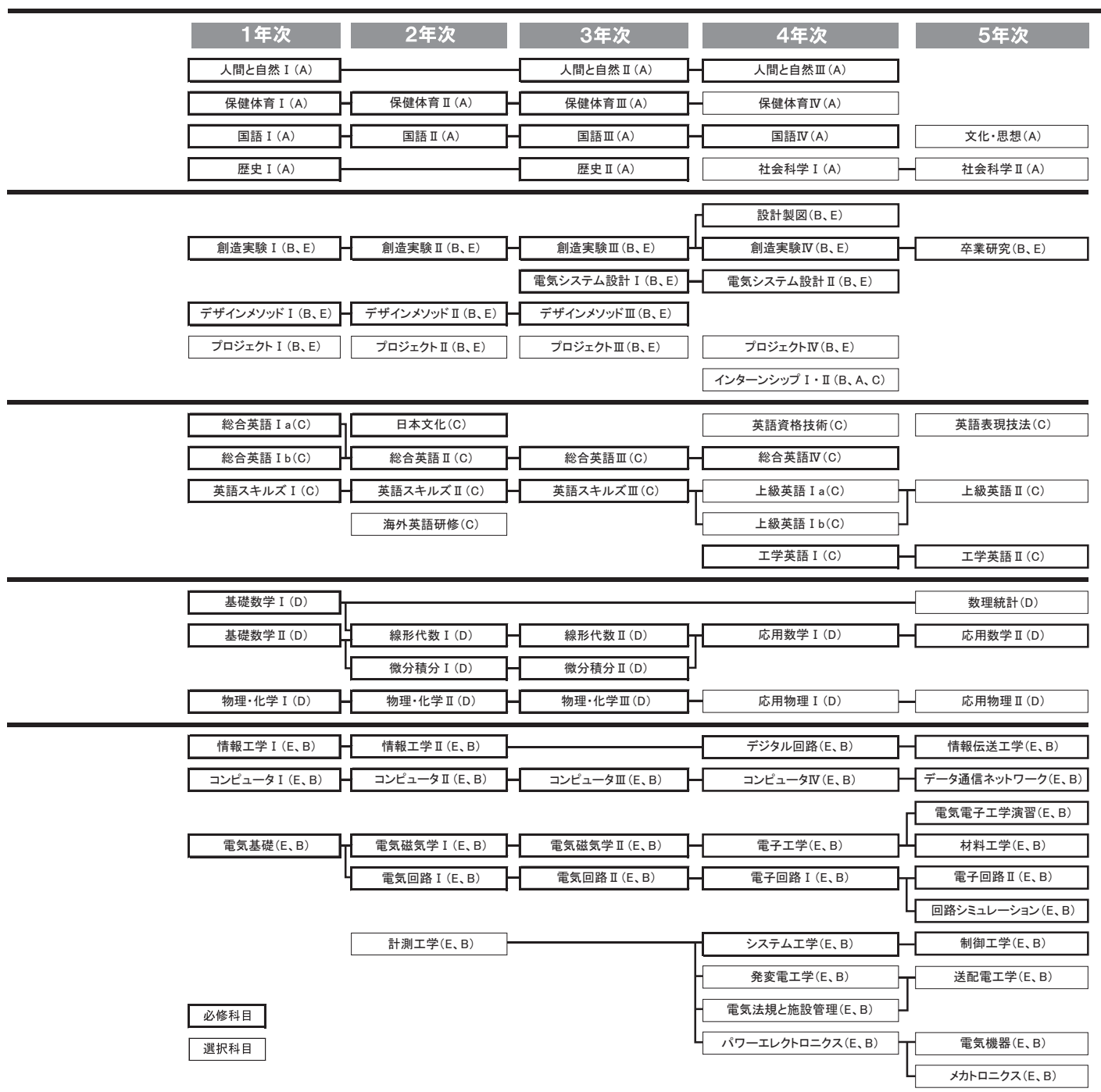
(1) 電気電子工学科 Department of Electrical and Electronic Engineering

①学習・教育目標

電気電子工学科は、電気・電子に関する基礎知識を修得し、電気電子回路設計、計測制御、さらに情報および通信ネットワーク技術を身につけ、電気・電子・情報通信分野を融合できるグローバルエンジニアの育成を目指します。

図6. 電気電子工学科のカリキュラム全体像(平成27年度以降入学生適用)

理念・目標	規範	卒業時に身につけるべき学力や資質・能力	
建学の綱領 人間形成 技術革新 産学協同 教育目標 グローバル イノベーターの育成	行動規範 KIT-IDEALS K : Kindness of Heart 思いやりの心 I : Intellectual Curiosity 知的好奇心 T : Team Spirit 共同と共創の精神 I : Integrity 誠実 D : Diligence 勤勉 E : Energy 活力 A : Autonomy 自律 L : Leadership リーダーシップ S : Self-Realization 自己実現 学習規範 CDIO C : Conceive 発想する D : Design 設計する I : Implement 実行する O : Operate 運営する	人間性	①自分で考え、主体的に行動することができる。 ②技術者としての倫理や責任に基づいた意志決定ができる。 資質A
		創造性	③専門知識・技能を組み合わせ、ものづくりができる。 ④メンバーとしての自覚と責任を持ち、リーダーシップを発揮できる。 資質B
		国際性	⑤英語でコミュニケーションができる。 ⑥国際感覚や異文化を理解し受け入れることができる。 資質C
		基礎力	⑦自然科学(数理科目)および工学の基礎を理解できる。 ⑧論理的な考え方ができる。 資質D
		専門力	⑨専門知識と技能を用い工学的な問題を解決できる。 ⑩科目間の相互関連性を理解し、専門全体を俯瞰できる。 ⑪各学科で推奨する資格を取得できる。 資質E



本学科の専門教育は電気・電子・情報通信の分野を幅広く学べるように構成されています。

電気の専門基礎科目の多くは1～3年次に配当されています。電気基礎、電気回路Ⅰ・Ⅱ、電気磁気学Ⅰ・Ⅱなどにおいて回路解法や電気や磁気の本質を理解するための理論を学びます。4～5年次に開講される専門応用科目では発変電工学など電力系科目や電子工学・電子回路などの電子系科目を学び、電気電子工学の体系を理解します。

3～4年次に開講される電気システム設計Ⅰ・Ⅱでは電気システムを構築するために必要な工学的な設計手法や組み込み技術の1つであるPLC制御を学び、その後、PLC制御を用いて電気システムを設計します。

制御工学・メカトロニクスではフィードバック制御とその制御対象物でセンサー・アクチュエータなどを理解することで電気と機械をつなぐ技術を修得します。

情報工学・コンピュータ・情報伝送工学では電気・電子系エンジニアに必要な情報技術やプログラミング、通信技術、およびデータ通信ネットワークについて学習します。

創造実験では工学の基礎、電気・電子・情報の基礎と応用、モータ制御、電磁力、組み込み技術などを実験実習やものづくりを通して体験していきます。

②創造実験

1～4年次に実施される創造実験Ⅰ～Ⅳでは電気・電子・情報・システムを題材に実験実習およびものづくりを通じて体系的に学ぶとともに創造性を醸成させる目的で内容が構築されています。また、実験では各自が1課題を体験することを重要視しつつ、共同でのものづくりも行っています。創造実験の具体的な内容は以下の通りです。①工学の基礎的な感覚を養うとともに問題解決手順の方法、立体把握、エネルギー、シミュレーションなどを体験します。②電気電子計測およびそのデータや信号処理方法、電子回路製作、センサー・モータ駆動回路などを通して電気電子の基礎を理解します。③オリジナルロボットの製作、論理回路、ARMマイコンやH8マイコンなどを用いて機器制御、組み込み技術、電気自動車のモータ制御などを通して電気電子回路の解析、設計、コンピュータ制御、組み込み技術を学びます。④電気機器に関する実験、電磁アクチュエータの原理やそれを利用したものづくり、電子回路とPICを利用した遠隔操作可能な飛行船の制御、自律型ロボットの製作制御実験を通して電気・電子・情報に関する応用力をつけます。

このように、本学科の創造実験は、回路設計技術、制御システムの両面から身につけた技術を応用し、電気システムの設計プロセスを、段階を経て学習することで、電気・電子系エンジニアに必要な創造力を養うことができます。さらに、学年に応じて、これら一連のプロセスを数名の学生によるチームを編成し取り組むことで、リーダーシップやチームワークを肌で体験し修得することができます。また、取り組んだ内容をレポートとしてまとめあげる力や、教員・学生に対してプレゼンテーションを行うことで、第三者に対して情報を魅力的に伝えるコミュニケーション能力を身につけることができます。

③情報教育の特色

本学科の情報教育は、エンジニアとして必要不可欠な情報リテラシーの修得を基本にして、機器制御やネットワークに必要なプログラミング技術の修得に重点を置いています。コンピュータ基礎概論、情報数学の基礎、データ表現、情報倫理教育、プログラムの作成手順や流れ図に十分な時間をかけています。プログラミングでは流れ図作成ソフトウェアで流れ図の有効性を理解した後、C言語について分岐処理、ポインタ・構造体・ファイル処理などを学習しながらC言語プログラミングのスタイルを理解します。VisualBasic.NET を利用して分岐処理、繰り返し処理、配列の構文を理解することでさらにプログラミング能力を向上させることができます。Java 言語でもC言語同様に分岐処理やアプレットの基本およびオブジェクト指向を学び、画像や音声などの各種メディアデータの処理ができるように学習します。

④資格取得教育の特色

本学科では、学生に対する学習意欲の向上、課外における学習の動機づけの取り組みとして、資格取得を推奨しています。資格取得は自己開発センターと授業が連携して行われます。これらの授業では、電気工学に関する基礎的な内容を、第3種電気主任技術者試験で用いられる演習問題などを用いて学習します。また、情報工学の分野では、情報技術検定2級や基本情報技術者試験のハードウェア関連における内容を学習します。本学科では、授業の中においても、電気・電子・情報の技術を融合できるエンジニアとして、それぞれの側面から資格取得が実社会において評価されることを意識づけ、学習への積極的な行動をサポートしています。

(2) 機械工学科 Department of Mechanical Engineering

①学習・教育目標

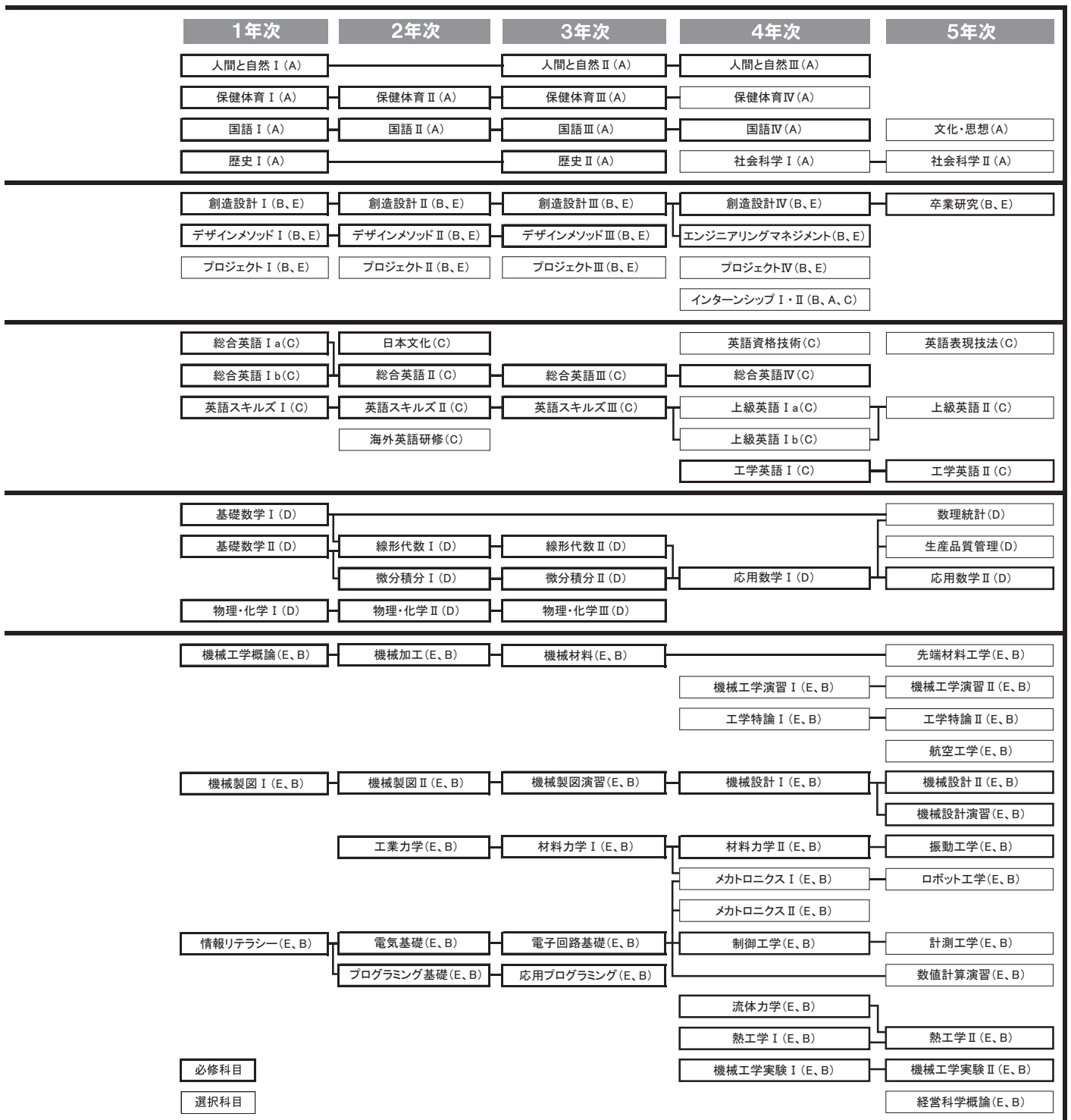
機械工学科は、ものづくりに必要な機械工学の基礎知識を修得し、機械を制御するために必要な電気やコンピュータに関する技術を身につけ、メカトロニクスに強いエンジニアの育成を目指します。

図7. 機械工学科のカリキュラム全体像(平成27年度以降入学生適用)

理念・目標	規範	卒業時に身につけるべき学力や資質・能力	
建学の綱領 人間形成 技術革新 産学協同 教育目標 グローバル イノベーターの育成	行動規範 KIT-IDEALS K : Kindness of Heart 思いやりの心 I : Intellectual Curiosity 知的好奇心 T : Team Spirit 共同と共創の精神 I : Integrity 誠実 D : Diligence 勤勉 E : Energy 活力 A : Autonomy 自律 L : Leadership リーダーシップ S : Self-Realization 自己実現 学習規範 CDIO C : Conceive 発想する D : Design 設計する I : Implement 実行する O : Operate 運営する	人間性	①自分で考え、主体的に行動することができる。 ②技術者としての倫理や責任に基づいた意志決定ができる。 資質A
		創造性	③専門知識・技能を組み合わせ、ものづくりができる。 ④メンバーとしての自覚と責任を持ち、リーダーシップを発揮できる。 資質B
		国際性	⑤英語でコミュニケーションができる。 ⑥国際感覚や異文化を理解し受け入れることができる。 資質C
		基礎力	⑦自然科学(数理科目)および工学の基礎を理解できる。 ⑧論理的な考え方ができる。 資質D
		専門力	⑨専門知識と技能を用い工学的な問題を解決できる。 ⑩科目間の相互関連性を理解し、専門全体を俯瞰できる。 ⑪各学科で推奨する資格を取得できる。 資質E

具体的な人間像を「将来の工場長」と定め、これに必要な「知識」「技能」「態度」の修得を目標としています。

本学科の教育は、メカトロニクスのベースとなる、機械、電気、情報の各専門分野の科目によって構成されています。



機械の分野においては、機械加工、機械工学概論において、加工、機械材料、力学といった側面から機械工学の基礎を修得します。また、機械製図Ⅰ・Ⅱにおいて、機械製図に関する規格を理解して、図面を正しく読み、描く能力を身につけ、機械設計と製図の基本的な技術を修得します。機械設計演習では、機械を設計し、図面を作成する際の具体的なプロセスを修得します。

電気の分野においては、電気基礎、電子回路（２～３年次にかけて開講）において、電流と電圧、直流回路、電気と磁気といった基本的な電気現象を理解します。

情報の分野においては、プログラミング基礎・応用において、プログラミングの基本を学びます。さらに、創造設計を通じて、マイコン制御プログラミングの知識や技術を身につけます。

これら専門科目によって身につけられた知識・技術は、創造設計の演習において重要な知識・技術となります。学生は、専門科目で学んだ知識を創造設計において活用することが求められます。そして、４～５年次にかけて、機械工学に関連する専門分野をさらに掘り下げて学習していきます。

②創造設計

創造設計Ⅰ～Ⅳ（１～４年次にかけて開講）では、ものづくりに必要な「知識」「技能」「態度」を段階的に修得すると共に、エンジニアリングデザイン、同マネジメントおよびＣＤＩＯの理念を取り入れた教育を行います。これらを踏まえて、機械技術（構造系の設計・製作）、電気・電子技術（回路の設計・製作）、情報技術（制御系の設計・製作）といった、メカトロニクスのベースとなる基礎技術を修得します。この修得過程では、基礎知識はもちろんのこと、体験を主体としたものづくりによって、「将来の工場長」に必要な基本的資質を身につけます。

これらのプロセスを経て、身につけてきた技術を総合的に活用するテーマとして、人に役立つ機械の製作を行います。人に役立つ機械の製作では、学生の自由な発想が盛り込めるような課題が設定されていて、身につけてきた技術の総合化と創造力を養う工夫が盛り込まれています。さらに、機械の製作の過程においては、必要性、システム要求、システム設計、機械製図、模型製作、加工、制御実験、プレゼンテーション、報告書の作成といった一連の流れを体験でき、そして企業でも実践されているものづくりの基本的な流れを身につけることができます。

また、人に役立つ機械の製作にあたっては、数名の学生によるチームを編成して取り組むことで、リーダーシップやチームワークを肌で体験し修得することができます。さらに、取り組んだ内容をレポートとしてまとめあげる力や、教員に対してプレゼンテーションを行うことで、第三者に対して情報を魅力的に伝えるコミュニケーション能力を身につけることができます。

③情報教育の特色

本学科の情報教育は、エンジニアとして必要な情報リテラシーの修得と共に、制御に必要なプログラミング技術の修得に重点を置いています。具体的には、情報リテラシー、プログラミング基礎を通してC言語を用いたプログラム作成方法の基礎を修得します。また、創造設計において重要な要素である制御については、創造設計Ⅲ、応用プログラミングの中で、C言語を中心としたマイコン制御プログラミング技術を修得します。

④資格取得教育の特色

本学科では、学生に対する学習意欲の向上また課外における学習の動機づけを行う、並びに、卒業生が初級エンジニアの卵としての後ろ盾を確保する取り組みとして、資格取得を推奨しています。具体的には、3級機械設計技術者、工業英検およびTOEICの資格試験を推奨しており、機械の専門科目および専門科目における外国人教員による講義を通して学習することで、資格取得に必要な知識を得ることができます。このように、本学科では、授業の中においても、機械システム系のエンジニアとして、資格取得が実社会において評価されることを意識づけ、学生の学習における積極的な行動をサポートしています。

(3) グローバル情報学科 Department of Global Information and Management

①学習・教育目標

グローバル情報学科は、情報分野の専門知識と技術、そしてビジネスに関する知識も合わせ持った視野の広いエンジニアの育成を目指します。また、今日のグローバル社会に対応できる英語でのコミュニケーション力、習得した知識と技術を駆使してイノベーションを創出できる能力を涵養することも重要な教育目標と位置づけています。

図8. グローバル情報学科のカリキュラム全体像(平成27年度以降入学生適用)

理念・目標	規範	卒業時に身につけるべき学力や資質・能力	
建学の綱領 人間形成 技術革新 産学協同	行動規範 KIT-IDEALS K : Kindness of Heart 思いやりの心 I : Intellectual Curiosity 知的好奇心 T : Team Spirit 共同と共創の精神 I : Integrity 誠実 D : Diligence 勤勉 E : Energy 活力 A : Autonomy 自律 L : Leadership リーダーシップ S : Self-Realization 自己実現	人間性	①自分で考え、主体的に行動することができる。 ②技術者としての倫理や責任に基づいた意志決定ができる。 資質A
		創造性	③専門知識・技能を組み合わせ、ものづくりができる。 ④メンバーとしての自覚と責任を持ち、リーダーシップを発揮できる。 資質B
		国際性	⑤英語でコミュニケーションができる。 ⑥国際感覚や異文化を理解し受け入れることができる。 資質C
		基礎力	⑦自然科学(数理科目)および工学の基礎を理解できる。 ⑧論理的な考え方ができる。 資質D
		専門力	⑨専門知識と技能を用い工学的な問題を解決できる。 ⑩科目間の相互関連性を理解し、専門全体を俯瞰できる。 ⑪各学科で推奨する資格を取得できる。 資質E
教育目標 グローバル イノベーターの育成	学習規範 CDIO C : Conceive 発想する D : Design 設計する I : Implement 実行する O : Operate 運営する		

1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
人間と自然Ⅰ(A)		人間と自然Ⅱ(A)	人間と自然Ⅲ(A)	
保健体育Ⅰ(A)	保健体育Ⅱ(A)	保健体育Ⅲ(A)	保健体育Ⅳ(A)	
国語Ⅰ(A)	国語Ⅱ(A)	国語Ⅲ(A)	国語Ⅳ(A)	文化・思想(A)
歴史Ⅰ(A)		歴史Ⅱ(A)	社会科学Ⅰ(A)	社会科学Ⅱ(A)
創造設計Ⅰ(B、E)	創造設計Ⅱ(B、E)	創造設計Ⅲ(B、E)	創造設計Ⅳ(B、E)	卒業研究(B、E)
デザインメソッドⅠ(B、E)	デザインメソッドⅡ(B、E)	デザインメソッドⅢ(B、E)	ビジネスシステム(B、E)	
プロジェクトⅠ(B、E)	プロジェクトⅡ(B、E)	プロジェクトⅢ(B、E)	プロジェクトⅣ(B、E)	
			インターンシップⅠ・Ⅱ(B、A、C)	
総合英語Ⅰ(R)(C)	日本文化(C)		英語資格技術(C)	英語表現技法(C)
総合英語Ⅰ(G)(C)	総合英語Ⅱ(C)	総合英語Ⅲ(C)	総合英語Ⅳ(C)	
英語スキルズⅠ(C)	英語スキルズⅡ(C)	英語スキルズⅢ(C)	上級英語Ⅰ(C)	上級英語Ⅱ(C)
	海外英語研修(C)	情報ビジネス英語Ⅰ(C)	情報ビジネス英語Ⅱ(C)	情報ビジネス英語Ⅲ(C)
			英語総合技能(C)	英語討議技法(C)
基礎数学Ⅰ(D)				数理統計(D)
基礎数学Ⅱ(D)	線形代数Ⅰ(D)	線形代数Ⅱ(D)	情報数学(D)	データ分析(D)
	微分積分Ⅰ(D)	微分積分Ⅱ(D)		オペレーションズリサーチ(D)
物理・化学Ⅰ(D)	物理・化学Ⅱ(D)	物理・化学Ⅲ(D)		
情報修学基礎Ⅰ(E、B)	情報修学基礎Ⅱ(E、B)			技術者倫理(E、B)
コンピュータリテラシーⅠ(E、B)	コンピュータリテラシーⅡ(E、B)		工学特論Ⅰ(E、B)	工学特論Ⅱ(E、B)
プログラミング基礎(E、B)	プログラミング演習Ⅰ(E、B)	プログラミング演習Ⅱ(E、B)	システム開発演習Ⅰ(E、B)	システム開発演習Ⅱ(E、B)
			ソフトウェア工学Ⅰ(E、B)	ソフトウェア工学Ⅱ(E、B)
	ネットワーク基礎Ⅰ(E、B)	ネットワーク基礎Ⅱ(E、B)	ネットワークシステムⅠ(E、B)	ネットワークシステムⅡ(E、B)
情報処理Ⅰ(E、B)	情報処理Ⅱ(E、B)	情報処理Ⅲ(E、B)	データベース(E、B)	
			メディア情報(E、B)	コンピュータシステムⅠ・Ⅱ(E、B)
			アルゴリズムとデータ構造(E、B)	物流システム(E、B)
必修科目		ビジネス概論(E、B)	企業会計Ⅰ(E、B)	企業会計Ⅱ(E、B)
選択科目			マーケティングⅠ(E、B)	マーケティングⅡ(E、B)

②情報教育の特色

本学科の情報教育は、ソフトウェア開発に必要なプログラミング技術、そして、ネットワーク構築の技術の習得の2点に重点を置いています。プログラミング教育においては、1年次のプログラミング基礎で入門用のプログラミング言語を用いて実際に動くプログラムを作ります。2・3年次のプログラミング演習Ⅰ・Ⅱでは、汎用プログラミング言語を用いてプログラミング言語のしくみを理解し、アルゴリズムを意識したプログラムの作成から段階を経て高度な処理を行うプログラムを作成する力を身につけます。4・5年次に開講するシステム開発演習Ⅰ・Ⅱでは、それまでに学習してきたプログラミング技術や情報技術の基礎を踏まえて、より実務に近い実践的なソフトウェアの開発手法を学びます。この科目の演習の中では、基本的なプログラミングはもとより、ネットワーク、データベースといった要素を盛り込んだソフトウェアを開発します。

ネットワーク教育に関する科目は2年次より始まります。初年度のネットワーク基礎Ⅰでは、利用者にとって必要なICTの基礎知識やリテラシーを学びます。3年次のネットワーク基礎Ⅱでは、UNIXの基本を学ぶとともに、インターネットで利用される各種サービスの概要や設定方法などを学び、サーバ構築のスキル習得を目指します。

4・5年次に入ってネットワーク技術者に必要な基礎知識とネットワークを構成する機器の仕組みや設定方法を学び始めます。また、実社会で実際に稼働しているネットワークシステムを模した運用実習を行うことで実践的なスキルとネットワーク技術の理解をよりいっそう深めます。

③英語教育の特色

本校では、2年次には1ヶ月の海外英語研修が、3年次には1年間の留学プログラムがあり、希望する学生は自らの英語力を海外の場において実践することが出来ます。1年間の留学プログラムでは、留学先において専門の授業を受講するため、休学する必要がありません。なお、留学を希望しない学生に対しては、3年次以降に開講される情報・ビジネス英語Ⅰ～Ⅲで、英語によるコミュニケーションの場を、日常生活から情報工学やビジネス社会の場へとステップアップさせ、国際社会で通用する英語によるプレゼンテーション技能やビジネス社会における英語の活用について学習します。

このように本学科の英語教育は、日常会話だけでなく、ビジネスの話においてコミュニケーションを図るレベルを身につけることを目指しています。

④創造設計

1～4年次にかけて実施する創造設計Ⅰ～Ⅳでは、CDIOやデザインシンキングの考え方を踏まえつつ、1・2年次においてはものづくりを通して工学の楽しさを体験し、3・4年次ではその楽しさを引き継ぎながら実用的なモノづくりの力を育成していきます。低学年でのテーマには、簡単な動画コンテンツの作成、レゴロボットの制御などがあり、学生がこれを楽しむと同時に、完成体験を通じて自己の力に自信をつけることも目的としています。上級学年では、グループ単位でのソフトウェア開発をテーマに掲げ、社会で実際に稼働しているネットワークサービスの構築を行います。これまでに学び、習得した知識と技能を駆使して実用を目指すソフトウェアシステムを開発するプロセスを体験することで、知識と技能が実践力にかわることを目指しています。

⑤資格取得教育の特色

本学科では、学習意欲の向上と動機づけ、および就職に直結する能力の習得を行う取り組みとして、資格取得を推奨しています。1～3年次にかけて開講される情報処理Ⅰ～Ⅲでは、国家資格であるITパスポート、基本情報技術者の取得を目指し、試験内容の基礎を取り込んだものとなっています。また、ネットワークに関しては、ネットワークシステムⅠ・Ⅱでネットワーク関連のベンダー資格の取得を強く意識した科目内容となっています。このように、本学科では、資格取得が実社会において評価されることを学生に意識づけ、積極的な学習をサポートしています。

本校の教育運営

(平成 29 年度以前入学生適用)

(1) 2 学期制と 100 分授業

人口知能 (AI) やあらゆるモノがインターネットにつながる IoT が普及されていく中、学生諸君も、さまざまなイノベーションが溢れる時代に備えなければなりません。そこで、本校は金沢工業大学との共創教育により、学習環境の飛躍的向上を図ります。また、各授業においても、例題一解答型の受け身の授業ではなく、教員や他の学生とのディスカッションを通じて主体的に学ぶなどの、問題発見一解決型の授業を実践していきます。さらに、各回の授業の終わりには振り返りの時間を 10 分程度設け、学んだ知識や技術をしっかり定着させたいと思います。つきましては、金沢工業大学と学期の区分及び授業時間を合わせ、学期を前学期・後学期の 2 学期制、授業時間を 100 分に改めます。これらの変更により、大学教員による授業を受ける機会を設けやすくなり、大学生と共に学習や研究を行うことで、本校学生の能力の幅を広げることができます。

(2) 授業と学習支援計画書 (シラバス)

本校では、教育課程の編成の趣旨に沿って学習支援計画書を作成しています。この中には「科目概要」、「評価方法」、「受講上のアドバイス」、「各週ごとの授業項目」、「到達目標または行動目標」が記載されており、各科目の授業担当者が自身の授業計画に基づき作成しています。

学習支援計画書により、教員には「わかりやすい授業」の実施と共に課外学習の充実を図ることを求め、学生には学年の始めの授業で配付し、能動的な学習態度を求めています。

(3) クラス担任制度

本校は、修学支援体制の中核をなす仕組みとしてクラス担任制 (各クラスに担任と副担任を配置) を有しています。クラス担任は、学生の意見や要望を聞くと共に、生活面での相談相手になるなど、教育活動と生活面における円滑化を推進する役割を担っています。このクラス担任制度により、学生ガイダンス、修学指導、成績集計、学生の自主的活動、生活面、進路指導に至る修学や生活全般に亘り行き届いた指導を可能としています。

また、毎週ホームルームを行うことで学生と学校的意思疎通および学生の状況把握に努め、校長、学生主事、学科長と日常的に情報交換を行うことで、学生一人ひとりの状況を把握し、関係教員との情報共有に努めています。

さらに、部活動顧問や科目担当者が学生から相談を受けることもあり、クラス担任、部活動顧問、科目担当など複数の教員が立場を異にして学生の声を聞く体制が確立されています。

(4) 課外活動 (部活動、資格取得、プロジェクト)

本校では、3 年次までの全員が部活動に参加することを義務づけています。全ての部活動の顧問は、本校教員が担当することで活動の活性化に努めると共に、学生と教員の積極的な係わりやコミュニケーションにより、学生一人ひとりの人間力の醸成を図っています。また、部活動のコーチにおいても、本校の非常勤職員として採用された者が当たるなど、活動支援体制の充実に努力しています。

また、各学生の専門分野における資格取得支援を図るために、具体的な目標を授業でも意識づけできるように、学生の学習意欲を触発し自主的・主体的学習態度の育成を目指しています。

さらに、近年、学園の夢考房プロジェクト活動に参加する学生や本校のハンズオン部に入り、各種コンテストへ挑戦する学生が増加しており、課外活動の充実が各教員の積極的な支援により推進されています。

部活動一覧

運動部				文化部	
1)	陸上競技部	8)	卓球部	1)	吹奏楽部
2)	バレーボール部	9)	バドミントン部	2)	放送・無線部
3)	バスケットボール部	10)	水泳部	3)	電子計算機部
4)	ソフトテニス部	11)	剣道部	4)	写真部
5)	テニス部	12)	柔道部	5)	美術部
6)	野球部	13)	スキー部	6)	ハンズオン部
7)	サッカー部	14)	ハンドボール部	7)	囲碁・将棋部

バレーボール部、ソフトテニス部、柔道部、スキー部、囲碁・将棋部を休部とする。
 この他に、夢考房プロジェクト、華道講座などの課外活動もあります。

(5) キャンパスライフと修学環境

本校は、学校教育法が定める高等専門学校設置基準に沿った校地、校舎が整備されています。校舎内には、教室、研究室、実験・実習室、コンピュータ演習室などが整備されています。また、金沢工業大学との共用施設として、運動施設（体育館、運動場、天池自然学苑）、図書館（ライブラリーセンター）、語学学習用の教室、機械実習施設（夢考房）、合宿研修施設（穴水湾自然学苑、池の平セミナーハウス）などが整備されており、本校の教育に必要な教育環境が整備されています。

学生は、授業時間外の各教室やコンピュータ演習室、アクティブラーニングルームなどを自由に利用することができます。また、この他に教員の3分の1にあたる外国人の先生と自由に英会話を楽しむスペース、イングリッシュラウンジが開放されています。校舎は、学生の学習の場として、さらに学生間のコミュニケーションの場として有効に活用されています。また、金沢工業大学との教育支援に係わる共用施設は、学生の自主的な学習やキャンパス生活の場として有効に利用されています。特に、ライブラリーセンターでは、図書、学術雑誌、視聴覚資料などが整備されると共に、教科科目に対応した参考図書をはじめ、資格検定テキストなどが準備してあります。また、その資料の活用を促進するために、本校教員をサブジェクトライブラリアン*に任用し、高専教育に直結した支援とサービスを提供しています。

*サブジェクトライブラリアン：各分野の専門家として、その分野の先端情報や資料の体系的把握、評価を行うと共に、ライブラリーセンターの利用や専門的事項を調べる際など、分からないことがあった場合の相談相手となります。

自己点検・評価の仕組み

本校は、教育の改善を図るために外部機関による評価を受けると共に、本校でも学生と教職員が一体となり、各種の方法で自己点検を実施しています。

学生は、自ら学んだ学習内容（学習の到達度）を各科目の成績や修学状況から確認します（図9参照）。さらに、学生が授業アンケートやICT総合アンケートに答えることで、授業への取り組みの積極性や、成果、課外における活動の充実度を自己点検することができます。

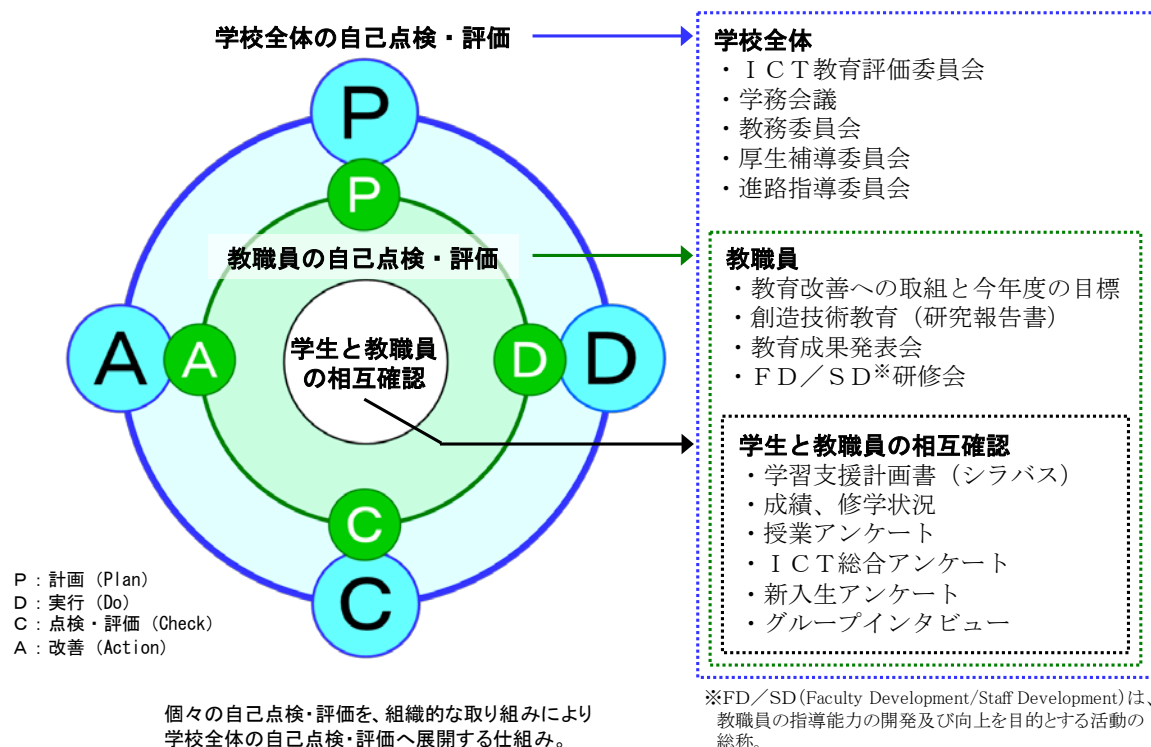


図9. 国際高専における自己点検・評価の概念図

これらの情報は教員にとって、また、本校全体にとって、教育改善のための重要な要素になります。学生と教員が相互確認した内容をベースに、各教員は、年度末に1年間の活動について自己点検・評価し、「今年度の教育改善成果に関する自己点検・評価」を校長に提出します。校長は、それを受けて個別面談を行い、各教員の活動状況全般を確認すると共に、次年度の改善目標について合意形成を図ります。その上で、「教育改善への取組と今年度の目標」を作成し、授業運営の観点から昨年度の実績とその評価および反省の上に立って今年度の授業改善に取り組んでいます。

一方、各教員が授業において実践した活動内容については、教育成果発表会や、創造技術教育研究所でまとめた教育に関する「創造技術教育」（研究報告書）によって全教員に公開され、個々の教員の優れた教育実践例のノウハウが共有されます。また、多年に亘り継続して行われているFD研修会は、授業の創意工夫を図るものとして定着しています。

本校の学事運営を行う組織として学務会議を中心に、教育、修学、進路、教育研究の観点から、「教務委員会」、「厚生補導委員会」、「進路指導委員会」、「創造技術教育研究所」などが設置されています。多くの教員が教育活動の点検と学事運営に携わることで、各教員が行った教育実践や学事運営における自己点検の内容が、本校全体の改善活動の中で活かされる仕組みとなっています。さらに、「ICT 教育評価委員会」を設け本校の教育に関する取り組みを評価改善すると共に、学園理事会の諮問機関で第三者評価を行う「十年委員会」に対して、教育・研究活動における取り組みの状況や計画などを報告しています。

このように、本校の自己点検のシステムは、個々の自己点検が組織的な取り組みへと展開される仕組みを有しており、校長のリーダーシップのもと、学生、教職員それぞれが学園の理念や本校の教育実践目標を理解し、さらに行動規範（KIT-IDEALS）に沿って、それぞれが行動することで「工学アカデミア」の実現を目指しています。

規則集

国際高等専門学校学則P.40

教育課程表

平成27年度以降入学生適用

各学科共通一般科目P.45

電気電子工学科専門科目P.48

機械工学科専門科目P.51

グローバル情報学科専門科目P.54

諸規則

学習指導に関する実施規程P.58

科目等履修生規程P.61

研究生規程P.62

外国留学に関する規程P.62

服装規定P.63

生活規定P.64

学生会会則P.65

課外活動細則P.67

学生心得P.69

国際高等専門学校学則（平成29年度以前入学生適用）

平成29年度以前入学生は従来の規則を適用する。

第1章 目的及び使命

第1条 国際高等専門学校(以下「本校」という。)は、学校法人金沢工業大学建学綱領に定める建学の精神に則り、教育基本法及び学校教育法に従い、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とし、その目的を実現するため教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを使命とする。

- 2 本校は、前項の目的及び使命を達成するため、教育研究活動等の状況について点検及び評価を行うことに努めるものとする。
- 3 前項に関し、必要な事項は、別に定める。

第2章 修業年限、学年、学期及び休業日

第2条 本校の修業年限は、5年とする。

第3条 学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終る。

第4条 学年を分けて、次の2学期とする。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から3月31日まで

- 2 前項の学期の開始日及び終了日については、国際高等専門学校校長(以下「校長」という。)は、臨時に変更することができる。
- 3 各学期の授業実施日等は、別に定める学年暦による。

第5条 休業日は、次のとおり定める。ただし、特別の必要があるときは、校長は、これらの休業日を授業日に振り替えることがある。

- (1) 日曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に定める休日
 - (3) 創立記念日 6月1日
 - (4) 夏期休業
 - (5) 冬期休業
 - (6) 学年末休業
- 2 前項第4号から第6号の休業日は、学年暦による。
 - 3 第1項各号に規定する休業日のほか、臨時の休業日は校長がその都度定める。

第3章 組織及び定員

第6条 本校に次の学科を置く。

電気電子工学科

機械工学科

グローバル情報学科

第6条の2 電気電子工学科は、電気・電子工学及び情報技術分野に関する専門的能力を有する実践的技術者の養成を目的とする。

- 2 機械工学科は、機械工学分野に関する専門的能力を有する実践的技術者の養成を目的とする。
- 3 グローバル情報学科は、情報技術に関する専門能力と経営の知識を有し、グローバル社会においてイノベーション創出に貢献できる技術者の養成を目的とする。

第7条 各学科の学級数及び収容定員は、次のとおりとする。

学科	学級数	入学定員	収容定員
電気電子工学科	1	40人	200人
機械工学科	1	40人	200人
グローバル情報学科	1	40人	200人

- 2 前項の規定にかかわらず、教育上有益と認めるときは、異なる学科の学生をもって学級を編成することがある。

第4章 教育課程等

第8条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

第8条の2 本校の授業科目は、その内容により、各学科に共通する一般科目及び学科ごとの専門科目に分ける。

2 前項に定める授業科目のほか特別活動を実施する。

第9条 本校は、本校及び学科の教育目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。

2 教育課程は、各授業科目を各学年に配当して編成する。

3 各授業科目の単位数と学年別配当は、別表第1のとおりとする。

4 各授業科目の単位数は、30単位時間（1単位時間は標準50分とする。次項及び第8項において同じ。）の履修を1単位として計算するものとする。

5 前項の規定にかかわらず、授業科目のうち別表第1の2に定める講義及び演習については、1単位の授業科目を45単位時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、1単位を15単位時間の授業をもって計算する。

6 前項の規定により計算することのできる授業科目の単位数の合計は、60単位を超えないものとする。

7 前3項の規定にかかわらず、インターンシップ及び卒業研究については、その学修の成果を評価して単位の修得を認定することとし、その単位数については、別表第1による。

8 特別活動は、第1学年から第5学年まで各学年30単位時間以上実施するものとする。

第10条 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が他の高等専門学校において履修した授業科目について修得した単位を、30単位を超えない範囲で本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。

第11条 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が行う大学における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本校における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することがある。

2 前項により、認定することができる単位数は、前条により本校において修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

3 第1項の規定は、学生が、外国の大学又は高等学校に留学する場合及び外国の大学が行う通信教育における授業科目を、我が国において履修する場合について準用する。この場合において認定することができる単位数の合計数は30単位を超えないものとする。

第12条 各学年の課程の修了及び卒業の認定は、学生の平素の学業成績のほか、特別活動の状況を併せて評価のうえ、校長が行う。

2 前項に規定する評価については、別に定める国際高等専門学校学習指導に関する実施規程による。

3 各学年の課程の修了又は卒業が認められなかった者は原学年に留める。

第5章 入学、転科、休学、退学、転学及び卒業

第13条 原学年に留められた者は、当該学年にかかる授業科目を再履修しなければならない。ただし、別表第1の3に定める授業科目について、既に修得している場合はこの限りでない。

第14条 本校に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 中学校若しくはこれに準ずる学校を卒業した者

(2) 中等教育学校の前期課程を修了した者

(3) 文部科学大臣の定めるところにより、前2項と同等以上の学力があると認められた者

第15条 入学を志願する者は、入学願書に第29条に定める検定料及び所定の書類を添えて願い出なければならない。

第16条 校長は、入学志願者について、別に定めるところにより入学者を選考し、合格者を決定する。

第17条 合格通知を受けた者は、指定の期日までに第29条に定める入学金を納付するとともに、在学中の保証人と連署した誓約書及び校長が定める書類を提出しなければならない。

2 校長は、前項の入学手続を完了した者に対して、入学を許可する。

第18条 第2学年以上に入学を希望する者があるときは、校長は、その者が相当年令に達し、当該学年に在学する者と同等以上の学力があると認められ、かつ、定員に欠員がある場合に限り、相当学年に入学を許可することができる。

第19条 転科を希望する者があるときは、校長は第1学年の修了時に限り選考のうえ、許可することができる。

第20条 病気その他やむを得ない理由により、休学しようとする者は、その事由を記して保証人と連署で休学を願い出て、校長の許可を受けなければならない。ただし、病気の場合には、願い書に医師の診断書を添付しなければならない。

2 休学は、原則として学期ごととし、休学の願い出は学期の始めまでに行わなければならない。

第21条 校長は、特殊の病気のため療養を要すると認めた者に対して、出席停止又は休学を命ずることができる。

2 校長は、伝染病にかかり、又はかかっている疑いがあると認めた者に対し、出席停止を命ずることができる。

第22条 休学期間は、通算して2年以内とする。

第23条 休学した者は、休学の理由がなくなったとき、校長の許可を受けて復学することができる。

第24条 やむを得ない理由により退学しようとする者は、その理由を記して保証人と連署で願い出、校長の許可を受けなければならない。

2 前項の規定により退学した者で再入学を希望する者があるときは、校長は、選考のうえ、相当年次に入学を許可することができる。

第25条 他の学校に入学、転学又は編入学を志望しようとする者は、校長の許可を受けなければならない。

第26条 校長は、教育上有益と認めたときは、休学することなく外国の大学に留学することを認めることができる。

2 前項による留学の期間は、原則として1年以内とする。

3 留学期間は、在学年数に算入する。

4 第1項に規定する留学について必要な事項は、別に定める国際高等専門学校外国留学に関する規程による。

第26条の2 校長は、前条第1項の規定により留学を認めた者に対し、別に定める授業科目について、インターネット等のメディアを利用して、遠隔授業を行うことがある。ただし、この場合において認定することができる単位数の合計は10単位を超えないものとする。

第27条 校長は、卒業を認定した者（次項において「卒業生」という。）に卒業証書を授与する。

2 卒業生は、準学士(工学)と称することができる。

第6章 学校納入金

第28条 本学則において学校納入金とは、検定料、入学金、授業料、施設設備費及び在籍料をいう。

2 本学則に定めるもののほか、学校納入金の取扱いについては、学校法人金沢工業大学学校納入金収納取扱規程の定めるところによる。

第29条 検定料及び入学金は、次のとおりとする。

検定料 15,000 円

入学金 60,000 円

第30条 授業料及び施設設備費は、別表第2のとおりとする。

2 第26条の規定により留学を認められた者の当該留学期間に相当する月の授業料は、その2分の1相当額を減額し、施設設備費は免除する。

第31条 休学を認められた者の当該休学期間に相当する学期の授業料及び施設設備費は、これを徴収しない。ただし、休学期間に相当する学期の在籍料を月ごとに納入しなければならない。

2 在籍料は、月額2,500円とする。

3 休学した者が復学するときの授業料及び施設設備費は、その者の入学時に定められた当該学年の授業料及び施設設備費の額とする。

第32条 授業料及び施設設備費は、月ごとに納入しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、各学期又は年額を一括して納入することができる。

3 納入期限は、学校納入金明細書に記載する払込指定日とする。

第32条の2 納入された全ての学校納入金は、返還しない。

2 前項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、当該授業料及び施設設備費を返還する。

(1) 入学を許可された者が、所定の手続により4月1日までに入学辞退を申し出、かつ既に授業料及び施設設備費を納入している場合

(2) 休学を認められた者が、休学する学期の授業料及び施設設備費を既に納入している場合

(3) 退学又は除籍された者が、在籍しない月の授業料及び施設設備費を既に納入している場合

第32条の3 月の途中で退学、休学、停学又は除籍された者の当該月の授業料及び施設設備費は、これを徴収する。

第7章 教職員

第33条 本校に、校長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務局長、事務職員及び技術職員（次項を含め次条において「教職員」という。）を置く。

2 前項のほか、副校長、学科長を置くことができる。

第34条 校長は、校務を掌り職員を監督する。

2 副校長は、校長の職務を助ける。

3 学科長は、学科に関する校務を掌る。

4 教授、准教授及び助教は、学生を教授する。

5 講師は、教授又は准教授に準ずる職務に従事する。

6 助手は、教育の円滑な実施に必要な業務に従事する。

7 事務局長は、校長を補佐し、学務に関する事務を統理する。

8 事務職員は、学務に関する事務に従事する。

9 技術職員は、技術に関する業務に従事する。

第35条 校長は、教授の中から教務主事、学生主事、進路指導主事及び研究主事を任命する。

2 教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案、その他教務に関することを掌理する。

3 学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること（進路指導主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。

4 進路指導主事は、校長の命を受け、学生の進路指導に関することを掌理する。

5 研究主事は、校長の命を受け、教員及び学生の研究に関することを掌理する。

第8章 賞罰及び除籍

第36条 校長は、学生として表彰に値する行為があるときには、表彰することができる。

第37条 校長は、学生が本校の規則に違反し、又はその本分に反する行為があるときは懲戒する。

第38条 前条の懲戒の種類は、訓告、停学、退学とする。

第39条 校長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して退学を命ずる。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由なく出席が常でない者
- (4) 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
- (5) 第12条第3項の規定により、原学年に留められた者で、再履修後も引続き進級できない者

第40条 校長は、次の各号のいずれかに該当する者を除籍する。

- (1) 学校納入金を滞納し、督促を受けても納入しない者
- (2) 在学期間が10年を超えた者
- (3) 第22条に規定する休学期間を超えた者
- (4) 長期間にわたり行方不明の者

第9章 外国人留学生

第41条 校長は、本校に留学を志願する外国人があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

第42条 削除

第43条 削除

第10章 研究生及び科目等履修生

第44条 校長は、本校学生以外の者で、本校の特定の専門事項について研究することを希望するものがあるときは、本校の教育研究に支障のない場合に限り、選考のうえ、研究生として入学を許可することができる。

2 研究生について必要な事項は、別に定める国際高等専門学校研究生規程による。

第45条 削除

第46条 校長は、本校学生以外の者で、本校が開設する一又は複数の授業科目を履修することを希望するものがあるときは、本校の教育に支障のない場合に限り、選考のうえ、科目等履修生として入学を許可することができる。

2 科目等履修生のうち、履修する授業科目についての単位の取得を希望しない者を聴講生という。

3 科目等履修生について必要な事項は、別に定める国際高等専門学校科目等履修生規程による。

第47条 削除

第11章 図書館等

第48条 本校に、図書館及びその他教育研究に必要な施設を置く。

第49条 削除

第12章 公開講座

第50条 本校に、公開講座を開設することができる。

第51条 削除

附則

- 1 この学則は昭和 37 年 4 月 1 日から実施する。
- 2 昭和 38 年 4 月 1 日、一部改正同日から実施する。
(3～39 は省略する)
- 40 この学則は、平成 20 年 4 月 1 日から改正施行する。
- 41 この学則は、平成 21 年 4 月 1 日から改正施行する。ただし、改正後の第 6 条の規定にかかわらず、電気情報工学科及び国際コミュニケーション情報工学科は、平成 21 年 3 月 31 日に該当学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 42 この学則は、平成 25 年 4 月 1 日から改正施行する。
- 43 この学則は、平成 27 年 4 月 1 日から改正施行する。ただし、改正後の第 6 条の規定にかかわらず、グローバル情報工学科は、平成 27 年 3 月 31 日に当該学科に在学する者が在学しなくなるまでの間、存続するものとし、この学則実施前に現に在学する者にかかる教育課程については、なお従前のとおりとする。

別表第 1 教育課程表 P.45 から掲載

別表第 1 の 2

学科	授業科目
全学科	英語資格技術、数理統計
電気電子工学科	応用物理Ⅰ、応用物理Ⅱ
グローバル情報学科	工学特論Ⅰ、工学特論Ⅱ

上表に定める授業科目に加え、本学則第 26 条に基づき留学し、CEE (Certificate in English and Engineering) プログラムを修了した 4 年次生を対象として開講する次表の定める授業科目は、1 単位を 15 単位時間の授業をもって計算する授業科目とする。

学科	授業科目
電気電子工学科	電気回路Ⅱ、電気磁気学Ⅱ
機械工学科	材料力学Ⅰ、機械製図演習
グローバル情報学科	情報処理Ⅲ、ネットワーク基礎Ⅱ

別表第 1 の 3

学科	授業科目
電気電子工学科	インターンシップ
機械工学科	
グローバル情報学科	

別表第 2 学校納入金

授業料 (月額) (単位: 円)

1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
31,000	31,000	48,000	87,000	87,000

施設設備費 (月額) (単位: 円)

1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
12,500	12,500	12,500	12,500	12,500

教育課程表・学則第9条別表第1

各学科共通一般科目

General Education Courses (Required Courses)

平成27年度以降入学生適用

For those enrolled in 2015 academic year and after

授業科目	学年	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	国語Ⅰ Japanese I	2	2					
	国語Ⅱ Japanese II	2		2				
	国語Ⅲ Japanese III	2			2			
	国語Ⅳ Japanese IV	1				1		
	歴史Ⅰ History I	2	2					
	歴史Ⅱ History II	2			2			
	基礎数学Ⅰ Basic Mathematics I	2	2					
	基礎数学Ⅱ Basic Mathematics II	4	4					
	線形代数Ⅰ Linear Algebra I	3		3				
	微分積分Ⅰ Calculus I	3		3				
	線形代数Ⅱ Linear Algebra II	2			2			
	微分積分Ⅱ Calculus II	4			4			
	物理化学Ⅰ Physics and Chemistry I	2	2					
	物理化学Ⅱ Physics and Chemistry II	3		3				
	物理化学Ⅲ Physics and Chemistry III	2			2			
	保健体育Ⅰ Physical Education I	3	3					
	保健体育Ⅱ Physical Education II	2		2				
	保健体育Ⅲ Physical Education III	2			2			
	総合英語Ⅰ(R) English I (R)	2	2					
	総合英語Ⅰ(G) English I (G)	3	3					
	総合英語Ⅱ English II	3		3				
	総合英語Ⅲ English III	3			3			
	総合英語Ⅳ English IV	2				2		
	英語スキルズⅠ English Skills I	3	3					
	英語スキルズⅡ English Skills II	3		3				
	英語スキルズⅢ English Skills III	3			3			
	日本文化 Japanese Culture	1		1				
	人間と自然Ⅰ Humanity and Nature I	1	1					
	人間と自然Ⅱ Humanity and Nature II	1			1			

授業科目		学年	単位数	学年別配当					備考
				1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修	人間と自然Ⅲ Humanity and Nature Ⅲ		1				1		
	開設単位計 Required Course Credits		69	24	20	21	4	0	

各学科共通一般科目

General Education Courses (Elective Courses)

平成27年度以降入学生適用

For those enrolled in 2015 academic year and after

授業科目		学年	単位数	学年別配当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
選択科目	社会科学Ⅰ Social Sciences I		2				2		
	社会科学Ⅱ Social Sciences II		2					2	
	文化・思想 Culture & Thought		2					2	
	数理統計 Mathematical Statistics		2					2	
	保健体育Ⅳ Physical Education IV		2				2		
	英語表現技法 English Expression Skills		2					2	
	上級英語Ⅰ Advanced English I		4				4		
	上級英語Ⅱ Advanced English II		2					2	
	英語資格技術 English Test-taking Skills		2				2		
	海外英語研修 Overseas English Program		4		4				卒業単位に含めない
	開設単位計 Elective Course Credits		24	0	4	0	10	10	
必修科目修得単位計 Required Course Credits			69	24	20	21	4	0	
選択科目修得最低単位計 Minimum Credits for Elective Courses			10	0	0	0	4	6	
修得最低単位計 Minimum Credits for General Education Courses			79	24	20	21	8	6	

電気電子工学科専門科目

Dept. of Electrical and Electronic Engineering / Specialized Courses (Required Courses)

平成27年度以降入学生適用

For those enrolled in 2015 academic year and after

授業科目	学年	単位数	学年別配当					◎備考		
			1年	2年	3年	4年	5年	資格認定		その他
必修科目	応用数学Ⅰ Applied MathematicsⅠ	2				2			工	無
	応用数学Ⅱ Applied MathematicsⅡ	2					2		工	無
	電気基礎 Basic Electrical Engineering	2	2					主		無
	電気回路Ⅰ Electric CircuitsⅠ	3		3				主	工	無
	電気回路Ⅱ Electric CircuitsⅡ	2			2			主	工	無
	電気磁気学Ⅰ ElectromagneticsⅠ	3		3				主		無
	電気磁気学Ⅱ ElectromagneticsⅡ	2			2			主		無
	情報工学Ⅰ Information TechnologyⅠ	2	2					主		
	情報工学Ⅱ Information TechnologyⅡ	2		2						
	デジタル回路 Digital Circuits	2				2			工	無
	電子工学 Electronic Engineering	2				2				無
	電子回路Ⅰ Electronic CircuitsⅠ	2				2		主	工	無
	電子回路Ⅱ Electronic CircuitsⅡ	2					2		工	無
	システム工学 Systems Engineering	2				2		主		
	電気システム設計Ⅰ Electric System DesignⅠ	2			2					
	電気システム設計Ⅱ Electric System DesignⅡ	2				2				
	コンピュータⅠ ComputerⅠ	2	2							
	コンピュータⅡ ComputerⅡ	2		2						
	コンピュータⅢ ComputerⅢ	2			2					
	コンピュータⅣ ComputerⅣ	2				2				
	創造実験Ⅰ Creative LabⅠ	2	2					主		無
	創造実験Ⅱ Creative LabⅡ	2		2				主		無
	創造実験Ⅲ Creative LabⅢ	3			3			主		無
	創造実験Ⅳ Creative LabⅣ	4				4		主		
	卒業研究 Capstone Project	6					6			
	材料工学 Material Engineering	2					2	主		
	制御工学 Control Engineering	2					2	主		
	データ通信ネットワーク Data Communication Network	2					2		工	
	工学英語Ⅰ English for EngineeringⅠ	1				1				
	工学英語Ⅱ English for EngineeringⅡ	1					1			
	情報伝送工学 Telecommunications	2					2		工	
	設計製図 Design and Drawing (CAD)	2				2		主		

<div> <div></div> <div>学年</div> </div> <div>授業科目</div>		単位数	学年別配当					◎備考			
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	資格認定			その他
必修科目	電気電子工学演習 Electrical Engineering Lab	2					2				
	回路シミュレーション Circuit Simulation	2					2				
	デザインメソッドⅠ Design Methods Ⅰ	1	1								
	デザインメソッドⅡ Design Methods Ⅱ	1		1							
	デザインメソッドⅢ Design Methods Ⅲ	1			1						
	開設単位計 Required Course Credits	78	9	13	12	21	23				

電気電子工学科専門科目

Dept. of Electrical and Electronic Engineering / Specialized Courses (Elective Courses)

平成27年度以降入学生適用

For those enrolled in 2015 academic year and after

授業科目		学年	単位数	学年別配当					◎備考		
				1年	2年	3年	4年	5年	資格認定		その他
選択科目	応用物理Ⅰ Applied Physics I		2				2			工	無
	応用物理Ⅱ Applied Physics II		2					2		工	無
	計測工学 Engineering Measurement		2		2				主		無
	パワーエレクトロニクス Power Electronics		2				2		主		
	発電電工学 Power Generator Theory		2				2		主		
	送配電工学 Power Transmission and Distribution		2					2	主		
	電気法規と施設管理 Power Facility Management and Regulations		1				1		主		
	電気機器 Electric Machinery		2					2	主		
	メカトロニクス Mechatronics		2					2	主		
	インターンシップⅠ Internship I		1				1				
	インターンシップⅡ Internship II		2				2				
	プロジェクトⅠ Project I		1	1							
	プロジェクトⅡ Project II		1		1						
	プロジェクトⅢ Project III		1			1					
	プロジェクトⅣ Project IV		2				2				
	課題学修 Elective Project										単位数は別に定める
	開設単位計 Elective Course Credits		25	1	3	1	12	8			
必修科目修得単位計 Required Course Credits			78	9	13	12	21	23			
選択科目修得最低単位計 Minimum Credits for Elective Courses			10	0	2	0	4	4			
修得最低単位計 Minimum Credits for Specialized Courses			88	9	15	12	25	27			
合計	一般科目修得最低単位計 Minimum Credits for General Education Courses		79	24	20	21	8	6			
	専門科目修得最低単位計 Minimum Credits for Specialized Courses		88	9	15	12	25	27			
	修得最低単位合計 Minimum Credits Total		167	33	35	33	33	33			
	特別活動 Extracurricular Activities		5	1	1	1	1	1			
修得最低単位総計 Minimum Credits for Graduation			172	34	36	34	34	34			

◎備考説明

●資格認定

主：第2種電気主任技術者認定

工：工事担任者科目認定（電気通信技術の基礎試験免除）

無：第2級陸上無線技術士科目認定（無線工学の基礎試験免除）

機械工学科専門科目

Dept. of Mechanical Engineering / Specialized Courses (Required Courses)

平成27年度以降入学生適用

For those enrolled in 2015 academic year and after

授業科目	学年	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学Ⅰ Applied MathematicsⅠ	2				2		
	応用数学Ⅱ Applied MathematicsⅡ	2					2	
	機械工学概論Ⅰ Introduction to Mechanical EngineeringⅠ	1	1					
	機械加工 Machining	1		1				
	機械製図Ⅰ Mechanical DrawingⅠ	2	2					
	機械製図Ⅱ Mechanical DrawingⅡ	2		2				
	機械設計Ⅰ Machine DesignⅠ	2				2		
	機械設計Ⅱ Machine DesignⅡ	2					2	
	情報リテラシー IT Literacy	2	2					
	プログラミング基礎 Basic Programming	1		1				
	電気基礎 Basic Electrical Engineering	1		1				
	電子回路基礎 Basic Electronic Circuits	1			1			
	応用プログラミング Applied Programming	1			1			
	制御工学 Control Engineering	2				2		
	創造設計Ⅰ Creative DesignⅠ	3	3					
	創造設計Ⅱ Creative DesignⅡ	3		3				
	創造設計Ⅲ Creative DesignⅢ	3			3			
	創造設計Ⅳ Creative DesignⅣ	4				4		
	デザインメソッドⅠ Design MethodsⅠ	1	1					
	デザインメソッドⅡ Design MethodsⅡ	1		1				
	デザインメソッドⅢ Design MethodsⅢ	1			1			
	工業英語Ⅰ English for EngineeringⅠ	1				1		
	工業英語Ⅱ English for EngineeringⅡ	1					1	
	卒業研究 Capstone Project	6					6	
	材料力学Ⅰ Strength of MaterialsⅠ	2			2			
	材料力学Ⅱ Strength of MaterialsⅡ	2				2		
	熱工学Ⅰ Thermal EngineeringⅠ	2				2		
	熱工学Ⅱ Thermal EngineeringⅡ	2					2	
	工業力学 Engineering Mechanics	3		3				
	振動工学 Vibration Engineering	2					2	

授業科目		学年	単位数	学年別配当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	機械製図演習 Mechanical Drawing Project		2			2			
	機械設計演習 Machine Design Project		3					3	
	機械工学実験Ⅰ Mechanical Engineering LabⅠ		2				2		
	機械工学実験Ⅱ Mechanical Engineering LabⅡ		3					3	
	流体力学 Fluid Mechanics		2				2		
	機械材料 Mechanical Materials		2			2			
	エンジニアリングマネジメント Engineering Management		2				2		
	開設単位計 Required Course Credits		75	9	12	12	21	21	

機械工学科専門科目

Dept. of Mechanical Engineering / Specialized Courses (Elective Courses)

平成27年度以降入学生適用

For those enrolled in 2015 academic year and after

授業科目	学年	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
選択科目	計測工学 Engineering Measurement	2					2	
	機械工学演習Ⅰ Mechanical Engineering Exercise I	1				1		
	工学特論Ⅰ Advanced Engineering I	1				1		
	ロボット工学 Robot Engineering	2					2	
	数値計算演習 Numeric Calculation Exercises	2					2	
	先端材料工学 Advanced Material Engineering	2					2	
	航空工学 Aeronautical Engineering	2					2	
	機械工学演習Ⅱ Mechanical Engineering Exercises II	1					1	
	工学特論Ⅱ Advanced Engineering II	1					1	
	生産品質管理 Production Quality Control	2					2	
	メカトロニクスⅠ Mechatronics I	2				2		
	メカトロニクスⅡ Mechatronics II	2				2		
	インターンシップⅠ Internship I	1				1		
	インターンシップⅡ Internship II	2				2		
	プロジェクトⅠ Project I	1	1					
	プロジェクトⅡ Project II	1		1				
	プロジェクトⅢ Project III	1			1			
	プロジェクトⅣ Project IV	1				1		
	経営科学概論 Introduction to Management Science	2					2	
	課題学修 Elective Project							単位数は別に定める
	開設単位計 Elective Course Credits	29	1	1	1	10	16	
必修科目修得単位計 Required Course Credits		75	9	12	12	21	21	
選択科目修得最低単位計 Minimum Credits for Elective Courses		13	0	0	0	5	8	
修得最低単位計 Minimum Credits for Specialized Courses		88	9	12	12	26	29	
合計	一般科目修得最低単位計 Minimum Credits for General Education Courses	79	24	20	21	8	6	
	専門科目修得最低単位計 Minimum Credits for Specialized Courses	88	9	12	12	26	29	
	修得最低単位合計 Minimum Credits Total	167	33	32	33	34	35	
特別活動 Extracurricular Activities		5	1	1	1	1	1	
修得最低単位総計 Minimum Credits for Graduation		172	34	33	34	35	36	

グローバル情報学科専門科目

Dept. of Global Information and Management/Specialized Courses (Required Courses)

平成27年度以降入学生適用

For those enrolled in 2015 academic year and after

授業科目	学年	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
情報数学 Information Mathematics		2				2		
オペレーションズリサーチ Operations Research		2					2	
ネットワーク基礎Ⅰ Basic NetworkingⅠ		2		2				
ネットワーク基礎Ⅱ Basic NetworkingⅡ		2			2			
コンピュータシステムⅠ Computer SystemsⅠ		2					2	
コンピュータシステムⅡ Computer SystemsⅡ		2					2	
コンピュータリテラシーⅠ Computer LiteracyⅠ		1	1					
コンピュータリテラシーⅡ Computer LiteracyⅡ		2		2				
プログラミング基礎 Basic Programming		2	2					
プログラミング演習Ⅰ Programming LabⅠ		2		2				
プログラミング演習Ⅱ Programming LabⅡ		2			2			
ソフトウェア工学Ⅰ Software EngineeringⅠ		2				2		
ソフトウェア工学Ⅱ Software EngineeringⅡ		2					2	
情報処理Ⅰ Information ProcessingⅠ		2	2					
情報処理Ⅱ Information ProcessingⅡ		2		2				
情報処理Ⅲ Information ProcessingⅢ		2			2			
ビジネスシステム Business Systems		2				2		
創造設計Ⅰ Creative DesignⅠ		2	2					
創造設計Ⅱ Creative DesignⅡ		2		2				
創造設計Ⅲ Creative DesignⅢ		2			2			
創造設計Ⅳ Creative DesignⅣ		4				4		
卒業研究 Capstone Project		6					6	
データベース Databases		2				2		
アルゴリズムとデータ構造 Algorithms and Data Structures		2				2		
ネットワークシステムⅠ Network SystemsⅠ		2				2		
ネットワークシステムⅡ Network SystemsⅡ		4					4	
メディア情報 Media Informatics		2				2		
データ分析 Data Analysis		2					2	
情報ビジネス英語Ⅰ English for Business InformaticsⅠ		2			2			
情報ビジネス英語Ⅱ English for Business InformaticsⅡ		2				2		
情報ビジネス英語Ⅲ English for Business InformaticsⅢ		2					2	
デザインメソッドⅠ Design MethodsⅠ		1	1					

必修科目

授業科目	学年	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	デザインメソッドⅡ Design MethodsⅡ	1		1				
	デザインメソッドⅢ Design MethodsⅢ	1			1			
	情報修学基礎Ⅰ Fundamental Study Skills for ITⅠ	1	1					
	情報修学基礎Ⅱ Fundamental Study Skills for ITⅡ	1		1				
	技術者倫理 Ethics for Engineers	1					1	
	ビジネス概論 Introduction to Management	1			1			
	企業会計Ⅰ Business AccountingⅠ	2				2		
	企業会計Ⅱ Business AccountingⅡ	1					1	
	物流システム Logistics Systems	1					1	
	開設単位計 Required Course Credits	80	9	12	12	22	25	

グローバル情報学科専門科目

Dept. of Global Information and Management/Specialized Courses (Elective Courses)

平成27年度以降入学生適用

For those enrolled in 2015 academic year and after

授業科目	学年	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
選択科目	英語総合技能 General English Skills	2				2		
	英語討議技法 English Debate Skills	2					2	
	プロジェクトⅠ Project I	1	1					
	プロジェクトⅡ Project II	1		1				
	プロジェクトⅢ Project III	1			1			
	プロジェクトⅣ Project IV	1				1		
	インターンシップⅠ Internship I	1				1		
	インターンシップⅡ Internship II	2				2		
	工学特論Ⅰ Advanced Engineering I	1				1		
	工学特論Ⅱ Advanced Engineering II	1					1	
	システム開発演習Ⅰ System Development Lab I	2				2		
	システム開発演習Ⅱ System Development Lab II	2					2	
	マーケティングⅠ Marketing I	2				2		
	マーケティングⅡ Marketing II	2					2	
	課題学修 Elective Project							単位数は別に定める
	開設単位計 Elective Course Credits	21	1	1	1	11	7	
必修科目修得単位計 Required Course Credits		80	9	12	12	22	25	
選択科目修得最低単位計 Minimum Credits for Elective Courses		8	0	0	0	4	4	
修得最低単位計 Minimum Credits for Specialized Courses		88	9	12	12	26	29	

合計	一般科目修得最低単位計 Minimum Credits for General Education Courses	79	24	20	21	8	6	
	専門科目修得最低単位計 Minimum Credits for Specialized Courses	88	9	12	12	26	29	
	修得最低単位合計 Minimum Credits Total	167	33	32	33	34	35	
特別活動 Extracurricular Activities		5	1	1	1	1	1	
修得最低単位総計 Minimum Credits for Graduation		172	34	33	34	35	36	

諸規則

(平成29年度以前入学生適用)

平成29年度以前入学生は従来の規則を適用する。

国際高等専門学校学習指導に関する実施規程

(趣旨)

第1条 この規程は、国際高等専門学校学則（以下「学則」という。）第12条第2項の規定に基づき、国際高等専門学校（以下「本校」という。）における学業成績の評価、進級及び卒業の認定に必要な事項について定めるほか、授業科目の履修、授業科目の出欠等について定める。

(科目の履修)

第2条 学生は学則第9条別表第1教育課程表に基づき、授業科目を履修する。

2 各授業科目とも、当該年度に開講した授業時間数の5分の4以上出席した者は、当該科目の履修を修了したものとする。

(履修の制限)

第3条 1年間に履修することができる授業科目の単位数の上限は、次の各号に掲げる授業科目を除き44単位とする。

- (1) 課題学修
- (2) 校長が認めた科目

(履修制限の特例)

第4条 前条の規定にかかわらず、次の各号に掲げる者は、履修科目の単位数の上限を超えて授業科目を履修することができる。

- (1) 平成30年度以降入学生にあつては、別表第1の1の学業成績の評価に定めるGPAの累積が3.00以上の者
- (2) 相当な理由により、校長が特に認めた者

(再履修)

第5条 原学年に留められた場合の再履修等の取扱いについては、学則第13条の規定による。

(欠席等)

第6条 欠席等は次の各号に掲げる場合をいう。

- (1) 欠席とは、出席すべき日に登校しない場合
- (2) 欠課とは、各授業時間に不在であった場合
- (3) 遅刻とは、各授業時間の開始に遅れた場合
- (4) 早退とは、各授業時間の途中で退出し、戻らない場合

(公認欠席等の取扱い)

第7条 前条に定める欠席等が、次の各号に掲げるいずれかの理由によるものであるときは、出席として取り扱う。

- (1) 天災又は交通機関の事故等、本人の責任によらないことが明らかなどとき。
- (2) 校長が認めた資格試験又は就職試験を受験するとき。
- (3) 校長が認めた対外試合、対外行事に参加するとき。
- (4) 忌引のとき。
- (5) 親族の慶弔事に出席するとき。
- (6) 学校保健安全法に定める伝染病又はそれに類する病気の発症等により、校長が出席停止の必要を認めたとき。
- (7) その他校長が認めたとき。

2 前項第4号に定める忌引により出席として取り扱うことができる日数は、次のとおりとする。

- (1) 父母 7日
- (2) 祖父母、兄弟、姉妹 3日
- (3) 曾祖父母、伯父、伯母、叔父、叔母、従兄弟、従姉妹 1日
- (4) その他校長が特に認めたもの 1日

3 第1項第5号に定める親族の慶弔事により出席として取り扱うことができる日数は、次のとおりとする。

- (1) 兄弟、姉妹の結婚式 1日
- (2) 父母、兄弟、姉妹の慶弔事で校長が特に認めたもの 1日

4 第1項第1号から第3号、第6号及び、第7号により出席として取り扱うことができる授業科目の時間数又は日数は、その都度校長が

定める。

(試験の種別と実施)

第8条 試験の種別は、定期試験、追試験、再試験、単位追認試験及びその他の試験とし、その実施は次の各号に定めるところによる。

- (1) 定期試験は、各学期末に行う。
- (2) 追試験は、やむを得ない理由により定期試験を受けることができなかった者について行うことができる。
- (3) 再試験は、定期試験を実施した授業科目の評点が不合格であった者について行うことができる。
- (4) 単位追認試験は、進級が認められた者のうち、当該学年までに取得すべき授業科目の単位を取得できなかった者について行うことができる。
- (5) その他の試験は、科目担当者が必要と認めた場合に適宜行うものとする。

(試験の欠席)

第9条 正当な理由なく試験を欠席した者、又は懲戒処分のため試験を欠席した者については、当該授業科目の試験の成績を0点とする。

(不正行為の取扱い)

第10条 試験において不正行為を行った者については、当該試験期間に行われるすべての授業科目の試験の成績を0点とする。

- 2 不正行為により試験の成績を0点とした者には、追試験、再試験等の試験は実施しない。

(成績の判定方法)

第11条 各授業科目の成績は、試験の成績、平素の学習状況、出席状況等を勘案して、学習支援計画書の評価方法に則り、総合的に判定する。

- 2 試験以外の方法によって成績を評価し得る授業科目については、前項の規定にかかわらず、試験を行わない場合がある。

(成績評価)

第12条 各授業科目の成績は、前条の判定結果に基づき点数化し、100点を満点とする評点により評価する。

- 2 授業科目の成績は、当該年度に開講した授業時間数の5分の4以上出席している者について評価するものとする。出席が5分の4に満たない者は出席不良とし、評点を0点とする。
- 3 追試験により再評価する授業科目の評点は、元の定期試験の評価に準ずるものとする。
- 4 再試験による再評価で合格とする授業科目の評点は、前条の規定にかかわらず、平成27年度以降入学生にあつては60点、平成26年度以前入学生にあつては50点とする。
- 5 単位追認試験等により、前年度以前に履修し未修得であつた単位を取得した場合の当該授業科目の評点は、前条の規定にかかわらず、平成27年度以降入学生にあつては60点、平成26年度以前入学生にあつては50点とする。

(成績の評定)

第13条 各授業科目の成績の評定は、別表第1の1又は別表第1の2の学業成績の評価によるものとする。

(単位修得の認定)

第14条 第12条の規定による成績の評点が、平成27年度以降入学生にあつては60点以上、平成26年度以前入学生にあつては50点以上の場合、当該授業科目の単位を修得したものと認定する。

- 2 前項の基準に満たなかった授業科目においては未修得科目とし、当該授業科目の単位を翌年度以降に修得した場合には、原学年において履修したものと取り扱う。
- 3 出席不良のため未修得となった授業科目の単位の修得には、不足授業数の補講を受講しなければならない。

(成績への異議申し立て)

第15条 定期試験終了後、学生は科目担当教員に成績を問い合わせ、通知された成績の内容に疑義がある場合、科目担当教員に異議を申し立てることができる。

- 2 前項の異議申し立ての期間は、年度ごとに学務会議の議を経て、決定する。

(進級又は卒業の要件)

第16条 校長は、次の各号のすべてを満たす者について、進級又は卒業を認め、当該学年の修了を認定することができる。

- (1) 進級又は卒業の要件となるすべての授業科目の単位が認定されていること。
- (2) 平成29年度以前入学生にあつては、当該学年の特別活動の単位が認定されていること。
- (3) 平成30年度以降入学生にあつては、卒業までに特別活動に90時間以上参加していること。
- (4) 当該学年における欠席日数が、出席すべき日数の5分の1未満であること。

(進級の特例)

第17条 校長は、前条第1号に規定する要件のみを満たすことができなかった者のうち、第1学年から第3学年までは、次に掲げる第1号及び第2号、第4学年にあつては、次の各号すべての要件を満たす者に限り、進級を認め、当該学年の修了を認定することができる。

- (1) 別表第2の1及び別表2の2の当該学年修了に必須となる授業科目の単位が認定されていること。

- (2) 修得単位数が、別表第3の1及び別表3の2の進級に必須となる累積単位数を満たしていること。
- (3) 第1学年から第3学年までの必修科目の単位がすべて認定されていること。
- 2 校長は、平成27年度から平成29年度入学生においては、前項の規定に加え、前年度までに修得すべき授業科目の単位がすべて認定されている者に限り、進級を認め当該学年の修了を認定することができる。
- 3 校長は、平成26年度以前入学生においては、第1項の定めにかかわらず、前条第1号に規定する要件（進級に限る。）のみを満たすことができなかった者のうち、前項の規定を満たすとともに、不合格となった授業科目が3科目以下であって、かつ、その単位数の合計が8単位以下である者について、進級を認め、当該学年の修了を認定することができる。

（在学制限）

第18条 同一学年に2年を超えて在学することはできない。ただし、休学による場合は、この限りでない。

（進級又は卒業の認定）

第19条 進級又は卒業の認定は、学務会議の議を経て、校長が行う。

附 則

- 1 本実施規程に必要な内規は、別に定める。
- 2 本規程は、昭和37年4月1日から実施する。
- 3 本規程は、昭和47年4月1日から実施する。
- 4 本実施規程は、昭和56年4月1日から実施する。
- 5 本実施規程は、平成元年4月1日から実施する。
- 6 本実施規程は、平成4年4月1日から実施する。
- 7 この規程は、平成19年4月1日改正施行する。
- 8 この規程は、平成27年4月1日から改正施行する。
- 9 この規程は、平成30年4月1日から改正施行する。
- 10 この規程は、平成31年4月1日から改正施行する。

別表第1の1 学業成績の評価（平成27年度以降入学生適用、第13条関係）

評点	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0	0
評定	S (秀)	A (優)	B (良)	C (可)	D (成績不可)	F (出席不良)
評価ポイント	4	3	2	1	0	0

$$GPA = \frac{(\text{評価ポイント} \times \text{単位数}) \text{の総和}}{\text{履修科目の総単位数}}$$

GPA（Grade Point Average）とは、個々の科目の成績評価に基づき、全履修科目における1単位当たりの成績評価の平均値を表すものである。GPAによる成績評価は、今後の修学指導における基礎資料とするばかりでなく、就職指導や大学への進学指導（大学への編入学推薦出願資格）における基礎資料とする。なお、GPAは、計算結果の小数点以下3桁目を四捨五入し、小数点以下2桁までとする。

別表第1の2 学業成績の評価（平成26年度以前入学生適用、第13条関係）

評点	100～80	79～60	59～50	49～0	0
評定	5 (優)	4 (良)	3 (可)	2 (不可)	F (出席不良)

別表第2 当該学年修了に必須となる授業科目

(平成27年度から29年度入学生適用、第17条関係)

学科	科目			
	1年	2年	3年	4年
電気電子工学科	創造実験Ⅰ	創造実験Ⅱ	創造実験Ⅲ	創造実験Ⅳ
機械工学科	創造設計Ⅰ	創造設計Ⅱ	創造設計Ⅲ	創造設計Ⅳ
グローバル情報学科	—	—	—	創造設計Ⅳ

別表第3 進級又は卒業に必須となる累積単位数

(平成27年度から29年度入学生適用、第17条関係)

学科 \ 学年	1年	2年	3年	4年	5年
電気電子工学科	26 (33)	61 (68)	94 (101)	127 (134)	167 (167)
機械工学科	26 (33)	58 (65)	91 (98)	125 (132)	167 (167)
グローバル情報学科	26 (33)	58 (65)	91 (98)	125 (132)	167 (167)

注1) 下段()は修得最低単位合計

注2) 累積単位数には「特別活動」及び「海外英語研修」の単位数を含めない。

国際高等専門学校科目等履修生規程

(趣旨)

第1条 この規程は、国際高等専門学校学則（以下「学則」という。）第46条第2項の規定に基づき、科目等履修生に関して必要な事項を定める。

(資格)

第2条 科目等履修生となれる者は、次の各号のいずれかに該当し、国際高等専門学校（以下「本校」という。）において一または複数の授業科目の履修を希望する者とする。

- (1) 中学校を卒業した者。
- (2) 校長が、中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者。

(出願手続)

第3条 科目等履修生として入学を志願する者は、所定の書類に検定料5千円を添え、学期開始の1月前までに願出しなければならない。

(入学許可)

第4条 校長は、本校学生の教育研究に支障がないと判断したとき、選考のうえ入学を許可する。

(入学手続)

第5条 入学許可の通知を受けた者は、入学にかかわる所定の書類を指定の期日までに提出しなければならない。

(期間と履修科目)

第6条 科目等履修生の履修期間は、2年以内とし、履修できる科目数は年間6科目を限度とする。ただし、授業科目によっては履修を認められないことがある。

(履修料)

第7条 科目等履修生は、履修する授業科目について、1単位につき1万8千円の履修料を指定された期日までに納入しなければならない。

(科目等履修生の資格の取消)

第8条 校長は、科目等履修生において履修の成果があがらないと認められたとき、その本分に反する行為があったとき、又は履修料の納入を怠ったときは、科目等履修生の資格を取り消すことがある。

(履修単位の認定)

第9条 履修科目の単位の認定については、学則第12条第2項に規定する学習指導に関する実施規程により行う。

(その他)

第10条 科目等履修生は、本規程に定めるもののほか、学則を準用する。

附則

- 1 この規程は、平成7年4月1日から施行する。
- 2 この規程は、平成8年4月1日改正し、即日施行する。
- 3 この規程は、平成17年4月1日から改正施行する。

国際高等専門学校研究生規程

(趣旨)

第1条 この規程は、国際高等専門学校学則（以下「学則」という。）第44条第2項の規定に基づき、研究生に関して必要な事項を定める。

(資格)

第2条 研究生となれる者は、次の各号のいずれかに該当し、国際高等専門学校（以下「本校」という。）において特定の課題について研究を希望する者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者。
- (2) 校長が、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者。

(時期)

第3条 研究生の入学時期は、年度又は学期の初めとする。

(出願手続)

第4条 研究生として入学を志願する者は、入学願書に検定料1万円及び所定の書類を添えて願出しなければならない。

(入学許可)

第5条 校長は、本校学生の教育研究に支障がないと判断したとき、選考のうえ入学を許可する。

(入学手続)

第6条 入学許可の通知を受けた者は、所定の書類を指定された期日までに提出しなければならない。

(研究期間)

第7条 研究期間は、入学を許可された年度内をもって終了するものとする。ただし、必要に応じて通算2年の範囲で期間を延長することができる。

(指導教員)

第8条 校長は、研究生の研究課題に応じて、指導教員を指定する。

- 2 研究生は、特定の研究課題について指導教員の指導を受けるほか、指導教員及び授業科目担当教員の承認を得て、当該研究に関連のある授業科目を聴講することができる。
- 3 研究生は、聴講する授業科目について単位の取得を希望するときは、別に金沢工業高等専門学校科目等履修生の資格を得なければならない。

(修了)

第9条 研究生は、研究を修了したとき、研究成果の概要等を記載した研究修了届を指導教員を経て、校長に提出しなければならない。

- 2 校長は、研究修了者に対し、本人の請求により、研究修了証明書を交付するものとする。

(授業料)

第10条 研究生の授業料は、月額5万6千円とし、入学手続時に、入学した日の属する月からの研究修了予定月までの全額を納入しなければならない。

(実験実習費)

第11条 実験実習に要する費用は、研究生の負担とし、実費を徴収する。

(その他)

第12条 研究生に関しては、この規程に定めるもののほか、学則を準用する。

附則

- 1 この規程は、平成17年4月1日から施行する。

国際高等専門学校外国留学に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、国際高等専門学校学則（以下「学則」という。）第26条の規定に基づき、国際高等専門学校（以下「本校」という。）の学生が、休学することなく外国の大学等に留学することについて必要な事項を定める。

(定義)

第2条 学則第26条第1項中に掲げる「外国の大学」とは、本校と留学生受入れに関する協力協定を締結するオダゴポリテクニクをい

う。

(留学の要件)

第3条 留学が認められる者は、第3学年への進級見込者であって、国際交流高専委員会が定める別表第1の選考基準を満たすものでなければならない。

(留学の申出)

第4条 前項の要件を満たし、留学を希望する者は、学科長の承認を経て、所定の留学願いを校長に提出しなければならない。

(留学者の決定)

第5条 留学者は、留学希望者のうちから、学務会議の議を経て校長が決定する。

(学費)

第6条 校長から留学の許可を受けた者については、学則第30条第2項の規定により、当該留学期間に相当する月の授業料は、2分の1相当額を減額するものとし、施設設備費は免除する。

2 留学する大学等において必要な授業料等については、本人負担とする。

(終了手続)

第7条 留学を終了し帰国した学生は、速やかに所定の留学終了届に履修期間及び成績が明記された単位取得証明書を添付し、校長に提出しなければならない。

(取得単位の取扱)

第8条 留学において履修した授業科目について修得した単位は、学則第11条第3項の規定に基づき、学務会議の議を経て、本校において履修した授業科目について修得した単位として認定する。

2 前項により認定することができる単位数は、学則第10条及び第11条第1項により本校において認定した単位数と合わせて30単位を超えることはできない。

附則

- 1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この規程は、平成18年4月1日から改正施行する。

別表第1 オタゴポリテクニク留学選考基準

選考基準	
(1)	オタゴポリテクニクで開講されるCEE (Certificate in English and Engineering) プログラムを修了できる見込みがあると認められる者。
(2)	本校の3年次教育課程において定められた取得単位数について、オタゴポリテクニクで取得し認定される単位数では不足する単位を本校において十分修得できると認められる者。
(3)	留学期間において、ニュージーランドの法律及びオタゴポリテクニクの規則を遵守できると認められる者。
(4)	留学修了後、本校の学生として修学を継続する意志があり、留学において得た貴重な学習経験や生活体験を、自己の将来に十分活かすことができると認められる者。
(5)	日頃から心身ともに自己管理を心がけていると認められる者。
(6)	留学の内定から出発までの準備や研修などに真面目に取り組む意識があると認められる者。
(7)	留学の内定から留学修了にわたる期間を通して、学習及び生活態度における向上心の維持、継続が可能と認められる者。
(8)	留学期間中に課される月例レポートの提出及び定期的な状況報告書等が適切にできると認められる者。

国際高等専門学校服装規定

第1条 この規定は、国際高等専門学校学生心得に基づき、服装、身だしなみ等について学生が守るべき事項について定めるものである。

2 学生は、この規定に定めると否にかかわらず、不必要に身を飾ることなく、常に清潔、簡素及び端整な服装をしなければならない。

第2条 男子学生は、耳が隠れるような長髪、パーマ、毛染め、脱色、スキンヘッド等はしてはならない。

第3条 女子学生は、常に整髪し、パーマ、毛染め、脱色等はしてはならない。

第4条 1、2、3年生の服装は、学校指定の制服とする。

2 制服の着用事例は、学校が指定する。

第5条 冬制服の着用期間は、10月1日から翌年5月31日、夏制服の着用期間は、6月1日から9月30日とする。

2 6月1日及び10月1日の前後2週間程度は、冬制服又は夏制服のいずれでも着用できる期間を設けることができる。ただし、夏制服用のズボンと冬制服用のシャツを同時に着用するような、夏冬制服の混用は禁止する。

第6条 男子学生用冬制服とは、ブレザー、スラックス、長袖シャツ及びネクタイ（ストライプ）をいい、必要に応じニットベスト、ネク

タイ（エンジ色）及びカーディガンを着用しても良い。ただし、学校指定のものを使用する。

- 2 女子学生用冬制服とは、ブレザー、スカート、長袖ブラウス、リボン（ストライプ）をいい、必要に応じニットベスト、ハイソックス、リボン（エンジ色）、カーディガンを着用しても良い。ただし、学校指定のものを使用する。

第7条 男子学生用夏制服とは、スラックス及び半袖シャツをいう。

- 2 女子学生用夏制服とは、スカート、半袖ブラウスをいう。

第8条 4、5年生の服装は、登校・修学にふさわしい自由服とする。

- 2 つなぎ、革ジャンパー、半ズボン、肩の出る服装、作業服、ジャージ等は着用してはならない。
3 コート、セーター、上着、スカート、ズボン等については、華美なものを着用してはならない。

第9条 学校指定の実験着は、実験・実習時のみに着用する。

第10条 背広、ブレザー（上着含む。）には、校章（バッジ）を左の襟につける。

第11条 学生証は、着用した服の左胸部分につけ、又は首からつり下げる。

第12条 下駄、サンダル、ハイヒール、サングラス、ピアス、指輪、ネックレス等は使用・着用してはならない。

- 2 校舎内においては、帽子を着用してはならない。

第13条 通学用カバンについては、学生カバン、スポーツバッグ及びナップサック又はこれらに類するものを使用する。

第14条 日曜日及び祝祭日、若しくは夏季、冬季、学年末休業時に登校するときは、平常の通学時と同じ服装をする。

第15条 やむを得ず規定外の服装をするときには、保護者との連署で異装願いを提出し、許可を得なければならない。

第16条 その他、服装、身だしなみ等について学生が守るべき事項の細部については教職員の指導に従わなければならない。

服装規定補則

この補則は、服装規定に準ずるものであり、これを尊重し国際高等専門学校の誇りうる学生となるために定めるものである。

- (1) 学校の式典及び学校が指示する場合には、その場に相応しい服装をしなければならない。
(2) 長髪の女子は、体育、実験、実習等の授業においては、必要に応じて髪を束ねる。

附則

- 1 この服装規定は昭和41年4月1日より施行する。
(2～15は省略する)
16 この服装規定は平成19年4月1日から施行する。
17 この服装規定は平成21年4月1日から改正施行する。

国際高等専門学校生活規定

第1条 この生活規定は、国際高等専門学校学生心得に基づき、学校生活において学生が守るべき事項について定めるものである。

第2条 学生は、規則正しい生活をし、日ごろから健康管理に努め、欠席、欠課、遅刻、早退をしない。

- 2 保護者は、学生が欠席をするときは、午前8時から8時40分の間に国際高等専門学校（以下「本校」という。）に電話連絡をしなければならない。

第3条 1年生は、原動機付自転車（50cc以下のモーターバイク）の運転免許は取得してはならない。

第4条 原動機付自転車で通学する者は、校長の許可を受けなければならない。

第5条 原動機付自転車による通学者は、次のことを守らなければならない。

- (1) 交通規定を守り、事故に遭わない運転を心がけること。
(2) ヘルメット（キャップ型は除く。）を常に着用すること。
(3) 運転に支障がある場合を除き、サングラスを着用すること。

第6条 休憩時間中に原動機付自転車に乗ってはならない。

第7条 50ccを超える自動2輪車の運転免許は、取得してはならない。

第8条 自動車による通学はしてはならない。

第9条 喫煙は、身体への害があるだけでなく、非行の第一歩であるので、これをしてはならない。

第10条 本校では部活動を奨励している。1、2、3年生は全員が部に加入し、活動に励まなければならない。

第11条 夏季、冬季、学年末休業以外は、アルバイトをしてはいけない。

- 2 夏季、冬季、学年末休業のアルバイトは、保護者の同意と学校の許可を受けなければならない。

第12条 その他学校生活において学生が守るべき事項の細部については教職員の指導に従わなくてはならない。

生活規定補則

この補則は、生活規定に準ずるものであり、これを尊重し国際高等専門学校の誇りうる学生となるために定めるものである。

- (1) 原動機付自転車や普通自動車の運転免許を取得するために、学生の本分である勉学に影響があってはならない。

- (2) 自転車で通学する者は、届出をしなければならない。
- (3) 始業のチャイムが鳴ったときには、直ちに自分の席に着席する。
- (4) 校内の美化や清掃に協力し、ゴミは所定のゴミ箱に捨てる。
- (5) 休憩時間中に校外へ出てはいけない。
- (6) 歩きながら飲食をしてはいけない。
- (7) 物を大切に扱い、貴重品は十分に管理して盗難、紛失を避ける。
- (8) 放課後、教室及びロッカー内には教科書などを置かない。
- (9) 学生として相応しくない場所に出入りしてはならない。

附則

- 1 この生活規定は昭和 41 年 4 月 1 日より施行する。
(2～6は省略する)
- 7 この生活規定は平成 19 年 4 月 1 日から施行する。
- 8 この生活規定は平成 21 年 4 月 1 日から改正施行する。

国際高等専門学校学生会会則

第1条 本会は、国際高等専門学校学生会と称する。

第2条 本会は、学校の指導のもとに学生が自発的な活動を行い、それを通して自治的精神の向上を図り、人格を陶冶し、高等専門教育の目的達成に資することを目的とする。

第3条 本会は、国際高等専門学校（以下「本校」という。）の全学生（以下「会員」という。）をもって構成する。

第4条 本会に次の役員を置く。

- 1) 会 長 1 名 2) 副 会 長 2 名
- 3) 書 記 2 名 4) 会 計 2 名
- 5) 監査委員 3 名

第5条 役員は、会員中より選挙によって選出される。

第6条 役員の任期は、1 年とし毎年 11 月 1 日から翌年の 10 月 31 日までとする。ただし、補充された役員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 役員は、任期が満了しても次期役員が就任するまではその任務を続けなければならない。

第7条 役員（監査委員を除く。）は、学生会議会の議員の 3 分の 2 以上の要求があれば辞職しなければならない。

第8条 役員は、病気又はその他の理由により職務を執行できないときは辞職しなければならない。

第9条 役員に欠員が生じた場合には、2 週間以内に補欠選挙を行わなければならない。

第10条 会長は、本会を代表し会務を総理する。ただし、校外の他の団体と関連ある場合には、本校の学生主事の指導承認を受けなければならない。

第11条 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその任務を代行する。

第12条 書記は、議会の書記を兼任し、記録書類の整備保管に当たり、その庶務的事務を取り扱う。

第13条 会計は、本会の会計に関する事務を取り扱い、学生主事との連絡のもとに本会の財務管理に当たり、出納については本校の事務局長に委任する。

第14条 学生会議会（以下「議会」という。）は、本会の最高議決機関であり、役員、次条に定める議員及び第 29 条に定める専門委員会の委員長をもってこれを組織する。ただし、議決権は議員のみに与えられる。

第15条 議員は、各学級より選出された学級委員 2 名が兼任する。

- 2 議員の任期は半年とし、前期は 4 月 1 日から同年 10 月 15 日まで、後期は 10 月 16 日から翌年 3 月 31 日までとする。

第16条 議員は、議会で行った演説、討論又は評決について議会外で責任を問われない。

第17条 部の部長及び主務は、必要に応じて議会に出席することができる。ただし、発言権のみを有するものとする。

第18条 定例議会は、毎年 5 月及び 11 月に開催し、議長が招集する。

第19条 臨時議会は、次の場合に開かなければならない。

- (1) 執行委員会が必要と認めたとき。
- (2) 総議員の 3 分の 2 以上の要求があったとき。

- 2 臨時議会は議長が招集する。

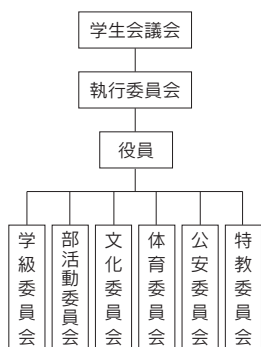
第20条 議会は、総議員の 3 分の 2 以上の出席により成立する。

- 2 議会を欠席する場合は、委任状を提出しなければならない。

第21条 議会の議事は、出席議員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長がこれを決する。

- 第22条** 議会の招集期日、場所、議題は、議会開会の3日以前に公示しなくてはならない。ただし、臨時議会の場合はこの限りでない。
- 第23条** 議長は議員の互選によって選出され、副議長は議長が指名する。
- 第24条** 議長、副議長の任期については、第15条第2項の規定を準用する。
- 第25条** 本会の最高の執行機関は、執行委員会とする。
- 第26条** 執行委員会は、第4条に定める役員（監査委員を除く。）及び第29条に定める専門委員会の委員長をもって組織する。
- 第27条** 執行委員会は、本会に必要な事項の原案を作り議会に提出する。
- 第28条** 執行委員会は、議会の決議事項を執行する。
- 第29条** 本会に執行委員会の職務を補佐するために、次の専門委員会を設置する。
- （1）学級委員会 （2）文化委員会 （3）体育委員会
（4）公安委員会 （5）特教委員会 （6）部活動委員会
- 第30条** 学級委員会は、学級委員によって組織し、学生会の運営に協力する。
- 第31条** 文化委員会は、文化委員によって組織し、文化的行事の運営に協力する。
- 第32条** 体育委員会は、体育委員によって組織し、体育的行事の運営に協力する。
- 第33条** 公安委員会は、公安委員によって組織し、学生主事との連絡のもとに校紀校風の刷新向上にあたる。
- 第34条** 特教委員会は、特教委員によって組織し、学校行事の運営に協力する。
- 第35条** 部活動委員会は、各部の部長によって組織し、各部の健全な活動向上にあたる。
- 第36条** 専門委員会に委員の互選により選任された委員長1名、副委員長1名を置く。
- 第37条** その他必要に応じ議会の承認を得て特別専門委員会を設けることができる。
- 第38条** 本会には、会員の健全な趣味、豊富な教養、強健な体力を養うとともに集団協力の態度を培うために、別表に掲げる部及び同好会を置く。
- 第39条** 部には、部長及び主務を置く。
- 第40条** 部の新設、合併及び廃部は、部活動委員会で協議議決した後、議会で協議可決し、校長の承認を得て決定する。
- 第41条** 会員の同好者をもって構成する同好会の新設は、部活動委員会の議決、議会の承認及び校長の決定により認めるものとする。
- 第42条** 監査委員会は、本会の監査機関である。
- 第43条** 監査委員会は、3名の監査委員をもって組織する。
- 第44条** 選挙管理委員会は、各学級から2名ずつ選出された委員をもって組織し、役員の選挙の管理に当たる。
- 第45条** 選挙管理委員会は、委員の互選によって選出された委員長、副委員長各1名を置く。
- 第46条** 本会の会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。
- 第47条** 本会の経費は、会費、寄付金、その他をもってこれに充てる。
- 第48条** 本会の予算、決算は、議会の承認を受けるものとする。
- 第49条** 校長は、本会の最高顧問として本会の議決が学校行政や学生指導に障害を及ぼし、若しくは校長の法的責任を侵すと認めたときは、これを拒否することができる。
- 第50条** 本会には、校長によって任命された学生会顧問教員を置く。
- 第51条** 部には、校長によって任命された部顧問教員を置かなければならない。
- 第52条** この会則の改正は、議会の総議員の3分の2以上の賛成で議決され、校長の承認を得て施行される。

学生会組織図 別表



運動部

- 1) 陸上競技部
- 2) バレーボール部
- 3) バスケットボール部
- 4) ソフトテニス部
- 5) テニス部
- 6) 野球部
- 7) サッカー部
- 8) 卓球部
- 9) バドミントン部
- 10) 水泳部
- 11) 剣道部
- 12) 柔道部
- 13) スキー部
- 14) ハンドボール部

文化部

- 1) 吹奏楽部
- 2) 放送・無線部
- 3) 電子計算機部
- 4) 写真部
- 5) 美術部
- 6) ハンズオン部
- 7) 囲碁・将棋部

附則

本会の運営に必要な事項は細則で定める。

- 1 この会則は昭和41年4月1日より施行する。
（2～4は省略する）
- 5 この会則は、平成19年4月1日から施行する。
- 6 この会則は、平成21年4月1日から改正施行する。

国際高等専門学校課外活動細則

第1章 総則

第1条 本細則は、国際高等専門学校学生会会則（以下「学生会会則」という。）に定める部及び同好会の活動等について必要な事項を定めるものである。

第2章 部活動

第2条 部は、国際高等専門学校（以下「本校」という。）の学生（以下「会員」という。）の中で同様な趣味、特技、目的をもった有志によって構成され、入退部は自由とする。

第3条 部には次の役員を置く。

部長 1名

主務 1名

第4条 部長は部員の統轄者となり、部活動委員会に出席する。

第5条 主務は部長を補佐、代行し、主として事務、会計、部室管理を行う。

第6条 部は、次の各号に定める行事に参加又は実施する場合は、行事参加許可願を提出して校長の許可を受け、行事終了後 10 日以内に報告書を提出しなければならない。

- (1) 学外行事に参加する場合
- (2) 合宿又は休暇中（休日、祝祭日を含む。）に練習をする場合
- (3) 練習試合（交歓会等を含む。）を実施する場合
- (4) その他学内外において行事を実施する場合

第7条 行事参加許可願の用紙は本校の事務局より交付を受け、部顧問教員、学生会顧問教員、学生主事、校長の順に承認を受ける。

2 行事参加許可願は、活動記録及び行事要項、計画書、日程表等を添付して提出するものとする。

3 行事参加許可願は、原則として行事実施日の 1 週間前までに提出し、費用請求伝票を添付するものとする。

第8条 部が学内外に印刷物を掲示する場合は、定められたポスター用紙を使用し、学生会顧問教員の許可及び場所指定を受けなければならない。

第9条 部は、4 月 30 日及び 10 月 31 日現在の部員名簿を規定の用紙により作成し、年 2 回、学生会会長及び学生会顧問教員に各 1 部ずつ提出する。

第10条 部役員に変更のあった場合は、その都度、学生会会長、学生会顧問教員に報告する。

第11条 部は、年度始めに学生会会長より部日誌を受領し、必要事項を記入のうえ年度末に返納する。

第12条 部予算は、定められた用紙により行事計画書を作成のうえ、12 月中に学生会会長に申請しなければならない。

2 提出期間を過ぎたもの、又は定められた用紙を用いていないものはこれを受け付けない。

3 部の予算執行は、原則として学生会議会における予算成立後でなければならない。

4 予算の収入及び支出はすべて学生会会計が当たる。

5 部の経費支出は定められた請求書に必要事項を記入し、部顧問教員、学生会会計、学生主事の順に承認を得て、事務局に提出する。

6 前項における請求書の承認をうけようとするときは、必ず事項、計画書、日程表を添付しなければならない。

7 部は予算額を超えて使用してはならない。ただし、学生会議会の承認を得た場合はその限りではない。

8 学生会議会の承認を得ないで予算額を超えて使用した場合は、会計年度内に、主務は責任をもってその超過額を学生会会長を通じ返済しなければならない。

9 部は、日誌により、金銭出納帳、物品購入台帳、備品台帳を作成し、予算使途を明白にして監査に応ずるものとする。

10 個人的な物品の購入は個人負担を原則とし、部の予算を使ってはならない。

11 部活動に不必要なものは、予算により購入してはならない。

12 部員相互の親睦に要する経費への予算の流用は認めない。

13 予算は原則として申請以外のものに使用してはならない。

14 概算払いの場合は、対外行事、遠征等の終了後 10 日以内に予算使用の明細書に旅館その他の領収書を添えて学生会会計に提出し、残金が生じた場合には、学生会会計を通じて返納しなければならない。

15 会計年度中の同好会の新設に伴う補助金は育成費を当てるものとする。

16 会計年度中の部の降格、活動停止、解散に伴う部費の残額は育成費に繰り入れるものとする。

17 会計年度中に部、同好会が合併した場合の予算額は、合併以前の予算の合計額とする。

第13条 部の連絡機関として、各部の部長を委員として構成される部活動委員会を設ける。

第14条 部活動委員会は委員の互選によって委員長 1 名、副委員長 1 名を定め、委員長は委員会の議長となる。

2 副委員長には、委員長より下級学年の者を選出する。

第15条 部活動委員長の任免等は、学生会会則の役員規定に準じてこれを行うものとする。

第16条 部は、会員の自由意志に基づいて組織されるという原則に従い、入・退部金の徴収はこれを厳禁する。

第17条 部費の徴収は、原則として禁止する。ただし特別な理由により徴収の必要があるときは、部顧問教員及び学生会顧問教員の承認をうけ、その指示に従うこととし、部費の使途を明確にしなければならない。

第3章 部室の管理

第18条 学生会会長は、部室又は部室に設備を必要とするときは、学生主事に願い出るものとする。

第19条 部室は部の目的以外に使用してはならない。

第20条 部室の管理責任者は部の主務とする。

第21条 部室の設備の変更には、学生会会長及び学生会顧問教員の承認を要する。

第22条 部室の設備、備品を部活動の目的以外に使用して滅失、破損したときは、学生会会長は管理使用の部に対して弁償を求めることができる。

第23条 部室の使用管理が不当と認められたときは、学生会会長又は学生会顧問教員は部室の使用を禁止することができる。

第24条 学生会会長及び学生会顧問教員は、担当者を指定して部室の管理状況、設備、備品の監査を行うことができる。

第25条 その他部室の管理に関する権限は、学生会会長及び学生会顧問教員に委ねる。

第4章 遠征費等の補助

第26条 遠征とは、校長が認めた公式の対外行事に本校代表として参加することをいう。

第27条 連盟加入費及び大会参加費は、原則として学生会経費からの全額支出を認める。

第28条 遠征費の補助は、交通費及び宿泊費に対してのみ行う。

第29条 遠征費補助の対象となる費用は、必要最小限でなければならない。

2 他から補助のある場合には、補助された額の残額を補助対象の費用とする。

第30条 遠征費の補助は、事務局に提出された行事参加許可願及び次条から第37条の規定に基づき、学生会会長及び学生会顧問教員が算定する。

第31条 交通費は、次の各号の基準をもって補助額を計算する。

(1) 本校と開催地間の距離及び料金が最短かつ最低となる行程。

(2) 学割、団体割引が利用可能な交通機関においてはこれを利用するものとし、特急料金の補助は原則として北陸三県以外の地に遠征するときとする。

(3) 船の利用は鉄道が利用できないときに限る。

(4) バスの利用は原則として鉄道が利用できないときに限る。

(5) 開催地内においては、原則として補助しない。

第32条 運動部に対する交通費は、前条の規定に基づくほか次の各号の基準をもって補助額を決定する。

(1) 全国高専体協の主催する大会、国体及び全国大会に地区代表として参加する場合は、全額を支給する。

(2) 前号に該当しない大会等に参加する場合は、半額を補助する。

(3) 前各号以外の団体、個人の公式大会等に参加する場合は、その都度、学生会会長及び学生会顧問教員において決定する。

第33条 文化部に対する交通費は、第31条の規定に基づくほか次の各号の基準をもって補助額を決定する。

(1) 高専連盟が主催又は共催する発表会、研究会、会合等に地区代表として参加する場合は、全額を支給する。

(2) 前号に該当しない発表会等に参加する場合は、半額を補助する。

(3) 前各号以外の団体、個人の公式大会等に参加する場合は、その都度、学生会会長及び学生会顧問教員において決定する。

第34条 第32条第1号及び前条第1号に該当する行事に参加する場合の宿泊費は、全額を支給する。

第35条 第32条第2号及び第33条第2号に該当する行事に参加する場合の宿泊費は、1泊につき半額を原則として補助する。ただし、第32条第3号及び第33条第3号の規定に準ずる。

第36条 県内大会への参加は日帰りを原則とする。

2 県外大会において宿泊を要するときは、大会前日から大会終了日前日までを原則とする。

第37条 交通費及び宿泊費の全額支給が補助の対象となる行事への参加人数は、行事要項に基づく正式エントリー数に主務を加えた人数とする。ただし、主務が選手を兼ねる場合には他に1名に限り追加することができる。

第5章 同好会

第38条 同好会の新設は、会員10名以上をもって組織し、代表責任者1名を定め、同好会顧問教員1名を置かなければならない。

第39条 同好会新設願は、学生会会長及び学生会顧問教員あてに各1部ずつ提出しなければならない。

第40条 同好会新設願は、部活動委員会がその趣旨内容を検討した後、意見書を添えて学生会議会へ提出され、新設の可否が決議される。

第41条 同好会の新設は重要案件として取扱われ、学生会議会に出席する全議員の3分の2の賛成を要する。

第42条 学生会議会が同好会の新設を可決したときは、学生会顧問教員、学生主事、校長の承認を必要とする。

第43条 すべての承認が得られた新設の同好会は、学生会会長及び学生会顧問教員が連名で発行する同好会活動許可証を受領したその日から活動を開始することができる。

第44条 同好会は、行事参加許可願の提出により対外行事に参加することができる。

第45条 同好会の経費は原則として個人負担とする。ただし、学生会活動若しくは学内行事に参加した場合にあっては、学生会会長が認めた範囲内において、それに要した経費の援助を受けることができる。

第46条 同好会の会計事務は、代表責任者が責任をもってこれを担当する。ただし、専任の主務を会員中より選出した場合は、この限り

ではない。

第47条 同好会は出納簿を作り、金銭の使途を会員、同好会顧問教員及び執行委員会に対して明らかにしなければならない。

第48条 同好会は会計事務、活動状況、会員数、その他について執行委員会より報告を求められた場合は、直ちに報告書を提出しなければならない。

第49条 同好会には原則として部室は与えられない。また、活動場所についても部が優先する。

第50条 同好会は、次の各号の条件がすべて満たされた場合にのみ部に昇格し、部としての活動が認められる。

- (1) 執行委員会の調査により、設立6ヵ月後において会員数が増加し、活動状況が活発であり、活動内容が健全と認められたとき。
- (2) 部活動委員会において出席委員の3分の2以上の推薦があったとき。
- (3) 学生会議会の出席議員の3分の2以上の議決があったとき。
- (4) 学生会顧問教員の承認があったとき。

第51条 同好会の部昇格は年度末とする。

第6章 活動の停止、解散命令

第52条 部及び同好会が、次の各号のいずれかに該当する場合は、執行委員会の調査結果に基づき、部活動委員会の過半数の議決、学生会議会の出席議員の過半数の議決によって、部には同好会への降格、同好会には解散を命じられることがある。

- (1) 会員の減少が著しいとき。
- (2) 活動状況に活発性又は健全性が認められないとき。
- (3) 活動状況の連絡、報告が明確でないとき。

第53条 学生会会長及び校長は、次の各号に該当する部及び同好会の活動の停止及び解散を命ずることができる。

- (1) 本校学生としての本分を逸脱する行為が会員中の個人又は団体にあったとき。
- (2) 本校の名誉を著しく傷つける行為があったとき。

附則

- 1 この課外活動規定は昭和44年4月1日より施行する。
(2～4は省略する)
- 5 この課外活動規定は平成11年4月1日より施行する。
- 6 この課外活動細則は平成19年4月1日から施行する。

国際高等専門学校学生心得

第1章 総則

第1条 この心得は、国際高等専門学校学則に基づき、学生の守るべき事項について定めるものである。

第2章 言語及び態度

第2条 学生は、徳性を涵養し、知性を錬磨し、良識ある行動をとり、有能な技術者となるべく努めなければならない。

第3条 学生は、国際高等専門学校（以下「本校」という。）の学生としての品位と誇りをもって行動しなければならない。

第4条 学生は、教職員、上級生には敬意を払い、学友間においても礼儀をわきまえ、互いに人格を尊重し、助け合い、親しみ合わなければならない。

第5条 学生は、言語と動作はその人間を表すことをわきまえ、言葉使いを慎み、常に謙虚に振る舞わなければならない。

第3章 服装及び所持品

第6条 学生は、別に定める国際高等専門学校服装規定を守り、常に清潔、簡素及び端正なものを着用しなければならない。

第7条 学生は、定められた以外の服装をするときには、「異装願い」を提出し、校長の許可を得なければならない。

第8条 学生は、学生証を常に所持しなければならない。

第4章 諸届願

第9条 学生は、欠席、欠課、遅刻又は早退をするとき、その届け出をしなければならない。

第10条 学生は、対外運動競技、文化関係行事、その他の会合へ参加するときは、顧問教員の承認を経て、校長の許可を得なければならない。

第11条 旅行又はアルバイトをするときは、学級担任の承認を経て、校長の許可を得なければならない。

第12条 改姓、改名、その他学生の戸籍上の身分が異動したときは、住民票記載事項証明書を添えて、事務局に届けなければならない。

第13条 学生の住所及び地名が変更になったときは、直ちに事務局に届けなければならない。

第14条 学生の保護者に変更があったときは、新しい保護者は、速やかに事務局に届け出なければならない。

第5章 生活態度

第15条 学生は、日常の生活においては別に定める国際高等専門学校生活規定を守らなければならない。

第16条 学生は、校外においては本校学生としての品位を保つように行動しなければならない。

第6章 環境の整備等

第17条 学生は、校地、校舎、教室、実験室等の美化清掃に積極的に協力し、学校を明るい環境にするよう努めなければならない。

第18条 学生は、設備備品等の取扱いや整理整頓に十分配慮をなし、その異状を発見したときは、速やかに教職員に申し出なければならない。

第19条 学生は、災害が起こったときは、あわてず、騒がず、正確な判断をもって、被害を最小限に止めるように努めなければならない。

附則

1 この心得は昭和37年4月1日より施行する。

（2～4は省略する）

5 この心得は平成16年4月1日より施行する。

6 この学生心得は平成19年4月1日から改正施行する。

科目概要

一般科目	P.72
電気電子工学科専門科目	P.75
機械工学科専門科目	P.80
グローバル情報学科専門科目	P.86

一般科目

第3学年 授業科目

平成27年度以降入学生適用

国語Ⅲ 3年 2単位

現代文では作品の分析・読解方法を習得し、多角的観点から表現されている思考・感情を理解する。また目的に応じて効果的な形式方法で自己の考えを客観的・論理的に表現する。古典・漢文では、作品内容を的確に捉え、そこに表れた人間、社会、自然に対する思想や感情を読み取ることを目的とする。

歴史Ⅱ 3年 2単位

我々が生活している世界は、今後どのような方向に進んでいくのか。これを考察するに際して最も必要なことは、世界の歴史と文化についてただ単なる表層知識だけではなく、その本質的な内在論理の究明である。これらをヨーロッパ世界を中心に、様々な領域のこれまでの人類の知の集積を駆使しながら、その多面性を抽出したい。

線形代数Ⅱ 3年 2単位

数列において最も基本となる等差数列と等比数列について、その性質や一般項の求め方、その和の計算やシグマ記号について学習する。さらに、数列の応用としてはいろいろな数列の一般項の求め方や、漸化式と数学的帰納法についても学ぶ。これに加えて、線形代数Ⅰで学んだ行列の内容をさらに進め、行列式についての基本的な性質と行列式の展開、行列式を用いた逆行列の求め方について学習する。さらに、行列式の応用として重要となる線形変換と固有値についても学ぶ。これらの内容を問題演習を通して習熟することによって、専門科目で必要となる数列や行列・行列式を用いた数学的手法と計算技術を身に付けることを目的とする。

微分積分Ⅱ 3年 4単位

微分積分Ⅰで学んだ整式の微分と積分を、三角関数・対数関数・指数関数の微分と積分へと発展させる。問題演習を通してこの新たな微分と積分の内容を学び、その計算に習熟するものとする。さらに、微分の応用として関数の増減と極大・極小、積分の応用として図形の面積・体積の計算方法についても学習する。この微分積分の概念を用いることで、数理工学の分野において扱われる現象を解析し、理解できるようになることを目的とする。これに加えて、基礎数学Ⅰの確率では取り扱わなかった条件付き確率を学習し、確率変数の平均と分散を求めること、二項分布・正規分布を理解することで、観察や実験を通して得られたデータを統計的に処理するための基礎を身に付けることを目的とする。

物理化学Ⅲ 3年 2単位

物理学および化学は、工学を学ぶ上で重要な基礎となる科目である。物理化学Ⅲでは、1・2年次で学習したことをもとに、高学年での専門科目に必要な基本的な知識や問題の解法を学習し、専門科目へとつなげる。1・2年次に学習した物理の内容を土台にして、さらに内容を発展させる。また一年を通して、講義で扱う用語や科学的な言い回しを日本語だけでなく英語でも教えていく。

保健体育Ⅲ 3年 2単位

集団行動、体育大会の練習、サッカー、バスケットボール、球技大会の練習、ニュースポーツ(ソフトバレーボール・インディアカ)

総合英語Ⅲ 3年 3単位

身近な現代社会の最新情報や直面する問題を扱った英文を読むことを通して、基本的なリーディングスキルを習得していく。速読の技術を取り入れながら、主題の内容を把握する訓練を行っていく。また英文中に登場する単語は日常の新聞、雑誌などによく見かけるものであり、実社会でも非常に役立つ英単語であるので、単語力増強を図ることも目的としている。

英語スキルズⅢ 3年 3単位

The purpose of this class is to develop the English ability, knowledge and vocabulary needed for students to have a fuller range of everyday conversations and improve their English skills. Students will do this through a variety of activities from the textbook and handouts. Students will frequently work in groups for various activities to practice and improve their understanding of daily English conversations.

人間と自然Ⅱ 3年 1単位

穴水湾自然学苑において、海洋活動、講話、クラスミーティングなどを一体的に行う。グループ活動を通し、自然への理解を深めチームワークやリーダーシップを発揮するとともに、団体生活を通し、思いやりの心を実践し生活規範を身に付ける。また、校長および苑長講話を聴講し、学生生活のあるべき姿を理解するとともに、日本人としての誇りと自覚を深める。

第4学年 授業科目

平成27年度以降入学生適用

国語Ⅳ 4年 1単位

国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成するとともに、伝え合う力を高め、思考力を伸ばし、最終的には自分自身の考えを広げ深め、理想とするあり方を文章化することができる「言語感覚」を磨く。必要な情報を効果的に伝えることを目標として発表し、進んで表現する姿勢を身に付ける。さらに、社会生活に役立つ表現力、理解力と社会生活を充実させる態度を身に付ける。

総合英語Ⅳ 4年 2単位

この授業では、海外で放送されたTVコマーシャルを題材に、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4技能を高めることを目的とする。また、コマーシャルを通して、異文化背景の理解の促進を図る。

人間と自然Ⅲ 4年 1単位

池の平の自然あふれる充実した環境のもとで合宿を行い、自然への理解を深めるとともに、級友との友情を深める。また、4年間の研鑽をまとめ、これから社会でその成果を発揮するために、各自が専攻する分野での先輩の経験を学ぶ。加えて、自らが研究している課題について、研究の意義・研究の進め方・発表の仕方について考え、学ぶ。

社会科学Ⅰ 4年 2単位

我々の日常生活は、国内外における政治・経済や自然・地理など、様々な事柄の影響を受けていることは言うまでもない。我々が現代社会の一員として社会の中で生きていくには、政治・経済や自然・地理など様々な事象や問題に関する共通の認識を持つことが必要不可欠なのである。本科目ではグローバル化する現代社会で活躍するエンジニアとして必要不可欠な、政治・経済・自然・地理などに関する基本的な事項についての講義を行い、知識を習得することを目的とする。

保健体育Ⅳ 4年 2単位

集団行動、体育祭の練習、ソフトボール、テニス、球技大会の練習、バドミントン

上級英語Ⅰ 4年 4単位

(会話)「Advanced English Conversation 1 will provide students with many opportunities to speak and listen to English through fun, interactive paired and small-group activities. Students can share their experiences, opinions and ideas with each other on a variety of interesting topics in a variety of ways to improve fluency and confidence.

(プレゼンテーション) Students will use computers and software to work collaboratively, in order to develop their English and presentation skills. This class will not require an advanced knowledge of software or computers.

英語資格技術 4年 2単位

ペアワーク、グループワークで協力しながら、TOEICの問題を通して英語力向上を目指す。また、リスニングの宿題によってリスニング力の向上も目指す

第5学年 授業科目

平成27年度以降入学生適用

社会科学Ⅱ 5年 2単位

心理学は、心を科学的に探究する学問であり、教育、サービス業、製造業など種々の分野に応用されている。将来、社会に貢献すべき本校学生にとって、心理学を通して人間行動を理解することの意義は大きいと考えられる。本科目の目的は、心理学を通じて人間行動の法則性を学び、人間観を科学的な観点から養うことにある。

文化・思想 5年 2単位

国際社会において最も重要なことは、自らの国全体についての豊富な知識と深い理解である。日本文化の構造を項目的な表層知識ではなく、そこに内在されているであろう、その本質と方法とを抽出することが必要である。これらを一定の学域にとらわれることなく、様々な領域のこれまでの人類の知の集積を駆使しながら、日本文化の多面性を浮き彫りにしたい。

数理統計 5年 2単位

自然界における偶然性は数学的には確率を用いて表現され、観察や実験から得られたデータは、この確率の概念を用いて解釈・処理されることによって、はじめて実用に耐えうる推定や検定を行うための道具となることができる。本科目は、数理工学の分野において、偶然性に左右される現象を取り扱う際に必要となる統計的な知識・概念を学習し、さまざまなデータを統計的に解析・処理する方法を純粋数学の観点から学習し、活用する能力を身に付けることを目的とする。

英語表現技法 5年 2単位

本科目では、アカデミックスキル(listening、note-taking、writing、thinking、presentation etc.)を向上させつつ、英語の表現力をより豊かにすることを目標としていく。英語のリスニングでは、聞き取った情報を自身でまとめられるようにしたり、授業内で取り上げる様々なトピックに対し、自身の意見をいかにわかりやすく他者に伝えるかを学んでいく。

上級英語Ⅱ 5年 2単位

(会話) Advanced English Conversation 2 will provide students with the opportunity to extend the speaking and listening they developed in AEC 1 English engaging real-world and debate-style, opinion-focused activities. Students will be asked to share their experiences, opinions and ideas with each other on a variety of topics in a variety of ways to improve fluency and confidence.

(TED Talk) In “21st Century Ideas,” students will use TED Talks to engage in 21st century issues. Students will have the opportunity to read, listen, and discuss the issues and innovative ideas brought up by the TED speakers. This class will include elements of presentation, public speaking, and critical thinking.

電気電子工学科専門科目

第3学年 授業科目

平成27年度以降入学生適用

電気回路Ⅱ 3年 2単位

電気回路Ⅰに続き、電気工学の基礎である回路網理論および計算法の基礎を学ぶ。2学年で学んだ交流のフェーザ表示、直交形式、極形式を利用しながら相互誘導回路、四端子回路、三相交流、フーリエ級数、ひずみ波交流を学習する。

電気磁気学Ⅱ 3年 2単位

電気工学は全て電気と磁気の物理現象を応用している。本講義では、磁気の物理現象を学び、その現象を数学的に表示することを理解し、その量的概念を把握することを目指す。また、その諸量間の相互関係を理解し、磁気力、電流の磁気作用、磁化現象磁性体の磁気回路、電磁力、電磁誘導現象、自己誘導作用について学ぶ。

電気システム設計Ⅰ 3年 2単位

エネルギーや資源を管理・制御するための一般的解決方法と組込技術を講義・演習・実習を通して理解することにある。工学的な設計法やシステムを学び、組込技術の一つであるシーケンスについて理解を深める。チームに分かれてシーケンスの動作設計とその実装を行うと共に、発表を通して理解を深める。

コンピュータⅢ 3年 2単位

C言語プログラミングの基礎について引き続き学習しながら、C言語のプログラミングのスタイルを身に付ける。後学期後半ではPythonによる簡単な構文を理解し、Pythonのプログラミングに慣れる。C言語では実用的な、Pythonでは簡単なプログラミングが作成できることを目標にする。

創造実験Ⅲ 3年 3単位

実験・実習を通して電気・電子工学の基礎を学ぶ。また実験方法や実験レポートの書き方を習得するとともに、実験結果を考察する能力を養う。実験のテーマにはArduinoを用いたコンピュータ制御の手法、H8マイコンやARMマイコンを用いた制御実験などがあり、体感実験として電気自動車の製作および走行を行う。

デザインメソッドⅢ 3年 2単位

地域社会の人々の行動や生活に目を向け、人々が抱える問題、大切にしている価値を理解することで、より魅力的なモノ・コトを創造する活動を行う。また、創造的なアイデアを正しく他者に伝えるためのグラフィックコミュニケーションの手法も学ぶ。現状調査による情報収集、既に身に付けてきた技術的スキルや知識を応用した個々のアイデア発想演習のみならず、蓄積されてきたアイデアを他者と組み合わせるグループ活動を行うことで、アイデアをより高い有用性、価値あるものへと発展させる活動も行う。

プロジェクトⅢ 3年 1単位

校内外における個人或いはグループによるプロジェクト活動を行った学生に対し、その内容が本校の教育目的に沿ったものであり、3年次生の単位として認めるに値する活動であると校長が判断した場合に限り、単位を認定する。ただし、本単位は、卒業及び進級に必要な単位に算入しない。単位認定を申請しようとする学生は、事前に学級担任にプロジェクト活動申請書を提出し、しかるべき指導を受けたのち活動を開始する。また、活動終了後は、プロジェクト活動単位認定申請書にログブックを添え、学級担任を経て教務主事に提出する。

応用数学Ⅰ 4年 2単位

微分積分Ⅰと微分積分Ⅱにおいて学んだ1変数関数の微分の多変数（特に2変数）への拡張と、基本的な1階と2階の微分方程式の解法、さらには、ラプラス変換について学習する。多変数関数では1変数関数の極限值、連続、微分と同じ概念が、変数が増えたとしても同様の原理により適用されることを理解し、とくに偏微分とその応用について問題演習を通して、その理解を深めるものとする。また、微分方程式においては、変数分離系、同次形、線形の1階微分方程式の解法と、特性方程式を用いた斉次・非斉次の2階微分方程式の解法を学習し、さらに、ラプラス変換においては、ラプラス変換と逆ラプラス変換を用いた微分方程式の解法を学習し、これらを問題演習によって習熟するものとする。

デジタル回路 4年 2単位

Students will be able to read digital circuits written in MIL symbols and design simple digital circuit. Students will learn about operation of basic gates and digital circuits, how to use truth table, relationship between Boolean algebra and MIL symbol, and using Karnaugh map to simplify circuits. Analyze electronics devices using datasheet

電子工学 4年 2単位

電子工学を半導体電子工学と位置付け、トランジスタ回路や半導体電子工学の基礎を学ぶ。まず、電子の運動や電子現象を学んだあとに、半導体工学の基礎としてトランジスタの増幅原理やLEDの発光原理など、代表的な半導体素子の構造や動作原理を学ぶ。

電子回路Ⅰ 4年 2単位

前学期夏期休暇前までは電験3種（理論）受験対策を兼ねて電子回路の基礎全般について教授する。夏期休暇終了以降は、トランジスタを使った1つの基本増幅回路を詳しく学習しなおす。動作原理、特性、基本増幅回路の動作、その等価回路を学習する。本講義では、電子回路の種類を多く学習するのではなく、基本回路に絞って学習し、回路の見方と設計力を身に付ける。

システム工学 4年 2単位

計画手法であるPERT、動的計画法について学ぶ。また国際規格であるISOについて、品質マネジメント、環境マネジメントの考え方について学ぶ。その他システムの信頼性に関する定量的な評価や生産計画、割当法をはじめとする線形計画法について学ぶ。また電力システムの事例について学ぶ。

電気システム設計Ⅱ 4年 2単位

電気は私たちの日常生活を支えるエネルギーであり、更なる効率が求められている。本科目はエネルギー資源を管理・運用するための一般的な方法を講義・課題実習を通して理解することにある。前半では再生可能エネルギーについて学ぶ。後半では変圧器の設計やエネルギー管理の観点を含め災害についても学ぶ。

コンピュータⅣ 4年 2単位

コンピュータ同士がネットワークを介してお互いのリソースを共有する、分散システムの特徴を理解するためにネットワーク関連技術の基礎を学習する。また、知識情報システムの要素技術をアルゴリズムの理解とプログラミングを通して身に付ける。加えて、個人およびグループ演習による評価実験および発表、議論から理解を深める。

創造実験Ⅳ 4年 4単位

創造実験では、電磁アクチュエータ、CG、高周波計測および電気機器の4テーマを実施する。基礎的項目の説明、製作物の計画・設計・製作・計測・考察・発表を体験することで計画実行力・計測技術・表現力を身につける実験の一部では、英語ネイティブ教員による指導もある

工業英語Ⅰ 4年 1単位

電気電子工学の基礎に関する英文資料を読み、基本的事項を学習する。内容の正しい理解には正確な翻訳が不可欠であるので、電気電子分野でよく使われる専門用語や基本構文を学習し、工学系英文資料の翻訳に必要な英文法を理解する。

設計製図 4年 2単位

物の形状や仕様を伝える図面はものづくりに必要不可欠である。本講義では、幾何学的思考能力を高めるための読図を学習し、汎用CADである「AutoCAD」を使ってCADの基本的な操作を習得する。さらにエンジニアに必要なモノ・コトのデザインをプロジェクト活動を通じて学ぶ。

応用物理Ⅰ 4年 2単位

物理学は数学と並んで工学の専門科目を学ぶ上で、基礎となる重要な教科である。応用物理Ⅰ・Ⅱの学習を通して、自然現象の物理的な見方や考え方を習得することを目標とする。応用物理Ⅰでは、1～3年次に学習した物理化学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、および数学の微分・積分、線形代数の知識を前提とし、物理学の基礎として重要な運動方程式、仕事とエネルギーの概念を詳しく学習する。また、問題演習に取り組むことにより物理現象を数量的に理解することを養う。

パワーエレクトロニクス 4年 2単位

半導体デバイスの特性を把握していることを前提に、整流回路、チョップ回路、DCモータ制御、インバータについて学習する

発変電工学 4年 2単位

各種の発電方式について、原理や特徴を学ぶとともに、社会に与える影響についても考える。また、電気エネルギーを発電所から需要家に供給する際に必要となる変電設備も学習する。

電気法規と施設管理 4年 1単位

電気を安全に利用するには、供給事業者、器具製造業者、電気工事者、電気使用者が一定のルールを守る必要がある。したがって、電気事業にかかわる人は電気関連法を理解する必要がある。

インターンシップⅠ 4年 1単位

夏期休業中の約1週間、県内外の企業で実習を行い、社会の厳しさや専門技術の進展ぶりなど、校内では得られない貴重な知識や考え方を学ぶ。この体験は将来社会人となるために極めて有用であり、また専門のエンジニアとして成長する糧となるものである。インターンシップ先での貴重な体験を報告書にまとめ提出するとともに、報告会において、その成果を発表する。

インターンシップⅡ 4年 2単位

複数回或いは長期のインターンシップに参加する学生を対象とする。夏期休業中の約2週間、県内外の企業で実習を行い、社会の厳しさや専門技術の進展ぶりなど、校内では得られない貴重な知識や考え方を学ぶ。この体験は将来社会人となるために極めて有用であり、また専門のエンジニアとして成長する糧となるものである。インターンシップ先での貴重な体験を報告書にまとめ提出するとともに、報告会において、その成果を発表する。

プロジェクトⅣ 4年 2単位

校内外における個人或いはグループによるプロジェクト活動を行った学生に対し、その内容が本校の教育目的に沿ったものであり、4年次生の単位として認めるに値する活動であると校長が判断した場合に限り、単位を認定する。ただし、本単位は、卒業及び進級に必要な単位に算入しない。単位認定を申請しようとする学生は、事前に学級担任にプロジェクト活動申請書を提出し、しかるべき指導を受けたのち活動を開始する。また、活動終了後は、プロジェクト活動単位認定申請書にログブックを添え、学級担任を経て教務主事に提出する。

電気回路Ⅱ 4年 2単位

(ニュージーランド留学者対象)

Continuation from Electric Circuit I module, students will cover the basics of network theory and calculation, which is the basis of electrical engineering. The topic that will be covered in this module are Mutual induction circuits, Four terminal circuits, Three phase AC, Fourier series and strain wave exchange in term of phasor forms orthogonal form and polar form.

電気磁気学Ⅱ 4年 2単位

(ニュージーランド留学生対象)

Electromagnetism is a branch of physics involving the study of electromagnetic force, the physical interaction occurs between electrically charged particle. In this module, students will study vector analysis for electromagnetism, theory and calculation of quantities associated with the static magnetic field. Student also will be introduced to the application of electromagnetic phenomena in electromagnetic induction and concept of motor and generator.

第5学年 授業科目

平成27年度以降入学生適用

応用数学Ⅱ 5年 2単位

応用数学Ⅰを引き継いで、1変数関数の定積分を2変数関数の定積分である2重積分へと拡張し、立体図形の体積を求めることを通して、計算力を強化する。また、関数は三角関数の無限級数で表すことができるというフーリエ変換を学び、その概念に習熟するものとする。さらに、複素数をより詳細に学ぶことで、実数のみでは扱うことができなかった内容に取り組むものとし、ベクトルに微分積分の概念を導入したベクトル解析にも触れることで、数学に対する理解の幅を広げることを目指す。

電子回路Ⅱ 5年 2単位

電子回路はエレクトロニクスの技術者にとって非常に重要な学問である。本講義では、まずトランジスタを使った基本増幅回路の動作について学習し、アナログ電子回路の考え方を身につける。さらに基本増幅回路の学習で培った知識を基礎として、負帰還増幅回路、電力増幅回路、発振回路などについても学習する。

卒業研究 5年 6単位

卒業研究は4年間の学習成果をもとに、学生が主体的に計画立案・準備・調査・実験・考察・発表を通じて研究課題に取り組む。本科目は研究活動を通じて専門分野の知識や技術をさらに高め、論理的コミュニケーション能力やプレゼンテーション技法を身につける。

材料工学 5年 2単位

材料工学では、物質の構造や電子の性質を学んだあとに、電磁気学や材料物性学に基づき、半導体材料、誘電体材料、磁性材料、金属材料、光学材料の基本特性と実際の応用を学ぶ。

制御工学 5年 2単位

まず、制御の概念と必要になる数学的記述を学ぶ。次に、システムの時間応答の解析を通じフィードバック制御の利点を理解するとともに、周波数応答をボード線図やニコルス線図を用いて求める。また、システムの特性改善や安定判別、ラプラス変換を用いた過渡現象解析にも取り組む。

データ通信ネットワーク 5年 2単位

本科目では、インターネットやLANで使用されている通信ネットワーク技術の基礎を学ぶことを目標とする。はじめにデータの通信・交換・圧縮方式、誤り制御方式、暗号化技術、OSIの基本概念やTCP/IP等の主要プロトコルを学ぶ。次に学んだ事項を基礎として、課題作業を実施し、その成果を相互に発表することによって理解を深めていく。

工学英語Ⅱ 5年 1単位

学生達はエンジニア、技術関係の職場で必要とされるコミュニケーションや専門的な技術を向上させる。この科目の最終的な目的は学生達が色々な国の人々に日本の企業についてプレゼンテーションを出来るようになることである。インターネットやテレビ、新聞等、幅広い情報源から得られるオーセンティックな教材を使用しながら進められる。この授業を受講後、学生達は異文化の職場の違いに気付き、産業（会社）を調査し、メモを書き、レポートをし、効果的なプレゼンテーションをすることができるようになる。

情報伝送工学 5年 2単位

情報通信のグローバル化・マルチメディア化や移動体通信の進展などを背景に、さらに高度化する電気通信分野技術に対応することを目指す。伝送理論・伝送技術の基礎、各種の通信・伝送装置、トラヒック理論等について学習する。

電気電子工学演習 5年 2単位

本科目では電気磁気学Ⅰ・Ⅱの内容からさらに発展させて、電磁気学の基本となるマクスウェルの方程式とそれから導かれる電磁波について学ぶことを目的とする。春学期はそれらを理解するために必要なベクトル解析（外積、ベクトル関数）について学習する。夏学期以降はベクトル解析を用いたマクスウェルの各方程式の理解と電磁波について学習する。本科目は演習科目であるため、問題演習を重視する。

回路シミュレーション 5年 2単位

フーリエ級数、分布定数回路および電氣的な過渡現象について学ぶ。解析ツールとして Excel と汎用ツールを併用しながら現象や回路のシミュレーションを行う。合わせてシミュレーションやその理論およびそれに関連する数値計算・工学的現象について学び、科学的および工学的な判断力を醸成する。

応用物理Ⅱ 5年 2単位

物理学は数学と並んで工学の専門科目を学ぶ上で、基礎となる重要な教科である。応用物理Ⅰ・Ⅱの学習を通して、自然現象の物理的な見方や考え方を習得することを目標とする。応用物理Ⅱでは、応用物理Ⅰで学習した知識をさらに発展させて、工学系の基礎となる力学および材料力学・流体力学・熱力学を身につける。知的トレーニングとしての問題演習に取り組むことにより、物理現象を数量的に理解することを養う。

送配電工学 5年 2単位

電力を効率的かつ安定的に輸送するために必要な流通設備について、電力工学の黎明期から発展期・成熟期との経緯を見据えながら送電線路および配電線路の基本的事項の概要を学ぶ。その内容は、電力輸送の形態・輸送網の構成・基本特性・故障特性・安定度・誘導障害・過電圧・運用・制御と将来展望について述べる

電気機器 5年 2単位

電気エネルギーの発生、変換について学び、各種エネルギーから電気エネルギーへの変換、電気エネルギーから動力、熱、光などへの変換について学習する。

メカトロニクス 5年 2単位

メカトロニクス概要説明から、エンジニアとして必要とされる電気の基礎知識の復習の後、機械要素について学ぶ。その他センサ、アクチュエータの基礎知識について、利用される回路例を交えながら学習し、システム制御、ロボットなどメカトロニクスの技術が活かされている各種事例について学ぶ。

機械工学科専門科目

第3学年 授業科目

平成27年度以降入学生適用

電子回路基礎 3年 1単位

The students of mechanical engineering department need to get the knowledge of basic electronics. For making any electromechanical device, they have to be aware of mechanical design, programming and electronics. In this class, students will understand the function of each electric component, and how to analyze DC circuits. They will also learn about the semiconductor devices such as LED, transistors, digital IC's and logic gates. In addition, they will study different kinds of sensors and their applications.

応用プログラミング 3年 1単位

機械系に必要な機器組込型の制御プログラムについて学習する。使用するマイコンは Arduino とし、入出力回路などハードウェアに関する知識を身に付ける。また、I/O ポートを用いた制御プログラム演習を通じて、マイコン制御プログラムの知識や技術を身に付ける。そして、創造設計Ⅲ、Ⅳに必要なマイコンプログラミングの基礎的素養を身に付ける。

創造設計Ⅲ 3年 3単位

創造設計Ⅳの基礎科目としてシステム工学概論、工学システムの基礎事項の学習、ライントレースロボットの製作を通じて、ロボットの設計・製作を構想段階から完成試験までのすべての流れを体験する。システム設計、細部設計、加工技術、ステアリングメカニズム、駆動機構、モータ制御技術、サーボ制御技術を体験的に理解し習得する。

デザインメソッドⅢ 3年 1単位

地域社会の人々の行動や生活に目を向け、人々が抱える問題、大切にしている価値を理解することで、より魅力的なモノ・コトを創造する活動を行う。また、創造的なアイデアを正しく他者に伝えるためのグラフィックコミュニケーションも学ぶ。現状調査による情報収集、既に身に付けてきた技術的スキルや知識を応用した個々のアイデア発想演習のみならず、蓄積されてきたアイデアを他者と組み合わせるグループ活動を行うことで、アイデアをより高い有用性、価値あるものへと発展させる活動も行う。

材料力学Ⅰ 3年 2単位

材料力学は各種構造物や機器の強度設計上必要となる工学の基礎学問であり、今まで修得した物理学や数学、工業力学の基礎の上に作られたものである。本科目では、設計者が適切な材料の選択や適切な形状や寸法を決定するのに必要な基礎能力の習得を目的とする。

機械製図演習 3年 2単位

図面はその製品に求められる要求を達成するために、設計検討とその根拠にもとづいた仕様を明確に記載する必要がある。それにはまず、特に重要となる機能を分析する思考が大切である。本科目ではスケッチ製図や設計計算事例により要件整理力を養う。そして JIS 規格に準じた正しい製図法で図面をかく演習に取り組む。

機械材料 3年 2単位

機械技術者にとって、機械材料の特徴およびその本質を知ることが様々な機械を作るために重要な知識である。本科目では、機械材料の基礎事項を理解し、金属、セラミックス、複合材料など、材料の諸特性について学習する。

プロジェクトⅢ 3年 1単位

校内外における個人或いはグループによるプロジェクト活動を行った学生に対し、その内容が本校の教育目的に沿ったものであり、3年次生の単位として認めるに値する活動であると校長が判断した場合に限り、単位を認定する。ただし、本単位は、卒業及び進級に必要な単位に算入しない。単位認定を申請しようとする学生は、事前に学級担任にプロジェクト活動申請書を提出し、しかるべき指導を受けたのち活動を開始する。また、活動終了後は、プロジェクト活動単位認定申請書にログブックを添え、学級担任を経て教務主事に提出する。

応用数学Ⅰ 4年 2単位

微分積分Ⅰと微分積分Ⅱにおいて学んだ1変数関数の微分の変数(特に2変数)への拡張と、基本的な1階と2階の微分方程式の解法、さらには、ラプラス変換について学習する。多変数関数では1変数関数の極限值、連続、微分と同じ概念が、変数が増えたとしても同様の原理により適用されることを理解し、とくに偏微分とその応用について問題演習を通して、その理解を深めるものとする。また、微分方程式においては、変数分離系、同次形、線形の1階微分方程式の解法と、特性方程式を用いた斉次・非斉次の2階微分方程式の解法を学習し、さらに、ラプラス変換においては、ラプラス変換と逆ラプラス変換を用いた微分方程式の解法を学習し、これらを問題演習によって習熟するものとする。

機械設計Ⅰ 4年 2単位

機械を構成する機械要素の種類と役割について理解し、機械・器具・装置などを合理的に設計する基礎能力を習得する。機械要素に働く力と運動、応力やひずみから、強度や寿命を設計計算により求め、JIS規格等と照らし合わせ、各種寸法を決定する能力を身に付ける。

制御工学 4年 2単位

メカニカルシステムで代表される動的システムの数学的表現法の一つである伝達関数やブロック線図について学び理解を深める。さらに、過渡応答法、周波数応答法や制御系設計法などを学び、制御系の解析や設計についても理解を深める。

創造設計Ⅳ 4年 4単位

プロジェクト(班)形式のグループ作業を行い、社会性の習得、システムの基礎知識、作業管理の必要性を習得し、これまで学んできた基礎的な工学知識や技能を発揮する。人に必要とされる機械の仕様を考案し仕様書に従って、設計製作する。製作上の種々の問題についてグループで考え、自主的に解決する。製作過程を俯瞰できる能力を養う。

工業英語Ⅰ 4年 1単位

Engineering English aims at preparing students to communicate with others in a technical context using English as the common medium. Students will learn how to read technical texts through learning how to search for the correct definition of engineering terms that they encounter.

材料力学Ⅱ 4年 2単位

材料力学は各種構造物や機器の強度設計上必要となる工学の基礎学問であり、今まで習得した物理学や数学、工業力学の基礎の上に作られたものである。本科目では材料力学Ⅰに続き、より機械要素の適切な選定や構造物の適切な形状や寸法を決定するのに必要な基礎能力の習得を目的とする。

熱工学Ⅰ 4年 2単位

我々の生活を豊かで快適にしてくれる熱工学の基礎を学び、エネルギー保存則や自然現象の方向性といった熱力学の法則を理解する。理想気体の状態式を用いてガスの圧力や容積、温度などの値を求める。また、理想サイクルである可逆(カルノーや冷凍)サイクルとそれらの効率や動作係数について学ぶ。さらに、エントロピーの概念について学ぶ。

機械工学実験Ⅰ 4年 2単位

基礎実験から総合実験まで、機械工学に関する諸実験を行い、講義で学んだ理論を検証しつつ、その理解を深める。また、科学的な思考法や知識をもとにして、理論や法則が自然界の法則にしたがって成り立っていることの認識を深める。

流体力学 4年 2単位

流体力学は、機械工学を支える四つの力学の一つであり、機械のエンジニアにとって必須の知識である。送風機やポンプをはじめ、自動車、船舶、航空機などの設計に流体力学の知識は欠かせない。本科目では、はじめに静止流体について、続いて流れる流体について学んだ後、水力機械の例としてポンプと水車について学ぶ。流体の性質、運動を理解し、流体機械の基本原理等を学ぶことにより、設計等に必要の基礎知識を習得することを目的とする。

エンジニアリングマネジメント 4年 2単位

エンジニアの発想には”モノ”と”コト”があり、これらを実現するためには発想内容の視覚化やコミュニケーションが必要となる。また、プロジェクトを牽引するためにはプロジェクト全体を俯瞰したプロジェクト管理に関する知識が必要となる。本科目では発想を自由に表現するためのツールおよびプロジェクトにおける発想の立案、実現に必要な知識や手法を学ぶ。さらに演習を通して実践しながら、製品製作における工程管理能力、問題と対策を考える力、表現力を養う。

機械工学演習Ⅰ 4年 1単位

これまでに学習した機械工学の専門科目の基礎的な事項について確認し、多くの演習問題に取り組むことで、思考力、計算力など、よりよく問題解決しようとする資質や能力を向上させる。さらにこの学習を通して、機械設計技術者3級の資格試験の合格を目指す。

工学特論Ⅰ 4年 1単位

工学を志す者にとって力学は数学と共に最も重要な基礎科目であり、十分に理解し活用できることによって機械の設計製作に役に立つ。特に動力学は物理を基礎として流体力学や機械力学、航空力学などさまざまな力学へと繋がる重要な分野である。この科目ではニュートン力学に基き、慣性モーメントや運動量、動力、力積、エネルギーや振動などの基礎的な事項の考え方やその解法を学ぶ。

メカトロニクスⅠ 4年 2単位

メカトロニクスは機械・電気・電子と情報技術を融合させ、機械に「自身で判断すること」などの高度化や柔軟性をもたらす技術である。本講義は「ものづくり科目」である創造設計Ⅳにおける制御系への実践力を高めることを狙いとする。

メカトロニクスⅡ 4年 2単位

Mechatronics, derived from Mechanical Engineering and Electronics, is the multidisciplinary field of science combining Mechanical Engineering, Electrical Engineering, and Computer Programming. As all machines nowadays are controlled by using electrical power as a driving force and computer programs for precision control and consistency, students will deepen their understanding of the connections between these mechanical systems through taking this course.

インターンシップⅠ 4年 1単位

夏期休業中の約1週間、県内外の企業で実習を行い、社会の厳しさや専門技術の進展ぶりなど、校内では得られない貴重な知識や考え方を学ぶ。この体験は将来社会人となるために極めて有用であり、また専門のエンジニアとして成長する糧となるものである。インターンシップ先での貴重な体験を報告書にまとめ提出するとともに、報告会において、その成果を発表する。

インターンシップⅡ 4年 2単位

複数回或いは長期のインターンシップに参加する学生を対象とする。夏期休業中の約2週間、県内外の企業で実習を行い、社会の厳しさや専門技術の進展ぶりなど、校内では得られない貴重な知識や考え方を学ぶ。この体験は将来社会人となるために極めて有用であり、また専門のエンジニアとして成長する糧となるものである。インターンシップ先での貴重な体験を報告書にまとめ提出するとともに、報告会において、その成果を発表する。

プロジェクトⅣ 4年 1単位

校内外における個人或いはグループによるプロジェクト活動を行った学生に対し、その内容が本校の教育目的に沿ったものであり、4年次生の単位として認めるに値する活動であると校長が判断した場合に限り、単位を認定する。ただし、本単位は、卒業及び進級に必要な単位に算入しない。単位認定を申請しようとする学生は、事前に学級担任にプロジェクト活動申請書を提出し、しかるべき指導を受けたのち活動を開始する。また、活動終了後は、プロジェクト活動単位認定申請書にログブックを添え、学級担任を経て教務主事に提出する。

材料力学Ⅰ 4年 2単位

(ニュージーランド留学者対象)

Mechanics of Materials is the study of the effects of physical forces in relation to actual materials. Mechanics of Materials I takes the concepts introduced in the Mechanics I class and applies it to physical objects such as beams to analyze the mode of change and the metrics of this change. This course will also relate these concepts as the basis of the decisions necessary during product design.

機械製図演習 4年 2単位

(ニュージーランド留学者対象)

Mechanical Drawings are the link between the designer of a machine and the technician who makes it. If the drawing is not properly created and labeled, the actual product can become flawed. Therefore, being able to create and read a proper draft is of great significance to any engineer.

第5学年 授業科目

平成27年度以降入学生適用

応用数学Ⅱ 5年 2単位

応用数学Ⅰを引き継いで、1変数関数の定積分を2変数関数の定積分である2重積分へと拡張し、立体図形の体積を求めることを通して、計算力を強化する。また、関数は三角関数の無限級数和で表すことができるというフーリエ変換を学び、その概念に習熟するものとする。さらに、複素数をより詳細に学ぶことで、実数のみでは扱うことができなかった内容に取り組むものとし、ベクトルに微分積分の概念を導入したベクトル解析にも触れることで、数学に対する理解の幅を広げることを目指す。

機械設計Ⅱ 5年 2単位

簡単な荷役機械として荷重をつり上げる道具であるウインチの設計を行う。ウインチは手動と動力によるものがあるが電動ウインチの規格を参考にしながら手巻きウインチの設計を行う。この設計過程を習得しながら機械設計で習得した機械要素の設計方法を復習するとともに、機械の原理、機械要素の相互関連、機構的な構成を理解する。

工業英語Ⅱ 5年 1単位

Continuing from Engineering English I, students will continue to develop their English language skill in an engineering context. In this class, students will learn how to research and create technical presentations in English, both individually and in groups. The first half of this class will be dedicated to developing Powerpoint presentation skill, while the second half will be dedicated to academic conference style poster creation and presentation skill.

卒業研究 5年 6単位

これまで学習した内容をもとにして、研究活動を行う。研究は問題を見つけ、問題の解法を見つけ、実際に解決するところまで取り組み、その成果をまとめ公のものにする活動である。自ら積極的に取り組まなければならない。研究テーマ決定、研究の進め方、レポート、論文、発表技法は担当の教員が指導する。

熱工学Ⅱ 5年 2単位

人類とエネルギーの関わりやエネルギー形態について学び、発電システムの理解を深める。また、各種熱機関（内燃機関、ガスタービン、ターボジェットエンジン）における熱エネルギーを機械的仕事に変換する仕組みやサイクルについて理解を深める。さらに、化石燃料の枯渇化や地球温暖化など、エネルギーや環境問題について学び、クリーンエネルギーの活用などの新エネルギーの知識を深める。

振動工学 5年 2単位

振動は機械構造物に見られる現象である。地震のように大きなものや精密機械で発生する微少なものがある。本科目は振動を伴う現象を理論的に解明する基礎的な事項について学ぶ。そのために機械の力学などの入門として重要な事柄について十分に理解しながら振動工学を十分に学ぶ。

機械設計演習 5年 3単位

機械装置の設計においては、機能を満足するのみでなく、操作性、安全性、保守性、経済性などの諸条件をバランス良く考慮しなければならない。そのために、メカニズムを構成する機械要素についての理解を深め、実際の機械装置の設計および製図を通して機械設計について学習する。さらに、新規の機械を開発する際の手順について学び、デザインレビューやプレゼンテーション等のロールプレイを行い、その技能を身につける。

機械工学実験Ⅱ 5年 3単位

機械工学実験Ⅰに引き続いて実験を行う。講義で学んだ理論を検証し、その理解を深める。機械工学実験Ⅱでは、流体力学、振動工学、熱力学の3分野の実験を行い、それぞれの講義で学んだ理論や数式を検証するとともにその理解を深める。

計測工学 5年 2単位

Mechanical engineers are mostly concerning with making of things which requires two steps: design and then manufacturing. A lot of information is required in the form of data for completing the process of making things. In order to get the correct data, the basic principles of engineering measurement have to be comprehensively learnt.

ロボット工学 5年 2単位

現代は少子高齢化社会であり、人不足の解消は急務である。このため、ロボットの活用が真剣に模索され実現している。この様に、ロボットによって現代社会の問題を解決していくことが我々工学に関わるものの責務であり、ロボットを学ぶことの意義は非常に大きい。本科目を通じて、ロボットの概要をとらえ、具体的にはどのようなシステムであるのかを理解してもらう。

数値計算演習 5年 2単位

実用上や工学的問題を解く際に解析解が見つからない場合が非常に多い。その場合であっても数値的に解を求めることやグラフを書くことは可能である。その基礎的な手法を学び、エクセルやPython言語プログラムで実際に解いてみる。また、Scilab、TeX、gnuplotの使用法を学び研究や開発の支援ツールを使用できるようにする。

先端材料工学 5年 2単位

Advanced Materials is the study of the properties of various types of materials being used in industry and in various researches around the world today. This course will focus on the groups of materials known as ceramics, polymers, and composites before focusing on current advanced materials. After this course, students will understand the importance of such materials.

航空工学 5年 2単位

身近なビークルである航空機について、空気力学の基礎や飛行の原理や飛行力学等を学ぶ。また学習内容の理解を深めるために簡単な模型飛行機を用いて飛行原理の検証を行う。

工学特論Ⅱ 5年 1単位

力学は工学の基礎となる分野である。工業力学では力に関する基礎的な事項を、工学特論Ⅰでは動力学について学んだ。これらに引き続いて本科目では、剛体に働く力の諸事項、運動量と力積、回転・平面運動などの剛体の力学について学ぶ。

生産品質管理 5年 2単位

生産工場などにおいて、工学技術者は機械工学などの固有技術のみならず管理技術の知識も必要不可欠の要素となっている。当該科目では品質管理の基礎であるQC七つ道具、さらに、工程分析記号、サーブリック分析記号について紹介を含め、演習を行いながら授業を進める。

経営科学概論 5年 2単位

生産活動には本来の物作りの技術のほかに、高能率、高品質低コスト短納期を達成するための効率的な生産システムの計画。改善及び維持管理の技術が必要である。我が国の産業界は、いち早く品質管理、経営工学、オペレーションズリサーチなどの経営管理技術を導入して高品質、低コストを実現してきた。本授業は、これらの技術を概論的に学び、経営技術の基本的な手法を学ぶ。

グローバル情報学科専門科目

第3学年 授業科目

平成27年度以降入学生適用

ネットワーク基礎Ⅱ 3年 2単位

現在、企業や社会において活動の効率化を目的とした種々の情報システムが稼働している。これらは UNIX 系のオペレーティングシステムで稼働しているケースが多く、保守・運用を適切に行うためには UNIX の知識やスキルを必要となる。本科目では UNIX の特徴や操作の基本を学ぶとともに、キャラクタ・ユーザ・インターフェースを介しての操作に習熟することを目的としている。また、インターネットで利用されるホームネットワーク構築のために必要な知識や実際の設定方法を学習する。これらの知識やスキルを基に、コンピュータやネットワークに関する不具合の対処方法について学ぶ。

プログラミング演習Ⅱ 3年 2単位

オブジェクト指向の基本概念と、オブジェクト指向プログラミング言語による基本的なプログラミングの能力を身につけ、オブジェクト指向にそった簡単なプログラムが作成できるようにする。まずは、2年次で学修したプリグラミングに必要な変数、条件判断や繰り返しなどの制御構造、配列、関数の自由を自由に使えるようにする。そののちにクラスについて学び、オブジェクト指向によるプログラミングの基礎となる知識と技術を身につける。理解を深めるために特定の言語を使って実際にプログラミングの演習を行う。

情報処理Ⅲ 3年 2単位

グローバルな市場を前提とした具体的なビジネスを構想する力、そして、そのビジネスを実行可能とするビジネスプランが作成できる能力を身につける。そのために、資金調達やリスクマネジメント、事業計画の立て方など、描いたビジネスの構想を実現するために必要な知識、ビジネスを継続して運営するためのオペレーションの設計に必要な知識について具体的な事例を用いて学習する。また、学生がアントレプレナー（起業家）となってビジネスプランをまとめるロールプレイも行う。

創造設計Ⅲ 3年 2単位

これまでに身につけたプログラミングの知識、デジタルコンテンツの作成方法など、情報分野の専門知識を活用することで、作品として完成したプログラムやデジタルコンテンツを作成できる能力を、演習を通して身につける。具体的には、主體的にテーマを決定し、実際に動作するプログラム、あるいは動画・コンピュータグラフィックス・ウェブページ等のデジタルコンテンツを作成する。作成したプログラムやデジタルコンテンツを第三者によるレビューで作品を評価する。

情報ビジネス英語Ⅰ 3年 2単位

国際的ビジネスコミュニケーションの導入の科目ということで英語圏の顧客やパートナーとショートメッセージやEメール、電話などの媒体を通じてコミュニケーションを図る基本的な技術を学ぶ。また、社会的な状況でどのように彼らと交流を図るかという方法も習得する。学生たちはチーム単位のプロジェクトやアクティビティでお互いに協力・共同したり、仕事の場面で起こりうる役割を演じたりする。また、学生たちは人前で話す基本的な技術も学ぶことになる。

デザインメソッドⅢ 3年 1単位

地域社会の人々の行動や生活に目を向け、人々が抱える問題、大切にしている価値を理解することで、より魅力的なモノ・コトを創造する活動を行う。また、創造的なアイデアを正しく他者へ伝えるためのグラフィックコミュニケーションの手法も学ぶ。現状調査による情報収集、既に身につけてきた技術的スキルや知識を応用した個々のアイデア発想演習のみならず、蓄積されてきたアイデアを他者と組み合わせることで、アイデアをより高い有用性、価値あるものへと発展させる活動も行う。

ビジネス概論 3年 1単位

企業はどのような仕組みになっているか、企業活動とは何か、企業経営はどのようになされているのかを、人・金・モノ・情報の各側面から捉える。そのうえで企業活動における情報システムの役割と重要性を理解する。さらに、グローバル化に対応するための企業の仕組み、活動についても概要を理解する。これにより、企業についてのイメージを具体化し、4年次科目「企業会計Ⅰ」「ビジネスシステム」「マーケティング」の受講を円滑にする。

プロジェクトⅢ 3年 1単位

校内外における個人或いはグループによるプロジェクト活動を行った学生に対し、その内容が本校の教育目的に沿ったものであり、3年次生の単位として認めるに値する活動であると校長が判断した場合に限り、単位を認定する。ただし、本単位は、卒業及び進級に必要な単位に算入しない。単位認定を申請しようとする学生は、事前に学級担任にプロジェクト活動申請書を提出し、しかるべき指導を受けたのち活動を開始する。また、活動終了後は、プロジェクト活動単位認定申請書にログブックを添え、学級担任を経て教務主事に提出する。

情報数学 4年 2単位

高度な情報処理技術者として活躍するためには、単にプログラミングやシステムの運用・構築を行うだけではなく、数学的な知識を用いて、情報を活用したり、問題の性質を考えることも必要となる。また、数学的な知識を用いた高度なプログラミングを行うこともある。本科目では、集合論や組合せ論などの離散数学ならびに確率論や情報理論といった、情報工学で必要とされる数学的知識の基礎を学習し、それらの基本的な利用方法を身につける。

ソフトウェア工学Ⅰ 4年 2単位

ソフトウェア開発にとって、情報の整理法や、システムのイメージをうまく形にする方法を学ぶことは重要である。また、ソフトウェア開発者は、技術的・時間的・人的・その他の色々な制約がある中で要求されている機能と品質を備えたソフトウェアを作らなければならない。そのためにはどうしたら良いかを学ぶ。本科目では、ソフトウェア開発における各工程を学習することにより基本的な考え方や各工程で採用されている技法を学ぶ。これによりソフトウェア開発者に必要とされる知識を総合的に身に付けることがねらいである。

ビジネスシステム 4年 2単位

グローバルな市場を前提とした具体的なビジネスを構想する力、そして、そのビジネスを実行可能とするビジネスプランが作成できる能力を身につける。そのために、資金調達やリスクマネジメント、事業計画の立て方など、描いたビジネスの構想を実現するために必要な知識、ビジネスを継続して運営するためのオペレーションの設計に必要な知識について具体的な事例を用いて学習する。また、学生がアントレプレナー（起業家）となってビジネスプランをまとめるロールプレイも行う。

創造設計Ⅳ 4年 4単位

情報技術によって実社会における具体的な問題を解決できる能力を身に付ける。そのために、問題を分析し本質を把握することから始め、情報技術を応用した解決方法の提案と、解決のためのシステムやソフトウェアの設計・開発・実装の一連のプロセスをグループ活動による実習を通じて体験する。これにより、ものづくり技術者として必要な分析力・設計能力・実装能力・管理能力を身に付ける。さらに、実装したシステムやソフトウェアを一般公開し、第三者によるレビューをおこなう。

データベース 4年 2単位

高度な情報化社会となった今日、情報処理システムが扱うデータの量は膨大であり、かつ、データ量は日々増大しており、データ処理の中心的役割を担うデータベースは益々重要なものとなってきている。本科目では、リレーショナルデータベースを中心にデータベースの概論とデータベースを操作するSQL言語を学ぶ。また、実世界のデータをデータベースに格納可能なモデルに変換するデータモデリングを行える能力を演習を通して身に付ける。

アルゴリズムとデータ構造 4年 2単位

アルゴリズムとはプログラムを抽象化した「問題を解く手順」であり、データ構造とは計算機の中でデータを格納する方法である。ある処理を行うとき、使用できるアルゴリズムやデータ構造は一つとは限らない。したがって、効率のよいプログラムを書くためには、適切なアルゴリズムやデータ構造を使用する必要がある。本科目では、代表的なアルゴリズムについての知識を得るとともに、アルゴリズムを理解・設計するための素養を身につける。また、それらのアルゴリズムを効率よく実現するためのデータ構造の基礎知識を学ぶ。

ネットワークシステムⅠ 4年 2単位

本科目では初級ネットワーク技術者の養成を目指し、現在のインターネット技術を支えるプロトコル群であるTCP/IPプロトコルの仕組みやその働きについてOSI参照モデルとともに学習する。また、複雑なネットワークを構築するためのネットワーク機器の役割や実際の設定方法、ルーティングやスイッチングの基礎を学習する。これらの知識を基にホームビジネスおよび中小規模のネットワーク環境を対象とした設計や構築、さらにはトラブルシューティングを行うことができる実力を習得する。

メディア情報 4年 2単位

コンピュータの発達により、画像処理やコンピュータグラフィックス（CG）は幅広い分野において大きな役割を担っている。本科目では画像処理やCGの基礎となる理論・技術について学習する。また、これらの技術の理解を深めるためにデジタル信号処理技術の基礎も学ぶ。これらの知識を実際に利用することで、画像や音声などの情報を統合したマルチメディア情報を作成する能力と、マルチメディア情報を扱うプログラムを作成する能力を身につける。

情報ビジネス英語Ⅱ 4年 2単位

この科目では、仕事場でのアクティビティーや書類を作成したり、使用説明書などの説明を理解し、その説明通りに実行する、また説明書を書く、あるいは仕様書の内容を理解し、その内容をコンパクトにまとめ、他の人に簡潔にその要旨を伝えるといった専門英語のコミュニケーションに焦点を当てる。学生たちは海外出張した場合に必要なようになってくるであろう事柄も学ぶ。また、効果的な専門分野のプレゼンテーションの技術も学ぶことになる。

企業会計Ⅰ 4年 2単位

企業活動と成果を、資本すなわちお金の視点から捉え、記録し、整理し、ステークホルダーに公表するための広く認められた仕組みが財務会計である。この財務会計の基本を学ぶ。最終的には、小規模企業を対象とした財務会計システムを設計できるようになることが目標である。なお、企業活動のグローバル化を考慮し、国際会計基準についても概略を理解するとともに、英文財務諸表（会計の報告書）の概要が理解できる知識も身につける。

英語総合技能 4年 2単位

多読のクラスでは、たくさんの簡単な英語で書かれた小説などを読むことになる。学生たちはレベル別多読用教材から読みたい本を選ぶ。楽しんで本を読むことと全般的な内容理解に焦点をあてる。読解力と語彙力の向上のみだけでなく読む速度と流暢さの構築のために読む。また、日常における読むという活動への興味を促進する。ポップカルチャークラスでは、ポップミュージック、映画、ファッションに触れながら英語を学ぶ。音楽を聴き、映画を楽しみ、ファッションを観察し、異なる年代のポップカルチャーやアーティストを通して英語を学ぶ。

プロジェクトⅣ 4年 1単位

校内外における個人或いはグループによるプロジェクト活動を行った学生に対し、その内容が本校の教育目的に沿ったものであり、4年次生の単位として認めるに値する活動であると校長が判断した場合に限り、単位を認定する。ただし、本単位は、卒業及び進級に必要な単位に算入しない。単位認定を申請しようとする学生は、事前に学級担任にプロジェクト活動申請書を提出し、しかるべき指導を受けたのち活動を開始する。また、活動終了後は、プロジェクト活動単位認定申請書にログブックを添え、学級担任を経て教務主事に提出する。

インターンシップⅠ 4年 1単位

夏期休業中の約1週間、県内外の企業で実習を行い、社会の厳しさや専門技術の進展ぶりなど、校内では得られない貴重な知識や考え方を学ぶ。この体験は将来社会人となるために極めて有用であり、また専門のエンジニアとして成長する糧となるものである。インターンシップ先での貴重な体験を報告書にまとめ提出するとともに、報告会において、その成果を発表する。

インターンシップⅡ 4年 2単位

複数回或いは長期のインターンシップに参加する学生を対象とする。夏期休業中の約2週間、県内外の企業で実習を行い、社会の厳しさや専門技術の進展ぶりなど、校内では得られない貴重な知識や考え方を学ぶ。この体験は将来社会人となるために極めて有用であり、また専門のエンジニアとして成長する糧となるものである。インターンシップ先での貴重な体験を報告書にまとめ提出するとともに、報告会において、その成果を発表する。

工学特論Ⅰ 4年 1単位

情報工学の基礎やプログラミング能力、および情報技術者に必要とされる企業活動に関する基本的な知識、そして英語を使ったコミュニケーション能力。これらの3年次までに個別に身につけた知識や能力は、学生が統合した上で活用できるようになって始めて意味がある。本科目では、講義を通して様々な科目の関連性を理解できる能力を身につける。そのために、これまでに学んだ授業の中から対象となるテーマを選び、他の科目との関連性、そして関連性の理解の手助けとなるように選んだテーマの背景・基本の理解を深める講義を行う。

システム開発演習Ⅰ 4年 2単位

実社会で稼働しているソフトウェアの多くは複数のプログラムで構成されるソフトウェアシステムとして実現されており、その開発は組織的に行われている。本科目では、グループ活動によるシステム開発の演習を通してシステム開発に必要な技術的コミュニケーション能力、プロジェクト管理能力、チームスピリットを育む。加えて、実用的なソフトウェアシステムの開発に必要な不可欠なファイル入出力、ネットワーク、例外処理等のプログラミング知識も演習を通して学ぶ。

マーケティングⅠ 4年 2単位

日常においてマーケティングという言葉は、広告・宣伝や販売促進活動といった狭い意味で用いられることが多いが、実は「消費者や他企業にとって有益な製品やサービスを考え出し、それを実現化し、販売などの交換過程を通じて互いの満足や成果を高め合うための活動」といった広い意味を持っている。この広義のマーケティングを理解することが、本科目の主たる目的である。なお、グローバル・マーケティングについても学ぶ。

ネットワーク基礎Ⅱ 4年 2単位 (ニュージーランド留学者対象)

現在、企業や社会において活動の効率化を目的とした種々の情報システムが稼働している。これらは UNIX 系のオペレーティングシステムで稼働しているケースが多く、保守・運用を適切に行うためには UNIX の知識やスキルが必要となる。本科目では UNIX の特徴や操作の基本を学ぶとともに、キャラクタ・ユーザ・インタフェースを介しての操作に習熟することを目的としている。また、インターネットで利用される各種サービスの概要や設定方法などを学び、サーバ構築のスキル習得を目指す。

情報処理Ⅲ 4年 2単位

(ニュージーランド留学者対象)

本授業において、企業活動の目的とそれを実現するための戦略を理解した上で、日々の企業業務に関する基本的な知識を勉強する。また、企業業務を効率よくサポートする情報システムの必要性を認識し、これらの Web システムを構築、運用、保守する上で必要な基礎知識とプロセスを学習する。

第5学年 授業科目

平成27年度以降入学生適用

オペレーションズリサーチ 5年 2単位

与えられた条件の中でコストを最小にしたり、利益を最大にするといった最適化問題は、現実世界で数多く存在する。オペレーションズリサーチは、このような現実存在する諸問題を数理モデルとして構築し、それを分析することによって科学的に問題解決を図る学問である。本科目では、オペレーションズリサーチの基礎を学習する。具体的には、最適化の考え方や条件を数式で表す数理モデル化、定式化を習得し、また、数式で表した問題を解く方法を身につける。

コンピュータシステムⅠ 5年 2単位

コンピュータはソフトウェアとハードウェアの両方がそろって始めて動作する。そのため、コンピュータの能力を十分に活用するためには、プログラミングなどのソフトウェアの知識だけではなく、コンピュータのハードウェアの構成や動作の基本的な原理を理解しなければならない。本科目は、コンピュータのハードウェアの基本的な構成と動作の仕組みを理解するために、論理回路の基礎を学び、コンピュータの構成要素と動作原理を学ぶ。

コンピュータシステムⅡ 5年 2単位

情報技術者がハードウェア資源を有効に活用するソフトウェアを開発するためには、ソフトウェアの知識に加えてハードウェアアーキテクチャの知識が必要である。本科目は、コンピュータシステムⅠに引き続き、コンピュータアーキテクチャの基本と CPU、主記憶、データベースといったアーキテクチャの主要な要素について学習する。また、ノイマン型コンピュータの基本概念を踏まえた上で、コンピュータの高速化に不可欠なアーキテクチャやハードウェアとソフトウェアとの関係についても学習する。

ソフトウェア工学Ⅱ 5年 2単位

ソフトウェア工学Ⅰで学習したソフトウェア開発の各工程を、演習を通して具体的プログラミング言語を使ってシステム開発する体験により、コーディングとデバッグを非体系的に繰り返す作成からの脱却を図る。また、体験を通してオブジェクト指向の基本的考え方を体得し、応用できるようにする。さらに、グループ活動を通じて技術的コミュニケーション能力、時間管理・スケジュール管理・品質管理などのプロジェクト管理能力、チームとしての役割分担や心構えを学ぶ。

卒業研究 5年 6単位

4年次までに情報技術者の基礎となる専門科目と、情報技術者として備えておくべき企業活動に関する知識を学び、また、グローバル・ローカルな企業で活躍できるコミュニケーション能力も育んできた。卒業研究はその集大成である。5年生の科目とリンクしながら、学生が主体的に情報工学の各分野の課題からテーマを選択し、その目標を設定する。その目標の達成に向けて、個人またはグループで活動を行う。さらに、口頭発表はパネルディスカッション、卒業論文の作成などによって、その成果を明らかにする。

ネットワークシステムⅡ 5年 4単位

ソフトウェア技術者に要求されるソフトウェアシステムの保守・運用に関する実務能力と、顧客の業務知識を身につけることの重要性を演習を通して学ぶ。具体的には、SNSやネットショップ等のネットワークサービスを立ち上げて実際にインターネット上で公開・運営を行う。そして、このネットワークサービスの企画・運営・ユーザサポート、このネットワークサービスが稼働しているソフトウェアシステムの保守・運用・監視など、実社会のネットワークサービスで実際に行われている業務の実習をおこなう。

データ分析 5年 2単位

情報工学の対象は、単にコンピュータプログラミングやシステムの構築・運用を行うことだけではない。与えられた情報をいかに活用するかも情報工学の重要な課題である。特に、コンピュータネットワークを通じて大量の情報がやりとり・蓄積されるようになった現在では、その重要性はますます高まっている。本科目では、情報理論ならびに現代統計理論から、特に情報活用の基礎となる理論ならびに技術について学び、それらの基本的な利用方法を身につける。

情報ビジネス英語Ⅲ 5年 2単位

この科目では、学生たちはこれまでに学んできた英語のコミュニケーション能力を最大限に生かし、チームで専門分野の活動を行う状況にそれを適用させる。また、学生たちは将来的に彼らのキャリアに関連する英語で書かれた新聞、雑誌あるいは英語のニュースなどの情報源から現状の情報技術の発展・進展を意識するようになる。学生たちは前年度より引き続き専門分野の効果的な英語でのプレゼンテーションを作成したり、それを発表する技術を学ぶ。

技術者倫理 5年 1単位

エンジニアの務めは設計したシステムや製品を世に送り出すことである。そのためには、エンジニアは科学技術の目的・役割と社会との相互作用についての理解を深めておくことが望まれる。そこで専門職として自ら担う倫理的・社会的責任について学ぶことを目的とする。実務を行う上で直面する倫理的な問題を検討し、それらを解決する問題解決能力の向上を図る。また、「技術者倫理」が単に規範の遵守ではなく、価値とのバランスを取りながら自らがなすべき行動を設計する能力を身につける。

企業会計Ⅱ 5年 1単位

企業の資本の状態や変化を基に企業活動の成果を計数的体系的に把握するための手段である経営分析と、企業経営者・管理者の判断や意思決定あるいは管理活動を支援するための会計すなわち管理会計について学び、それらの視点、基本的概念および基本的手法を身につける。企業活動のグローバル化を考慮して、国際管理会計についても概略を理解する。受講生は、企業会計Ⅰを履修し、財務会計の基本を理解していることが前提である。

物流システム 5年 1単位

物流とは、モノが生産者から消費者へ渡るまでの流れのことで、輸送・保管・荷役・梱包・流通加工などを要素として持つ。そして、これを円滑にするには的確な情報の流れが重要となる。この科目では、情報の流れおよび情報システムの役割を中心に、物流のシステム全体を理解する。さらに、複数の企業の物流システムを統合して企業活動の成果を高めることを狙ったサプライチェーンについても、情報の流れを中心に仕組みを理解する。

英語討議技法 5年 2単位

Students will watch movies and have discussions with the topics introduced in the movies. In order to discuss these topics students should understand the story thoroughly. Students will learn how to express their opinions in English and gain cultural exposure. Students will reflect their learning by writing a movie review.

工学特論Ⅱ 5年 1単位

本学科のカリキュラムにおいて、実用的なソフトウェアシステムの開発能力を身につけることが主要な目的の一つとなっている。実用的なソフトウェアシステムを開発するには、情報分野の専門知識に加えて、顧客の業務知識、プロジェクトのマネージメント能力、コミュニケーション能力など様々な知識と能力を統合し、適材適所で活用できる必要がある。本科目では、工学概論Ⅰを発展させ、4年次の専門科目からテーマを選び、他の科目との関連性と、その関連性の理解の手助けとなるように、選んだテーマの背景・基本の理解を深める講義を行う。

システム開発演習Ⅱ 5年 2単位

インターネットの発達とグローバル化により、ソフトウェアシステムは、様々な国・文化・言語のユーザが利用することを前提としなければならない。本科目では、このようなグローバルな環境における実用的なソフトウェアシステムの開発能力を身につけることを目的とする。グローバル化に対応したソフトウェアシステムに必要な機能・要件とは何かを学び、その上で前年度までに習得したプログラミングの知識と技術・システム開発に必要な開発プロセス、これらの知識を応用し実践する演習を行う。

マーケティングⅡ 5年 2単位

現在のマーケティングでは、社会に散在するデータを集め、そこから意味ある情報を取り出し、製品やサービスの着想・販売促進などに結びつける能力が有用となっている。それを身につけるための知識と技術を学ぶ。特に、インターネットを用いたマーケティング情報の収集、統計手法を用いたマーケティング情報の整理・集約について学ぶ。そのうえで、整理・集約の結果からマーケティングに関する提案ができるようになることを目標とする。

修学について

学年・学期・休業日について	P.94
授業について	P.95
試験について	P.97
成績について	P.98
課題学修の単位認定について	P.100
プロジェクトの単位認定について	P.104
進級・卒業について	P.105
オタゴポリテクニク留学について	P.108
自然学苑教育	P.110
表彰・褒賞について	P.113
主な学校行事	P.114
部活動について	P.115
こころの相談(カウンセリングセンター)	P.118
キャンパス・ハラスメントについて	P.119
個人情報の保護について	P.121

学年・学期・休業日について

学年・学期

学年は4月1日から3月31日までをいい、前学期、後学期に分けられています。
また、1年間の授業を行う期間は、定期試験の期間を含め、35週にわたることが原則として定められています。

授業日・休業日

本年度の授業日・休業日は次のとおりです。

前学期授業日 2019年4月1日から9月24日まで
後学期授業日 2019年9月25日から2020年3月31日まで

夏期休業日 8月8日から9月23日まで
冬期休業日 12月26日から1月6日まで
学年末休業日 3月4日から3月31日まで

なお、上記休業日中に集中講義・補講などを実施することがあります。

緊急の変更に関する連絡方法について

台風、地震、大雪その他の理由により緊急に臨時休業あるいは授業開始時刻・終了時刻を変更する場合は、本校のホームページおよびメール配信にて連絡します。

【ホームページ】

<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/k.html>
(QRコード読み込みも可能です)



状況により、ホームページの更新ができない場合もありますので、承知おきください。

【メール配信】

年度ごと登録をお願いしております。登録の時期になりましたら本校より案内しますので、ご希望の方は案内に沿って登録ください。

授業について

授業時間

授業は各学級ごとに編成されている授業時間割に従い、1週間を区切りとして行われます。

時限	時間帯
第1限	8:40～10:20
第2限	10:35～12:15
昼 食	
第3限	13:15～14:55
第4限	15:10～16:50

授業時間割の変更

授業時間割に変更があるときは、その都度伝達します。

欠席・欠課の届け

単位を修得するためには、授業に出席することが前提となります。やむを得ない事情がある場合でも、欠課が定められた授業時間数の5分の1を超えた場合は単位が与えられません。

各授業開始時刻より後に入室する場合は遅刻、各授業終了時刻より前に退室する場合は早退とします。

欠席、欠課、遅刻をする場合は、必ず**午前8時～8時40分**の間に**保護者**が学校**(076) 248-1080**へ電話で届け出てください。

出席扱い

下記に該当する欠席、欠課は出席扱いとなりますので、担任に申し出てください。

慶弔による出席扱い

兄弟・姉妹の結婚	1日
父母、兄弟・姉妹の法要	1日
父母の忌引	7日
祖父母、兄弟・姉妹の忌引	3日
祖々父母、伯叔父母、従兄弟・従姉妹の忌引	1日
その他の家族の忌引	1日

その他の理由による出席扱い

公用によるもの
天災および交通機関の事故によるもの
国家試験・就職試験の受験によるもの
公認対外活動によるもの
上記以外に校長が認めたもの

授業について

出席停止および出席停止期間の基準

本校では、学校保健安全法に基づき下記の感染症に罹患した場合は登校できないことになっています（出席停止扱いとなり、欠席にはなりません）。医師の指示に従い療養され、医師より登校の許可が出てから、本校所定の「病欠証明書」（本校事務局にて配付）に医師が記入したもの、または医療機関発行の「診断書」を持参し、学級担任に提出してください。

分類	特徴	該当する感染症	出席停止期間
第1種	発生は稀だが重大な感染症	エボラ出血熱、クリミア、コンゴ熱、痘瘡、南米出血熱、ペスト、マールブルグ熱、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1型）、指定感染症、新感染症、新型インフルエンザなど感染症	治癒するまで。
第2種	飛沫感染し流行拡大の恐れがある感染症	インフルエンザ（鳥インフルエンザ（H5N1型）を除く）	発症した後（発熱の翌日を1日目として）5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで。
		百日咳	特有の咳が消失するまで、または5日間の適切な抗菌薬療法が終了するまで。
		麻疹	発疹を伴う発熱が解熱した後3日を経過するまで。
		流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで。
		風疹	発疹が消失するまで。
		水痘	すべての発疹が痂皮化するまで。
		咽頭結膜熱	主要症状が消退したあと2日を経過するまで。
		結核	病状により学校医その他医師において感染の恐れがないと認めるまで（目安として、異なった日の喀痰塗末検査の結果が連続して3回陰性となるまで）。
		髄膜炎菌性髄膜炎	症状により学校医などにおいて感染のおそれがないと認めるまで。
第3種	飛沫感染が主体ではないが流行性拡大の恐れがある感染症	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、急性流行性角結膜炎	病状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認めるまで。
		その他の感染症 ノロウイルス・ロタウイルス感染症、マイコプラズマ感染症 他	校長が学校医の意見を聞き期間を決定する。本校では発症後5日を原則とするが、症状により延長する場合もある。

試験について

授業科目の履修状況を評価し、単位を認定するための資料として試験が行われます。試験の種類には定期試験（学期末試験）、再試験、追試験、単位追認試験、その他の試験があります。

正当な理由なく試験を欠席した場合、または懲戒処分のため試験を欠席した場合、当該科目の試験の成績を0点とします。

なお、試験中不正行為をした者は、当該試験期間に行われるすべての科目の試験の成績が0点となります。不正行為により試験の成績を0点とした場合は、追試験、再試験の対象にはなりません。

定期試験

定期試験は、各学期末に行われます。

2019年度の定期試験日程は、次のとおりです。

前学期末試験	8月1日から8月5日まで
後学期末試験	1月29日から2月1日まで

再試験

再試験は、定期試験を実施した科目の評点が不合格であった者について実施することがあります。

追試験

追試験は、法定伝染病の罹患や部活動による対外試合など、やむを得ない事由によって定期試験を受けることのできなかった者に対して実施することがあります。

単位追認試験

単位追認試験は、進級が認められた者で、当該学年までに取得しているべき単位を取得できなかった科目について実施することがあります。

その他の試験

その他の試験は、中間テストや小テスト、成績不振者を対象とした補習テストなど、科目担当者が必要と認めた場合に実施することがあります。

成績について

単位

授業課程表には、各授業科目の授業時間数に対応する量を「単位」として表示してあります。原則として、50 分の授業を 30 回行くと 1 単位として計算します。このような方法で計算される単位を「履修単位」とよびます。なお、一部の科目については、50 分の学習 45 回分で 1 単位と計算します。ただし、45 回のうち 30 回分の学習は予習・復習・課題など授業時間外で行い、授業は 15 回行うことを標準とします。このような方法で計算された単位を「学修単位」とよび、一般に大学で用いられています。本年度「学修単位」によって単位計算を行う科目は以下のとおりです。

一般科目……………英語資格技術（4 年）、数理統計（5 年）
電気電子工学科科目……………応用物理Ⅰ（4 年）、応用物理Ⅱ（5 年）
グローバル情報学科科目……………工学特論Ⅰ（4 年）、工学特論Ⅱ（5 年）

なお、平成 29 年度にオタゴポリテクニクに留学した学生を対象とする以下の科目（4 年次受講）も「学修単位」に基づいて単位計算をします。

電気電子工学科科目……………電気回路Ⅱ、電気磁気学Ⅱ
機械工学科科目……………材料力学Ⅰ、機械製図演習
グローバル情報学科科目……………情報処理Ⅲ、ネットワーク基礎Ⅱ

※教育課程表に示される課題学修の単位数は別に定められています。

単位認定と成績評価

学業成績の評価は、試験の成績、平素の学習状況および出席状況等を総合し、学習支援計画書（シラバス）の評価方法に従って行います。

学業成績は、学期末に科目ごとに、それぞれの科目の担当教員が評価します。授業開講時間数の 5 分の 4 以上出席している者について、その科目の履修が終了したものと認め、学年末成績の評点が 60 点以上（平成 26 年度以前入学生については 50 点以上）の科目について、その科目の単位を修得したものと認定します。

この評価は次の区分により評定され、指導要録、および成績証明書などに記載されます。再試験や単位追認によって修得した科目の評点は 60 点（平成 26 年度以前入学生については 50 点）とします。

平成 27 年度以降入学生適用

成績の評価方法は、各授業科目の学習支援計画書に明記されています。また、科目の成績評価は、「S、A、B、C、D、F」の 6 種の評定で表し、「S、A、B、C」を合格、「D、F」を不合格とします。

評点	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0	0
評定	S (秀)	A (優)	B (良)	C (可)	D (成績不良)	F (出席不良)

平成 26 年度以前入学生適用

評点	100～80	79～60	59～50	49～0	F
評定	5 (優)	4 (良)	3 (可)	2 (不可)	F (出席不良)

GPA について

GPA (Grade Point Average) とは、個々の科目の成績評価に基づき、全履修科目における 1 単位当たりの成績評価の平均値を表すものです。これにより、全体的な成績評価として各学期終了時点での成績状況を確認できます。

個々の科目の成績評価が高ければ当然 GPA も高くなりますが、全履修科目を対象としていますので、履修許可を受けた科目は、確実に履修し単位修得に努める必要があります。

また、GPA による成績評価は、今後の修学指導における基礎資料となるばかりでなく、就職指導や大学への進学指導（大学への編入学推薦出願資格）における基礎資料ともなりますので、日々の学習に努力してください。

成績評価と GPA の算出方法

評定	評価ポイント
S (秀)	4 ポイント
A (優)	3 ポイント
B (良)	2 ポイント
C (可)	1 ポイント
D (成績不良)	0 ポイント
F (出席不良)	0 ポイント

$$\text{GPA} = \frac{(\text{評価ポイント} \times \text{単位数}) \text{ の総和 }}{\text{履修科目の総単位数}}$$

(注) GPA は、計算結果の小数点以下 3 桁目を四捨五入し、小数点以下 2 桁までとします。

成績通知

成績通知表は、前学期は 9 月の個別懇談会で保護者に直接、後学期は卒業・進級判定後に保護者あてに郵送します。

また、成績などで懇談の必要のある場合は、保護者に来校を願うことがあります。

課題学修の単位認定について

教育課程表に示される課題学修の単位は、通常の授業以外の資格試験取得や別に指定されたプロジェクト活動によって認定される専門の選択科目単位です。所定の申請書に必要事項を記入して申請することで、申請年度もしくは次年度の単位として認定されます。

認定単位数

各資格取得に対する認定単位数は別表1「課題学修による認定単位数－資格試験関係－」（以下「別表1」という。）に示されています。所属する学科によって当該資格が異なります。また、指定されたプロジェクト活動に対する認定単位数は別表2「課題学修による認定単位数－コンテスト関係－」（以下「別表2」という。）に示されています。

課題学修の単位認定には次の規則があります。

- 各学年で認定する単位数は資格試験関係とコンテスト関係を併せて3単位までとする。ただし、別表1の他学科の資格による認定は2単位を上限とする。
- 本校入学から3年次12月末までに課題学修の条件を満たし、同年度1月までに単位認定申請がされた資格は、審査を経て問題がなければ4年次（次年度）の課題学修単位として認める。（下図①）
- 本校入学から4年次12月末までに課題学修の条件を満たし、同年度1月までに単位認定申請がされた資格は、審査を経て問題がなければ5年次（次年度）の課題学修単位として認める。（下図②）ただし、3年次1月までに単位認定申請がされた資格については除く。
- 4年次1月以降5年次12月末までに課題学修の条件を満たし、同年度1月の所定の期日までに単位認定申請がされた資格は、審査を経て問題がなければ5年次の課題学修単位として認める。（下図③）

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
①	●		●▲	-----■	
②	●			●▲	-----■
③				●	●▲■

●：資格取得 ▲：課題学修単位認定申請 ■：課題学修単位認定

（資格試験関係の規則）

- 同一学年において級が異なる同種の試験に合格した場合は、上級の資格のみ対象とする。
- 4年次に単位が認められた資格試験の上級の試験に5年次に合格した場合は、差分の単位数のみ認定する。

（コンテスト関係の規則）

- 原則、正選手（出場選手）を対象とする。ただし、出場チームに正式に所属し、出場選手枠のために出場できなかったがチームへの貢献が大きい者に関しては、指導教員の推薦があり、審議で承認された場合は出場選手と同等に扱う。

単位認定の手続き

課題学修による単位認定を希望する場合は、当該年度の期日までに次の手続きを完了してください。

- ①クラス担任から「課題学修単位認定申請書」をもらい、所定事項を記入してください。
- ②申請書に当該資格試験の合格通知書・免状などの原本とコピー（コンテストの場合は関係資料）を添えて、クラス担任の確認を受け、確認印をもらってください。（原本は返却してもらって下さい。）
- ③クラス担任は申請書と添付書類を教務主事へ提出して下さい。

別表1 課題学修による単位の認定数 ―資格試験関係―（平成27年度以降入学生適用）

資 格 名		認定 単位数	電気電子 工学科	機械工学科	グローバル 情報学科
実用英語技能検定 （英検）	2 級	1			○
	準1 級	2			○
	1 級	3			○
工業英語能力検定	3 級	1	○	○	○
	2 級	2	○	○	○
	1 級	3	○	○	○
TOEIC	540～699	1			○
	700～899	2			○
	900 以上	3			○
実用数学技能検定	2 級	1	○	○	○
	準1 級	2	○	○	○
	1 級	3	○	○	○
CAD利用技術者試験	2次元CAD利用技術者試験基礎	1		○	
	2次元CAD利用技術者試験2級	2		○	
	2次元CAD利用技術者試験1級(機械)	3		○	
	3次元CAD利用技術者2級	2		○	
	3次元CAD利用技術者準1級	3		○	
	3次元CAD利用技術者1級	3		○	
機械設計技術者	3 級	2		○	
ドットコムマスターアドバンス	シングルスター	1	○		○
	ダブルスター	2	○		○
情報処理技術者	ITパスポート	2			○
	基本情報技術者	2	○	○	○
	その他情報処理技術者試験	2			○
情報技術検定	1 級	2	○		
デジタル技術検定	2級情報	1	○		
	2級制御	1	○		
	1級情報	2	○		
	1級制御	2	○		
電気通信の工事担任者	AI2種	1	○		
	AI1種	2	○		
	DD2種	1	○		
	DD1種	2	○		
	AI・DD総合種	3	○		
電気工事士	2種	1	○		
	c c c 1種	2	○		
電気通信主任技術者	伝送交換主任	2	○		
	線路主任	2	○		
陸上無線技術士	2 級	2	○		
	1 級	3	○		
電気主任技術者	3 種	2	○		
	2 種	3	○		
危険物取扱者	乙種（6類全て）	1		○	
	甲種	1		○	

別表2 課題学修による単位の認定数 ―コンテスト関係― (平成27年度以降入学生適用)

コンテスト名		認定 単位数	電気電子 工学科	機械工学科	グローバル 情報学科
全国高専ロボット コンテスト※1	全国大会出場	2	○	○	○
	全国大会入賞	3	○	○	○
全国高専プログラミング コンテスト※2	競 技 部 門	準々決勝進出	2	○	○
		入賞	3	○	○
		その他特例※3	1	○	○
	競 技 部 門 以 外	本選に出場	1	○	○
		何らかの賞を受賞 (敢闘賞を除く)	2	○	○
		最優秀・優秀賞	3	○	○
東海北陸地区小水力発電アイデア コンテスト	何らかの賞を受賞	1	○	○	○
その他のコンテスト	顧問、指導教員から推薦があった場合、教務委員会および学務会議 で審議し決定する				

※1、※2 5年生の卒業研究は除く。

※3 全国大会に出場し、指導教員により準々決勝進出相当の努力が認められた場合、審議で承認。

プロジェクトの単位認定について

教育課程表に示されるプロジェクトⅠ～Ⅳ（1～4年次）の単位は、通常の授業以外に単位認定に値すると思われる各専門分野に関連した活動（「課題学修」に規定されている資格取得やプロジェクト活動を除く）に対して認定される選択科目単位です。所定の単位認定申請書に必要事項を記入し必要資料を添付の上、申請することで申請年度の単位として認定されます。

プロジェクトⅠ～Ⅳの単位認定には次の規則があります。

- 各学年で認定する単位数は教育課程表の通り、1科目1単位までとする。
- 前年度の1月から当該年度12月までに行われた活動について、当該年度の1月の所定の期日までに単位認定申請書によって申請がなされた活動に対しては、教務委員会・学務会議の審査を経て問題がなければプロジェクトの単位として認める。
- 4年次の1月から3月までに行われた活動に対しては、所定の期間に単位認定申請書によって申請がなされた場合、教務委員会・学務会議の審査を経て、4年次のプロジェクト単位として認める場合がある。

単位認定の手続き

プロジェクトⅠ～Ⅳの単位認定の申請を行うものは、期日までに次の手続きを完了してください。

- ①クラス担任から「プロジェクト単位認定申請書」をもらい、所定の事項を記入してください。
- ②申請書に、活動内容、活動にかかる所要時間などを示す資料を添付し、科目担当者へ提出し書類の確認を受けた後に署名・捺印をもらってください。なお、科目担当者は各学科の学科長です。
- ③科目担当者の署名・捺印を受けた申請書と添付の資料を、クラス担任に提出し捺印を受けた後、教務主事に提出してください。

進級・卒業について

進級の要件

平素学生の本分を全うし、かつ勉学に精励したものと認められる者のうち、以下の条件をすべて満たしている者については、第1学年から第4学年までは、その学年の課程を修了したものと認定し、次学年に進級できます。

- 学則に定める各学年の最低修得単位を修得していること。
(最低修得単位については、p45～56 の教育課程表、単位認定については p98 を参照)
- 学則に定める特別活動の単位を修得していること。
- その年度中の欠席日数が、出席すべき日数の5分の1未満であること。

ただし、上記の項目のうち、学則に定める学年の最低修得単位を修得できなかった者については、修得科目の単位数が別表1に定める累積単位数以上である場合(平成26年度以前入学生の場合は、未修得科目数が3科目以下でかつその単位の合計が8単位以下である場合)、その学年の課程を修了したものと認定し、次学年への進級を認めます。

なお、未修得となった科目は、進級した学年の指定期日までに単位追認試験などにより単位を修得しなければなりません。修得できなかった場合は、次学年への進級ができません。単位修得の期日については、年度始めのオリエンテーション期間に教務主事から通達されます。

進級できずに原級に留められた者は、原則としてその学年の定められた科目のすべてを再履修しなければなりません。ただし、第4学年の科目「インターンシップⅠ」及び「インターンシップⅡ」は再修得する必要はありません。

別表1 累積単位数(平成27年度以降入学生適用)

学科 \ 学年	1年	2年	3年	4年	5年
電気電子工学科	26 (33)	61 (68)	94 (101)	127 (134)	167 (167)
機械工学科	26 (33)	58 (65)	91 (98)	125 (132)	167 (167)
グローバル情報学科	26 (33)	58 (65)	91 (98)	125 (132)	167 (167)

注意1) 下段()は修得最低単位合計

注意2) 累積単位数には「特別活動」及び「海外英語研修」の単位数を含めない。

注意3) 当年度開講の創造実験Ⅰ～Ⅳ、創造設計Ⅰ～Ⅳの単位を修得できなかった場合は、上記表によらず進級を認めない。(ただし、グローバル情報学科は創造実験Ⅳのみ)

卒業の要件

卒業は、平素学生の本分を全うし、かつ勉学に精励したものと認められる5年生のうち、以下の条件をすべて満たしている者について、校長が認定します。

- 学則に定める最低修得単位を修得していること。
(最低修得単位については、p45～56 の教育課程表、単位認定については p98 を参照)
- 学則に定める特別活動の単位を修得していること。
- その年度中の欠席日数が、出席すべき日数の5分の1未満であること。

本校の教育理念と教育目的に沿って設定された授業科目や教育プログラムを履修し、基準となる単位数を取得し、卒業を認められた者には、卒業証書を授与し、準学士（工学）の称号が付与されます。

第5学年の課程を1年間履修し、かつ卒業を認められない者は、第5学年の定められた科目をすべて再履修しなければなりません。

同一学年再履修の制限

同一学年の再履修は、1回を超えることはできません。

金沢工業大学への編入について

高等専門学校卒業生の上位課程並びに大学への編入制度

高等専門学校卒業生は希望と条件が合えば、上位の教育課程（高専専攻科、一般大学等）へ編入学することができます。本校では、建学綱領を共有する併設校である金沢工業大学への編入学を推進しています。

金沢工業大学への編入学の区分

1) 一般編入試験合格による編入学

金沢工業大学編入学試験を個人で受験し、合格した場合に、次年度の3年次（編入学科により2年次）に編入できます。

2) 校長推薦による編入学

学業及び学生生活において、優秀な成績を修めた者については次の推薦基準により校長推薦による編入制度があります。

- (1) 大学における教育に必要な学力を有すること。
- (2) 学生生活が良好なこと。
- (3) 学校長面接結果が良好なこと。

金沢工業大学編入と推奨する高専選択科目の一覧

本校から金沢工業大学に編入する場合、表3に示す本校の科目の単位を修得することで編入先の学科の単位が認定されます。

表3 金沢工大編入学先と取得すべき高専選択科目単位の一覧表

平成29年11月1日改訂

国際高専		金沢工大	修学基礎課程 (学部共通)	英語教育課程 (学部共通)	数理基礎教育課程 (学部共通)	各専門教育課程
機械工学科	3年次編入	工学部	文化・思想(5年)	上級英語Ⅰ (4年)		機械工学演習Ⅰ(4年) 工学特論Ⅰ(4年) 工学特論Ⅱ(5年) 数値計算演習(5年)
		航空システム工学科				機械工学演習Ⅰ(4年) 工学特論Ⅰ(4年) 工学特論Ⅱ(5年) 航空工学(5年)
		ロボティクス学科				機械工学演習Ⅰ(4年) 工学特論Ⅰ(4年) メカトロニクスⅠ(4年) メカトロニクスⅡ(4年) 数値計算演習(5年)
電気電子工学科	3年次編入	工学部	文化・思想(5年)	上級英語Ⅰ (4年)		計測工学(2年) 発変電工学(4年) パワーエレクトロニクス(4年) 電気法規と施設管理(4年) 電気機器(5年) 送配電工学(5年)
		電気電子工学科 (電子工学コース)				計測工学(2年) 発変電工学(4年) パワーエレクトロニクス(4年) 電気法規と施設管理(4年) 電気機器(5年) 送配電工学(5年)
グローバル情報学科	3年次編入	工学部	文化・思想(5年)	上級英語Ⅰ (4年)	数理統計(5年)	システム開発演習Ⅰ(4年) システム開発演習Ⅱ(5年)
		メディア情報学科			数理統計(5年)	システム開発演習Ⅰ(4年) システム開発演習Ⅱ(5年)
		情報フロンティア学部 経営情報学科			英語討議技法 (5年)	システム開発演習Ⅰ(4年) マーケティングⅠ(4年) インターンシップⅠまたはⅡ(4年) システム開発演習Ⅱ(5年) マーケティングⅡ(5年)

※()は高専での受講学年

オタゴポリテクニク留学について

留学期間

第3学年の4月下旬から翌年の3月中旬。

留学内容

本校の教育の一環として、提携校であるニュージーランドのオタゴポリテクニクで、同校教員による英語での授業を受講します。本校とオタゴポリテクニクが共同で作成したカリキュラムにより、英語のみならず、数学、物理や情報工学、電気工学、機械工学などの工学科目も学びます。

その他に、ニュージーランドの歴史と文化を学び、異文化への理解を深めます。

特長

- ① 従来の休学を余儀なくされてきた長期留学とは違い、本留学プログラムでは休学することなく留学ができます。
- ② 留学期間中は全員ニュージーランドの家庭にホームステイし、自立心を養います。
- ③ 本留学プログラムにおいて全ての科目に合格した場合は、本校3年次の単位が最大で30単位まで認定され（別表1）、4年次に進級できます。また、4月に行われる事前研修は、特別活動（1単位）として単位を認定します。
- ④ 本校3年次の最低修得単位に不足する科目（別表2）は、4年次在籍中に修得することができます。

別表1 平成27年度以降入学生適用

電気電子工学科			機械工学科			グローバル情報学科		
	科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数
一般科目	国語Ⅲ	2	一般科目	国語Ⅲ	2	一般科目	国語Ⅲ	2
	歴史Ⅱ	2		歴史Ⅱ	2		歴史Ⅱ	2
	線形代数Ⅱ	2		線形代数Ⅱ	2		線形代数Ⅱ	2
	微分積分Ⅱ	4		微分積分Ⅱ	4		微分積分Ⅱ	4
	物理化学Ⅲ	2		物理化学Ⅲ	2		物理化学Ⅲ	2
	保健体育Ⅲ	2		保健体育Ⅲ	2		保健体育Ⅲ	2
	総合英語Ⅲ	3		総合英語Ⅲ	3		総合英語Ⅲ	3
	英語スキルズⅢ	3		英語スキルズⅢ	3		英語スキルズⅢ	3
	人間と自然Ⅱ	1		人間と自然Ⅱ	1		人間と自然Ⅱ	1
専門科目	電気システム設計Ⅰ	2	専門科目	電子回路基礎	1	専門科目	プログラミング演習Ⅱ	2
	コンピュータⅢ	2		応用プログラミング	1		創造設計Ⅲ	2
	創造実験Ⅲ	3		創造設計Ⅲ	3		情報ビジネス英語Ⅰ	2
	デザインメソッドⅢ	1		デザインメソッドⅢ	1		デザインメソッドⅢ	1
				機械材料	2		ビジネス概論	1
合計 29			合計 29			合計 29		

本学則第26条に基づき留学し、CEE（Certificate in English and Engineering）プログラムを修了した4年次生を対象として開講する次表の定める授業科目は、1単位を15単位時間の授業をもって計算する授業科目とする。

別表2 平成27年度以降入学生適用

学科	授業科目
電気電子工学科	電気回路Ⅱ（2単位）、電気磁気学Ⅱ（2単位）
機械工学科	材料力学Ⅰ（2単位）、機械製図演習（2単位）
グローバル情報学科	情報処理Ⅲ（2単位）、ネットワーク基礎Ⅱ（2単位）

定員

最少人数12名で、最大30名まで。

選抜対象

本校の卒業を前提として、第2学年に在籍し、第3学年に進級見込みの者で、オタゴポリテクニクへの留学を強く希望する者。

スケジュール

- 1年次：留学説明会（9月中旬）、募集1回目（10月中旬）、
選抜審査【選抜試験・面接・成績など】（11月下旬）、
選抜審査検討（12月中旬）、選抜結果連絡（12月下旬）
- 2年次：募集2回目（10月中旬）、選抜審査【選抜試験・面接・成績など】（11月下旬）、
選抜審査・前年度選抜での保留者検討（12月中旬）、選抜結果連絡（12月下旬）、
留学準備【パスポート取得・入学願書作成など】（1月中旬）、経費納入（3月中旬）
- 3年次：留学生準備講座（4月上旬～出発まで）、出発（4月下旬）

選考方法

- 英語、数学、物理の基礎学力テスト
- 留学目標についての作文（日本語）
- 日頃の学習や生活態度に関する担任および外国人英語教員による評価
- 学科長と英語教員による面接

以上の結果をもって校長が総合的に選考します。

自然学苑教育

科目「人間と自然」

研修目標

豊かな自然の中で学生同士あるいは学生と教員が寝食を共にし、お互いの信頼関係を深めるとともに、規律ある生活やグループ活動を通し、思いやりと感謝の心を育み、倫理観を養い、チームワークやリーダーシップの大切さを学ぶ。また、生活関連行事などを通じ、日本人としての自覚を深める。

第3学年

海洋活動などのグループ活動を通し、自然への理解を深め、チームワークやリーダーシップを発揮するとともに団体生活を通じ思いやりの心を養いマナーなどを体得する。また校長講話を聴講し、学生生活のあるべき姿を考え、日本人としての誇りおよび自覚を深める。

第4学年

新潟県池の平の自然あふれる環境の下で合宿を行い、自然への理解を深めるとともに級友との友情を深める。また、自らの将来像、卒業時の到達目標並びに目標到達のための計画などについて真剣に考え、明確に述べられるようにする。これまでの研鑽をまとめ、社会でその成果を発揮するために、各自が専攻する分野での先輩の経験を学ぶとともに、研究の意義、研究の進め方、発表の仕方について考え、学ぶ。

穴水湾自然学苑

〒927-0025 石川県鳳珠郡穴水町由比ヶ丘 TEL.0768-52-1279

池の平セミナーハウス

〒949-2112 新潟県妙高市関川 2275-5 TEL.0255-70-2005

2019年度 第3学年 研修日程の一例

	第1日目	第2日目	第3日目
9	8:30 学校集合・出席確認・健康確認 8:40 学校出発	6:30 起床 6:50 点呼 7:00 朝の集い 7:20 清掃 7:50 朝食 9:00 海洋活動 (帆走) (洋上オリエンテーリング)	6:30 起床 6:50 点呼 7:00 朝の集い 7:20 清掃 7:50 朝食 9:00 校長講話
10			9:45 研修レポートの作成
11	11:00 穴水湾自然学苑到着 11:20 入苑式・健康調査		10:30 清掃・点検 10:45 退苑式 11:00 昼食
12	12:00 昼食	12:00 昼食	11:50 穴水自然学苑出発
13	13:00 オリエンテーション	13:20 海洋活動 (帆走) (洋上オリエンテーリング)	
14	13:45 苑長講話		14:00 学校到着 解散
15	14:50 海洋活動説明		
16	15:40 室長・艇長への説明		
17	16:50 タベの集い 入浴(～19:00)	16:50 タベの集い 入浴(～19:00)	
18	18:00 夕食(～19:00)	18:00 夕食(～19:00)	
19			
20	19:30 クラスミーティング	19:30 海洋活動反省会 (発表)	
21			
22			
23	22:45 点呼・点検 23:00 消灯	22:45 点呼・点検 23:00 消灯	

※天候不良などによる海洋活動中止の場合は、別日程となる。

2019年度 第4学年 研修日程の一例

	第1日目	第2日目	第3日目
		6:30 起床 7:00 朝の集い 7:20 各分担の清掃 8:00 朝食	6:30 起床 7:00 朝の集い 8:00 朝食
9		9:00 研修(2) グループ活動(学科別企画)	9:00 自室清掃
10			10:00 研修(5) 講演
11			11:30 昼食
12	12:00 学校集合・出席確認 12:30 学校出発	12:00 昼食	12:30 池の平セミナーハウス出発
13		13:10 研修(3) グループ活動(学科別企画)	
14			
15			
16	16:10 池の平セミナーハウス到着 入苑式・オリエンテーション 16:30 入浴	16:00 入浴	16:00 学校到着 解散
17			
18	18:00 夕食(～19:00)	18:00 夕食(～19:00)	
19			
20	19:30 研修(1) グループミーティング	19:30 研修(4) グループミーティング	
21			
22	21:30 点呼・点検	21:30 点呼・点検	
23	23:00 消灯	23:00 消灯	

表彰・褒賞について

本校の教育方針に基づき、正課および課外活動において優秀な成果を修めた本校学生に対し表彰・褒賞を行います。表彰・褒賞を受ける学生は、本校教職員の推薦により校長が決定し、表彰状または褒状を授与します。また、表彰・褒賞を行う方式、時期については、校長がその都度定めます。なお、その対象となる主たる項目は次のとおりです。

授業の出席に関して

- 5 か年間皆勤または精勤であった者。
- 1 か年間皆勤であった者。

学業の成績に関して

- 5 か年間特に成績優秀であった者。
- 1 か年間特に成績優秀であった者。
- 1 か年間、各教科で特に学習態度が真剣で、成績優秀であった者。

自学自習に関して

- 資格試験などに合格し、本校の声価を高めた者。
- 本校が主催する懸賞図案、作文、論文などで好成績を修めた者。

部活動に関して

- 5 か年間皆勤または精勤であった者。
- 1 か年間皆勤または精勤であった者。
- 全国大会または北陸地区大会で優秀な成績であった者。
- 5 か年間特に部活動または学生会など（個々の行事を含む）の活動で貢献の顕著であった者。
- 部活動または学生会などの活動で貢献の顕著であった者。

学生生活に関して

- 本校学生として模範的行為のあった者。
- 学生生活において、本校の名誉を高めた者。
- 心身、環境などの悪条件に打ち勝ち成業した者。

学生生活全般に関して

- 5 か年間特に学業および課外活動の両面において優秀であった者。
- 学業および課外活動の両面において特に優秀であった者。
- 善行のあった者。
- 地域連携活動において特に優秀であった者。

主な学校行事

オリエンテーション

本校学生としての生活のあり方や目標を定めるためのオリエンテーション（勉学の方法、教育課程、部活動、学生会などの説明）を行います。これにより意義ある学生生活を期待します。

校内体育祭・球技大会

校内体育祭・球技大会は、体力と気力を養うと共に友情を培うことを目的に実施されるイベントです。

全国高等専門学校体育大会

全国の高専におけるスポーツの振興と心身の健全な発達を図るとともに、高専相互の親睦を図ることを目的として行われます。毎年8月、全国高等専門学校連合会主催で、全国57校を8ブロックに分け、各ブロックの予選での上位入賞者で全国大会が行われます。

本校は富山、石川、福井の各高専とともに北陸地区のブロックに属し、北陸地区高等専門学校体育大会に出場します。

企業見学

企業見学では、実際に県内外の企業・工場などを訪問し、技術の現場を直接自分の目で見、またそこで働く人々の話を聞いて、エンジニアとしての夢を育み、学習への意欲を向上させます。

吹奏楽部定期演奏会

例年、吹奏楽部は秋に定期演奏会を開催しています。音楽を通じて学校と地域の方々との触れ合いを深め、文化の向上に寄与しています。

高専祭

学生行事で一番大きなイベントが、10月に行われる文化の祭典である高専祭です。工業立国日本の将来の担い手として、日夜研鑽を重ねている学習などの成果を、学校外に公開する年1回の行事です。内容は卒業研究紹介、実験・実習、各種展示、文化部活動の紹介、模擬店などを盛大に一般公開します。

校内意見発表会

各クラスから選ばれた代表が、苦労したこと、体験したこと、感激したことなど日ごろの思いや考えを全学生の前で発表します。

海外修学旅行

4年生の秋学期に実施される原則として全員参加の1週間のシンガポール修学旅行では、本校の協定校であるシンガポール理工学院との交歓をはじめとする盛りだくさんの日程を通して視野を広め、新時代を担うエンジニアとしてのセンスを養います。

部活動について

部活動の意義と活動のすすめ

正課の授業による人間形成は意義あるものですが、一方部活動は教室では得ることが出来ない大切な一面を有し、大きな教育的効果が期待できます。

部活動は、自主的な集団活動により、心身ともに健全な学生を育成する極めて重要な教育活動です。学級や学年の枠を越え、しかも縦・横の人間関係の体験、部員としてリーダーとしての体験、また指導教員の人間性に触れていくことによって、全人格形成を目指すことができ、一層充実した学生生活にすることができます。さらに一週間に一度、特に積極的な活動を推進する「部活動の日」が定められています。

以上の意義により、本校では部活動をおおいに奨励し、特に1、2、3年生においては全員が部活動に参加しなければいけません。

活動の活性化と部の所属について

部活動は、自主的、自律的な精神に満ちた人間形成の場であり、運動部では試合、練習試合を多くすることによって、また、文化部では、展示会、発表会を催したり、コンテストなどに出場することによって活動を活性化できます。

しかし、部活動は集団活動であるので、部員数が部の存続に直接影響を与えます。一つの部に部員が集中しすぎたり、逆に少なくとも活動に支障をきたしますので、この弊害を解消するため、新入生の部の所属については、新入生に所属したい部の希望をとり、顧問教員の要望も考慮して決定しています。

部活動・プロジェクトに関する行事

全国高等専門学校体育大会（全国高等専門学校体育大会、東海・北陸地区代表決定戦、北陸地区高等専門学校体育大会）

高専教育の一環として、学生にひろくスポーツ実践の機会を与え、技能の向上とアマチュアスポーツ精神の高揚を図り、心身ともに健康な学生を育成することを目的に、毎年8月に行われています。

全国を8地区のブロックに分け、8地区からの代表が全国大会に出場することになっています。

本校は東海・北陸地区のブロックに所属しており、この代表権を得るための北陸地区高等専門学校体育大会が、富山、石川、福井、本校の各高専が参加して、毎年7月に行われています。

全国高等学校体育大会（石川県高等学校体育大会）

1、2、3年生の運動部員は高等学校体育大会への参加が可能であり、多くの部が春と秋の大会に出場しています。

文化部の発表と吹奏楽部定期演奏会

毎年10月、高専祭の一環として各文化部の発表が行われています。吹奏楽部は定期演奏会を行い、学校内外に日ごろの練習の成果を発表しています。

夢考房プロジェクトの高専ロボットコンテスト

高等専門学校の学生たちが同じ課題のロボット製作に取り組み、その成果を競い合う「アイデア対決ロボットコンテスト」に毎年出場し、ユニークな「発想力」と「独創性」を養っています。

電子計算機部の高専プログラミングコンテスト

情報処理技術において、優れたアイデアと実現力を競う「高等専門学校プログラミングコンテスト」に毎年出場し、成果をあげています。

部活動名、顧問教員および監督コーチ

部活動活性化委員 瀧本明弘

部	顧問名	監督・コーチ
陸上競技	○谷口萌未、金井 亮	
バスケットボール	○津田明洋、中泉俊一	
テニス	○上田清史、宮野 肇、木原 均	丸田豊司
野球	○藤島悟志、瀧本明弘（兼）	
サッカー	○宮野純光、松下臣仁、大崎富雄	
卓球	○兒玉浩一、南出章幸	
バドミントン	○直江伸至、坂井仁美	
水泳	○藤澤 武、竹俣一也	
剣道	○小間徹也、ジャスティン・ハン	
ハンドボール	○瀧本明弘、イアン・スティーブンソン、 袖 美樹子	
吹奏楽	○坂倉忠和	米森信夫
放送・無線	○今澤明男、千徳英一	
電子計算機	○田村景明	
写真	○土地邦生、ロバート・ソング	
美術	○小高有普	
ハンズオン	○伊藤恒平	
ネイチャー&アドベンチャー	○山崎俊太郎、湯辺 豊、 フィリップ・ケザウ、山下和樹	尾張由輝也
ランゲージ&カルチャー	○ポーリン・ベアード、 イアン・スティーブンソン、大原しのぶ	
デザイン&ファブリケーション	○伊勢大成、伊藤 周、カー・ケン・タン	

バレーボール部、ソフトテニス部、柔道部、スキー部、囲碁・将棋部を休部とする。

○印は主任顧問

プロジェクト

プロジェクト	顧問名
ロボコン	○林 道大、○諸谷徹郎、井上恵介、伊勢大成、 ハヤト・オガワ、梅野清一郎
プロコン	○田村景明、藤澤 武、伊藤 周、ロバート・ソング
デザコン	○金井 亮、坂井仁美
英語プレゼンテーション	○大原しのぶ、イアン・スティーブンソン

特別講座

講座	顧問名	講師
華道講座	○宇都宮隆子、黒田譜美、ジャスティン・ハン	南川穂和

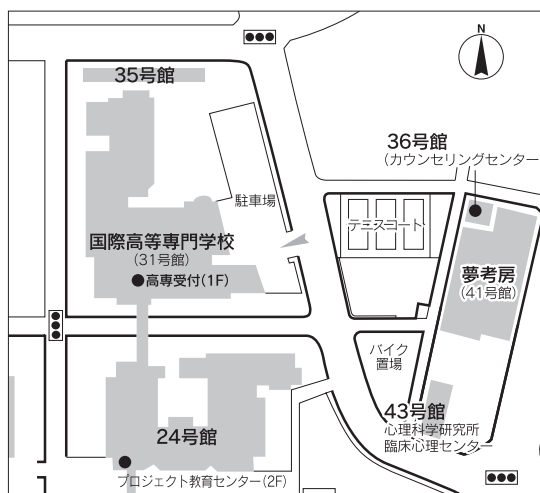
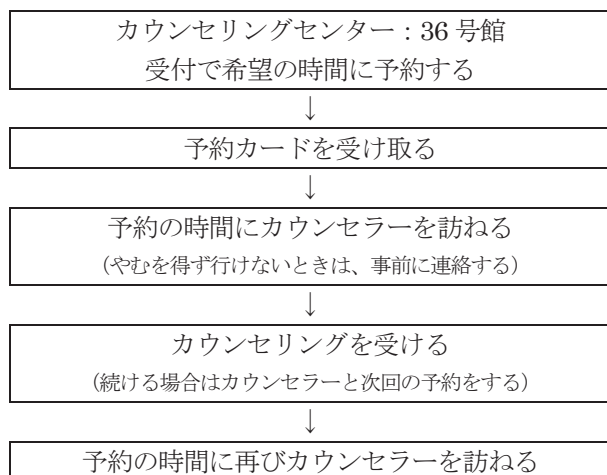
こころの相談（カウンセリングセンター）

本校では、みなさんが有意義な学生生活を送れるようにカウンセリングセンターを設け、学生生活をサポートしています。みなさんが日常生活を送るうえで、いろいろな悩み、不安、困ったことが生じたとき、専門のカウンセラーの先生が相談に応じてくれます。

「こんなことを相談してもいいのだろうか」とためらわず、気軽に相談してください。相談内容については、秘密が守られています。

受付と相談は、36号館（下図参照）で行っています。必要に応じて本校校舎内での相談も可能です。

カウンセラーと話すまでの方法



■カウンセリング予約受付時間

月曜日～金曜日…12：00～17：00

※原則予約制です。

■カウンセリングを受けられる時間

月曜日～金曜日…13：00～19：00

(木曜日……………13：00～17：00)

土曜日…………… 8：30～13：00

※休祭日はお休みします。土曜日はあらかじめ休館日が決まっています。

※学園行事などにより、開館日および時間が変更になる場合があります。

※長期休業中のカウンセリング受付についてはお問い合わせください。

キャンパス・ハラスメントについて

教育や研究、業務における教職員や学生の不適切な発言・行動で、精神面を含めて、された側の勉学や研究に支障を生じたり、その環境を悪化させることを、「キャンパス・ハラスメント」と言います。性差別や性的嫌悪感が元になるいわゆるセクシャル・ハラスメント、教育・研究に関連して生じるアカデミック・ハラスメントと呼ばれるものもこれに含まれます。単位の認定や成績評価、あるいは研究指導、就職の斡旋などにおいて、地位を利用するなどして相手に不利益や逆に不当な利益を与える対価型と、勉学や研究開発を悪化させる発言や行動をする環境型とがあります。

【対価型】

例えば…

- 個人的な欲求から、学生の利益または不利益を感じさせるような状況で性的なことを要求する。
- 学生に、本来の範囲を超えて勉学や研究を強要したり、不必要に相手を拘束する。
- 指導に従わない学生に暴言や暴力的な行為、意図的な無視をする。
- ことさらに威圧的、権威的、威嚇的な言動（電話やメールを含む）を行う。

【環境型】

例えば…

- 学生の気持ちに反し、プライベートについての質問や発言をする。
- 学生の個人的能力や身体的機能、性的指向などへ配慮を欠いた発言をする。
- 特定の学生を傷つける発言をしたり、故意に噂を流す。
- 性の商品化を助長するような絵や写真を見せたりする。
- 教室や研究室で不必要に学生の身体に触る。
- 性的または下品な冗談を言ったり、性的な服従を迫る。

これって、キャンパスハラスメント？

ケース① 授業中に先生が、いかがわしい冗談をいった。

周囲に合わせて笑っていたとしても、内心で嫌悪している場合は、キャンパス・ハラスメントに当たります。また、「部活でメンバーが必要以上に身体に触ってくる」などの、学生同士の間で発生するケースも含まれます。

ケース② 「男は家庭を背負う立場。しっかり勉強しろ」と言われた。

学問研究や、教育の立場においての誤った観点による性差別発言や行動である、「アカデミック・ハラスメント」の典型といわれるケースです。これは男性・女性どちらからでも、また同性間であっても対象になります。

ケース③ 先生の指示に従わなかったら以後、助言してくれない。

指導に従わない学生に対しての意図的な無視や暴言もハラスメントにあたります。学生にことさら威圧的、権威的な言動をとったり、暴力的な行為、相手の人格もしくは身体を傷つける行為に至るケースも含まれます。

ケース④ 私生活のことをしつこく尋ねられた。

相手の意に反し、もしくは同意なしにプライバシーについての質問や発言をする。一見、気づきにくい例かもしれませんが、これもハラスメントになります。特定の相手を誹謗・中傷したり、風評を流すことも含んでいます。

ひとりで悩まないこと。それが解決の近道です。

もしあなたが、学生生活を送るうえで、誰かの言動を「ハラスメントだ」と感じたら、その気持ちを言葉と態度ではっきり伝えてください。そして「ノー」と言えなくても、決してひとりで悩みを抱え込まないでください。国際高専には専属のカウンセラーがいます。あなたの悩みを親身に聞き、解決するための方法を一緒に考えていきます。

あなたが安心して学べる環境をつくるために。

自分ひとりで相談するのは不安。そんな時は親しい友人といっしょに相談しても、第三者や代理人でも大丈夫です。相談員はあなたのプライバシーをしっかりと守り、相談員以外への情報提供が必要な場合は、必ずあなたの承諾を得たうえでそれを行います。相談だけで解決しない場合は、必要な調停や措置を取り、安心して学べる環境を取り戻します。

個人情報保護について

情報通信技術の著しい発展は、社会一般に急速なインターネットの普及をもたらし、新たな技術や知の創造に大きく貢献しています。社会は、情報を基盤とした高度情報化が進み、大量の情報の流通と瞬時の処理が当然の事象となっています。

今般の高度情報化社会において、情報の重要性がことさらの高まりを見せるなか、特に、在学生をはじめとしてその保護者や卒業生、受験生、教職員などにかかわる個人情報を適正に取り扱うことは、本学および本学が設置する金沢工業大学および国際高等専門学校（以下「本学園」という。）にとって極めて重要と認識しており、それら個人情報の適切な利用と保護は当然の社会的責務と受け止めております。

ついては、高度情報通信社会における個人情報保護の重要性に鑑み、以下の方針に基づき個人情報の保護に努めることを宣言します。

1. 本学園は、個人情報の取扱いにおいて、個人情報の保護に関する法律その他関係法令を遵守します。
また、「個人情報の保護に関する規則」「情報セキュリティ・ポリシー」を策定し、これを、本学園すべての教職員及び関係者に周知徹底して遵守し、継続的な改善に努めます。
2. 本学園は、個人情報を適法かつ公正な手段によって取得します。
3. 本学園は、個人情報の取得に際し明示した利用目的に沿って、適切に個人情報を取り扱います。
4. 本学園は、個人情報を第三者との間で共同利用し、又は個人情報の取扱いを第三者に委託する場合には、当該第三者につき厳正な調査を行ったうえ、秘密保持のために適正な監督を行います。
5. 本学園は、法令等に定めるものを除き、事前に本人の同意なく個人情報を第三者に提供しません。
6. 本学園は、個人情報を安全かつ正確に管理するため、個人情報への不正アクセス、コンピュータウイルス等に対する適正な情報セキュリティ対策を講じ、個人情報の紛失、破壊、漏えい、改ざんなどを防止します。
7. 本学園は、本人から自己の個人情報についての開示、訂正、利用停止、削除等の要求があった場合には、速やかに対応し適正な措置を講じます。

【個人情報の取り扱いに関する問い合わせ先】

国際高専事務局

電話 076 - 248 - 1080

資格試験について

2019 年度資格試験スケジュールP.124
本校が取得を奨励する資格P.126
認定校：第 2 種電気主任技術者P.127
科目認定校：第 2 級陸上無線技術士P.129
科目認定校：工事担任者P.130
科目認定校：第二種電気工事士P.135
第 3 級機械設計技術者P.136
基本情報技術者P.137
IT パスポート (i パス)P.138

2019年度資格試験スケジュール

年	月	資 格	試験日	学内受付期間	備 考
2019年度	4月	MOS(Microsoft Office Specialist) ●EXCEL/WORD他 (第1回)	27日(土) (予定)	4月上旬	自己開発センターで受付
	5月	MOS(Microsoft Office Specialist) ●EXCEL/WORD他 (第2回)	25日(土) (予定)	5月上旬	自己開発センターで受付
		工事担任者 ●DD1～3種/AI1～3種/総合種 (第1回)	26日(日)	1月下旬 ～ 2月上旬	自己開発センターで受付
		工業英語能力検定 ●準2級～4級 (第1回)	26日(日) (予定)	4月中旬	自己開発センターで受付
	6月	2級施工管理技術検定 ●管工事(学科のみ) (第1回)	2日(日)	3月上旬	★ 事前に願書予約を行い各自で出願する
		★ 第二種電気工事士 ●筆記試験 (上期)	2日(日) 技能試験 7月21日(日)	3月中旬	自己開発センターで受付
		映像音響処理技術者資格認定	2日(日)	4月中旬	自己開発センターで受付
		実用英語技能検定 ●2級～3級 (第1回)	2日(日) 二次 7月7日(日)	4月中旬	自己開発センターで受付
		日本語検定 ●2級～3級 (第1回)	8日(土)	4月中旬	自己開発センターで受付
		日商簿記検定 ●1級～3級 (第1回)	9日(日)	4月中旬	自己開発センターで受付
		危険物取扱者 ●甲種/乙種 (第1回)	9日(日)	4月上旬	自己開発センターで受付
		特殊無線技士 ●陸上/航空/海上 (第1回)	11日(火)～13日(木) (予定)	4月中旬	自己開発センターで配布 願書配布のみ
		カラーコーディネーター検定 ●2級～3級 (第1回)	16日(日)	4月上旬	自己開発センターで受付
		CAD利用技術者 ●2級 (第1回)	16日(日) (予定)	4月下旬	自己開発センターで受付
		日本漢字能力検定 ●2級～3級 (第1回)	16日(日) (予定)	4月中旬	自己開発センターで受付
		秘書技能検定 ●準1級～3級 (第1回)	16日(日)	4月中旬	自己開発センターで受付
		情報技術検定 ●1級～3級 (第1回)	21日(金) (予定)	4月中旬	高専事務局で受付
		実用数学技能検定 ●準1級～3級 (第1回)	22日(土) (予定)	4月中旬	自己開発センターで受付
		Javaプログラミング能力試験 ●2級～3級 (第1回)	22日(土) (予定)	5月上旬	自己開発センターで受付
		デジタル技術検定 ●2級～4級 (第1回)	23日(日)	4月下旬	自己開発センターで受付
		ドイツ語技能検定 ●2級～4級 (第1回)	23日(日) (予定)	4月上旬 ～ 5月中旬	KITブックセンターで願書配布
		中国語検定 ●準1級～準4級 (第1回)	23日(日) (予定)	4月中旬 ～ 5月中旬	KITブックセンターで願書配布
		MOS(Microsoft Office Specialist) ●EXCEL/WORD他 (第3回)	29日(土) (予定)	6月上旬	自己開発センターで受付
	7月	消防設備士 ●甲種/乙種 (第1回)	7日(日)	4月下旬 ～ 5月上旬	自己開発センターで受付
		電気通信主任技術者 ●伝送交換/線路 (第1回)	7日(日) (予定)	4月下旬	自己開発センターで配布 願書配布のみ
		陸上無線技術士 ●1級～2級 (第1回)	9日(火)～12日(金) (予定)	5月中旬	自己開発センターで配布 願書配布のみ
		CG-ARTS検定 ●エキスパート/ベーシック (第1回)	14日(日)	4月下旬	自己開発センターで受付
		★ 第二種電気工事士 ●技能試験 (上期)	21日(日)	3月中旬	自己開発センターで受付
		知的財産管理技能検定 ●2級～3級 (第1回)	21日(日)	4月下旬	自己開発センターで受付
		3次元CAD利用技術者 ●1～2級 (第1回)	21日(日) (予定)	5月下旬	自己開発センターで受付
	8月	MOS(Microsoft Office Specialist) ●EXCEL/WORD他 (第4回)	3日(土) (予定)	7月上旬	自己開発センターで受付
		★ 第三種電気主任技術者	31日(土)	5月下旬	自己開発センターで受付
	9月	品質管理検定(QC検定) ●2級～4級 (第1回)	1日(日)	6月上旬	自己開発センターで受付
		MOS(Microsoft Office Specialist) ●EXCEL/WORD他 (第5回)	20日(金) (予定)	8月上旬 ～ 下旬	自己開発センターで受付
	10月	第一種電気工事士 ●筆記試験	6日(日) 技能 12月8日(日)	6月中旬	自己開発センターで受付
		★ 第二種電気工事士 ●筆記試験 (下期)	6日(日) 技能 12月8日(日)	7月中旬	自己開発センターで受付
		実用英語技能検定 ●2級～3級 (第2回)	6日(日) 二次 11月10日(日)	7月中旬 ～ 下旬	自己開発センターで受付
		公害防止管理者 ●主任管理者/騒音・振動/水質他	6日(日) (予定)	7月上旬	自己開発センターで受付
		技術士補 ●技術士一次試験	13日(日)	6月中旬	★ 事前に願書予約を行い各自で出願する
		★ 宅地建物取引士	20日(日)	7月中旬	自己開発センターで受付
		情報処理技術者 ●基本情報他 (第1回)	20日(日)	7月中旬	自己開発センターで受付
		特殊無線技士 ●陸上/航空/海上 (第2回)	22日(火)～24日(木) (予定)	8月上旬 ～ 中旬	自己開発センターで配布 願書配布のみ
		日本漢字能力検定 ●2級～3級 (第2回)	26日(土) (予定)	7月中旬 ～ 下旬	自己開発センターで受付
		MOS(Microsoft Office Specialist) ●EXCEL/WORD他 (第6回)	26日(土) (予定)	10月上旬	自己開発センターで受付
		ボイラー技士 ●2級	27日(日) (予定)	8月上旬 ～ 下旬	自己開発センターで受付

資格取得について／本校には資格取得に有利という大きなメリットがあります。情報処理技術者、電気工事士などさまざまな資格を持っていると、実社会に出たときに非常にプラスになります。本校ではこれらの資格の中で、第2種電気主任技術者、第2級陸上無線技術士、工事担任者、第2種電気工事士の認定校となっているため、本校の授業の中で、認定基準に規定する科目の単位取得により、申請でこれらの資格の取得ならびに試験科目の免除ができます。(平成29年度入学生まで)

なお、本校では多くの学生が資格取得できるように、自己開発センターが講習会を開いているものもあります。

(※実施にあたり日程を一部変更する場合があります)

年	月	資 格	試験日	学内受付期間	備 考
2019年度	11月	消防設備士 ●甲種／乙種 (第2回)	4日 (祝)	8月上旬 ～ 下旬	自己開発センターで受付
		日本語検定 ●2級～3級 (第2回)	9日 (土)	7月中旬 ～ 下旬	自己開発センターで受付
		CAD利用技術者 ●2級 (第2回)	9日 (土) (予定)	10月上旬	自己開発センターで受付
		2級施工管理技術検定 ●電気工事／建築 (第2回)	10日 (日)	6月下旬 ～ 7月上旬	★ 事前に願書予約を行い各自で出願する
		秘書技能検定 ●準1級～3級 (第2回)	10日 (日)	9月下旬	自己開発センターで受付
		工業英語能力検定 ●準2級～4級 (第2回)	10日 (日) (予定)	10月上旬	自己開発センターで受付
		MOS (Microsoft Office Specialist) ●EXCEL／WORD他 (第7回)	16日 (土) (予定)	10月下旬	自己開発センターで受付
		実用数学技能検定 ●準1級～3級 (第2回)	16日 (土) (予定)	9月下旬 ～ 10月上旬	自己開発センターで受付
		2級施工管理技術検定 ●管工事 (第2回)	17日 (日)	7月上旬	★ 事前に願書予約を行い各自で出願する
		★機械設計技術者 ●3級	17日 (日)	7月中旬 ～ 下旬	自己開発センターで受付
		日商簿記検定 ●1級～3級 (第2回)	17日 (日)	9月下旬 ～ 10月上旬	自己開発センターで受付
	12月	知的財産管理技能検定 ●2級～3級 (第2回)	17日 (日) (予定)	9月下旬	自己開発センターで受付
		工事担任者 ●DD1～3種／AI1～3種／総合種 (第2回)	24日 (日)	7月中旬 ～ 下旬	自己開発センターで受付
		CG－ARTS検定 ●エキスパート／ベーシック (第2回)	24日 (日)	9月下旬 ～ 10月上旬	自己開発センターで受付
		中国語検定 ●1級～準4級 (第2回)	24日 (日) (予定)	9月中旬 ～ 10月上旬	KITブックセンターで願書配布
		デジタル技術検定 ●1級～4級 (第2回)	24日 (日) (予定)	9月下旬 ～ 10月上旬	自己開発センターで受付
		★危険物取扱者 ●甲種／乙種 (第2回)	30日 (土)	9月下旬 ～ 10月上旬	自己開発センターで受付
		カラーコーディネーター検定 ●1級～3級 (第2回)	1日 (日)	9月下旬 ～ 10月上旬	自己開発センターで受付
		ドイツ語技能検定 ●1級～4級 (第2回)	1日 (日) (予定)	9月上旬 ～ 10月中旬	KITブックセンターで願書配布
		★第一種電気工事士 ●技能試験	8日 (日)	6月中旬	自己開発センターで受付
		★第二種電気工事士 ●技能試験 (下期)	8日 (日)	7月中旬	自己開発センターで受付
		3次元CAD利用技術者 ●1～2級 (第2回)	8日 (日) (予定)	10月中旬	自己開発センターで受付
	1月	MOS (Microsoft Office Specialist) ●EXCEL／WORD他 (第8回)	14日 (土) (予定)	11月下旬	自己開発センターで受付
		陸上無線技術士 ●1級～2級 (第2回)	14日 (火) ～ 17日 (金) (予定)	11月上旬	自己開発センターで配布 願書配布のみ
		情報技術検定 ●1級～3級 (第2回)	17日 (金) (予定)	9月下旬	高専事務局で受付
		Javaプログラミング能力試験 ●2級～3級 (第2回)	25日 (土) (予定)	11月下旬 ～ 12月上旬	自己開発センターで受付
		工業英語能力検定 ●2級～4級 (第3回)	25日 (土) (予定)	12月上旬	自己開発センターで受付
		MOS (Microsoft Office Specialist) ●EXCEL／WORD他 (第9回)	25日 (土) (予定)	1月上旬	自己開発センターで受付
		実用英語技能検定 ●2級～3級 (第3回)	26日 (日) 二次 3月1日 (日)	11月下旬 ～ 12月上旬	自己開発センターで受付
		電気通信主任技術者 ●伝送交換／線路 (第2回)	26日 (日) (予定)	10月中旬 ～ 下旬	自己開発センターで配布 願書配布のみ
		特殊無線技士 ●陸上／航空／海上 (第3回)	7日 (金) ～ 9日 (日) (予定)	12月上旬	自己開発センターで配布 願書配布のみ
		危険物取扱者 ●甲種／乙種 (第3回)	9日 (日)	12月上旬	自己開発センターで受付
		2月	秘書技能検定 ●2級～3級 (第3回)	9日 (日)	12月上旬
	実用数学技能検定 ●準1級～3級 (第2回)		15日 (土) (予定)	12月上旬	自己開発センターで受付
	MOS (Microsoft Office Specialist) ●EXCEL／WORD他 (第10回)		15日 (土) (予定)	1月下旬	自己開発センターで受付
	日本漢字能力検定 ●2級～3級 (第3回)		16日 (日) (予定)	11月下旬	自己開発センターで受付
	日商簿記検定 ●2級～3級 (第3回)		23日 (日)	1月中旬	自己開発センターで受付
	消防設備士 ●甲種／乙種 (第3回)		1日 (日)	12月上旬	自己開発センターで受付
	知的財産管理技能検定 ●2級～3級 (第3回)		1日 (日) (予定)	12月上旬	自己開発センターで受付
	品質管理検定 (QC検定) ●2級～4級 (第2回)		15日 (日)	11月下旬 ～ 12月上旬	自己開発センターで受付
	3月	中国語検定 ●準1級～準4級 (第3回)	22日 (日) (予定)	1月中旬 ～ 2月中旬	KITブックセンターで願書配布
		情報処理技術者 ●基本情報他 (第2回)	19日 (日) (予定)	1月中旬	自己開発センターで受付
	4月				

※TOEICは平成25年4月分より、インターネット又は、コンビニエンスストアでの個人申込に変わりました。

★マークの付いた資格試験は講習会を開催予定

学内願書受付期間は、事務手続きに日程を要するため、主催者側の締め切り日より早くなっています。試験日程や受付期間をよく確認し申し込みをしてください。

本校が取得を奨励する資格

資格を取得していると、実社会に出たときに非常にプラスになる。本校では資格に必要な科目・単位を修得すると、試験を受けずに取得できるか、一部の試験が免除となる資格もある。さらに、各学科で取得を推奨している資格があり、資格試験合格のために特別指導を行っている。

また、資格取得をサポートしている「自己開発センター」では、資格に関する資料が豊富に揃い、取得のための講習会も開催されている。

詳細は高専事務局、または自己開発センター発行の「LICENSE」を参考にしよう。

■認定校になっている資格

電気電子工学科において、定められた科目の単位を取ることで、次の資格が取得できるか科目の一部が試験免除となる。

- ・第2種電気主任技術者※ …P.127 参照
- ・第2級陸上無線技術士……………P.129 参照
- ・工事担任者……………P.130 参照
- ・第二種電気工事士……………P.135 参照

※については卒業後所定の実務経験をつむ必要がある。

■取得を奨励する資格

全学科共通

- ・日本語検定（4級以上）
- ・実用数学検定（3級以上）
- ・TOEIC

電気電子工学科

- ・第3種電気主任技術者
- ・第二種電気工事士……………P.135 参照
- ・情報技術検定
- ・実用英語技能検定

機械工学科

- ・第3級機械設計技術者 ……P.136 参照
- ・危険物取扱者（乙種）
- ・ガス溶接技能者
- ・CAD利用技術者試験
- ・第3種電気主任技術者
- ・基本情報技術者……………P.137 参照
- ・MO S（EXCEL、WORD）

グローバル情報学科

- ・基本情報技術者……………P.137 参照
- ・ITパスポート（iパス）…P.138 参照
- ・実用英語技能検定
- ・Java プログラミング能力認定試験
- ・MO S（EXCEL）
- ・インターネット検定ドットコムマスター

認定校：第2種電気主任技術者

電気主任技術者の資格には、第1種、第2種および第3種電気主任技術者の3種類がある。第3種電気主任技術者は、電圧5万ボルト未満の事業用電気工作物（出力5千キロワット以上の発電所を除く。）の工事、維持および運用の保安の監督を行うことができる。第2種電気主任技術者は、電圧17万ボルト未満の事業用電気工作物の工事、維持および運用の保安の監督を行うことができる。第1種電気主任技術者はすべての事業用電気工作物の工事、維持および運用の保安の監督を行うことができる。

電気電子工学科の学生は、在学中に以下の単位数を取得し、卒業後に所定の実務経験を有すれば、申請により電気主任技術者の免状を受けることができる。

平成15年度以降入学生適用・必要単位数

免許を取得しようとする場合は、本校在学中に下表「授業科目」の単位取得が必要である

（※印は、本校では選択科目であるが、この認定を受けようとする場合は単位取得が必要である）

認定基準に規定する科目分類	授業科目	毎週単位 時間数	単位時間数計 総時間数	認定基準 総単位数
電気工学または電子工学の基礎に関するもの	電気磁気学Ⅰ・Ⅱ	5	16	14以上
	電気基礎・電気回路Ⅰ・Ⅱ	7		
	電子回路Ⅰ	2		
	計測工学	2		
発電、変電、送電、配電および電気材料並びに電気法規に関するもの	発変電工学	※2	9	8以上
	送配電工学	※2		
	電気法規と施設管理	※1		
	材料工学	2		
	システム工学	2		
電気および電子機器、自動制御、電気エネルギー利用並びに情報伝送および処理に関するもの	パワーエレクトロニクス	※2	10	9以上
	電気機器	※2		
	制御工学	2		
	メカトロニクス	2		
	情報工学Ⅰ	2		
電気工学もしくは電子工学実験または電気工学もしくは電子工学実習に関するもの	創造実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	11	11	8以上
電気および電子機器設計または電気および電子機器設計に関するもの	設計製図	2	2	2以上
		48	48	41以上

■受験資格

制限なし

■免許の取得方法

- (1) 経済産業大臣の認定した学校(電気科)を卒業して所定の実務経験による場合
また、上と同等以上の知識および技術があると経済産業大臣が認めた場合
- (2) 電気主任技術者試験に合格

■試験

電気主任技術者試験は、一次試験に合格すると二次試験を受験することができる。

なお、第3種電気主任技術者試験は一次試験のみ。五肢択一方式で実施される。

(1) 一次試験

次の4科目について科目別に試験を行う。各科目の解答方式は「第1種」がマークシートに記入する多肢選択方式とマークシートによらない記述式。「第2種」はマークシートに記入する多肢選択方式である。

科目名	科目の内容
理論	電気理論、電子理論、電気計測および電子計測
電力	発電所および変電所の設計および運転、送電線路および配電線路（屋内配線を含む）の設計および運用並びに電気材料
機械	電気機器、パワーエレクトロニクス、電動機応用、照明、電熱、電気化学、電気加工、自動制御、メカトロニクス並びに電力システムに関する情報伝送および処理
法規	電気法規（保安に関するものに限る）および電気施設管理

(1) 二次試験

次の2科目について科目別に試験を行い、各科目の解答方式は「第1種」、「第2種」とも記述式により行う。

科目名	科目の内容
電力・管理	発電所および変電所の設計および運転、送電線路および配電線路の設計および運用並びに電気施設管理
機械・制御	電気機器、パワーエレクトロニクス、自動制御およびメカトロニクス

科目別合格制度（科目合格留保制度）

一次試験の結果は科目別に合格が決まり、4科目すべてに合格すれば第2種試験の一次試験に合格となるが、一部の科目だけ合格した場合には科目合格となって、翌年度および翌々年度の試験では申請によりその科目の試験が免除される。

つまり、3年間で4科目の試験に合格すれば二次試験の受験資格が得られる。

なお、この制度は一次試験だけで二次試験には科目別合格の制度はないが、二次試験の場合は1回目が不合格でも次年度の一次試験が免除される。

■受験手続

①受験申込書（自己開発センターで入手可能）に必要事項を記入する。

①と受験手数料を添えて、郵便局窓口で手続きをする。

自宅に送達された受験票に写真（縦 45mm×横 35mm）を貼り、試験当日持参する。

※インターネットでも申し込み可能（財）電気技術者試験センター <http://www.shiken.or.jp/>

科目認定校：第2級陸上無線技術士

無線技術士は、レーダーを含む無線設備の技術操作を行う第1級陸上無線技術士と、空中線電力2キロワット以下の設備（放送局については500キロワット以下）、レーダー、無線電話の技術操作を行う第2級陸上無線技術士に区別されている。

電気電子工学科の学生は以下の単位を取得すれば、第2級陸上無線技術士の試験科目のうち「無線工学の基礎」が免除される。

平成15年度以降入学生適用・必要単位数

科目認定を受けようとする場合は、本校在学中に下表「授業科目」の単位取得が必要である

（※印は、本校では選択科目であるが、この認定を受けようとする場合は単位取得が必要である）

（平成21年度以降入学生の場合、「計測工学」は必修科目となっている）

認定基準に規定する科目		授業科目	毎週単位数	時間数	認定基準総時間数
専門基礎教育科目	数学	応用数学Ⅰ・Ⅱ	4	120	120
	物理	応用物理Ⅰ・Ⅱ	4	120	90
	電気磁気学	電気磁気学Ⅰ・Ⅱ	5	150	90
	電気回路	電気基礎	2	210	180
		電気回路Ⅰ・Ⅱ	5		
	半導体および電子管並びに電子回路の基礎	電子工学	2	240	150
		電子回路Ⅰ・Ⅱ	4		
		デジタル回路	2		
電気磁気測定	計測工学	※2	270	150	
	創造実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	7			
合 計			37	1110	780

■受験資格

制限なし

■免許の取得方法

(1) 無線技術士試験の本試験に合格

本校は認定校なので試験科目のうち「無線工学の基礎」が免除される

(2) 総務大臣の認定学校卒業者についての免除の期間は3年間

■試験

無線工学の基礎無線工学A、無線工学B、法規

■提出書類

（財）日本無線協会が定める様式による試験申請書

無線従事者国家試験申請書（技術士用のもの）

科目履修証明証

写真（縦45mm×横35mm）

■提出先

〒920-0919 金沢市南町4-55 WAKITA 金沢ビル

（財）日本無線協会 北陸支部 TEL 076-222-7121

※インターネットでも申し込み可能 <http://www.nichimu.or.jp/>

科目認定校：工事担任者

電気通信の工事担任者資格は、端末設備などを接続するネットワーク（電気通信回線）の種類により A I 種と D D 種に区分され、さらにその規模や速度などに応じて、それぞれ第 1 種、第 2 種、第 3 種が設けられている。

電気電子工学科の学生は「アナログ伝送路設備または、デジタル伝送路設備に端末設備などを接続するための工事」の単位を取得すれば、試験科目のうち「電気通信技術の基礎」が免除される。

平成 15 年度以降入学生適用・必要単位数

認定を受けようとする場合は、本校在学中に下表「授業科目」の単位取得が必要である。

認定基準に規定する科目		授業科目	毎週単位数	単位時間数計 総時間数	認定基準 総時間数
専門 基礎 教育 科目	数学	応用数学 I ・ II	4	120	60
	物理	応用物理 I ・ II	4	120	60
	電気回路	電気回路 I ・ II	5	150	105
	電子回路	電子回路 I ・ II	4	120	105
	デジタル回路	デジタル回路	2	60	50
	有線電気通信工学	情報伝送工学	2	60	50
	データ通信工学	データ通信ネットワーク	2	60	50
	合 計		23	690	480

工事担任者の種類

工事担任者資格は、電気通信回線と端末設備を接続するために必要な資格である。種類はA I 1～3種、DD 1～3種、A I・DD総合種が設けられている。

A I・DD総合種

アナログ伝送路設備（アナログ信号を入出力とする電気通信回線設備をいう）またはデジタル伝送路設備（デジタル信号を入出力とする電気通信回線設備をいう）に端末設備などを接続するための工事。

A I第1種

アナログ伝送路設備に端末設備などを接続するための工事および総合デジタル通信用設備に端末設備などを接続するための工事。

A I第2種

アナログ伝送路設備に端末設備などを接続するための工事（端末設備などに収容される電気通信回線の数が50以下であって内線数が200以下のものに限り）および総合デジタル通信用設備に端末設備などを接続するための工事（総合デジタル通信回線数が毎秒64キロボット換算で50以下のものに限り）。

A I第3種

アナログ伝送路設備に端末設備を接続するための工事（端末設備に収容される電気通信回線数が1のものに限り）および総合デジタル通信用設備に端末設備を接続するための工事（総合デジタル通信回線数が基本インターフェースで1のものに限り）。

DD第1種

デジタル伝送路設備に端末設備などを接続するための工事。ただし、総合デジタル通信用設備に端末設備などを接続するための工事を除く。

DD第2種

デジタル伝送路設備に端末設備などを接続するための工事（接続点におけるデジタル信号の入出力速度が毎秒100メガビット以下のものに限り）。ただし、総合デジタル通信用設備に端末設備などを接続するための工事を除く。

DD第3種

デジタル伝送路設備に端末設備などを接続するための工事（接続点におけるデジタル信号の入出力速度が毎秒100メガビット以下のものであって、主としてインターネット接続のための回線に限り）。ただし、総合デジタル通信用設備に端末設備などを接続するための工事を除く。

■受験資格

制限なし

■免許の取得方法

- (1) 工事担任者試験に合格。
- (2) 総務大臣の認定した学校を卒業した人が工事担任者試験を受ける場合は、①基礎科目（電気通信技術の基礎）のみ免除される。免許取得には、②技術および理論科目（端末設備の接続のための技術および理論）、③法規科目（端末設備の接続に関する法規）の科目を受験し合格する必要がある。

■試験

試験科目は①電気通信技術の基礎、②端末設備の接続のための技術および理論、③端末設備の接続に関する法規の3つである。それぞれ、資格者証の種別によってその科目の内容およびレベルが異なっている。

①電気通信技術の基礎（●印をつけてある項目が出題される）

項目			資格の種類						
			A I 第1種	A I 第2種	A I 第3種	D D 第1種	D D 第2種	D D 第3種	A I・D D 総合種
電気工学の基礎	電気回路	直流回路、電磁作用、静電容量、交流回路など	●	●		●	●		●
	電子回路	半導体素子、ダイオード・トランジスタ回路など	●	●		●	●		●
	論理回路	論理式とシンボル、論理回路と入出力信号、データの表現（10進法、2進法）、フリップ・フロップ回路など	●	●		●	●		●
電気通信の基礎	伝送理論	伝送量の単位、特性インピーダンス、反射とインピーダンス整合、漏話など	●	●		●	●		●
	伝送技術	AM変調、FM変調、FSK変調、PSK変調、光変調、波長分割多重（WDM）、PCM、周波数分割多重（FDM）、時分割多重（TDM）など	●	●		●	●		●
電気工学の初歩	電気回路	直流回路、電磁作用、静電容量、交流回路など			●			●	
	電子回路	半導体素子、ダイオード・トランジスタ回路など			●			●	
	論理回路	論理式とシンボル、論理回路と入出力信号、データの表現（10進法、2進法）、フリップ・フロップ回路など			●			●	
電気通信の初歩	伝送理論	伝送量の単位、特性インピーダンス、反射とインピーダンス整合、漏話など			●			●	
	伝送技術	AM変調、FM変調、FSK変調、PSK変調、光変調、波長分割多重（WDM）、PCM、周波数分割多重（FDM）、時分割多重（TDM）など			●			●	

②端末設備のための技術および理論（●印をつけてある項目が出題される）

項目			資格の種類						
			A I 第1種	A I 第2種	A I 第3種	D D 第1種	D D 第2種	D D 第3種	A I・D D 総合種
端末設備の技術	電話機など	電話機などの概要および内部動作など	●	●	●				●
	ボタン電話装置	ボタン電話装置の概要および内部動作など	●	●					●
	P B X	P B Xの概要および内部動作、P B Xの電力設備方式、蓄電池の構造など	●	●					●
	ISDNの端末機器	ISDN端末機器の概要および内部動作など	●	●	●				●
	DSLモデム、スプリッタなど	D S L モデム、スプリッタなどの概要および内部動作など				●	●	●	●
	I P 電話機	I P 電話機の概要および内部動作など				●	●	●	●
	I P ボタン・電話装置・I P-P B X	I P ボタン電話装置・I P-P B Xの概要および内部動作、I P ボタン電話装置・I P-P B Xの電力設備方式、蓄電池の構造など				●	●		●
	L A N	L A Nの概要および内部動作（L A N、サーバ、ルータなど）など				●	●	●	●
	その他の端末機器	その他の端末機器の概要および内部動作（メディアコンバータ、パーソナルコンピュータ、ホームサーバ、ダイヤルアップルータ、L A N カードなど）など				●	●	●	●
	電波妨害・雷サージ対策	電波妨害などの故障と原因、電波妨害などの故障対策、雷サージと対策など	●			●			●
総合デジタル通信の技術	ISDNインタフェース	ISDNインタフェースの概要、ISDNインタフェース・レイヤ1、ISDNインタフェース・レイヤ2、ISDNインタフェース・レイヤ3など	●	●	●				●

項目	具体例	資格の種類						
		A I 第1種	A I 第2種	A I 第3種	D D 第1種	D D 第2種	D D 第3種	A I・D D 総合種
接続工事の技術	事業用電気通信設備	交換設備の概要、線路設備の概要など	●	●				●
	アナログ電話回線の工事と工事試験	アナログ電話回線の配線概要、屋内配線ケーブル・材料と工具、アナログ電話回線の工事と工事試験、トラブルシューティングの概要など	●	●	●			●
	ボタン電話装置の工事と工事試験	ボタン電話用配線ケーブル、ボタン電話用材料と工具、ボタン電話工事と工事試験、トラブルシューティングの概要など	●	●				●
	P B X の工事と工事試験	P B X 用配線ケーブル、P B X 用材料と工具、P B X 工事と工事試験工事試験、トラブルシューティングの概要など	●	●				●
	I S D N 回線の工事と工事試験	基本ユーザ・網インタフェースの配線構成、I S D N ケーブルと配線材料、D S U、T A などの端末装置、I S D N 工事と工事試験、トラブルシューティングの概要など	●	●	●			●
	工事の設計管理・施工管理・安全管理	工事の設計管理、工事の施工管理、工事の安全管理など	●	●		●	●	●
	端末設備などの運用管理・保守管理技術	端末設備などの運用管理技術、端末設備などの保守管理技術など	●			●		●
	ブロードバンド回線の工事と工事試験	メタリックケーブルと光ファイバケーブルの概要、メタリックケーブルのコネクタ接続技術、光ファイバケーブルのコネクタ接続技術、J I S X 5 1 5 0 概要（構内配線システムの概要）、ブロードバンド回線の工事材料、ブロードバンド回線の設計、ブロードバンド回線の工事、ブロードバンド回線の工事試験、トラブルシューティングの概要など				●	●	●
	L A N の設計・工事と工事試験	L A N 配線と設備の基礎、L A N の工事材料、L A N の設計、L A N 配線・設備の工事と工事試験、H U B、ルータ、ゲートウェイの工事、H U B、ルータ、ゲートウェイのセットアップと工事試験、トラブルシューティングの概要など				●	●	●
	I P ボタン電話装置・I P-P B X の設計・工事と工事試験	I P ボタン電話装置・I P-P B X 工事と設備の基礎、I P ボタン電話装置・I P-P B X の工事材料、I P ボタン電話装置・I P-P B X の設計、I P ボタン電話装置・I P-P B X 配線・設備の工事と工事試験、H U B、ルータ、ゲートウェイの工事、H U B、ルータ、ゲートウェイのセットアップと工事試験、トラブルシューティングの概要など				●	●	●
	ホームネットワークなどの工事と工事試験	ホームネットワークの配線と設備の基礎、ホームネットワークの配線工事と工事試験、ホームネットワーク設備などのセットアップと工事試験、トラブルシューティングの概要など				●	●	●
トラヒック理論	トラヒック理論	呼の性質、中継線能率、即時式トラヒックと待時式トラヒックなど	●	●				●
ネットワークの技術	データ通信技術	データ通信の技術、データ伝送の技術、パケット交換の技術、トラヒック技術の概要など				●	●	●
	ブロードバンドアクセスの技術	ブロードバンドアクセス方式の概要、メタリックアクセス技術、光アクセス技術、C A T V システム技術など				●	●	●
	I P ネットワークの技術	I P ネットワークの概要、I P ネットワークの関連プロトコル概要、インターネットの概要、I P 電話ネットワークの概要、I P 電話関連プロトコルの概要、I P 電話での音声品質、I P-V P N の技術、I P セントレックスの概要など				●	●	●
	広域イーサネットの技術	広域イーサネット構成、広域イーサネットの機能など				●	●	●
	その他のネットワーク技術	フレームリレー・セルリレー網の構成、A T M 網の構成など				●	●	●
情報セキュリティの技術	情報セキュリティ概要	脅威の種類、ハッキング、クラッキング、フィッシング、ウィルス、ワーム、トロイの木馬、ファイアウォール、N A T など	●	●	●	●	●	●
	電子認証技術とデジタル署名技術	電子認証と暗号化の概要、デジタル署名技術の概要など	●	●		●	●	●
	端末設備とネットワークのセキュリティ	端末設備でのセキュリティ問題、端末設備のセキュリティ対策、ネットワークセキュリティの概要など				●	●	●
	情報セキュリティ管理	情報セキュリティポリシーの策定と運用、情報セキュリティ管理体制と運用体制、顧客データ、設備データ等の秘密漏洩管理など				●		●

③端末設備の接続に関する法規（●印をつけてある項目が出題される）

項目	具体例	資格の種類						
		A I 第 1 種	A I 第 2 種	A I 第 3 種	D D 第 1 種	D D 第 2 種	D D 第 3 種	A I ・ D D 総合種
電気通信事業法およびこれに基づく命令	電気通信事業法	●	●		●	●		●
	電気通信事業法施行規則	●	●		●	●		●
	工事担任者規則	●	●		●	●		●
	端末機器の技術基準適合認定等に関する規則	●	●		●	●		●
	端末設備等規則（技術基準）	●	●		●	●		●
電気通信事業法およびこれに基づく命令の概要	電気通信事業法			●			●	
	電気通信事業法施行規則			●			●	
	工事担任者規則			●			●	
	端末機器の技術基準適合認定等に関する規則			●			●	
	端末設備等規則（技術基準）			●			●	
有線電気通信法およびこれに基づく命令	有線電気通信法	●	●		●	●		●
	有線電気通信設備令	●	●		●	●		●
	有線電気通信設備令施行規則	●	●		●	●		●
有線電気通信法およびこれに基づく命令の概要	有線電気通信法			●			●	
	有線電気通信設備令			●			●	
不正アクセス行為の禁止等に関する法律		●	●		●	●		●
不正アクセス行為の禁止等に関する法律の概要				●			●	
電子署名及び認証業務に関する法律及びこれに基づく命令		●	●		●	●		●

■提出書類

工事担任者試験申請書

■提出先

〒920-0912 金沢市大手町15-15 ライフ金沢第2ビル4階

（財）日本データ通信協会 電気通信国家センター北陸支部 TEL 076-234-6527

※インターネットでも申し込み可能 電気通信国家試験センター <http://www.shiken.dekyo.or.jp/>

科目認定校：第二種電気工事士

第二種電気工事士は、一般住宅や店舗などの 600 ボルト以下で受電する設備の工事に従事することができる。試験は、上期試験または下期試験のどちらかを選択する。上期試験・下期試験の両方は受験できない。

■受験資格

制限なし

■免許の取得方法

電気工事士法第 7 条第 1 項の規定に基づいて経済産業大臣が指定する指定試験機関が行う試験に合格すること。

筆記試験……電気に関する基礎理論、配電理論および配線設計、電気機器・配線器具並びに電気工事用の材料および工具、電気工事の施工方法、一般用電気工作物の検査方法、配線図、一般用電気工作物の保安に関する法令。

技能試験……電線の接続、配線工事、電気機器および配線器具の設置、電気機器・配線器具並びに電気工事用の材料および工具の使用法、コードおよびキャブタイヤケーブルの取り付け、接地工事、電圧・電流・電力および電気抵抗の測定、一般用電気工作物の検査、一般用電気工作物の故障箇所の修理。

※但し、本校電気電子工学科卒業生で下記の科目を修得したものは、筆記試験免除者用証明書を本校事務局に提出すると学校長の証明書をもらうことができる。この証明書を受験申請書に添付すれば、筆記試験は免除、技能試験のみ受験となる。

平成 15 年度以降入学生

- ①電気磁気学Ⅰ、②電気磁気学Ⅱ、③電気回路Ⅰ、④電気回路Ⅱ、⑤計測工学、
⑥設計製図、⑦電気機器、⑧材料工学、⑨送配電工学、⑩電気法規と施設管理

■試験

筆記試験……マークシートに記入する四肢択一方式

技能試験……持参した作業用工具により、配線図で与えられた問題を支給される材料で、一定時間内に完成させる方法

■受験手続

①受験申込書（自己開発センターで入手可能）に必要事項を記入する。

①と受験手数料を添えて、ゆうちょ銀行（郵便局）窓口で手続きをする。

自宅に送達された受験票に写真（縦 45mm×横 35mm）を貼り、試験当日持参する。

※インターネットでも申し込み可能（財）電気技術者試験センター <http://www.shiken.or.jp/>

第3級機械設計技術者

機械設計技術者試験は、技術力の向上を図り設計技術並びに製品に対する社会的信用を高め、同時に機械設計技術者自身の社会的認知度を向上させようとする試験制度である。

1級、2級、3級の3種があり、3級は、機械や装置の詳細設計の補佐、並びに関連する製図などの業務を行える能力に達した技術者、または機械設計全般の基礎知識を修得した学生を対象としている。

本校では、放課後や土曜日を利用して希望者には試験に関する補習を行っている。

合格者の中心は4・5年生である。3年生の合格者もいるので、3年生以上の学生諸君の挑戦を期待する。

■受験資格

制限なし（機械設計技術者試験1級、2級を受験する為には実務経験が必要。高専在学中は3級のみ受験可能）

■試験

毎年11月の第3または第4日曜日に1回のみ行われる。

平成17年度からマークシート方式（多肢選択式）になった。試験科目は次の10科目である（年度によって科目の組み合わせが変更になる場合がある）。

①機構学、②機械要素設計、③材料力学、④機械力学、⑤流体工学、

⑥熱工学、⑦制御工学、⑧工業材料、⑨工作法、⑩機械製図

これらのうち、機構学と機械要素設計はまとめて1科目として扱われる。前年度までの試験問題や解答が載った問題集が販売されている。また、担当の先生に申し込めば、問題集を見せてもらえる。一部の問題や解答はWebにPDFファイルが公開されているので、無料でダウンロードすることもできる。

■受験手続

自己開発センターで受験申込手続きをする。

※インターネットでも申し込み可能

■提出先

〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町 15-15 ルネ小舟ビル3階

（社）日本機械設計工業会 本部事務局 TEL 03-3639-2204

<http://www.kogyokai.com/>

基本情報技術者

基本情報技術者は、高度 I T 人材となるために必要な基本的知識・技能を持ち、実践的な活用能力を身につけた者で、基本戦略立案または I T ソリューション・製品・サービスを実現する業務に従事し、上位者の指導の下に、次のいずれかの役割を果たす。

- ①需要者（企業経営、社会システム）が直面する課題に対して、情報技術を活用した戦略立案に参加する。
- ②システムの設計・開発を行い、または汎用製品の最適組合せ（インテグレーション）によって、信頼性・生産性の高いシステムを構築する。また、その安定的な運用サービスの実現に貢献する。
そのため以下の技術水準が期待される。
 - ①対象とする業種・業務に関する基本的な事項を理解し、担当業務に活用できる。
 - ②上位者の指導の下に、情報戦略に関する予測・分析・評価ができる。
 - ③上位者の指導の下に、提案活動に参加できる。
 - ④情報技術全般に関する基本的な事項を理解し、担当業務に活用できる。
 - ⑤上位者の指導の下に、システム設計・開発・運用ができる。

■受験資格

制限なし

■試験

毎年、4月の第3日曜日ならびに10月の第3日曜日に実施される。

試験は午前と午後の2部に分かれており、両方に合格する必要がある。

午前……多肢選択式、80問（150分）

- ①基礎理論、②コンピュータシステム、③技術要素、④開発技術、⑤プロジェクトマネジメント、
⑥サービスマネジメント、⑦システム戦略、⑧経営戦略、⑨企業と法務

午後……多肢選択式、13問中7問解答（150分）

- ①コンピュータシステム、②情報セキュリティ、③データ構造およびアルゴリズム、
④ソフトウェア設計、⑤ソフトウェア開発、⑥マネジメント、⑦ストラテジ

■受験手続

自己開発センターで受験申込手続きをする。

※郵便局・インターネットでも申し込み可能（独）情報処理推進機構 情報処理技術者試験センター

<https://www.jitec.ipa.go.jp/>

I Tパスポート（iパス）

職業人として備えておくべき、情報技術に関する基礎知識をもち、担当する業務に対して情報技術を活用し、次の活動を行う。

- ①利用する情報機器およびシステムを把握し、活用する。
- ②担当業務を理解し、その業務における問題の把握および必要な解決を図る。
- ③安全に情報の収集や活用を行う。
- ④上位者の指導の下、業務の分析やシステム化の支援を行う。

そのため以下の技術水準が要求される。

- ①利用する情報機器およびシステムを把握するために、コンピュータシステムやネットワークに関する知識をもち、オフィスツールを活用できる。
- ②担当業務を理解するために、企業活動や関連業務の知識をもつ。また、担当業務の問題把握および必要な解決を図るために、システムの考え方や倫理的な思考力をもち、かつ、問題分析および問題解決手法に関する知識をもつ。
- ③安全に情報を活用するために、関連法規や情報セキュリティに関する各種規定に従って活動できる。
- ④業務の分析やシステム化の支援を行うために、情報システムの開発および運用に関する知識をもつ。

■受験資格

制限なし

■試験

C B T（Computer Based Testing）方式により、年間を通じて随時実施されている。

出題分野

ストラテジ系（経営全般） 35 問程度
マネジメント系（I T管理） 20 問程度
テクノロジー系（I T技術） 45 問程度

試験形式

四肢択一式（100 問・120 分）

小問 100 問で、総合評価は 92 問（分野別評価はストラテジ系 32 問、マネジメント系 18 問、テクノロジー系 42 問）、残りの 8 問は今後出題する問題を評価するために使われる。

採点方式

I R T（Item Response Theory 項目応答理論）に基づいて解答結果から評価点を算出する。

合格基準

総合評価点、分野別評価点ともに次の基準を満たしていること。

- ・総合評価点 600 点以上／1,000 点（総合評価の満点）
- ・分野別評価点
 - ストラテジ系 300 点以上／1,000 点（分野別評価の満点）
 - マネジメント系 300 点以上／1,000 点（分野別評価の満点）
 - テクノロジー系 300 点以上／1,000 点（分野別評価の満点）

■受験手続

※ インターネットで申し込み可能

<https://www3.jitec.ipa.go.jp/JitesCbt/index.html>

事務局案内

事務局案内P.140

各種証明書・届出書P.141

奨学制度についてP.142

学生の災害(ケガ)等についてP.143

事務局案内

事務局は学生諸君の学修や生活を支え、安心して快適な学生生活を送っていただくために必要な事項についての業務を取り扱っています。例えば、証明書類が必要なとき、各種の届け出をしたいとき、各種の問合せや相談、さらに悩みごとや困りごとに対する対応など、何でも引き受ける強い味方です。いつでも気軽に訪ねてください。

学生証について

学生証は、諸君が国際高等専門学校 학생であることを証明するものです。常に携帯し、校舎へ入るとき、ＬＣを利用するときや、通学証明書など各種証明書の発行を受けるときにも必要です。本校教職員または他の関係者が必要上請求したときは、いつでも提示しなければなりません。学生証は、絶対に他人に貸与または譲渡してはなりません。

また、学生証にはＩＣチップが内蔵されており、曲げたり、圧力を加えると破損することがあります。大切に取扱いましょう。

【学生証の交付】

第１学年始めに校長より交付されます。

【学生証の再交付について】

学生証を、盗難・紛失または汚損した時は、直ちに学級担任を経て事務局に届け出て、学生証再発行願を提出し再交付を受けてください。

なお、汚損した学生証や盗難・紛失の学生証が出てきた場合は直ちに事務局に返却してください。

【学生証の返却・無効】

学生証の有効期間は第１学年～第５学年までの５年間です。有効期間を経過したとき、卒業・退学・除籍などで本校に籍がなくなったときは、直ちに事務局に返却してください。また、学生証の記入事項を、勝手に訂正または改変したものは無効となります。

学生証を、盗難または紛失すると思いがけない迷惑をこうむることがあります。したがって、その取り扱いには常に注意してください。

各種証明書・届出書

各種証明書・届出書

種類	どういうとき	書類受取先	提出先
証明書発行願	在学証明書、成績証明書、卒業見込証明書、学生証（再交付）などを要するとき	事務局	事務局
学生証再発行願	学生証を紛失したとき	事務局	クラス担任→学生主事→事務局
自転車通学届	自転車で通学したいとき	クラス担任	クラス担任→学生主事
原動機付自転車通学許可申請書	原動機付自転車で通学したいとき	クラス担任	クラス担任→学生主事
貸与パソコン修理依頼書	貸与ノートPCが故障した時（1～3年生）	クラス担任	クラス担任→本人→パソコンセンター（8号館3F）
貸与パソコン学外持ち出し申請書	貸与パソコンを学外に持ち出したい時	クラス担任	クラス担任→教務主事→情報教育部会
通学証明書	通学定期の学割を受けたいとき（JR・北鉄など）	事務局	事務局
遅刻・早退届	病気欠席（早退・遅刻）などをしたとき	事務局	授業担当者（クラス担任）
災害報告書 医療等の届け	学校の管理下でけがをした時	事務局	引率者→学生主事→安全委員長→事務局
校外生活願	旅行やその他校外で生活したいとき	事務局	クラス担任→学生主事→事務局
紛失届	紛失したとき	クラス担任	クラス担任→学生主事
盗難届	盗難にあった時	クラス担任	クラス担任→学生主事
身上変更届	身上が変更になったとき	事務局	クラス担任→事務局
住所氏名変更届	保護者や学生の住所・氏名が変わったとき	事務局	クラス担任→事務局
異装願	けがなどで、異装したいとき	クラス担任	クラス担任→学生主事
病欠証明書	該当する感染症（P.96参照）にかかった時	事務局	クラス担任
留学願	留学しようとするとき	英語教員	英語教員
留学終了届	留学が終了したとき	英語教員	英語教員
留学中止届	留学を中止して帰国したとき	英語教員	英語教員
転科願	転科しようとするとき	クラス担任	クラス担任
休学願	休学しようとするとき	クラス担任	クラス担任
復学願	復学しようとするとき	クラス担任	クラス担任
退学願	退学しようとするとき	クラス担任	クラス担任

【手順】「学生証再発行願」の場合

学生本人が事務局へ書類を取りに行き、①クラス担任→②学生主事→③事務局の順で、承認を得て下さい。

奨学制度について

本校の奨学制度（リーダーシップアワード）

本校独自の奨学制度として、学生生活の各面において、他の学生に模範となるようなリーダーシップを発揮した学生に付与されます。付与金額は 10 万円で、全教員からの推薦により毎年在学生数の約 10 分の 1 の学生に付与されます。

奨学制度

奨学制度は、優秀で経済的理由のため修学困難な者に学資を貸与する制度で、独立行政法人日本学生支援機構、地方公共団体、財団法人などがあります。

【独立行政法人日本学生支援機構】

自宅通学の場合、貸与金額は 10,000 円または 32,000 円（第 4 学年より 30,000 円または 53,000 円）から選択し、次の者に貸与されます。

●学力

1 年生は中学校最終学年の成績の平均が 3.5 以上の者、2 年生以上は本校での成績が学科の平均水準以上の者。

●家計

家計支持者の年収・所得金額から、規程で定められた特別控除額を差し引いた金額が、機構で定めた収入基準額以下である者。

●校長が推薦し、日本学生支援機構が採否を決定します。

●家計急変により修学困難な学生に対する緊急採用制度もあります。

【石川県】

月額 30,000 円（第 4 学年より 44,000 円）が次の者に貸与されます。

●保護者が石川県内に現に（第 4 年次より 現に引き続き 3 年以上）居住している者。

●勉学意欲があり、かつ学費の支弁が困難な者。

●独立行政法人日本学生支援機構の奨学金を受けていない者。

●校長が推薦し、石川県が採否を決定します。

奨学制度は、本人が直接手続きするところが多いです。学校の証明を必要とする時は、事務局へ申し出てください。

本校の本年度の授業料は 1 年次で月額 31,000 円です。

詳細は事務局へお尋ねください。

学生の災害（ケガ）等について

独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度

独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度は、学校の管理下における学生の災害に対して必要な給付を行うことを目的とした制度で、多くの幼、小、中、高、高専が加入しています。本校でも、学生全員が加入することになっています。

【医療費の支給】

学校の管理下でケガをした場合の医療費は、各種の健康保険が 70% をカバーし、残りの 30% が自己負担となります。独立行政法人日本スポーツ振興センターは、この自己負担分を給付します。

すなわち、健康保険と独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度により、かかった医療費の全額をカバーできます。

【学校の管理下の範囲】

授業、部活動、休憩時間、登校・下校

【掛金】

2019 年度共済掛金額 1 人当り年額 1,955 円

【手続き】

ケガをした場合は、できるだけ早く学校（事務局）へ届け出て給付申請の手続きをとってください。なお、給付を受けるにあたってはいくつかの制限があります。詳細は事務局へお尋ねください。

施設案内

地域連携教育センターP.146
創造技術教育研究所P.147
ライブラリーセンターP.148
情報処理サービスセンターP.151
自己開発センターP.154
夢考房P.155
スポーツ考房P.156
自然学苑・セミナーハウスP.157
えふえむ・エヌ・ワンP.158
扇が丘診療所P.159
金沢工業大学内簡易郵便局P.160
サービス施設P.161

※各施設の場所は、P.164 に載っています

地域連携教育センター CCAE

地域と共に学ぶ。 地域と共に進む。

国際高専と地域社会との連携協力の下に、地域連携教育センター(Center for Community-Arranged Education「CCA E」)を開設。学生が倫理観や社会貢献の精神を涵養し、地域社会の活性に必要な専門知識や技術の理解と修得に努めることにより、地域社会との交わりを通じて自己啓発、自己研鑽の体得に資することを目的とします。

開設時間

月曜日～金曜日……8:40～17:30

活動内容

①個人の能力を進展するための修学指導

本校学生の基礎学力の向上を目指して、休み時間や放課後に数学・物理・化学の分野を中心として、マンツーマンで指導を実施します。

月曜日～金曜日 (16:00～17:30)

②地域教育支援活動

- ・小・中・高校などに対する出前授業の実施、総合学習教育協力など。
- ・小・中・高校などに対する理数教育協力(サイエンスパートナーシッププロジェクト「SPP」)。
- ・学校支援地域本部事業に協力して、地域の小・中学校の教育力向上のため学生を派遣する活動。

③広報に関する支援活動(ME X金沢、eメッセ金沢への参加など)

④企業との連携活動

創造技術教育研究所

教材開発やシステム開発。

「創造技術教育研究所」は、時代の要請に即した技術者を育成するため、教育の内容や技法などに関して常に検討を重ね、教材開発やシステム開発技法などを構築するための研究活動を行っています。また、教員の教育・研究能力向上を図るため、教員の教育・研究や各専門分野の活動に対する支援を行い、その成果をまとめた論文集を発刊したり、学生が授業において製作した成果物や各種コンテスト出場作品を一般公開するための活動を行っています。

活動内容

①創造技術教育（内容と技法）の研究

マルチメディアの活用
先進教育技法
教材開発
将来の創造技術教育
その他特定命題

②実践教育科目の研究および研究成果の実用化の研究

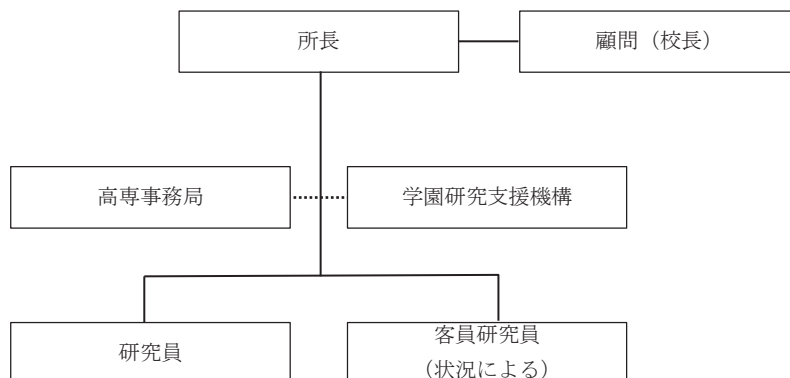
社会実装教育に関する研究
メカトロニクスに関する研究
地場産業に関する研究
システム開発技法に関する研究
自然の有効利用・環境保全に関する研究
人と技術のインターフェイスに関する研究
その他特定命題

③教育・研究成果の公表

年度ごとに、研究員および本校教員の教育・研究成果をまとめた「創造技術教育」論文集を発刊し、本校教員の研究内容や研究活動、研究成果を公表します。

④教育成果物の公表

創造技術教育において学生が製作した成果物および、「プロコン」、「ロボコン」、「デザコン」などの各種コンテストにおいて優秀な成績を収めた作品等を学科と連携し、「科学技術振興機構サイエンスアゴラ」、「石川の技能まつり」や「いしかわ夢未来博」等へ出展し、本校のものづくり教育の成果を公表します。



ライブラリーセンター

KIT-LC

ライブラリーセンターを

「遊び」こなそう！

ライブラリーセンター（LC）では、予習や復習、レポート課題などの課外学習を充実させるため、約 56 万冊の図書や、電子書籍、電子ジャーナル、学術情報データベースなどのデジタル情報を準備しています。求める情報がうまく見つからないときは、学習支援デスクを訪ねてください。大学・高専の教員が、サブジェクトライブラリアン（SL）となって、相談を受け付けています。その他、情報検索の講習会や専門を学ぶ上で重要となる専門基礎科目の支援講座、文章作成講座などを開催し、学生の学習をサポートしています。

開館時間

月曜日～金曜日… 8：30～22：00

土曜日…………… 8：30～17：00

日・祝日……………10：00～17：00

※学園事情により変更する場合があります。ホームページで確認してください。

入館

利用者カード（学生証）を使用して入館します。飲食物は原則として持ち込めませんが、ペットボトルなど蓋の閉まる容器で、糖分を含まない飲料のみ持ち込めます。学外の友人や家族が LC を見学したい場合は、1 階インフォメーションカウンターへ申し出てください。

所蔵情報の検索（LINKIT-II）

2 階検索コーナーや分野別フロアに設置されている検索端末を使用し、所蔵情報を検索できます。なお、所蔵情報を検索できるシステム「LINKIT-II」は、ホームページからアクセスでき、学外からでも利用できます。

貸出返却

2 階レファレンスカウンター前にある自動貸出返却装置を使用して、学生自身で手続きを行います。貸出には利用者カードが必要です。不具合が生じた場合は、2 階レファレンスカウンターに申し出てください。

貸出冊数		制限なし
貸出期間	5 年生	2 週間
	1～4 年生	1 週間

※延滞図書（返却日を過ぎた図書）がある場合は、返却するまで新たな貸出はできません。督促に要した費用を実費徴収する場合もあるので注意してください。

※一部館外貸出できない資料もあります。

例) レファレンス資料、教科書、雑誌、製本雑誌、新聞、マイクロ資料、レコード、AV 資料、貴重資料、特別資料など

図書の予約

貸出中の図書に予約をすると、図書が返却された際、優先的に利用することができます。また、長期間貸出予定の図書に予約をした場合、返却予定日が来ていなくても、学生は優先的に利用することができます。図書の予約は、Web（LINKIT-II）上から申し込むことができます。

図書の購入

図書の購入を希望する場合は、2 階レファレンスカウンターまで申し出てください。調査のうえ、できるだけ希望に添うようにしています。

文献複写

所蔵資料の複写は、複写申請用紙に必要事項を記入し、著作権法の許す範囲内でコイン式複写機を利用してください。所蔵していない資料の複写物の入手方法については、2 階レファレンスカウンターへ問い合わせてください。

学術情報データベース

「JDream III」や「CiNii」など、論文情報や研究情報を検索・入手できるデータベースの利用が可能です（一部有料）。利用方法についての詳細は、2 階レファレンスカウンターへ問い合わせてください。また、各種利用講習会を要望に応じて開催しています。開催を希望する場合は、2 階レファレンスカウンターに申し込んでください。

LC ポータル

新着図書や書評、貸出ランキングなどの各種情報が参照できるほか、ネットワーク上に自分だけの書棚を持つこともできます。また、講座・講習会の申し込みや館内施設の予約状況の確認もできます。

<http://lc-portal.mars.kanazawa-it.ac.jp/>

館内案内

KIT-LC

インフォメーションカウンター

1 F

総合案内及び各種受付窓口です。展示室や AV 室、グループ学習室などの館内施設を利用する際はこちらに申し込んでください。

総合フロア

2 F

レファレンス資料、人文・社会・自然科学、資格・就職、文庫・新書、白書・規格、英語多読図書など、一般的な教養図書や、基礎的な教育・研究に対応する図書が約3万冊あります。

学術雑誌コーナー

2 F

専門分野に関する国内外の学術雑誌があります。興味のある分野の研究動向の調査や、論文作成の際に役立ててください。なお、Web で利用できる電子ジャーナルや学術情報データベースも提供しています。ホームページからアクセスしてください。

ブラウジング／新聞コーナー

2 F

趣味・娯楽・教養雑誌などがあります。新聞コーナーでは、全国紙や北海道から沖縄までの全国の地方紙など、60余紙を閲覧することができます。

レファレンスカウンター

2 F

図書の貸出、返却、予約をはじめ、資料や文献の探し方、資料が見つからないなどの相談や問い合わせに応じえています。

学習支援デスク

2 F

専門基礎学力向上のための相談窓口です。SL が決められた時間帯にデスクに待機し、専門分野の学習相談や個別指導・グループ指導を実施しています。SL の担当スケジュールは、ホームページで確認してください。

ライティングセンター

2 F

文章作成についての相談窓口です。小論文や就職活動での自己PR文、手紙など、さまざまな文章の添削やアドバイスをしています。受付時間はライティングセンター前の掲示を確認してください。

検索コーナー

2 F

所蔵情報を検索できるシステム「LINKIT-II」を利用するための検索端末が設置されています。また、グループ閲覧席も設けています。使用後は、整理整頓を心掛けてください。

STEM・ビブリオ・プラザ

2 F

科学技術の発展をテーマ別に、所蔵する貴重書（「工学の曙文庫」）でたどる企画展示をしています。また、科学の定理・法則・原理などを体験・体感できるコーナーや、科学に関する書籍コーナーも併設しており、このフロア全体が科学、技術、工学そして数学の融合とその本質を洞察する「広場」となっています。

Digital Contents Factory

2 F

CG・映像・音楽などを制作・編集できる高性能パソコンを設置し、学生のデジタルコンテンツ制作活動を支援しています。また、AV 資料を利用することもできます。

PMC（ポピュラー・ミュージック・コレクション）

3 F

本誌 150 ページ参照

グループ学習室／Knowledge Square

グループで勉強会などが行える部屋です。利用を希望する場合は、インフォメーションカウンターに申し込んでください。使用後は、整理整頓を心掛けてください。

分野別フロア

5 F～10 F

専門分野の図書が分野別に置かれています。各フロアには、グループ学習室や自習室もあります。グループ学習室の利用を希望する場合は、インフォメーションカウンターに申し込んでください。使用後は、整理整頓を心掛けてください。

5階	情報工学系、経営管理工学系
6階	電気工学系、電子・通信工学系
7階	機械工学系、資源・エネルギー工学系
8階	力学応用系、建設工学系、材料工学・加工工学系
9階	環境・都市工学系、建築計画・デザイン系
10階	化学・バイオ系、生命・心理系

自習室（7・102）

7号館1 F

365 日 24 時間利用することができます。ただし、1～3年生の利用は 21 時までです。入室には終日、利用者カード（学生証）が必要です。室内には、情報コンセントも設置されています。使用後は、整理整頓を心掛けてください。

●KIT-LC の詳しい情報は、利用案内、ホームページで LC ホームページ

<http://www.kanazawa-it.ac.jp/kitle/>

LC ポータル（学内専用）

<http://lc-portal.mars.kanazawa-it.ac.jp/>

音楽シーンを語る時、 忘れてはならない曲の数々。

ライブラリーセンター3階にあるPMC（ポピュラー・ミュージック・コレクション）は、24万枚を超えるアナログレコード中心のコレクション。全国の音楽愛好家からの寄贈によって構成され、現在も所蔵枚数は増え続けています。PMCフロアには、LPやCDなど常時1万5千枚のレコードやCDが排架されているほか、情報検索システム「LINKIT-II」で希望のタイトルを探せるようになっています。試聴にはボディソニック（体感音響装置）というオーディオ設備が用意されています。また、各自のレコードやCD、携帯音楽プレーヤーを持ち込んで聴くこともできます。

利用時間

月曜日～金曜日…… 8:30～22:00
土曜日…………… 8:30～17:00
日曜日・祝日……10:00～17:00

利用の手順

- ① 聴きたいレコードやCDを選ぶ。
- ② レコードやCDと学生証をカウンターに提示する（レコード返却時まで学生証は預かるシステム）。持ち込みの場合もカウンターに学生証を提示する。
- ③ ボディソニックで試聴する。
- ④ 聴き終わったレコードやCDをカウンターへ返却すると学生証が戻される。

※レコードは大変傷つきやすいものなので、大切に扱ってください。

■所蔵レコード

ポピュラー

ジャズ&フュージョン
海外のロック&ポップス
イージー・リスニング
映画&TV音楽
カントリー&ウエスタン、フォーク
シャンソン、カンツォーネ
日本のロック&ポップス
その他

クラシック

交響曲
管弦楽曲
協奏曲
室内楽曲
器楽曲
歌劇
声楽曲
音楽史
現代曲
その他

その他

童謡・ホームミュージック
日本のメロディ
日本の民謡
邦楽曲
民族音楽
音楽以外のもの

情報処理サービスセンター 6号館240室

金沢工科大学園のキャンパスには、ギガビットのバックボーンネットワークを核にした高速ネットワークが張り巡らされ、大容量のサーバーをはじめ、教育・研究用のワークステーションや高性能パソコンが接続されています。また、キャンパス内随所に無線LANのアクセスポイントが設けられ、教材をはじめ、修学に必要なさまざまな情報をサーバーからダウンロードしたり閲覧することができます。

情報処理サービスセンターでは、ICTを活用した高度な教育・研究環境構築に向けた各種支援を行っています。

詳しい情報：<http://mercury.kanazawa-it.ac.jp/dpc/>

■窓口取り扱い時間

6号館240室

月曜日～金曜日…8:30～17:20

土曜日……………8:30～13:00

ネットワークの提供 6号館240室

ネットワークを利用するには、情報倫理（インターネットを活用する上でのルールやマナー）に関する学習コース（INFOSS）を受講し、理解する必要があります。

■無線LANによるネットワーク接続（要申請）

キャンパス内に設置されたアクセスポイントを経由し、学内ネットワークやインターネットを利用することができます。

（関連情報：<http://mercury.kanazawa-it.ac.jp/dpc/wireless-LAN/>）

●無線LANのアクセスポイント対象エリア

金沢キャンパス 各学級の教室（310～312室、401～406室）、ALR I～III（307～309室）、講義室（202室～204室）、多目的実験室I～III（117室、212室、219室）、Eラウンジ（201室）、2階ラウンジ

白山麓キャンパス 校舎棟全域

ライブラリーセンター 1階ラウンジ、2階総合フロア、4～11階分野別フロア

自習室（7号館1階）

レストラン LA TERRA（21号館1階）

※昼食時間帯は利用できない

カフェテリア IL SOLE（21号館2階）

※昼食時間帯は利用できない

コンビニエンス ACQUA 下フロア（27号館1階）

※昼食時間帯は利用できない

etc.

■VPNによるネットワーク接続（要申請）

「Remote-VPN サービス」を利用して、自宅のパソコンからインターネットを経由し、学内ネットワークに接続することができます。（関連情報：<http://mercury.kanazawa-it.ac.jp/dpc/remote-vpn/>）

AVに関する各種サービス

情報処理サービスセンターAV 室（12・402）ではゼミ、研究を目的とした映像・音声に関する各種サービスを行っています。

詳しい情報：<http://mercury.kanazawa-it.ac.jp/av/>

■視聴覚機器貸出（事前申請が必要）

各種メディアプレーヤー、プロジェクター、カメラなどを貸し出しています。

■視聴覚資料制作

プレゼンテーションなどの視聴覚資料の出力サービスを行っています。

- 動画データ変換
- 静止画データ
- ビデオプリント
- その他AV資料制作など

■映像・音声に関する技術相談

なんでも気軽に相談してください。

■AVIS(Audio Visual Instruction System)の紹介

学内ネットワークを利用し、AV資料（学内で行われた各種講演会や講義・各プロジェクトの活躍など）を視聴できます。

コンピュータネットワーク利用 について

情報処理サービスセンター

金沢工大学園のコンピュータネットワークは、インターネットに繋がり、教職員や学生が学内外の関係者との、さまざまなコミュニケーションに活用しています。

このインターネットを中心とした「コンピュータネットワーク社会」においても、一般社会と同様に他者に迷惑をかけたり、不快な思いをさせないために各利用者が

遵守すべきルールやマナーがあります。情報倫理に関する学習コース Infoss の受講などを通して情報リテラシーを身に付けましょう。

また、インターネットサービスやアプリなどは、利用規約などを良く理解した上で利用し、被害者と加害者のどちらにもなることのないよう気を付けてください。

金沢工大学園「コンピュータネットワーク利用規範」

情報処理サービスセンターは、正規の利用者が金沢工大学園のネットワークならびに情報処理サービスセンターが管理運用するサーバーコンピュータへのアクセスを保証し、一方で不正なアクセスを排除し安定した運用を確保する責任を負っています。

この責任には、利用者が遵守すべき行動の基準（規範）および違反した場合の懲戒について利用者に告知することが含まれます。この規範に違反した場合、その行為の結果に係わらず利用者IDの使用停止や取消処分を行う場合があります。

金沢工大学園のネットワークは、インターネットを経由して世界中の膨大な数のネットワークに接続しています。利用者は、ネットワークを使用する際のすべての行為に対して責任を負うとともに、法律・法令の遵守が義務づけられています。

- (1) 利用者IDを虚偽に申請したり、不正に他人の利用者IDを使用しない。
- (2) 自分の利用者IDを他人に使用させない。他人に使用させた結果として、他人の行為に対しても、自分が全責任を負う。
- (3) システム資源を大量に消費することにより他の利用者の正常な使用を妨害したり、コンピュータシステムの正常な運用を妨げるような行為により、他の利用者に迷惑もしくは損害を与えない。（求められていないゴミメールやチェーンレターの送信を禁止する。また、故意にコンピュータシステムを混乱させる行為や有害なプログラムの持ち込みを禁止する。）
- (4) 営利、非営利を問わず、商用を目的とした利用はしない。
- (5) 他人のプライバシーを侵害したり、他人を誹謗中傷しない。
- (6) 嫌がらせや、公序良俗に反する行為、その他脅迫的行為をしない。
- (7) 著作権の対象になっているものに対して、著作権者の許可や正規のライセンスなしにこれを侵害しない。

また、利用が急増している Twitter、LINE、Instagram、Facebook などのソーシャルメディア利用についても注意が必要です。ソーシャルメディアに公開した情報を閲覧しているのは友人だけとは限りません。違法行為、個人への中傷などの書き込みは、炎上と呼ばれる誹謗中傷、個人攻撃に発展する事もあります。また、投稿した画像がコピーされた場合は、それらを消去する事は不可能であり、永遠にネット上を漂う事となるので、自分自身・関係者のプライバシーを守るという意識も必要です。ソーシャルメディアを利用する際、書き込む内容には十分注意する事を心掛けましょう。

自己開発センター 8号館2階

在校中に資格を取ろう。

在校中の資格取得のためにさまざまなバックアップを行っています。

「資格は実力の証明」「学歴は無限の可能性への保証」という言葉がありますが、資格は就職活動の際、心強い味方となってくれるはず。

語学系、国家・地方公務員や秘書技能検定、宅地建物取引士などの実務系資格および機械設計技術者、電気主任技術者、情報処理技術者、公害防止管理者などの専門資格など、幅広い資格取得をサポートしていることも特徴です。

詳しい情報：<http://www.kanazawa-it.ac.jp/shikaku/>

利用時間

月曜日～金曜日…… 8:30～17:20

土曜日…………… 8:30～13:00

自己開発センターで取り扱っている資格試験

- 機械関係
- 電気・電子関係
- 情報関係
- 土木・建築関係
- 環境・化学関係
- 高度技術系
- 語学関係
- 実務関係

■自己開発センターで取り扱っている資格試験

●機械関係

1. CAD利用技術者（2D・3D）
2. ボイラー技士（2級）
3. 機械設計技術者（3級）
4. 施工管理技士試験（管工事）

●電気・電子関係

5. 電気主任技術者
6. 電気工事士
7. 電気通信主任技術者
8. 工事担任者
9. 陸上無線技術士
10. 特殊無線技士
11. 消防設備士
12. 施工管理技士試験（電気工事）
13. 情報配線施工技能検定

●情報関係

14. 情報処理技術者（基本情報など）
15. CG検定（CGクリエイター／CGエンジニア／マルチメディアなど）
16. デジタル技術検定
17. オラクルマスター
18. シスコ技術者認定
19. Java プログラミング能力認定

●環境・化学関係

20. 公害防止管理者
21. 危険物取扱者

●高度技術系

22. 技術士（補）
23. F E 試験（Fundamentals of Engineering Exam）

●語学関係

24. 実用英語技能検定
25. 工業英語能力検定
26. 日本漢字能力検定
27. 日本語検定

●実務関係

28. 知的財産管理技能検定
29. 品質管理検定（QC検定）
30. 秘書技能検定
31. 簿記検定（日商）
32. カラーコーディネーター検定（東商）
33. 実用数学技能検定
34. マイクロソフト認定試験（MOS）
35. 宅地建物取引士

※上記資格以外に、インターネットで申込むものもあります。

※資格の詳細については、LICENSEの資格の詳細ページを参照するか、自己開発センターでお尋ねください。

ライセンス取得から始まる、ものづくり。 サポート万全、夢考房。

夢考房は、自由に利用できる作業環境。ものづくりの喜び、失敗の経験、試行錯誤の数々、仲間たちとの議論は工学の原点です。

夢考房では、手工具から各種工作機械までを取り揃え、多様なものづくりに対応する機能があり、常駐する技師や学生スタッフから適切なアドバイスを受けることができます。

なお、金沢工業大学の夢考房プロジェクトの活動の場ともなっているの
で、見学や参加を希望する学生は、訪ねてみて下さい。

■夢考房の機能

- 「ものづくり」を行う場所として活用できます。
 - 「ものづくり」に必要な道具が揃っています。
 - 各種材料・部品を提供するパーツショップもあります。
 - 安全な「ものづくり」を支援する技師と学生スタッフがいます。
- 気軽に相談してください。
- 11 種類の夢考房ライセンス講習会を開講しています。ぜひ、受講しましょう。

その他、ものづくり、安全作業に関することは、何でも相談してください。

利用方法

学生証で入館手続きをすれば、全学生が自由に使用可能。但し、安全に作業を行うために、使用する工具・機械によって「夢考房ライセンス」を取得しなければならないものもあります。

利用時間

月曜日～金曜日…… 8 : 40～21 : 00 土曜日…………… 8 : 40～17 : 00

休 日…………… 9 : 30～17 : 00

詳しい情報や開館日は、HP で確認できます。

<http://www.kanazawa-it.ac.jp/yumekobo/>

夢考房ライセンス講習会

■申し込みは夢考房のホームページで!!

開講時間は、月曜日から金曜日の 17:15～20:00、土曜日および休業中は 13:00～15:45 の 2 時間 45 分。講習会の予約は、開講日 4 日前の 8:00 から受付開始。2 日前の 7:50 時点で定員を超えた場合は、抽選となります。やむを得ない理由で予約をキャンセルする場合もホームページで行います（行えない場合は、夢考房まで知らせてください）。無断欠席した場合は、ペナルティとしてそれ以降 30 日間予約ができません。

主な機能

- ものづくり相談
- 測定
- 金属加工
- 木材加工
- 樹脂加工
- 3Dプリンタによるプラスチック造形
- 溶接
- 塗装
- 模型製作
- 自転車の修理
- テニスラケットのガット張り
- スキー&スノーボードチューンナップ
- プロジェクトの貸し出し
- 電子回路/プリント基板製作
- パーツショップ

夢考房プロジェクト

- ソーラーカープロジェクト
- 人力飛行機プロジェクト
- ロボットプロジェクト
- エコランププロジェクト
- 建築デザインプロジェクト
- RoboCup プロジェクト
- フォーミュラカープロジェクト
- カニカサプロジェクト
- 義手研究開発プロジェクト
- 小型無人飛行機プロジェクト
- 組込みソフトウェアプロジェクト
- 人工衛星開発プロジェクト
- RoboCup@Home プロジェクト
- レーシングエクスプレス（短期）

スポーツ考房（トレーニングルーム） 第2体育館2階

いつでも気軽に トレーニングルームへ。

トレーニングルームでは、多種多様なエクササイズマシンを揃え、毎日楽しく元気に過ごせる健康づくりやチャmpionsポーツとして勝つための身体づくりができます。また、腰痛や肩こり、ダイエットなど個々に合わせたアドバイスも行っているので気軽にスタッフに相談してください。

まずは、利用者講習会に参加しよう！

詳しい情報：<http://mercury.kanazawa-it.ac.jp/sports-k/>

利用時間

月曜日～金曜日 ……9：00～20：00

土曜日 ……9：00～16：00

（学生休業中は変則日程になります）

- 体育授業中は利用できません。
- 入学式、卒業式などの行事は休館になります。

利用者講習会

毎週木曜日……………17：15～18：00

（受付時間……………17：00～）

- 4月、5月は火曜日も開催しています。
- 利用者講習会受講者には「トレーニングカード」を発行しており、利用時には「トレーニングカード」と「学生証」の提示が必要です。

設備

- ストレングスマシン・・・18種類
- カーディオマシン・・・16台
- ランニングコース（1周155m）
- 身長体重計、体脂肪計、血圧計
- バランスボール、ストレッチボール、ダンベル、縄跳びなど

自然学苑・セミナーハウス

大自然を満喫。

穴水湾自然学苑

穴水湾自然学苑は、本学園から北北東へおよそ 100 キロ（車で約 2 時間）、能登半島国定公園の景勝地、穴水町由比ヶ丘（ゆいがおか）にあります。

鉄筋 4 階建の本館をはじめ、体育館・グラウンドなどが完備され、専用のヨットハーバーには 3 つの艇庫、調査研究船、外洋クルーザー、ヨット、ボート、そして学生が力を合わせて漕いだり帆走したり実習できるカッター（カッターとは、映画「タイタニック」でも使われていた救難用のボートで、昔から気骨ある船乗りの育成（気力、体力、チームワークそしてリーダーシップの醸成）に使用されているボートです）も準備されています。

1 年次及び 2 又は 3 年次の研修として、ここで 2 泊 3 日の集団生活を体験し、社会に出てから必要となる思いやり、マナーやチームワークの大切さなどを学びます。

【利用の問い合わせ】

穴水湾自然学苑 石川県鳳珠郡穴水町由比ヶ丘 Tel. 0768-52-1279

- 学苑面積／約 40,000m²
- 本館／168 名収容
- 体育館／約 763m²
- 駐車場／20 台収容
- 調査研究船（アルタイル）／約 20 トン
- 外洋クルーザー（FAIR V）／1 艇
- 救助艇／4 艇
- ボート／12 隻
- KIT 型 6m カッター／20 隻
- ヨット／6 艇
- 艇庫／3 棟
- グラウンド

天池自然学苑

天池自然学苑は、本学園から車でおよそ 25 分。金沢市南東部の広大な丘陵地に、約 25 万平方メートルにわたって広がっています。研究施設の他、体育館、ラグビー場、野球場、ゴルフ練習場があります。

【利用の問い合わせ】

金沢工業大学施設部（6 号館 1 階）

- 学苑面積／約 243,000m²
- 体育施設
 - 体育館、ラグビー場
 - 野球場
 - ゴルフ練習場
- 駐車場／約 100 台収容

池の平セミナーハウス

池の平セミナーハウスは、金沢から車でおよそ 3 時間。上信越高原国立公園の雄大な自然の中、目の前には「須弥山」と呼ばれた美しい山容の妙高山を望めます。そして豊富な温泉。5 年次の必修科目「人間と自然Ⅲ」はここで行われます。

【利用の問い合わせ】

金沢工業大学総務課



FM-N1

コミュニティFMラジオ放送局

インターネットやスマートフォンで同時配信。 画像や映像も楽しめる先進的な 「マルチメディア・ラジオ」

FM-N1は、KITが中心となって野々市市や地域の企業と共に平成7年に開局したコミュニティFMラジオ放送局です。現在、全国303局を数えるコミュニティFM局の中でも、FM-N1は最先端を走るラジオ局です。平成20年より番組を電波による放送だけではなく、インターネットやスマートフォン向けの同時放送も行い、パソコン画面で画像や映像なども楽しめるラジオだからです。更に、ツイッターやFacebookの活用など、1つの番組をさまざまな媒体で楽しめる「マルチメディア・ラジオ」を実践しています。

金沢工大28号館に本社スタジオを有し、送信アンテナは6号館L屋上にあります。平成27年6月に新装となり、オシャレで開放的なラジオ局FM-N1にイメージチェンジ。加賀五彩に色分けされたスタジオや1F広場は多様な用途で賑わっています。2FはFM-N1の番組制作をするWAVEプロジェクトの活動拠点で専用スタジオもあります。更に夕方から夜10時までは南側ガラス壁面にサイネージ放映も実施中。

リスナーがそのまま作り手となるFM局

FM-N1は24時間放送し、番組は100%自主制作です。番組はインターネットによって全世界に発信できるものの、FM-N1の理念、目指すところはあくまでも地域密着・地域貢献。FM-N1の番組制作・発信をするための、金沢工大生からなるWAVEプロジェクトがあることも大きな特徴です。スタッフをはじめ、話題豊富な地域の一般サポーター、生徒や学生等多くの参加者達のセンスと若さ元氣あふれた番組を一週間に約150本制作発信しています。参加はいつでもOK、君も番組づくりに参加しよう。

番組制作に参加する2つの方法

■基礎講習を受けて、KIT Campus Wave

KIT Campus Waveは、学生のWAVEプロジェクトが制作している金沢工業大学提供の生放送番組。発声練習や番組制作一般の知識（ex 機材の扱い方や放送禁止用語の知識）などを教えてくれる基礎講習会を受講し、番組制作にあたります。

基礎講習会の開催については、FM-N1（28号館1階）に問い合わせしてください。

■放送無線部に入って番組を制作

もう1つは、国際高専の放送無線部に入って番組を制作する方法です。国際高専をはじめ、地域の高校放送部が交代で毎週1回30分番組「ハイスクールDJ」を制作しています。ラジオでしゃべりたい人、ミキサー操作をしたい人にはまさにピッタリの番組です。興味のある人は国際高専の放送無線部をたずねてみてください。

■緊急時には

大災害が発生した場合は、このFM-N1が活躍する。学園からの情報も放送されます。

FM-N1聴取方法

- ラジオは FM76.3MHz
- インターネット同時配信は FM-N1 ホームページから (<http://fmn1.jp/>)
- スマートフォン・タブレットは各種アプリから (Listen Radio など)



扇が丘診療所 11号館1階

キャンパス内の診療所

学内に設置されている内科の診療所です。体調不良時の診察や健康診断などを実施しています。

診療を受ける時に必要なもの

- 学生証
- 健康保険被保険者証（遠隔地被保険者証）

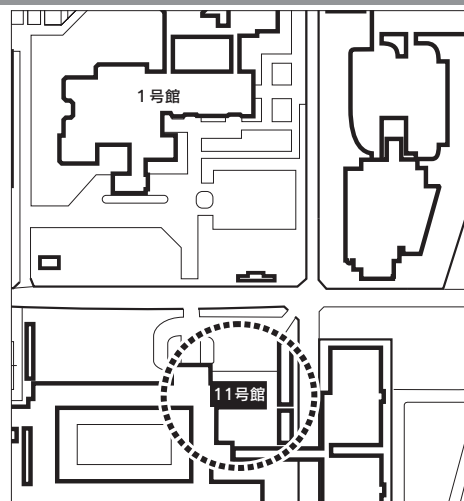
診療時間

休診日：土・日・祝

診察時間は、診療所までお問い合わせ下さい。

窓口対応時間 平日 8:30～17:00

診療所窓口 TEL 076 (246) 1393



その他

- ・対応が困難な場合は、適切な医療機関への紹介を行っています。困っている症状があるが「どこに受診すれば良いのか分からない」場合は、近隣の医療機関をご案内します。
- ・診察以外に傷やけがの一次処置をしています。
- ・診療所内の自動血圧計、身長体重計、体組成計は窓口対応時間であれば自由に使用できます。

■学園内にAEDを設置しています



AEDとは automated external defibrillator の頭文字をとったもので、自動体外式除細動器ともいわれ、心室細動などによる心停止者に電気ショックを与え、心臓の動きを正常に取り戻させる機器です。設置場所は1号館1階、7号館1階、11号館1階(診療所前)、21号館1階(食堂)、23号館2階、24号館2階、26号館1階、LC1階、31号館1階(高専事務室前)、40号館1階、41号館1階、第1体育館、南校地守衛棟。この他に、八束穂キャンパス、天池自然学苑、穴水湾自然学苑、池の平セミナーハウスなどにもあり、左記のAEDマークが掲示してあります。

金沢工業大学内簡易郵便局

5号館1階

学内には簡易郵便局があります。ATM（貯金自動預払機）によるキャッシュサービスも利用できるため仕送りにも便利です。不在のために受け取れなかった郵便物をこの簡易郵便局に転送し、キャンパスの中で受け取ることもできます。また簡易郵便局に直接送れば取り次ぎもします。

学内簡易郵便局窓口取り扱い時間

月曜日～金曜日……………9:00 ～16:00（貯金・保険）

月曜日～金曜日……………9:00 ～17:00（郵便）

土曜日……………9:00 ～12:30（郵便）

（土曜日は切手などの販売、転送された郵便物の引き渡しのみ）

学内簡易郵便局窓口取り扱い業務

●切手・はがき・印紙の販売 ●ゆうパックおよび郵便物の取り次ぎなど（日本郵便（株）） ●貯金、振替、為替、交通反則金、国民年金（（株）ゆうちょ銀行） ●保険（（株）かんぽ生命保険）

不在郵便物を学内簡易郵便局へ転送する場合

「郵便物等お預かりのお知らせ」のはがきの「他の郵便局で受け取り」欄に

金沢工業大学内簡易郵便局

と、記入してポストへ投函するか郵便局窓口へ。

郵便小包などを学内簡易郵便局に直接送付する場合

次のような宛先とし、氏名と携帯電話番号または学籍番号を記入してください。

〒921-8812 石川県野々市市扇が丘 7-1

金沢工業大学内簡易郵便局留置

学生氏名（携帯電話番号または学籍番号）

荷物が届いたら、学内テレビ掲示または携帯電話へ連絡します。

学内簡易郵便局への問い合わせ先

076-246-2142（直通） 076-248-6372（FAX）

ATMコーナー

●ゆうちょ銀行……………5号館1階

■取り扱い時間（※他の金融機関へ送金が可能）

月曜日～金曜日……………9:00 ～17:30

土曜日……………9:00 ～12:30

日曜日・祝日……………休み

●北國銀行……………8号館1階

■取り扱い時間

月曜日～土曜日……………9:00 ～18:00

日曜日・祝日……………休み

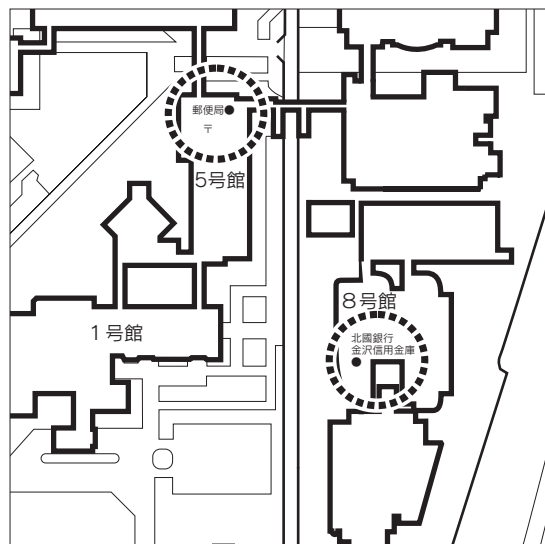
●金沢信用金庫……………8号館1階

■取り扱い時間（※出金のみ可能）

月曜日～金曜日……………9:00 ～18:00

土曜日……………9:00 ～17:00

日曜日・祝日……………休み



飲食関係のサービス施設

レストラン LATERRA 21号館1階

ボリュームのあるメニューから、ヘルシーなメニュー、そして単品メニューも充実。自分に適した食事がチョイスできます。丼・カレーはテイクアウト（容器代別途）が可能で、温かいものを持ち帰って食べる事もできます。さらに、サラダバー・惣菜バーでは自分で好きな量を取ることができるので、野菜不足もこれで解消。

<http://kit-group.jp/>

営業時間／月～金…8:00～10:00

(モーニングタイム)

10:00～15:00

(ランチタイム)

16:00～19:00

(ディナータイム)

土……………8:45～13:00

カフェテリア ILSOLE 21号館2階

落ち着いた雰囲気ランチを楽しみたい時は、イルソレで。

セットメニューは、週替わりで毎日2種類あるので、選ぶ楽しみがあります。また、その場で豆を挽く本格的なコーヒーも楽しめるので、授業の合間にブレイクタイムをどうぞ。

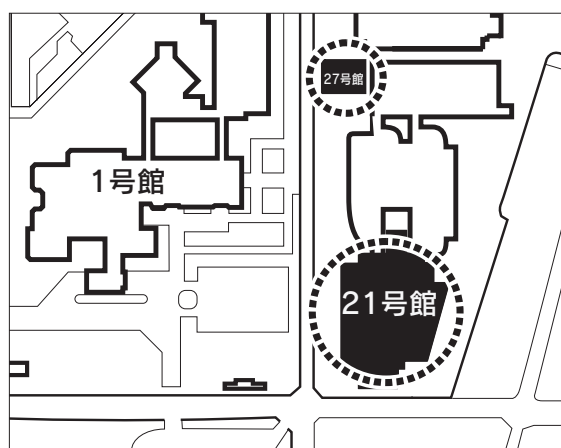
営業時間／月～金…10:00～15:00

生活彩家アクア店 27号館

焼きたてパン、豊富な種類のお菓子やドリンク、また専用マシンによる本格コーヒーの提供も行っています。朝のモーニングコーヒーや3時のおやつは、コンビニエンス ACQUA で！

営業時間／月～金…8:30～19:00

土……………8:30～14:00



各種サービス施設

KITブックセンター 21号館2階

本や雑誌が8%OFF! 文具は20%OFF。教科書はもちろん、専門書、資格本、就職本が充実。話題の本など、きめ細かいラインナップが自慢。文具では製図用品などちょっと特殊なものも揃えています。また、制服・体操服・実験服の注文販売もしています。もちろん、取り寄せにも迅速に対応してくれます。詳しくはHPで!

<http://kit-group.jp/>

営業時間/月～金…8:30～17:30

土……………8:30～14:00

KITサービスセンター 21号館2階

JR・高速バスのチケット購入、国内・海外旅行のお申し込みができます。また、学生向け総合保険の手続き、自動車学校の紹介、金沢工業大学生・国際高等専門学校

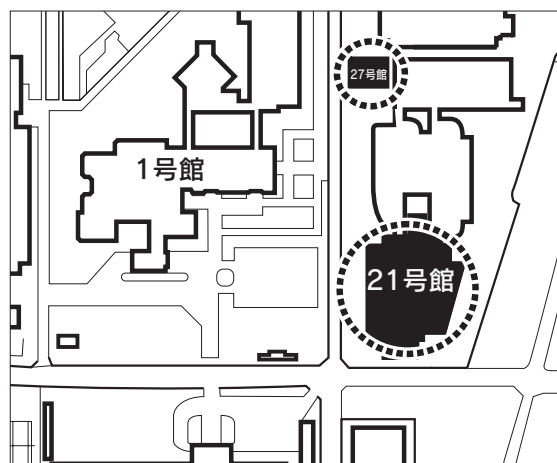
向けの寮・アパートの紹介（寮・下宿相談室【新篁^{しんこう}】）

など、様々なサービスを提供しています。

<http://kit-group.jp/>

営業時間/月～金…9:00～17:30

営業時間/土……………9:00～14:00

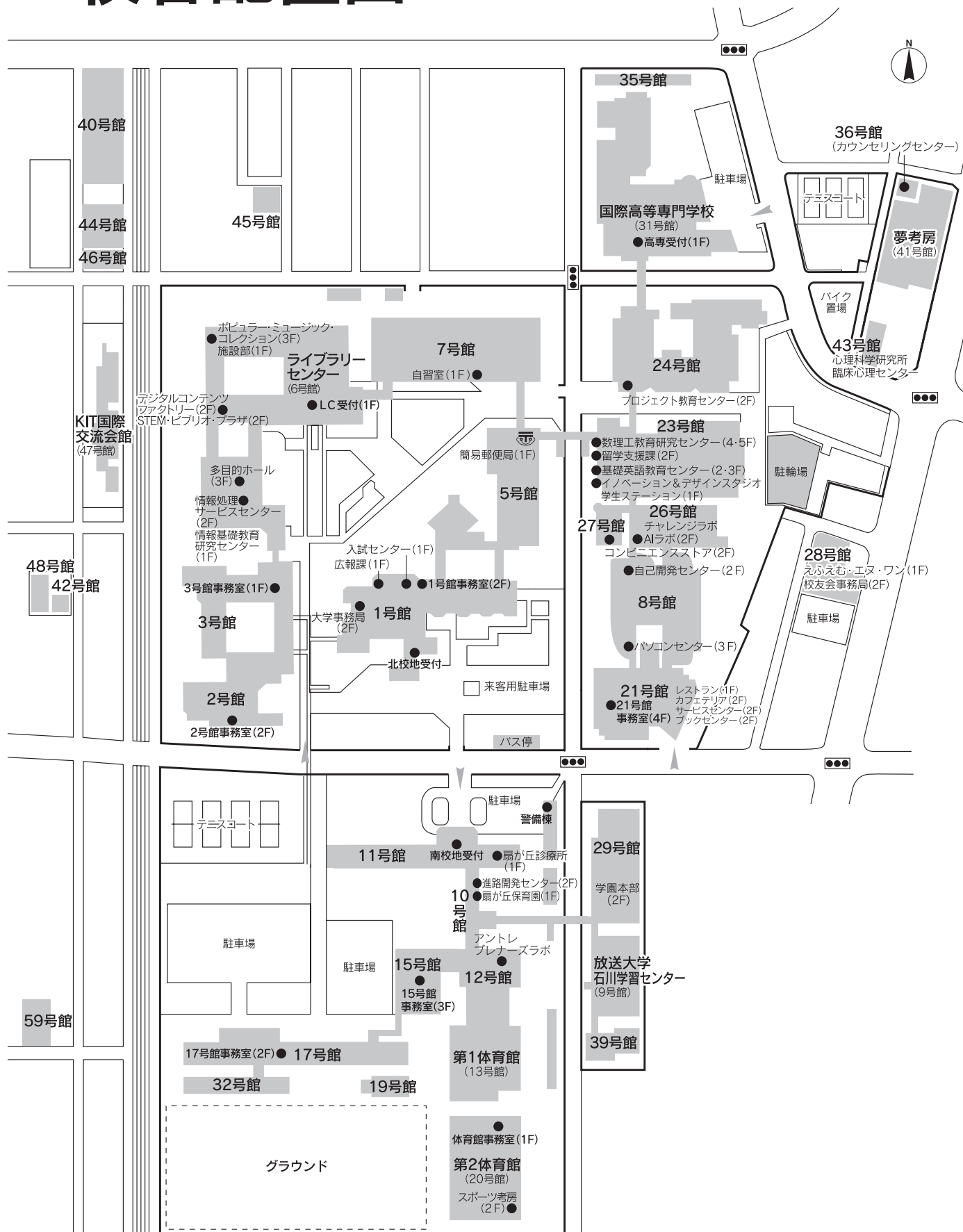


キャンパス マップ

校舎配置図P.164

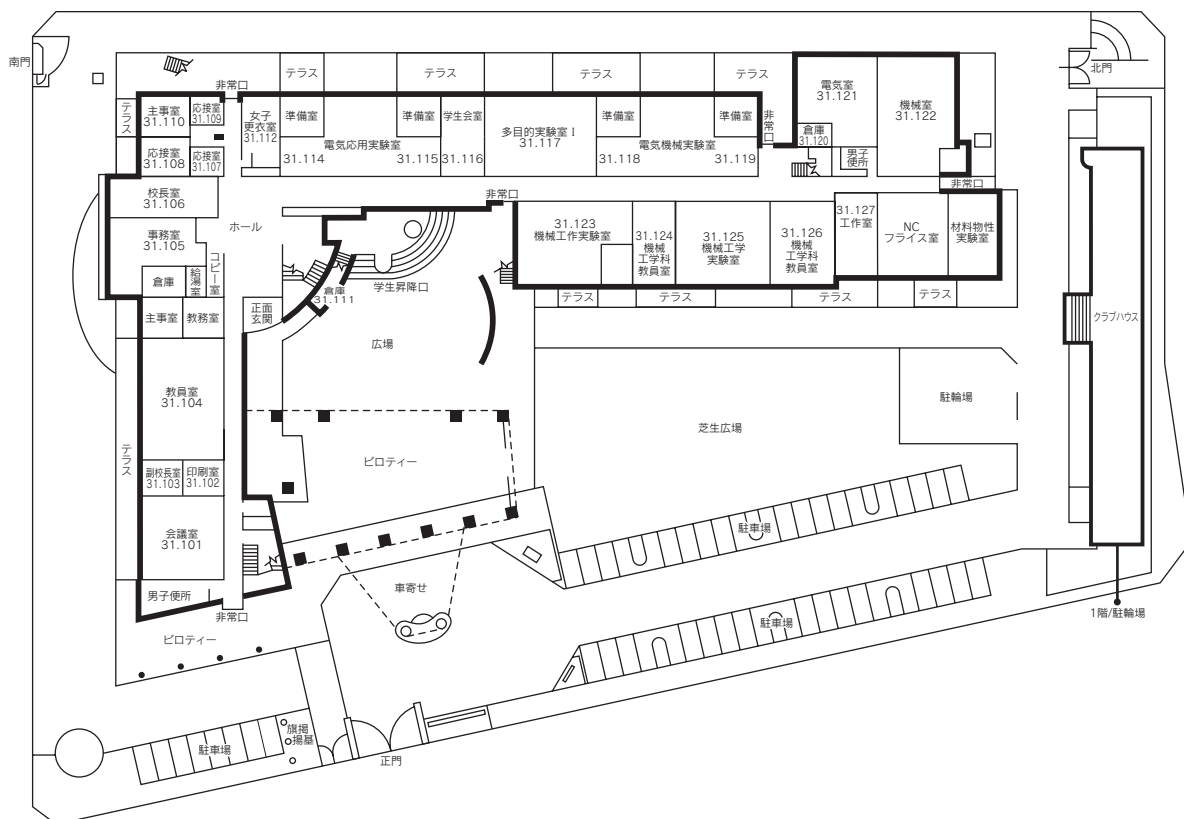
校内案内図P.165

校舎配置図

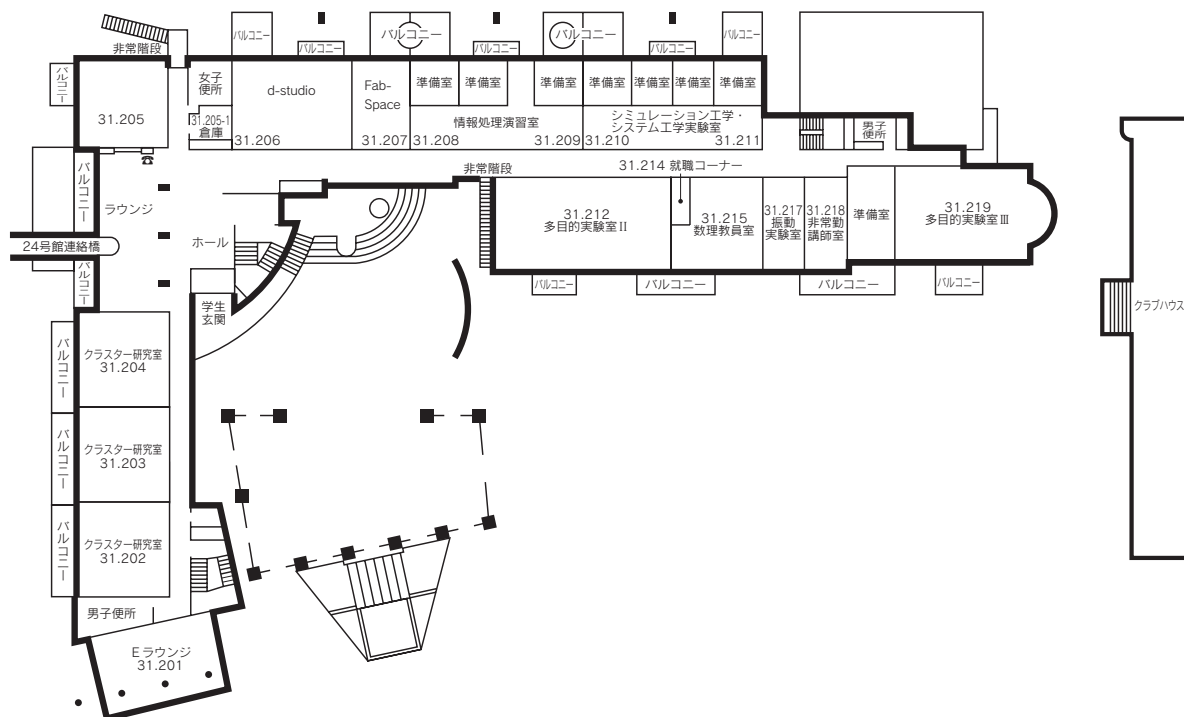


校内案内図

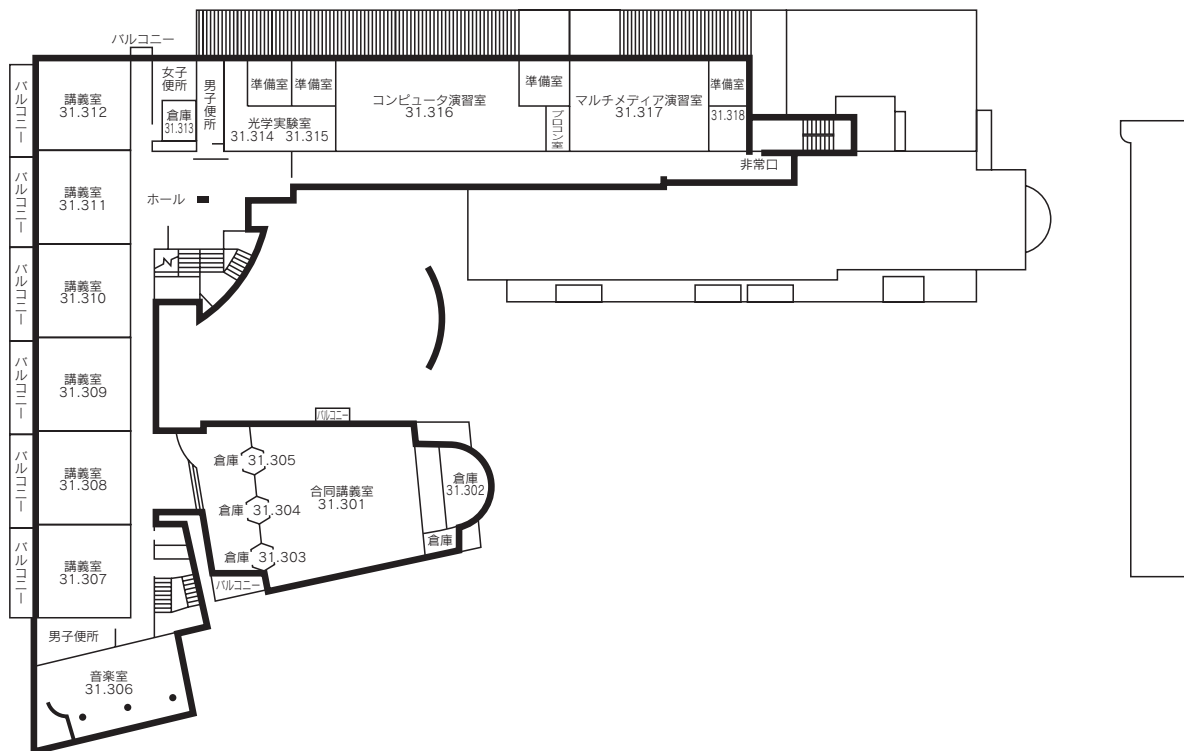
1 F



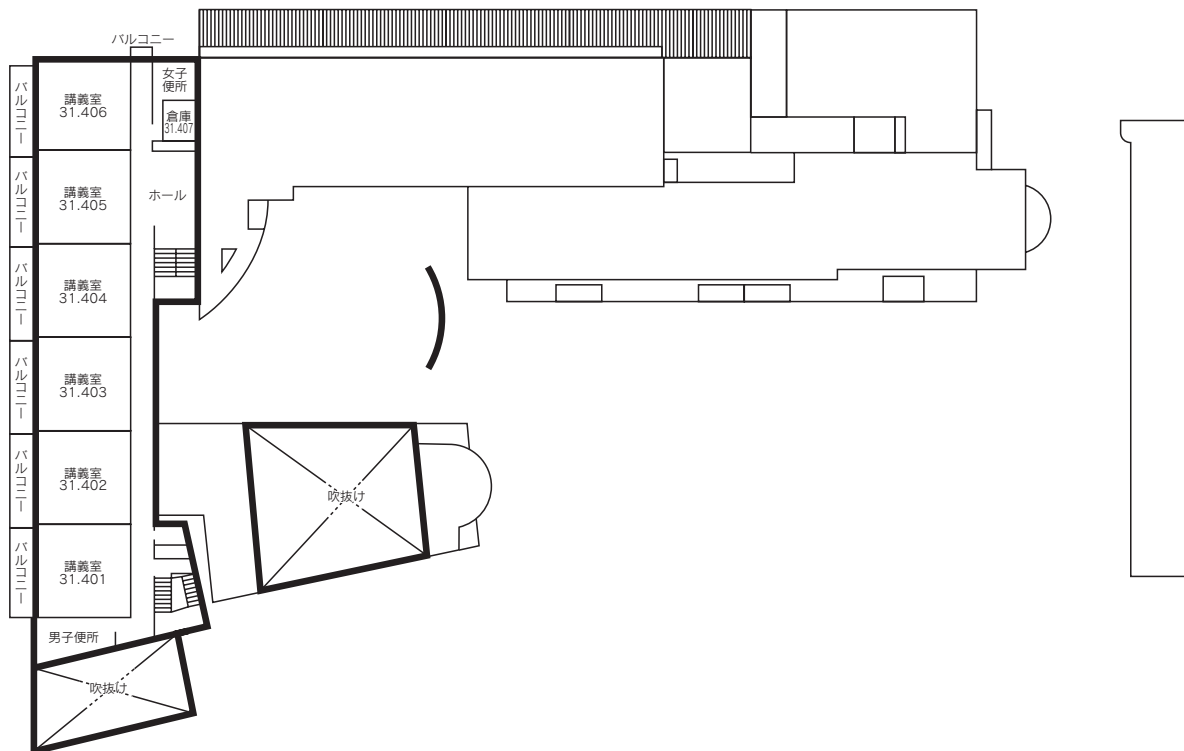
2 F



3 F



4 F



ティーチング スタッフ 2019

校長



校長・教授

ルイス・バークスデール

Lewis Barksdale

■略歴および専門分野

アメリカンスクール イン ジャパン（東京都）出身
米国フロリダ州エカード大学比較文化科卒。ハワイ大学大学院修士課程（英語教授法）修了。テキサス大学大学院博士課程（外国語教育）満期退学。名古屋金城学院短大、高等部、中等部で英語教員を務め、その後ハワイ大学で英語学を担当。金沢工業大学教授を経て平成26年、金沢工業高等専門学校校長就任。専門は外国語教育。第2言語習得における学習者ストラテジーの研究に従事。

■横顔

理知的で物静かであるが非常に鋭い観察力を持つ先生である。長年に亘って金沢工業大学の英語教育を牽引してきた。人生の4分の3を日本で過ごしているため、日本のことは日本人以上に深く理解し愛している。

■趣味

ワイン、読書（歴史・科学・小説）、クラシック音楽。

■近況

年齢を重ねていくことの楽しみの一つは、発達させるのに時間が掛かる新しい嗜好を身につけていけることである。自分でも驚いたことに、最近私はヨーロッパ19世紀のオペラに興味を持ち、有名な作品を聞き始めた。同時期の日本の伝統芸能に人形浄瑠璃と歌舞伎があるが、これらも奥深いものである。これからもこのような芸術作品を探索していきたい。

副校長



副校長

国際交流主事・教授

向井 守

Mamoru Mukai

■略歴および専門分野

野田中学校（石川県）出身
大阪学院大学外国語学部英語学科卒。セントマイケルズ大学大学院修士課程（第二言語としての英語教授法）修了。昭和59年本校講師就任。助教授を経て、平成9年教授。平成24年金沢工業高等専門学校副校長就任。専門は外国語としての英語教授法（TEFL）と第二言語修得（SLA）。現在教材開発の研究に従事。

■横顔

いつも明るく笑顔を絶やさない。学生にも優しく、親身になって話してくれる。本校の英語教育と国際交流の草分け的存在であり、海外の協定校にとっては“顔”的存在である。英語のスピードは、母国語の日本語よりも速いという定評がある。

■趣味

映画、旅行、スポーツ鑑賞

■近況

英語を学問としてではなく、伝達手段のための言語として修得できるような雰囲気を持つ授業づくりを目指している。



副校長・進路指導主事
教授・工学博士

高橋 文雄

Takeo Takahashi

■担当科目

（金沢）物理化学Ⅲ

■略歴および専門分野

中瀬中学校（東京都）出身
防衛大学校応用物理学科卒。防衛大学校理工学研究科（物理工学）修了。大阪大学研究生。防衛大学校教授。防衛研究所総括主任研究官。陸上自衛隊研究本部主任研究開発官を経て、平成23年本校教授就任。平成26年本校副校長就任。専門は燃焼工学。「乱流予混合火炎の挙動と構造に関する研究」で学位取得。

■横顔

私のモットーは「未来予測は、技術予測から」。1952年に2003年4月7日生まれを想定して放映された鉄腕アトム。そして、今のロボット技術といえば、推して知るべし。高専生が、豊かな創造性を発揮して「ものづくり」に挑戦し、未来に活躍できるエンジニアをめざして力を磨けるよう手助けしたい。

■趣味

ドライブ

■近況

歴史と伝統の地、金沢での勤務も8年が経ちました。

教授



機械工学科学科長
教授・博士(工学)

伊藤 恒平

Kouhei Ito

■担当科目

(金沢) ロボット工学、航空工学、制御工学、創造設計Ⅳ、卒業研究

■略歴および専門分野

的場中学校(北海道)出身
防衛大学校航空宇宙工学教室卒。防衛大学校理工学研究科(航空宇宙)修了。筑波大学大学院博士後期課程(コンピュータサイエンス)修了。陸上自衛隊野整備中隊、川崎重工業会社研修員、防衛庁技術研究本部第3研究所光波誘導研究室を経て、平成18年本校助教授就任。平成21年教授。専門は制御工学、システム工学。

■横顔

「身は奴隷の境涯にあつて鉄鎖につながれていてもその心は自由である。いかなる暴君と言えどもその志を奪うことはできない」。志を持ち、学生が志を持てるよう学生教育に専心努力していきたい。

■趣味

マイクロマウス(ロボット)製作、ロボコン参加

■近況

全日本マイクロマウス競技とそれに伴い行われる地区大会に出場するのが毎年の楽しみ。



国際理工学科副学科長
教授・博士(理学)

伊藤 周

Meguru Ito

■担当科目

(白山麓) コンピュータスキルズⅠA、エンジニアリングコンテキストⅠB、物理ⅠA・ⅠB、ⅡA、ⅡB

(金沢) 電気電子工学演習

■略歴および専門分野

北辰中学校(石川県)出身
慶應義塾大学理工学部物理学科卒。東京大学大学院理学系研究科理学部博士後期課程(天文学)修了。国立天文台ハワイ観測所研究員、ビクトリア大学(カナダ)研究員を経て、平成24年10月本校講師就任。平成27年10月准教授。2019年教授。専門は光学、天文学。「近赤外シルエットエンベロープの統計的研究およびレーザーガイド星システムにおける光ファイバー伝送の特性」で学位取得。現在は水中におけるレーザーアプリケーションの開発と工学教育に関する研究に従事。

■横顔

天文望遠鏡用装置の開発を大学院で志したところ、なぜか海外にある研究所、大学を渡り歩くことに。海外にいた経験も踏まえて学生にものづくりの楽しさを伝えたいと考えている。

■趣味

読書、ゲーム、写真

■近況

最近あまり写真を撮っていないことに気づき、一念発起しようとしているところ。白山の風景は季節ごとに異なる美しさを見せてくれますが、冬の雪景色が一番好きです。



教授

今澤 明男

Akio Imazawa

■担当科目

(金沢) データ分析、卒業研究、ソフトウェア工学Ⅰ、ビジネス概論、企業会計Ⅱ

■略歴および専門分野

開進第三中学校(東京都)出身
慶應義塾大学工学部管理工学科卒。慶應義塾大学大学院工学研究科博士課程(管理工学)単位取得。金沢工業大学講師を経て、平成11年本校教授就任。専門は経営工学・管理工学・行動計量学。信頼リテラシーの研究、計量感覚育成の研究に従事。

■横顔

チョコレートパフェなど甘い物が大好き、ただしお酒も人一倍いける。

■趣味

美術鑑賞、映画鑑賞

■近況

未確認脂肪物体(Unidentified Fat Object)となつて久しい。ダイエットに着手。一時、成功したかに見えるが…。



教授・哲学博士 Ph.D.(歴史学)

上田 清史

Kiyoshi Ueda

■担当科目

(白山麓) 歴史文化ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、歴史文化(英語)ⅡA・ⅡB

■略歴および専門分野

第三中学校(東京都国立市)出身
米国・ミズーリー州立大学歴史学部卒業。カナダ・トロント大学東アジア学部修士課程修了。カナダ・トロント大学歴史学部博士課程修了。カナダ・トロント大学歴史学部助手。東京大学社会科学研究所客員研究員。法政大学法学部兼任講師。イスラエル・イェルサレムヘブライ大学東アジア学部客員教授。上智大学国際教養学部非常勤講師を経て、平成29年9月本校教授就任。専門は近現代日本史。

■横顔

幼い頃から国内外の色々な所で生活し、学び、研究し、人生のほぼ半分を国外で過ごしてきました。テニス選手として五大陸・四十数カ国を訪れています。

■趣味

「歴史」への理解を深める事。

■近況

金沢特有の「強い風・横降りの雪・冬の雷」をまれに見る自然現象と感嘆し、日々過ごしています。学生には歴史の授業を通して色々な観点・見方があることを「発見」してもらい、自由な発想で考えてほしいと願っています。



一般教科主任・教授

宇都宮 隆子

Takako Utsunomiya

■担当科目

(金沢)総合英語Ⅳ、英語表現技法

■略歴および専門分野

城南中学校(石川県)出身
フェリス学院大学文学部英文学科卒。セントマイケルズ大学大学院修士課程(第二言語としての英語教授法)修了。金城学園遊学館高等学校非常勤講師、N C N 米国大学機構北陸地区スクーリング講師、金沢工業大学講師を経て、平成23年本校准教授就任。平成28年教授。専門は英語教授法(TESOL)。

■横顔

学生の皆さんを笑顔にする授業、必死な顔にさせる授業、どちらも私の理想とするところですが、なかなかもって難しいものであります。

■趣味

旅行、美術館めぐり、デパ地下散歩

■近況

小学生の頃、夏休み毎日通ったラジオ体操。あの頃は、音楽に合わせてただ体を動かしているだけでしたが、今になると、その1つひとつがなぜそのような体の動きをしなくてはいけないのかが、体が硬くなってきただけによくわかります。「イタタ…」と言わずにすむよう、規則的な運動をしなくてはと思っています。



教授

大崎 富雄

Tomio Osaki

■担当科目

(金沢)歴史Ⅱ、文化・思想A・B

■略歴および専門分野

軽舞中学校(北海道)出身
皇学館大学文学部国文学科卒。皇学館大学大学院修士課程(国文学)修了。平成元年本校講師就任。平成9年助教授を経て、平成23年教授。専門は近代文学、主に近代文芸評論の研究に従事。

■横顔

特技は中国拳法(螳螂拳、八極拳)。最近、あまり練習できないのが悩み。帰宅後はなるべく練習するようにしているようだ。

■趣味

読書

■近況

近代文学作家の思考態度の分析を中心に研究している。



学生主事(白山麓)・教授

大原 しのぶ

Shinobu Ohara

■担当科目

(白山麓)リーディング・ライティングⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、ブリッジングリッシュ

■略歴および専門分野

長吉六反中学校(大阪府)出身
園田学園女子大学文学部英米文学科卒。セントマイケルズ大学大学院修士課程(第二言語としての英語教授法)修了。大阪市立高等学校および中学校非常勤講師。米国公立高等学校で日本語教師助手を経て、平成8年9月本校講師就任。平成13年助教授を経て、平成21年教授。専門は英語教授法(TESOL)。

■横顔

阪神タイガースの大ファンで、毎年優勝を祈願しているらしい。アメリカ大陸を1人で自動車で横断するというたくましい一面も持っている。

■趣味

旅行、スポーツ鑑賞

■近況

ラーメンが大好きです。美味しいラーメン屋さんの情報を教えてください。最近、若者の話に追いついていけなくなりました。せめてラーメン屋さんや野球の話(特に阪神タイガース)で盛り上がりたいと思っています。



進路指導副主事
教授・博士(工学)

金井 亮

Ryo Kanai

■担当科目

(金沢)エンジニアリングマネジメント、機械工学実験Ⅰ、材料力学Ⅰ・Ⅱ、卒業研究

■略歴および専門分野

東中学校(群馬県前橋市)出身
金沢大学工学部人間・機械工学科卒。金沢大学大学院博士前期課程(機械科学)修了。金沢大学大学院博士後期課程(システム創成科学)単位取得。金沢大学非常勤講師、金沢大学工学部助手を経て、平成19年本校講師就任。平成22年准教授。2019年教授。専門は計算力学、材料力学、最適化設計。「生物の多様性に学ぶ最適化手法の開発研究」で学位取得。

■横顔

どれだけ学んでも充分なことはなく、ただただ勉強不足なことを日々実感。それ以上に教育は難しく、如何に工学の面白さを伝え、わかりやすい授業を行うか、試行錯誤中の自称若手の先生。

■趣味

旅行、温泉、茶道、料理

■近況

やたらと忙しいです。家族と過ごす時間をとりながら、今年も学会とか行きたいけどどうなるんでしょうね。



教授・博士(情報科学)

木原 均

Hitoshi Kihara

■担当科目

(白山麓)解析基礎A・B、基礎数学A・B、微分積分A・B

■略歴および専門分野

水巻南中学校(福岡県)出身
広島大学学校教育学部中学校教員養成課程卒。北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士前期課程修了。北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程修了。北陸先端科学技術大学院大学研究員、研究生を経て、平成20年8月本校講師就任。平成24年准教授。2019年教授。専門は数理論理学。博士論文「Substructural Logics and algebraic study」で学位取得。

■横顔

学生たちの素朴な疑問や問いかけを大切にしており、常に笑顔を忘れないように心がけている。中学時代は勉強嫌いだったが、今では教える立場となり、学生には自信を持ってもらいたいと考えている。

■趣味

読書、ジョギング

■近況

金沢は山や海が近く、また文化や歴史が深いので、毎日とても楽しく過ごしています。



教授

イアン・スティーブンソン

Ian Stevenson

■担当科目

（白山麓）リスニング・スピーキングⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、ブリッジイングリッシュ、世界文学Ⅱ

■略歴および専門分野

ニューハンプシャー大学人文学部卒。デンバー大学大学院修士課程（国際政治学）修了。セントマイケルズ大学大学院修士課程（第二言語としての英語教授法）修了。マギール大学ビジネススクール日本校（MBA）修了。韓国サムスン外国語学校英語講師、玉川学園グローバル教育センター英語講師を経て、平成21年本校講師就任。平成24年准教授を経て、平成26年教授。専門は英語教授法（TESOL）。

■横顔

修士号を3つ（国際政治学、TESOL、ビジネス）取得した勉強家である。さまざまなレベルでの英語教育の分野の経験を活かし、本校での学生指導に意欲を燃やしている。

■趣味

読書、ランニング

■近況

私は、2009年から国際高専で英語を教えています。その間、多くの事を学びました。これからさらにさまざまな事を学ぶことを期待しています。



教授・工学博士

千徳 英一

Sentoku Eiichi

■担当科目

（金沢）機械工学実験Ⅰ・Ⅱ、機械材料、振動工学、経営科学概論、創造設計Ⅲ

■略歴および専門分野

鳥越中学校（石川県）出身
金沢工業大学機械工学科卒。同大学大学院博士課程（機械工学）修了。金沢工業高等専門学校教授、副教育改革主事を経て、2001年金沢工業大学教授、基礎実技教育課程主任を経て、平成29年4月本校教授就任。
専門：セラミックス、切削加工学、工学設計、粉体粉末冶金協会参事1988年～現在
論文・著書：サーメット工具のすくい面摩耗機構に関する研究(学位論文)、プロジェクトデザイン入門、Ⅰ・Ⅱ、実践、共立出版。

■横顔

本学機械工学科6期生で恩師に「努力、持続、感謝」の工作魂を学び、現在も忠実に守っている。教育で最も重要なことは、学生との信頼関係であると考え、日々の学生とのコミュニケーションを大切にしている。

■趣味

アマチュア無線（JR9RPD）全市全郡（市792、郡380）、と交信でき喜んでいます。また、写真を撮るために旅を楽しんでいます。

■近況

現象を深く観察し、ある仮説を立てる。これが実験で確認できたとき大きな感動を覚える。学生と共に学び、考える「教学半」の精神で毎日を過ごしている。



学生主事（金沢）・教授

龍本 明弘

Akihiro Takimoto

■担当科目

（金沢）保健体育Ⅲ・Ⅳ

■略歴および専門分野

額中学校（石川県）出身
日本体育大学体育学部体育学科卒。金沢工業大学助教授を経て、平成18年本校教授就任。専門は体育方法学、個人運動学、球技。著書に『パスの達人』。論文に“本学学生の体力に関する縦断的研究”など。

■横顔

スポーツマンらしく、明るく親しみやすい先生。学生をやさしく導くように教育される。しかし、目標を決めたときのきびしさや、粘り強さには定評があり、金沢工大のハンドボール部を毎年北信越のNo. 1に育てあげた。得意の運動分野も広い。

■趣味

服飾研究、カラオケ、健康整体

■近況

北信越学生ハンドボール連盟副会長。石川県ハンドボール協会常任理事。えふえむ・エヌ・ワンで毎月2回生放送に出演。



教授・博士（工学）

竹俣 一也

Kazuya Takemata

■担当科目

（金沢）工学特論Ⅰ、技術者倫理、卒業研究

■略歴および専門分野

片山津中学校（石川県）出身。
金沢工業大学情報処理工学科卒。金沢工業大学大学院工学研究科博士課程（情報工学）修了。
金沢工業大学助手、本校講師、助教授、金沢工業大学准教授を経て平成25年本校教授就任。専門はリモートセンシング、教育工学。「航空機搭載型POLDER 陸域画像データを用いた地表面反射特性の解明に関する研究」で学位取得。現在は環境情報処理や感性情報処理の分野で研究に従事。シニア教育士（工学・技術）。

■横顔

変化に富んだ四季を楽しむ喜びを最近やっと分かってきました。あと何年この贅沢な思いを楽しめるのだろうか、もっと早くからこれについて気づくべきであったと反省しています。現在、金沢の七十二候を楽しむことができる生活について模索しています。

■趣味

愛犬と散歩すること

■近況

開発したモバイル型4次元シアターシステムSORaと共に、学校・病院・高齢者施設などを訪問し、地域における科学技術理解増進活動を推進しています。



学生副主事（金沢）

教授・博士（工学）

谷口 萌未

Moemi Taniguchi

■担当科目

（金沢）マーケティングⅠ、企業会計Ⅰ、情報処理Ⅲ、情報処理Ⅲ（OP）、卒業研究

■略歴および専門分野

中国出身。長岡技術科学大学情報・制御工学専攻博士後期課程修了。北陸先端科学技術大学院大学助手を経て、平成26年4月日本電気(株)入社。海外新規事業の企画、立上げ、ベンチャー投資などを担当、マーケティングとグローバルビジネス開拓の経験を積み、平成24年金沢工業大学准教授を経て、平成26年4月本校准教授就任。平成27年10月教授。専門はマーケティング、グローバルビジネス企画・マネジメント、経営学。

■横顔

変化が好きです。何事も楽しく前向きに臨みたい。工学で学位を取得後、企業で新規ビジネス開拓に従事。長く海外ビジネスに携わっていたため、しっかりビジネスマインドになりました。

■趣味

旅行、ショッピング、料理、ホームパーティー、飲コミュニケーション、落語、卓球、屋外活動

■近況

忙しい毎日ですが、自分の時間もしっかり作りたい。効率を上げるために知識を活用することを常に意識するよう学生に、そして自分に要求してます。



教授・博士（工学）

田村 景明

Keimei Tamura

■担当科目

（金沢）ネットワーク基礎Ⅱ、創造設計Ⅲ、システム開発演習Ⅱ、卒業研究

■略歴および専門分野

根上中学校（石川県）出身
金沢工業大学情報処理工学科卒。金沢工業大学大学院修士課程（情報工学）修了。平成14年金沢工業大学大学院博士課程（情報工学）単位取得。昭和61年本校助手就任。講師、助教授を経て、平成16年教授。専門は計算機工学。「完全直線位相 IIR フィルタならびにフィルタバンクの設計法とその画像符号化への応用に関する研究」で学位取得。現在デジタル信号処理と画像処理に関する研究に従事。

■横顔

人柄は温厚で親しみやすく誰もが気軽に話しかけたくなる雰囲気をもっている。

■趣味

映画鑑賞、ものづくり

■近況

コンピュータを誰もが楽しく使えるようにと、日夜頑張っている。



電気電子工学科学科長
教授・学術博士

土地 邦生

Kunio Tochi

■担当科目

（金沢）工学英語Ⅰ、材料工学、卒業研究、電子工学、創造実験Ⅲ

■略歴および専門分野

野々市中学校（石川県）出身
金沢工業大学電子工学科卒。金沢工業大学大学院修士課程（電気電子工学）修了。金沢大学大学院博士課程（物質科学専攻）修了。ファインセラミックスや高周波回路の開発業務を経て、平成16年本校講師就任。平成18年助教授を経て、平成22年教授。専門は光物性および材料物性。「複合ペロブスカイト型化合物の誘電特性に関する研究」で学位取得。現在、地元企業との医療用観察器具の共同開発、教育用電気自動車の製作、半導体エネルギー帯構造の解析に従事。

■横顔

基礎学力、特に数学力の向上のために学生と一緒に勉強しています。皆さんの参加を待っています。また、コンピュータにも強くなりたいと思い、いろいろな本を読んでいます。

■趣味

特にありません

■近況

材料物性の電気特性の測定やコンピュータによる分析に取り組んでいます。よい成果を出して、学会発表や論文を投稿したいのですが、他の仕事が忙しいせい、能力不足のせい、なかなか進みません。



教授・工学博士

直江 伸至

Nobuyuki Naoe

■担当科目

（金沢）送配電工学、回路シミュレーション、電気システム設計Ⅱ、創造実験Ⅳ、卒業研究

■略歴および専門分野

浅野川中学校（石川県）出身
金沢工業大学電気工学科卒。金沢工業大学大学院博士課程（電気電子工学）修了。平成4年本校講師就任。平成9年助教授を経て、平成16年教授。専門は電力工学、電気機器。「ブラシレス励磁機なし同期発電機に関する研究」で学位取得。現在、再生可能エネルギーに利用する発電システム、地中におけるインピーダンストモグラフィの研究開発に従事。

■横顔

気さくな人柄である。

■趣味

釣り、作陶、陶器鑑賞



教授

中泉 俊一

Shunichi Nakaizumi

■担当科目

（金沢）微分積分Ⅱ

■略歴および専門分野

鶴来中学校（石川県）出身
富山大学文理学部理学科数学専攻卒。松任農業高等学校教諭、松任高等学校教諭、金沢辰巳丘高等学校教諭、金沢錦丘高等学校教諭、松任高等学校教頭、金沢向陽高等学校教頭、小松瀬領特別支援学校校長を経て、平成24年本校教授就任。専門は数値解析、数学教育。

■横顔

これがよいことだと思うと、一人になろうとも自らやってみせて、結果を示すタイプ。仕事以外では、地域活動に参加しているいろいろな方との交流を深めています。

■趣味

美術館巡り、旅行、観劇

■近況

最近、数学の研究を離れ、中断したパステル画を始めて下手な絵を描いて楽しんでいます。



研究プロジェクト副主事
教授・博士（工学）

林 道大

Michihiro Hayashi

■担当科目

（金沢）応用プログラミング、創造設計Ⅳ、機械設計Ⅰ、機械設計演習

■略歴および専門分野

紫錦台中学校（石川県）出身
金沢大学工学部機械システム工学科卒。金沢大学大学院博士後期課程（システム創成科学）修了。地元の機械メーカーにてFA・物流関連機器の開発設計などを経て、平成23年本校准教授就任。平成26年本校教授就任。専門は機械設計工学、ロボット工学。「発見的手法によるマニピュレータの動的効果を考慮した軌道生成」で学位取得。

■横顔

普通のサラリーマン生活が長かったので「先生」と呼ばれることに慣れていません。呼んでも返事が無かったら、もう一度大きな声で呼んでください。

■趣味

モータースポーツ、工作

■近況

健康維持のため、少しだけダイエット中です。ただし、おいしいものは体に良いらしいので、誘われれば断れないかもしれません。



グローバル情報学科学科長
教授

藤澤 武

Takeshi Fujisawa

■担当科目

(金沢) データベース、創造設計Ⅳ、卒業研究、ビジネスシステム、ネットワークシステムⅡa

■略歴および専門分野

奈古中学校(富山県)出身
富山大学工学部電子工学科卒。イントラネットやインターネット関連の業務に従事。ネットベンチャー企業の執行役員や役員、独自の動画テクノロジーを用いた動画配信サービスをメインとしたWEBサービスの構築業務を経て、平成23年本校准教授就任。平成26年教授。

■横顔

慎重な割には好奇心が強く色々と手を出してみたい。そのせいか仕事では火中の栗を拾うことが多い気も。

■趣味

音楽鑑賞

■近況

これからは仕事もプライベートも無理せず、そして体にいい事を始めたい。と、赴任当初から言い続けている。



教務副主事・教授
博士(工学)

藤島 悟志

Satoshi Fujishima

■担当科目

(金沢) コンピュータⅢ・Ⅳ、電気システム設計Ⅰ、データ通信ネットワーク、卒業研究

■略歴および専門分野

板津中学校(石川県)出身
豊橋技術科学大学知識情報工学課程卒。豊橋技術科学大学大学院博士後期課程(機能材料工学専攻)修了。関西学院大学博士研究員、豊橋技術科学大学助教を経て、平成21年本校准教授就任。2019年教授。専門は知識情報工学。「化学構造のTFS表現による薬物構造データマイニングに関する研究」で学位取得。現在、データマイニング、知識発見、BMI/BCIに関する研究に従事。

■横顔

老後の生活を見据えて、必要な知識を習得中。

■趣味

旅行、野球、読書

■近況

ライフワークバランスの重要性を認識し、実践していきたい。



教授 Ph.D

ポーリン・ベアード

Pauline Baird

■担当科目

(白山麓) リスニング・スピーキングⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡB、ブリッジングリッシュ、世界文学Ⅰ

■略歴および専門分野

[スコットランド] アンドルー大学文学部英文学科卒業。[米国] セント・マイケルズ大学大学院修士課程修了(英語を外国語とする学習者への英語教授)。[米国] ボーリング・グリーン州立大学大学院博士課程(英語修辞法)修了。金沢工業大学講師。[パラオ共和国] パラオミッションアカデミー副校長。[米国] グラム大学英語教育学部講師を経て、平成29年10月本校教授就任。専門は英語修辞法。

■横顔

カリブ、アメリカ、パラオ、グアムなど様々な国々で長年、教鞭をとってきた教育熱心な先生です。学ぶことが大好きで幾つかの学位(英語教授法(博士、修士)、英語(学士))を取得しています。学生達を奮い立たせ、学生達から学ぶことを喜びとしています。

■趣味

犬との散歩、友達や家族とのおしゃべり、料理

■近況

お互いの文化を学び合う素敵な時間を過ごしましょう。



国際理工学科学科長・教授

松下 臣仁

Omihito Matsushita

■担当科目

(金沢) 情報ビジネス英語Ⅱ
(白山麓) エンジニアリングデザインⅠA・ⅡA、エンジニアリングコンテキストⅠA、コンピュータスキルズⅡB

■略歴および専門分野

岩出中学校(和歌山県)出身
関西外国語大学外国語学部英米語学科卒。セントマイケルズ大学大学院修士課程(第二言語としての英語教授法)修了。イリノイ工科大学大学院修士課程(デザイン方法論)修了。平成15年本校講師就任。平成21年准教授。平成28年教授。専門は英語教授法(TESOL)、デザイン方法論。

■横顔

いつも穏やかでありながら頼りがいがあります。長いアメリカでの生活から役に立つ英語の使い方を教えてくれます。また留学中は留学生アシスタントとして働いていた経験から世界中に友達がいいます。世界各地の話題が授業の中で紹介されるでしょう。

■趣味

サッカー(インターハイ出場)、映画鑑賞

■近況

授業を通じて国際高専生のスクールライフを豊かにし、共に語り合う機会を持っていきたいと思います。



教授・博士(工学)
南出 章幸
Akiyuki Minamide

■**担当科目**
(金沢)電子回路Ⅰ・Ⅱ、設計製図、電気磁気学Ⅱ、卒業研究
■**略歴および専門分野**
額中学校(石川県)出身
金沢工業大学電子工学科卒。金沢工業大学大学院博士課程(電気電子工学)修了。平成5年本校助手就任。講師、助教授を経て、平成21年教授。専門は計測工学。「簡易型光音響顕微鏡システムの開発とその物質工学への応用」で学位取得。現在、高分子フィルムセンサーと熱波顕微鏡システムの開発に関する研究、感動創出システムおよびそのコンテンツの開発に関する研究に従事。シニア教育士。

■**横顔**
企業とのコラボに向けて奮闘中。
■**趣味**
ドライブ、映画鑑賞
■**近況**
サイエンスコミュニケーションプロジェクトとして、小・中学校への出前授業および高齢者施設への慰問活動を積極的に行っています。現在、小学生向けの新しいプログラミング教材を開発中。



教務主事・教授
宮野 純光
Yoshimitsu Miyano

■**担当科目**
(金沢)社会科学Ⅰ
■**略歴および専門分野**
紫錦台中学校(石川県)出身
高野山大学文学部人文学科卒。大正大学文学研究科修士課程(史学)修了。大正大学文学研究科博士後期課程(史学)単位取得。大正大学総合佛教研究所研究生。平成17年本校講師就任。平成21年准教授。平成29年教授。専門は日本中世史および日本仏教史。著書に『宝仙寺の金石文』がある。

■**横顔**
一見堅そうにみえますが、話すと意外に気さくで面倒見が良い。遠慮なく話しかけてみてください。実はお坊さんという一面も。
■**趣味**
読書、ウォーキング、メガネ収集
■**近況**
最近では能登の寺院調査に出かけており、調査結果をもとにシンポジウムも開催しました。郷里金沢で、国際高専のみなさんと一緒に学んでいきたいと思っています。



研究プロジェクト主事
創造技術教育研究所長・教授
山崎 俊太郎
Shuntaro Yamazaki

■**担当科目**
(白山麓)エンジニアリングコンテキストⅠ B・Ⅱ A・Ⅱ B、エンジニアリングデザインⅡ A・Ⅱ B
■**略歴および専門分野**
豊玉第二中学校(東京都)出身
筑波大学基礎工学類卒業。同大学院理工学研究科物理学専攻修了。NEC中央研究所 研究統括マネージャー。NECスマートエネルギー事業本部 副事業本部長。金沢工業大学客員研究員／金沢工業高等専門学校客員教授を経て、平成30年1月本校教授就任。専門はスマートエネルギー、蓄電システム、モバイルネットワーク、光通信など。

■**横顔**
前職では研究開発、国際標準化、国内営業、海外企業買収など様々な経験をして来ました。こうした経験を教育現場で活かせればと思い転職しました。金沢工大地方創生研究所を兼務、高専生の活動フィールド拡大にも貢献します。アウトドアライフが好きなので、白山麓キャンパス勤務の依頼は喜んでお引き受けした次第です。
■**趣味**
サイクリング、ゴルフ、登山、スキー など
■**近況**
今年度からEngineering ContextでSDGsの授業を行うため、金工大と連携して内容を詰めています。自身としても2030SDGs公認ファシリテータの資格を取得し、準備を進めています。

准教授



教務副主事
准教授・博士（情報科学）

井上 恵介

Keisuke Inoue

■担当科目

（白山麓）コンピュータスキルズⅠＢ・ⅡＡ・ⅡＢ
（金沢）アルゴリズムとデータ構造、システム開発演習Ⅰ、コンピュータシステムⅡ

■略歴および専門分野

佐鳴台中学校（静岡県）出身
東京工業大学工学部情報工学科卒。北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科情報システム学専攻博士前期課程（情報システム学）修了。北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科情報システム学専攻博士後期課程（情報システム学）修了。日本学術振興会特別研究員（ＤＣ２、ＰＤ）、北陸先端科学技術大学院大学高信頼組み込みシステム教育研究センター研究員を経て、平成24年3月本校講師就任。平成29年准教授。専門はシステムＬＳＩの高位合成。「Constraint-Based Approaches and Optimizations to Variability-Tolerant Datapath Synthesis」で学位取得。

■横顔

北陸のどんよりとした天候が好きです。

■趣味

読書

■近況

健康でありたいと思っています。



創造技術教育研究副所長
准教授

オガワ・ハヤト

Hayato Ogawa

■担当科目

（金沢）工業英語Ⅰ・Ⅱ、創造実験Ⅲ
（白山麓）エンジニアリングデザインⅠＡ・ⅠＢ、エンジニアリングコンテキストⅠＢ・ⅡＡ・ⅡＢ

■略歴および専門分野

ロチェスター工科大学工学部卒。ウィスコンシン州立大学大学院修士課程（工学）修了。ＥＭＡオートメーテッドデザイン社勤務を経て、平成20年10月本校助教就任。平成24年講師。平成29年准教授。専門は電気工学。

■横顔

両親は日本人であるが、生まれも育ちもアメリカ合衆国であり、国籍は日本とアメリカの両方を持っている。全ての教育をアメリカで受けてきたので、考え方や行動は全くアメリカ人の様であるが、時折見せる日本的な礼儀作法や心づかいが周囲に好感をあたえている。

■趣味

スポーツ、料理、旅行

■近況

金沢の街は実に日本的で、食べ物も美味しいのでとても気に入っています。英語で学生達と工学の学習を深めていきたいと思います。



学生副主事（白山麓）
准教授

潟辺 豊

Yutaka Katabe

■担当科目

（白山麓）国語表現ⅠＡ・ⅠＢ・ⅡＡ・ⅡＢ、文学Ⅰ・Ⅱ

■略歴および専門分野

羽咋中学校（石川県）出身
金沢大学文学部文学科卒業。兵庫教育大学大学院教科領域教育修士課程修了。加賀聖城高校教諭。富来高校教諭。津幡高校教諭。金沢桜丘高校教諭。鶴来高校教諭。林業に従事（5年間）を経て、平成29年9月本校准教授就任。専門は中世仏教説話。

■横顔

山好きが高じて、10年ほど前に白山麓へ一家転住しました。サルやカモシカが時々訪れる小さな家で暮らしています。

■趣味

焚火など

■近況

庭に植えてから5年くらい、全く枝の伸びなかった無花果が、急に枝葉を伸ばして美味しい実をたくさんつけました。植物は根が伸びると急成長するみたいです。人も同じで、内面が充実してくると、ある日突然変貌するのでしょうか。若いときには、すぐに結果は出なくても焦らず根を伸ばしてください。



准教授・博士（芸術）

小高 有普

Arihiro Kodaka

■担当科目

（金沢）デザインメソッドⅢ、創造設計Ⅲ・Ⅳ
（白山麓）エンジニアリングコンテキストⅠＡ、エンジニアリングデザインⅡＡ・ⅡＢ、コンピュータスキルズⅠＡ、ビジュアルアーツⅠ・Ⅱ

■略歴および専門分野

森本中学校（石川県）出身
金沢美術工芸大学美術工芸学部産業美術学科工業デザイン卒。企業内デザイナー、デザイン事務所勤務後、デザイン事務所設立。金沢工業大学非常勤講師、本校非常勤講師、金沢美術工芸大学非常勤講師を経て、平成24年本校准教授就任。専門は産業機械、住宅設備、公共設備などの工業デザイン。金沢美術工芸大学大学院博士後期課程（プロダクトデザイン）修了。『工業系高专における『創造性』喚起のためのデザイン教育導入の研究』で学位取得。

■横顔

美しい形と素材には目がない。「モノ」から伝わるメッセージ、「コト」から始まるアクション…、日々生活の中で感じる何かを大事にしています。

■趣味

釣り、野球、車

■近況

オンとオフはできるだけ切り離そうと努力している。オフで体力を充電するつもりが、消耗し続けている。体調には十分配慮したいです。



准教授

児玉 浩一

Koichi Kodama

■担当科目

(金沢)応用物理Ⅰ・Ⅱ、工学特論Ⅰ・Ⅱ、物理化学Ⅱ・Ⅲ、線形代数Ⅱ

■略歴および専門分野

弥刀中学校(大阪府)出身

金沢大学理学部化学科卒。金沢大学大学院理学研究科化学専攻修了。平成5～7年、平成25年本校非常勤講師を経て、平成26年准教授就任。専門は理論化学。

■横顔

食べることが何よりも大好き。国際高専の周りには、美味しい店もたくさんあるので、楽しみです。

■趣味

卓球・カメラ・旅行(ドライブ)など

■近況

昨年度も、全国各地へ旅行へ行きました。年末に大河ドラマで話題になった西郷どんの舞台になった鹿児島へ旅行しました。そこで、西郷隆盛ゆかりの地を各所回ってきました。今年も、自分の肥やしにあちこち回りたいと思います。



准教授・博士(工学)

小間 徹也

Tetsuya Koma

■担当科目

(金沢)機械製図演習、創造設計Ⅲ、機械設計Ⅱ、卒業研究

■略歴および専門分野

泉中学校(石川県)出身

金沢工業大学機械工学科卒。金沢工業大学大学院博士後期課程(高信頼ものづくり専攻)修了。パナソニック(株)勤務を経て、平成20年本校講師就任。専門はメカトロニクス。「ダンピング機能を備えたULV用増速式リニア型発電サスペンションの開発とその実証研究」で学位取得。

■横顔

ねばい(あきらめの悪い)性格でカーブがなかなか投げられない固い人間と本人は思っているが、人の意見に左右されやすい楽道家とも言われる。

■趣味

スナッフ写真、スキー

■近況

昨春に買ったズボンがまたキツくなってしまいました…。あまり食べないようにしないといけません。今年度もよろしく願いいたします!



進路指導副主事・准教授

坂倉 忠和

Tadakazu Sakakura

■担当科目

(金沢)ネットワークシステム、オペレーションブリサーチ、卒業研究

■略歴および専門分野

津幡中学校(石川県)出身

近畿大学理工学部経営工学科卒。金沢工業大学大学院博士課程(情報工学)単位取得。金沢工業大学助手を経て、平成15年本校講師就任。平成21年准教授。専門は情報工学。現在、ステガノグラフィなどの情報ハイディングに関する研究に従事。

■横顔

IT関連の新しい技術がどんどん現れてきています。制限された時間の中でそれらをどうやって勉強しているかを悩ましています。

■趣味

ドライブ、音楽

■近況

いつもコンピュータと闘っています。



准教授・工学博士

袖 美樹子

Mikiko Sode

■担当科目

(金沢)情報数学、コンピュータシステムⅠ、卒業研究、電磁気学Ⅰ、情報伝送工学

■略歴および専門分野

野々市中学校(石川県)出身

金沢工業大学情報工学科卒。(株)日本電気、(株)NECエレクトロニクス、(株)ルネサスエレクトロニクス勤務。早稲田大学大学院基幹理工学研究科博士後期課程修了。平成26年金沢工業大学准教授を経て平成29年4月本校准教授就任。専門:グラフ理論、数理計画、半導体デバイス設計 論文・著書:「Power/Ground Networks Optimization Design Methods with Noise Immunity」(学位論文)。

■横顔

心のきれいな、真つすぐな人が好きです。自分に自信を持ち信念を曲げず人生を歩んでいける人材を育てたいと考えています。

■趣味

街を観察し、街の在り方を見て歩く事。

■近況

交通が不便な地方を自動運転等の技術で改革を起し活性化したい。その為に、Bus StopプロジェクトやSmart Cityプロジェクトを主催しています。一緒に活動してくれるメンバーを募集しています。



准教授

ロバート・ソンガー

Robert Songer

■担当科目

(金沢)情報ビジネス英語Ⅱ・Ⅲ、システム開発演習Ⅰ、ソフトウェア工学Ⅱ、卒業研究

■略歴および専門分野

ロチェスター工科大学工学部ソフトウェア工学科卒。ランゲージ・インテリジェンス社での技術スペシャリストとしての勤務を経て、平成21年5月本校助教就任。平成24年5月講師。平成29年准教授。専門はソフトウェア工学。

■横顔

日本と日本文化に深い興味と敬意を持つ、さわやかなエンジニアである。自らの名前を侶羽渡尊賀と書くほど、日本に憧れをもっている。また学生時代には金沢工業大学に夏期留学のため訪れている。

■趣味

文化探求、旅行、写真、ゲーム、先端技術

■近況

学生時代に訪問した金沢に、今度は社会人として戻ってこれたことがとても嬉しいです。これからも多くの人のつながりの大切さを学んでいきたいと思っています。



准教授・博士(工学)

アラール・ホセイン

Alaa Hussien

■担当科目

(白山麓)基礎数学A・B、代数・幾何学A・B
(金沢)計測制御、電気基礎、電子回路基礎

■略歴および専門分野

エルミニア大学(エジプト)工学部電気工学科卒。エルミニア大学大学院修士課程修了。金沢大学大学院博士課程修了(電気工学)。ミニア大学(エジプト)電気工学部講師、金沢大学自然科学研究科助教、ウム・アル・クラ大学(サウジアラビア)工学部助教を経て、平成27年4月本校講師就任。平成30年准教授。専門は電気工学。

■横顔

専門は電気工学であるが、研究テーマは機械工学に強く関連している。また、教育学に強い興味を示し、学生との効果的コミュニケーションのための技術を学ぶため、訓練コースを受講してきた。

■趣味

サッカー、読書

■近況

古い日本の伝統文化を残す金沢の街が大好きです。国際高専の学生には、専門の学習、日頃の会話を通して楽しい学校生活を送ってもらいたいと願っています。また、エジプトの文化、人、そして風習などを皆に話し、興味を持ってもらえたら、と思っています。



国際交流副主事・准教授

宮野 肇

Hajime Miyano

■担当科目

(金沢)英語資格技術、情報ビジネス英語Ⅰ、総合英語Ⅲ、海外英語研修

■略歴および専門分野

泉中学校(石川県)出身
慶應義塾大学総合政策学部卒。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了。いすゞ自動車株式会社勤務を経て、平成25年2月本校講師就任。平成28年准教授。

■横顔

中学生の時に父親の仕事の関係でアメリカに1年間滞在し、アメリカの公立中学校で学んだ。また、いすゞ自動車勤務時には、世界中の取引先の人々と仕事をした国際派ビジネスマン。そのグローバルな経験を国際高専での教育に活かそうと意気込んでいる。

■趣味

登山、キャッチボール、ジム通い

■近況

今年の夏、小学2年生の次男を初めて白山登山に連れていきました。今年も長男と3人で一緒に登りたいと思っています。



研究プロジェクト副主事
准教授・博士(工学)

諸谷 徹郎

Tetsuo Moroya

■担当科目

(金沢)創造実験Ⅳ、電気回路Ⅱ、システム工学、メカトロニクス、卒業研究

■略歴および専門分野

額中学校(石川県)出身
金沢工業大学電子工学科卒。金沢工業大学大学院博士後期課程(電気電子工学専攻)修了。リントック(株)勤務を経て、平成19年本校講師就任。平成28年准教授。専門は小形アンテナ。「AMC技術を用いた小形アンテナに関する研究」で学位取得。

■横顔

もともと口数は少ない方だが、調子に乗ると必要以上のおしゃべりに変身。たまに脱線する。

■趣味

ドライブ(二輪、四輪)

■近況

学会発表等で海外に行く機会があり、もっと英語が出来たらこの歳になっても実感させられます。学生に負けないように専門分野は勿論のこと英語にも力を入れたいと思っています。

講師



講師

ハリアンティ・アズマン

Haryanti Adzman

■担当科目

(金沢) 創造実験Ⅲ・Ⅳ、デジタル回路、上級英語Ⅰ、回路シミュレーション

■略歴および専門分野

ロチェスター工科大学工学部テレコミュニケーション工学科卒業。モトローラマレーシア、ペティアンドウルフデザイン社勤務を経て平成27年10月本校講師就任。専門は電気電子工学。

■横顔

モトローラ研究開発所において、iDEN（携帯電話）およびPCR（2-Wayラジオ）の設計不具合対応をしていました。そこでの4年間で、無線周波数について多くのことを学びました。その後建築デザインの世界に飛び込みましたが、この2つの分野には共通点があったため、仕事に慣れるのに時間はかかりませんでした。今回の教育分野での第一歩も、同様にスムーズにいくことを願っています。

■趣味

旅行、外国映画鑑賞、ソーイング

■近況

マレーシア人の私は、冬に雨や雪が少ないことを願っています。また教師として、実りある一年にしたいと思っています。



講師

キース・イコマ

Keith Ikoma

■担当科目

(金沢) 英語スキルズⅢ、上級英語Ⅱ、情報・ビジネス英語Ⅰ

■略歴および専門分野

トンプソンリバーズ大学卒業。トリニティ・ウエスタン大学修士課程修了（キリスト教学）。専門はカナダ文学。キリスト教学。秋田県立秋田工業高等学校等にてALTとして5年間の勤務を経て、平成30年10月本校講師就任。

■横顔

出身はカナダのバンクーバーです。名前からおわかりですが日系カナダ人です。祖父母が日本からカナダに移住したという家族のもとで育ち、幼い頃から日本の文化、食べものに興味をもちました。大好きな日本の食べものは焼いたおもちです。秋田県で5年間英語を教え、今金沢での新たな生活に胸をときめかしています。金沢の歴史、文化、そして食べものも学びたいと思います。

■趣味

旅行、読書、外国語

■近況

10月に秋田から引っ越して、新天地の石川県を探索したいです。日本では37県に行ったので残りの県にも行きたいです。最近、生涯学習のために日本語や教育についての本を読んでいます。教育は人間関係だと思います。



講師・博士(工学)

伊勢 大成

Taisei Ise

■担当科目

(金沢) 機械工学演習Ⅰ、数値計算演習
(白山麓) エンジニアリングデザインⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB

■略歴および専門分野

福岡中学校（富山県）出身
石川工業高等専門学校機械工学科卒。金沢大学大学院博士後期課程（システム創成科学専攻）修了。能登の超硬合金メーカーにて品質保証・研究開発業務を経て、平成26年本学講師就任。専門はセンサ工学。学生時代は路面の摩擦係数を測定するタイヤ用センサに関する研究に従事。

■横顔

何事にも首を突っ込みたがる性格です。勉強・研究や進路相談、恋愛相談など、何でも気軽に声をかけて下さい。

■趣味

ボードゲーム、電子工作、木工工作、マラソン

■近況

認知度はイマイチですが、ボードゲーム（ドイツゲーム）はコミュニケーションを楽しめ、絆を深められる素晴らしいツールです。たまにはアナログな遊びもいいですよ。



講師

黒田 譜美

Fumi Kuroda

■担当科目

(金沢) 国語Ⅲ・Ⅳ

■略歴および専門分野

南ヶ丘中学校（岐阜県多治見市）出身
金沢大学文学部文学科卒。金沢大学文学研究科博士前期課程修了。平成27年度本校講師就任。専門は中国文学。主に中国南方の地方劇、語り物の研究に従事。

■横顔

学生のときオーケストラでヴァイオリンを弾いていました。音楽は聴くのも演奏するのも好きです。

■趣味

読書、音楽鑑賞

■近況

教壇に立つにあたって、よき表現者でありたいと思う一方、皆さんの表現を受けとれる、よき聞き手、よき読み手でありたいと思っています。若者言葉についていけないこともあります。皆さんとの交流を通じて新しい知識を得られることを楽しみにしています。



講師

坂井 仁美

Hitomi Sakai

■担当科目

(金沢)機械製図演習、エンジニアリングマネジメント、機械工学実験Ⅱ、卒業研究

■略歴および専門分野

金沢工業大学工学部機械工学科卒。金沢工業大学工学研究科機械工学専攻修了。製品の寿命などを評価する試験機器専門メーカーでの勤務を経て、平成25年本校講師就任。

■趣味

料理、ドライブ

■近況

運動不足の解消についてのんびり考えています。まずは教室へ向かう階段の上り下りから…頑張ります。



講師

アリ・ジュマ

Ali Jumaah

■担当科目

(金沢)英語スキルズⅢ、上級英語Ⅰ・Ⅱ、英語討議技法

■略歴および専門分野

モーセル大学(モーセル、イラク)教育学部英語学科卒業。セントマイケルズ大学大学院修士課程修了。イラク国内にてアメリカ政府の通訳者勤務を経て、平成27年7月本校講師就任。専門は、英語教授法、TESOL。

■横顔

故郷イラクはチグリスとユーフラテスの河にはさまれたメソポタミア文明の発祥地である。学生時代は英語を学ぶ事もだんだんと厳しくなった頃であったが、一生懸命英語を学んだ努力家である。イラクの歴史、文化、そして文学などを日本の学生達にも是非とも知ってもらいたいと思っている。

■趣味

サッカー、ランニング、新しい言語を学ぶこと

■近況

国際高専で働いていることを大変嬉しく思っています。今年もまた、皆さんと素晴らしい1年を過ごすことを楽しみにしています。



講師

カー・ケン・タン

Tan Kah Keng

■担当科目

(白山麓)コンピュータスキルズⅠA、エンジニアリングデザインⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB

■略歴および専門分野

南洋人文アカデミー卒業。ニューサウスウェールズ大学大学院修士課程修了(デザインマネジメント及び教育)。シンガポールポリテクニクインターナショナル、ネルスンマルボロ工科大学、シンガポールファニチャー工業協会を経て平成30年4月本校講師就任。専門はデザインマネジメント及び教育。

■横顔

シンガポール、ニュージーランドでデザイン思考の指導にあたっていた。また本校学生も参加しているラーニングエクспレスの代表指導者も経験している。

■趣味

写真、登山、マウンテンバイク、水泳

■近況

白山という有名な山の写真を撮ったり、山歩きなどすることを楽しみにしています。1年中夏のシンガポールと違い、四季のある日本の生活を経験できることをうれしく思っています。



講師

ジェニー・チュー

Jenny Chio

■担当科目

(金沢)上級英語Ⅰ・Ⅱ、英語総合技能A・B

■略歴および専門分野

ブリガムヤング大学(アイダホ州レックスバーク)卒業(英語教育専攻)。サンフランシスコ州立大学大学院修士課程修了(TESOL専攻)。平成27年8月本校講師就任。専門はTESOL(他言語話者のための英語教育法)。

■横顔

生まれも育ちもカリフォルニア州サンフランシスコである。両親はアメリカへ移民して来たので、新しい言語を学ぶことの難しさを知っているが、彼女は新しい言語を学ぶことは楽しいと考える。だから彼女は学生達とその楽しさを共有することを望んでいる。彼女はのんきではあるが、勤勉である。学生達はクラスで一生懸命勉強し、たくさん楽しむでしょう。

■趣味

読書、音楽鑑賞、ボランティア活動、新しいことに挑戦すること

■近況

英語は難しいですが、全力で学生のみなさんが学ぶことの助けをしたいと思います。みなさんと一緒に学ぶ、楽しい時間を過ごすことを楽しみにしています。一緒に全力を尽くしましょう。



講師

津田 明洋

Akihiro Tsuda

■担当科目

(白山麓)リーディングライティングⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ブリッジングリッシュ

■略歴および専門分野

名古屋大学教育学部附属中学校(愛知県)出身
玉川大学文学部比較文化学科卒。セントマイケルズ大学大学院修士課程(第二言語としての英語教授法)修了。平成26年9月本校講師就任。

■横顔

アメリカでの学生時代は世界中からの留学生を支援するスチューデントアシスタントとして仕事もしました。そのやさしさと真面目さから、たくさんの留学生から信頼され慕われました。清潔感にあふれた津田先生は様々な点でロールモデルとなることだろう。

■趣味

読書、旅行、映画鑑賞、ドライブ、音楽、バスケットボール観戦

■近況

留学中はアメリカのバーモント州という極寒の地で暮らし、また雪の多い金沢という新天地での生活を送り始めました。金沢・石川のいろいろな顔を見てみたいのでぜひ教えてください。



講師

ジェームス・テイラー

James Taylor

■担当科目

(白山麓)リスニング・スピーキングⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、英語表現ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、エンジニアリングコンテキストⅡB

■略歴および専門分野

リーズ大学人文学科卒。リーズ大学大学院修士課程(他言語話者に対する英語教授)修了。黄石理工学院および大連ノイソフト情報大学を経て平成28年4月本校講師就任。

■横顔

中国の工科系大学で英語を教えた経験もあります。日本の高専で若い未来のエンジニアとともに学んでいきたいと張り切っています。今、日本語の勉強にも力を入れています。イギリスのケント出身である。国際高専で初めてのイギリス人英語教員であり学生は彼のクイーンズイングリッシュを経験することができるだろう。

■趣味

ラグビーリーグ、クリケット、サッカー観戦、バトミントン、読書、料理、旅行

■近況

高専という日本の優れた教育機関で英語を教えることに喜びを感じています。英語と理工系科目を融合させた新たな授業を進めたいと思います。



講師

エドワード・バスケル・Jr.

Edward Basquill Jr.

■担当科目

(白山麓)リスニング・スピーキングⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、歴史文学ⅠA・ⅠB

■略歴および専門分野

[米国]ニューヘブンスザンコネチカット州立大学卒業(歴史学)。同州立大学大学院修士課程修了(初等教育)。
[米国]セント・マイケルズ大学大学院修士課程修了(英語教授法)。韓国アパロン英語学校講師。広島県でALTとして英語を教授。中国広州市シアンジアン中学校で世界史教員を経て、平成29年10月本校講師就任。

■横顔

特技はウクレレです。背中にウクレレを背負って、颯爽とキャンパスを歩く姿は独特なものがある。授業できつとその腕前を見せてくれるでしょう。いつでも声をかけると、にこやかに返してくれる先生です。もう一つの特技は、お菓子作りやパンを焼くことです。同僚の先生方からも、その味は太鼓判を押されています。

■趣味

読書、ファンタジー小説を書くこと、ビデオゲーム、カポエイラ(ブラジルで行われる男性の舞踏)、ベーキング、ロッククライミング

■近況

共に学び、楽しい1年にしましょう。



講師

ハズワン・ハリム

Hazwan Halim

■担当科目

(白山麓)物理ⅡA、エンジニアリングコンテキストⅡA

(金沢)創造実験Ⅳ、デジタル回路、工学英語Ⅱ

■略歴および専門分野

[マレーシア]マラ工科大学工学部電気工学科卒業。マラ工科大学大学院修士課程修了(電気工学)。
[マレーシア]セギ大学講師を経て、平成29年10月本校講師就任。

■横顔

Born and raised in Malaysia, it is a country with only one season; hot and humid throughout the year. I have been teaching in several universities and being able to do it in Japan is like a dream come true. As Japan is one of our country role models, I want to experience it by myself. There is a lot of things I want to learn especially Japanese culture. struggle with English as a second language, now I have Japanese to be learned as my third language. I will do my absolute best for it.

■趣味

Traveling and riding motorcycle

■近況

Last year was a wonderful year with a lot of new experience. With the new course this year, I am expecting more challenging yet interesting experience.



講師

ジャスティン・ハン

Justin Han

■担当科目

(金沢)工業力学Ⅰ、工業英語Ⅰ、材料力学Ⅰ(Ⅱ)、メカトロニクスⅡ、機械材料Ⅱ

■略歴および専門分野

ローズハルマン工科大学機械工学科卒。平成24年9月本校助教就任。2019年講師。専門はロボティクス工学。

■横顔

一見すると日本人だと思われそうですが、実際はニューヨークで生まれ育った中国系アメリカ人です。長い間日本に興味があり、大学で日本について勉強しました。日本で若者を教え、交流できる事にワクワクしています。平成22年のK I Tサマープログラムで金沢に来て、とても気に入ったので戻って来ました。

■趣味

ロボット、アニメ・漫画、新しい物を試すこと

■近況

前回の滞在時、日本について人や本などからたくさん学びました。今回もっといろいろなことを知るのを楽しみにしています。



講師

メイサ・プールシャップ

Maesa Poolshup

■担当科目

(白山麓)エンジニアリングコンテキストⅠA、コンピュータスキルズⅡA

■略歴および専門分野

ロチェスター工科大学情報学部卒業。ロチェスター工科大学大学院修士課程修了(インフォメーションテクノロジー)。エビックシステムズ、IBM勤務を経て平成30年4月本校講師就任。専門はインフォメーションテクノロジー。

■横顔

生まれはアメリカ合衆国でタイ王国にルーツがあります。情報のスペシャリストとしてIBMなど米国の大企業で仕事をしてきました。タイ、アメリカの文化を吸収しているのでこれからは日本文化を学んでいきたい。

■趣味

旅行、ハイキング

■近況

企業での経験を国際高専での教育に大いに活かしていくことを楽しみにしている。学生達と共にイノベーションをおこす環境を作っていきたいと思っている。



講師

ナグワ・ラシド

Nagwa Fekri Rashed

■担当科目

(白山麓)化学ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB

■略歴および専門分野

ミニア大学理学部卒(エジプト)。ミニア大学大学院修士課程(化学工学)修了。ダージャナ・インターナショナルスクール(サウジアラビア)及びセイハネットワーク株式会社(英会話講師)を経て、平成27年10月本学講師就任。

■横顔

文明の発祥地であり、日本と気候、文化も大きく違うエジプトの出身である。日本の文化、人々、教育等エジプトとの違いに強い興味を持ち日本への理解と愛情を深めている。高専生にはぜひともエジプトに興味をもってもらいたいと願っています。様々な場面でエジプトのお話しをしたいと思います。

■趣味

読書、旅行、インターネット、屋外スポーツ

■近況

日本に住んでいるうちにいつの間にか日本を第二の故郷と感じるようになりました。化学の授業を通して、学生たちの輝かしい未来のためにささやかながらでも貢献したいと思います。



講師

チュンフェン・リン

Chun Feng Lin

■担当科目

(金沢)英語スキルズⅢ、上級英語Ⅰ・Ⅱ

■略歴および専門分野

[台湾]文化大学経済学部法律学科卒業。[米国]セント・マイケルズ大学大学院修士課程修了(英語教授法)。[台湾・桃園市]中原大学。[台湾・新竹市]国立清華大学。[台湾・台北市]淡江大学での英語講師を経て、平成29年10月本校講師就任。

■横顔

出身は台湾です。台湾の大学で英語を教えていましたが、ここ金沢では、ちょっと若い学生と接することになりました。授業運営や教材作りで新たな挑戦と楽しみにしました。台湾はグルメ国であるため、様々なおいしい食べ物を知っています。台湾グルメも紹介したいと思っています。

■趣味

水泳、テニス観戦、韓国映画

■近況

英語は皆さんが考えているほど難しくはありません。みなさんが英語を受け入れ、英語の映画を観たり、英語の本を読んだり、英語の音楽を聞いたり、英語の環境に身を置こうとすれば大丈夫です。私が学んできたように皆さんにも学んで欲しいと思います。皆さん達と勉強することを楽しみにしています。

助教



助教

デイビス・エバンス

Davis Evans

■担当科目

(金沢) 工業英語Ⅱ、機械製図演習(OP)、機械設計演習

(白山麓) 物理ⅠA・ⅠB

■略歴および専門分野

カリフォルニア州パカビル出身。ローズハルマン工科大学機械工学科卒。大学では専門分野以外に、ロボティクスや日本語、日本文化についても学ぶ。平成27年7月本校助教就任。専門は機械工学。

■横顔

祖母が日本人留学生のホームステイのホストファミリーだったので、幼いころから日本の学生と一緒にいろいろな経験をしました。また、高校生と大学生の時には多くの国々、例えば、イギリス、フランス、韓国、そして日本を訪問しています。家庭教師として、色々な人に教えた経験も多いです。

■趣味

旅行、キャンプ、ビデオゲーム

■近況

金沢には2014年の夏にKITのサマープログラムで初めて来ました。そして、すぐ翌年2015年の夏にはICTの仲間になりました。



助教

スティーブン・カレラ

Steven Carrera

■担当科目

(白山麓) 微分・積分、解析基礎、代数・幾何学、基礎数学

■略歴および専門分野

マイアミ・デッドコミュニティカレッジ 数学・準学士取得。フロリダ大学 数学・学士取得。マイアミ・デッドコミュニティカレッジ 数学家庭教師(約2年半)。フロリダ大学補足講師(約2年半)。北京师范大学附属高校 数学教師(2年半弱)。高知県大川 小・中学校 英語教師として3年間の勤務を経て、平成30年10月本校助教就任。

■横顔

私は、コミュニケーションをとることがとても好きです。アイデアを共有すること、他者から学ぶことも好きです。私は先生という立場を持ちますが、私自身を人生の生徒だと捉えています。なぜなら、私は沢山のことを学ぶのが大好きだからです。

■趣味

旅行、写真を撮ること、ドローン、ラケットボール、スクウォッシュ、カウチサーフィン、ジャズミュージック、ヒップホップミュージック、ハイキング、運転、お祭りに参加すること、映画を見ること

■近況

自然豊かな美しい白山麓で、妻と昨年産まれた息子との新生活を楽しんでいます。また、数学を教えること、生徒の成長を手助けすることも楽しみのひとつです。生徒一人一人が、将来、課題解決が容易にできるように、沢山学ぶことを願っています。また、私は新しいカリキュラムや環境を、一緒に構築、創造することも楽しんでいます。そして、私は、本校が豊かな教育環境に成長する手助けができれば嬉しいです。



助教

フィリップ・ケザウ

Philip Cadzow

■担当科目

(白山麓) 保健体育ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB
(金沢) 保健体育Ⅲ

■略歴および専門分野

オタゴポリテクニク・アウトドア活動及びスポーツ科ディプロマコース修了。ガーデンズニューワールドチリアー助手。フォックス氷河ガイド等の勤務を経て平成30年4月本校助教就任。専門はアウトドア活動及びスポーツ指導。

■横顔

ニュージーランド登山、氷河歩き。ハイキング、リーダーシップ活動、アドベンチャー活動のインストラクターとしての経験をもつ。またほとんどスポーツもこなす完全アウトドア派である。アウトドアの本場であるニュージーランドの様々なアウトドア活動を本校に紹介してくれる。

■趣味

スポーツ、登山、スキー

■近況

ニュージーランドの少年少女に指導したリーダーシップ活動やアウトドア活動を国際高専の学生諸君に体験し、そのたのしさあるいはそこから学ぶ人間関係や自然の美しさを感じ学んでほしい。



助教

アン・イソベル・タン

Anne Isobel Tan

■担当科目

ラーニングメンターとして国際高専学生の日常の学習指導を実施

■略歴および専門分野

ロチェスター工科大学卒業。専攻はパッケージング科学で副専攻はマーケティングと日本語。ニュージャージー州のMenasha社においてデザインエンジニアとしてインターンシップを行う。また、ノースカロライナ州のSyngenta社とコネチカット州のBIC社においてパッケージングエンジニアとしてインターンシップを行った。平成30年6月本校助教就任。

■横顔

新しい場所で新しい人に出会うこと、異文化を体験することが一番好きなこと。新しいことを学び様々な人とつながりを持つことが好き。

■趣味

写真撮影、グラフィックデザイン、外国語、クラブト、読書、冒険

■近況

ここ国際高専にいるのはとても楽しい。学生たちが勇気をもって冒険に挑み、世界中の人達とつながりを持っていけるよう尽力をつくりたいと思っている。



助教

ジェイソン・デ・ツィリー

Jason de Tilly

■担当科目

(白山麓) 化学ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、生物ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB

■略歴および専門分野

[カナダ]ライオネルグルクス大学卒業(動物健康学)、[カナダ]モントリオール大学卒業(生物学)。島根県松江市内高校にての外国語指導助手(ALT)を経て、平成29年10月本校助教就任。

■横顔

国際高専で実に久し振りに生物を専門とする先生がやってきました。カナダのケベック州モントリオール出身で母国語はフランス語です。もちろん英語もパーフェクトです。金沢の前には島根県のいくつかの高校で英語を指導していました。日本の城下町から城下町へと引っ越してきました。松江とはまた趣きの違う金沢での生活を楽しみにしてきました。

■趣味

音楽鑑賞、テレビ鑑賞、Youtube鑑賞、読書、テニス、ハイキング、サイクリング、ビデオゲーム

■近況

国際高専で働けることをとても喜んでいます。将来、社会を構成する学生達と出会って教えることを楽しみにしています。有効に時間を使い、この新しい冒険に向かって力を合わせて行きましょう。



助教

ライアン・ビセンシオ

Ryan Vicencio

■担当科目

ラーニングメンターとして国際高専学生の日常の学習指導を実施

■略歴および専門分野

ローズハルマン工科大学卒業(化学工学、分子病態生化学)。Dover Chemical Corporationにてエンジニアリングのインターンシップを経て、平成30年6月本校助教就任。専門は化学工学、分子病態生化学。

■横顔

ラボで実験に取り組むことが大好きですが、それ以上に学生達と一緒に勉強や作業をしてうまく行った時の彼らの目の輝きを見るのが好きです。彼らがここ国際高専で成功するのに必要な知識を見つけ出す手助けが出来れば嬉しいです。そして、学生達が将来達成できたことを見るのを待ち望んでいます。

■趣味

サッカー、バレーボール、スノーボード、ピアノ

■近況

2016年金沢工大でのKIT-IJSTのプログラムに2ヶ月間参加しました。また金沢に戻って来ることが出来てワクワクしています。私の日本語はまだですが、学生達の英語力くらいに到達出来ればと思っています。



助教

バルトシュ・ミシュコヴィエツ

Bart Miskowiec

■担当科目

ラーニングメンターとして国際高専学生の日常の学習指導を実施

■略歴および専門分野

ローズハルマン工科大学卒業(コンピュータサイエンス)。副専攻は数学、英語英文学。DDMI(インディアナ州)ディレクトサブライ(ウィスコンシン州)勤務を経て平成30年4月本校助教就任。専門はコンピュータサイエンス。

■横顔

コンピュータ理論、人工知能、ソフトウェア開発等コンピュータに関わる学習を行ってきたが、数学や英文学に強い興味を持っている。また、ポーランド語が堪能で、現在日本語を勉強中。

■趣味

ファゴット、トランペットなどの楽器演奏。

■近況

日本語プログラムで6週間滞在した石川県にまた戻ることができて喜んでいます。国際高専の学生と共に生活し、ともに学んでいきたいと思っています。



助教

フォード・リピチ

Forde Ripich

■担当科目

ラーニングメンターとして国際高専学生の日常の学習指導を実施

■略歴および専門分野

クリーブランド州立大学を経てローズハルマン工科大学機械工学科卒業。大学では専門の機械工学だけではなく日本大衆文化や東京トラベルコースなどの授業を受けた。平成30年4月本校助教就任。専門は機械工学。

■横顔

ものづくりとそのワークステーションに強い興味をもっている。インターンシップではアメリカンタンクアンドファブリケーティングで溶接鋼板クレーンブームの製造ラインやワークステーションの設置に関わった。またローズハルマンベンチャーでは様々な顧客とプロジェクトに関わった。

■趣味

機械いじり、旅行、モータースポーツ

■近況

国際高専の学生と夢考房でプロジェクトが出来たらと思う。またフォーミュラカーデザイン・組み立てなどの活動がしてみたいと思います。いっしょにプロジェクトをやってみましょう。

穴水湾自然学苑



穴水湾自然学苑長・教授

菅原 光彦

Mitsuhiko Sugawara

■担当科目
人間と自然（自然学苑研修）
■略歴および専門分野
五橋中学校（宮城県）出身
防衛大学校電気工学科卒（カッター部）海上自衛隊のテストパイロットとして航空機および搭載装備品などの研究、開発、飛行試験に従事。開発した航空機・機器は、試験評価機UP-3C、救難飛行艇US-2、シミュレータ（P-3C、US-1、US-2）、搭載機器（GPS、波高計）等。テストパイロット学校教官、航空機等開発部隊、訓練指導部隊、技術研究本部航空機開発2室主任研究員兼US-2試験隊長、司令部幕僚などを経て、平成23年11月学苑講師就任。平成24年教授。平成26年4月苑長

■横顔
モットーは「明るく、前向き！」です。自分の学生時代を思い出ししながら、学生の「やる気、元気、負けん気」を引き出せるよう創意工夫して穴水研修を準備しています。
■趣味
剣道（4段）。最近は、竹刀をゴルフのドライバーに持ち替えて、ドラコン挑戦中。社交ダンス（3級程度）、陶芸、茶道、釣りなどと広く浅く楽しんでいます。妻・娘に誘われた乗馬はオーバーウエイトで入会を断られ、ダイエット中です。
■近況
北陸能登の豊かな海の幸、山の幸に幸せを感じている今日この頃、減量は困難な状況です。穴水湾自然学苑は、防大や海軍兵学校のあった江田島の雰囲気があり、毎日気持ち引き締まる思いで勤務しています。苑長室はオープンです。飛行機の話聞きたい方お待ちしております。



教授

渡邊 勲

Isao Watanabe

■担当科目
人間と自然（自然学苑研修）
■略歴および専門分野
第四中学校（大阪府枚方市）出身
防衛大学校機械工学科卒。幹部学校指揮幕僚課程、統幕学校一般課程修了。海上自衛隊では哨戒機の戦術航空士として勤務。51空調査研究隊長、自衛艦隊計画主任幕僚、教育航空集団教育幕僚、第9航空隊（沖縄）司令、在日米軍司令部（横田）連絡官、岩国航空基地隊司令を経て、平成24年本学教授就任。平成23年9月に米国海軍長官経由合衆国大統領より「Meritorious Service Medal（勲功勲章）」を受賞。

■横顔
これまでの勤務においては、「澁刺たれ」をスローガンにしてきましたが、今後も若者たちに負けない様、さらに研鑽していきたいと思っています。
■趣味
大きな声で歌を歌うこと（合唱）、日曜大工をすること、本を読むこと
■近況
七尾の家には大きな薪ストーブがあるので、薪集めのため地元の「薪人の会」というサークルに入り、チェーンソーや斧を使って汗を流しています。「総ての季節は冬のためにある」をスローガンに田舎暮らしを満喫しております。



教授

中部 宏

Hiroshi Nakabe

■担当科目
人間と自然（自然学苑研修）
■略歴および専門分野
上永谷中学校（神奈川県）出身
防衛大学校航空工学科卒。海上自衛隊では、固定翼操縦士として勤務。第205教育航空隊教育飛行隊長、教育航空集団司令部幕僚、第61航空隊副長、下総教育航空群司令部幕僚、厚木航空基地隊副長などを経て、平成25年11月、穴水湾自然学苑教授に就任。

■横顔
将来を担う若者の教育に携われることを大変光栄に感じております。学生のパワーに負けないよう日々精進し、教育理念の実現に向け全力を尽くす所存です。
■趣味
読書（歴史、推理）、映画鑑賞（近隣に映画館がないのが残念）、音楽鑑賞、ゴルフ、釣り、ウォーキング。
■近況
数年前に腰痛、五十肩を発症し、年を追うごとに体のあちこちにガタが出てくるのを実感しています。今年は、更にウォーキングに力を入れ、学生のパワーに負けない気力、体力を維持したいと考えています。



教授

米倉 幸増

Kouzou Yonekura

■担当科目
人間と自然（自然学苑研修）
■略歴および専門分野
河頭中学校（鹿児島県）出身
防衛大学校応用化学科卒。海上自衛隊では回転翼操縦士及び軍事情報の分析官として勤務。千葉県、神奈川県、徳島県、東京都などの基地で司令部幕僚、情報調整官などを経て、平成26年8月、穴水湾自然学苑教授に就任。

■横顔
機械いじりが好きで細かな組み立て作業も苦にならないため、自転車、車、家電製品等が故障したら扱える範囲で分解修理に挑戦しています。学生時代は東京湾でカッターの練習に汗を流しましたが、穴水湾自然学苑で再びカッターに乗ることができて感激しています。大自然の中で将来を担う若者の教育に携わる機会を与えていただいたことに感謝しつつ、全力で取り組んでいきたいと思っています。
■趣味
家庭菜園、ジョギング、史跡散策など
■近況
大自然の中での生活、豊富な海の幸、山の恵みに感謝しつつ、美味しいものを味わい、近くの史跡巡りや自然に触れるなど、充実した毎日を送っています。

学科	年	学籍番号
氏名		

●この冊子は再生紙を使用しています。

国際高等専門学校

石川県金沢市久安 2-270
〒921-8601
Tel. 076-248-1080 Fax. 076-248-5548
www.ict-kanazawa.ac.jp